

北海道立農試資料 第26号

Misc. Pub. Hokkaido  
Prefect. Agric. Exp. Stn.  
No. 26, p.1-191 March, 1996

## 北海道立農業試験場資料 第26号

Miscellaneous Publication of Hokkaido  
Prefectural Agricultural Experiment Stations  
No. 26, March 1996

---

### 農作物優良品種の解説

(1987-1995)

Varieties of Field Crops in Hokkaido

(1987-1995)

---

平成8年3月

北海道立中央農業試験場

Hokkaido Central  
Agricultural Experiment Station  
(Naganuma, Hokkaido, 069-13 Japan)

## 序

北海道農業は戦後50年の節目を迎えて、我が国最大の食料供給基地として位置づけを一段と強めている。しかしながら生産現場は後継者不足や農業者の高齢化、農畜産物の価格低迷など難しい課題に直面しており、さらにガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意による自由化の進展、新食糧法の実施に伴う国内産地間競争の激化など益々厳しい情勢下に置かれている。また農業に対する世界的ニーズとして、生産効率追及一辺倒から脱却して、資源を大切に、環境を守りながら安定生産を持続させる環境調和型農業への転換が強く求められており、北海道農業にとってもそれは例外ではない。

このような農業情勢下にあつて、難局打破をめざして、良質、良食味、耐病、耐虫、多収、安定等の特性を具備した新たな品種開発や省力、低コスト、品質、安全性向上等の栽培技術確立に対する期待は限りなく大きい。

北海道立農業試験場ではこれらの期待に応えるべく技術開発に努めているが、特に品種開発については、水稻では耐冷、耐病、多収性の向上と「コシヒカリ」並高度良食味への到達を目標とし、小麦では耐穂発芽、耐病、耐冬、多収性の向上と製めん、製パン性の改善をめざしている。また豆類では耐冷、耐病虫、良質、多収、機械化適性等総合形質の兼備、ばれいしょでは多収、耐病虫性の向上、およびでん粉原料、食用、加工適性に加えて、新たにそうか病抵抗性を重点目標としている。さらにまたとうもろこし、チモシー等の飼料作物、タマネギ、イチゴ、りんご等野菜、果樹についても北海道の地域性を重要視した育種目標をめざして新品種開発に努力している。

本書「農作物優良品種の解説」(1987-1995)は昭和62年以降平成7年までの9年間に、水稻、畑作物、園芸作物、飼料作物等で新たに優良品種として普及に移された145品種について、それらの来歴、特性、栽培適地等を解説したものである。本書の利活用が、北海道農業の一層の生産性向上と経営の安定に寄与することを期待するものである。

平成 8 年 3 月

北海道立中央農業試験場長 三分一 敬

## はじめに

1. 登載した品種は、1987（昭和62）年から1995（平成7）年の9年間に、北海道農業試験会議（成績会議）の検討を経て、北海道種苗審議会にて優良品種に決定された全品種をとりあげた。

その作物別の品種数はつぎのとおりである。

普通作物	52品種
特用作物	19品種
果樹	12品種
野菜	8品種
飼料作物	54品種
合計	145品種

2. 付表の北海道登録品種一覧には、1985（昭和60）年に定められた北海道作物優良品種認定要領によって、登録簿に登録済みの全品種をとりあげた。

3. 記載内容は、北海道農業試験会議で検討された資料に基づいているが、その後に変更または追加されたことが明らかにされているものは、それによって書き改めた。

4. 記事は、植物遺伝資源センター関谷長昭場長監修のもとに、同場三浦豊雄研究部長が執筆し、各農業・畜産試験場の育種担当者の校閲を得て編集した。

# 北海道立農業試験場資料 第26号

平成8年3月

## 農作物優良品種の解説

三浦豊雄 編

### 目 次

I 普通作物	1
1. 水 稲	
< 粳 種 >	
(1)空育125号 (空育125号)	1
(2)上育393号 (上育393号)	2
(3)上育394号 (上育394号)	3
(4)はやまさり (上育395号)	5
(5)きらら397 (上育397号)	6
(6)ハヤカゼ (道北47号)	7
(7)ほのか224 (渡育224号)	8
(8)彩 (道北52号)	9
(9)ゆきまる (空育139号)	10
(10)きたいふき (上育413号)	12
< 糯 種 >	
(1)はくちょうもち (北育糯80号)	13
(2)風の子もち (上育糯417号)	14
2. 大 麦	
(1)りょうふう (北見17号)	15
3. 小 麦	
(1)タイセツコムギ (北見61号)	16
(2)春のあけぼの (北見春53号)	17
(3)ホクシン (北見66号)	18
4. えん麦	
(1)ヒダカ (北海47号)	19
(2)アキワセ (アキワセ)	20
5. とうもろこし	
< 飼料用 >	
(1)ドリーナ (PH2301)	21
(2)J X47 (SH3097)	21
(3)コスタル (コスタル)	22
(4)キタユタカ (北交42号)	22
(5)3790 (PH3305)	23
(6)O's Gold 2570 (O's Gold 2570)	24
(7)ロイヤルデント105T (T1200)	24
(8)ロイヤルデントリンダ (TH82082)	25



(9)バリエント (OS104) .....	25
(10)ヘイゲンミノリ (道交S10号) .....	26
(11)キタアサヒ (北交43号) .....	26
(12)ANJOU09 (ANJOU09) .....	27
(13)ロイヤルデントコメット80 (LG2080) .....	28
(14)RX420 (H802238) .....	28
(15)リビア (LIVIA) .....	29
(16)3540 (VARERIA) .....	29
(17)AW611 (AW611) .....	30
(18)DK464 (EXP-646) .....	31
(19)DK535 (EXP-654) .....	31
(20)カーギル123 (SX123) .....	32
(21)3897 (XCD78) .....	32
(22)セリア (XC PD76) .....	33
(23)コラリス (コラリス) .....	33
(24)3477 (3477) .....	34
(25)ライサ (X9033) .....	35
(26)3845 (3945) .....	35
(27)ゴールドデントDK300 (DK300) .....	36
(28)ロイヤルデント90H (TH8913) .....	37
<加工用>	
(1)メロデイスweet (十生13号) .....	38
(2)デューク (HS11号) .....	38
(3)Sweetメモリー (十生24号) .....	39
(4)マーキス (HS14号) .....	40
(5)サマースweet (十生26号) .....	41
(6)Sweetエール (十生27号) .....	41
6. 大豆	
(1)スズマル (中育19号) .....	42
(2)トヨコマチ (十育205号) .....	43
(3)ツルムスメ (中育24号) .....	44
(4)カリユタカ (十育214号) .....	45
(5)音更大袖 (音更大袖) .....	46
(6)大袖の舞 (十育216号) .....	47
(7)トヨホマレ (十育220号) .....	48
7. 小豆	
(1)サホロショウズ (十育120号) .....	49
(2)カムイダイナゴン (十育122号) .....	50
(3)アケノワセ (十育124号) .....	51
(4)きたのおとめ (十育127号) .....	52
8. 菜豆	
(1)福虎豆 (中育T26号) .....	53
(2)洞爺大福 (中育F12号) .....	54
(3)雪手亡 (十育A52号) .....	55
(4)福勝 (十育B62号) .....	56

9. 馬鈴薯	
(1)キタアカリ (北海63号) .....	57
(2)エゾアカリ (北海66号) .....	58
(3)とうや (北海70号) .....	59
(4)ムサマル (根育22号) .....	60
(5)アトランチック (P 829号) .....	62
(6)マチルダ (F 891) .....	63
(7)アスタルテ (S 892) .....	64
(8)サクラフブキ (根育26号) .....	65
(9)ベニアカリ (北海73号) .....	66
(10)さやか (北海74号) .....	67
(11)ヤンキーチップー (P 921) .....	69
10. そば	
(1)キタワセソバ (北海1号) .....	70
(2)キタユキ (北海2号) .....	71
II 特用作物.....	72
1. てんさい	
(1)モノパール (北海51号) .....	72
(2)モノホマレ (北海55号) .....	73
(3)スターヒル (H I L L mono 1352) .....	74
(4)サンヒル (H I L L mono 5559) .....	75
(5)サンラーベ (H6664) .....	76
(6)モノエースS (K A W E - J 338) .....	76
(7)メガエース (K A W E - J 537) .....	77
(8)モノホワイト (北海54号) .....	78
(9)エ マ (H T - 1) .....	79
(10)リゾール (S E S I R 2) .....	80
(11)リゾホート (H4612) .....	81
(12)メロディー (H114) .....	82
(13)ハンナ (H T - 3) .....	82
(14)アレグロ (H116) .....	83
(15)マイテイ (北海62号) .....	84
(16)サ ラ (H T - 7) .....	85
(17)ハミング (H119) .....	85
(18)ストーク (K A W E - J 039) .....	86
2. ひまわり	
(1)ノースクイーン (北交2号) .....	87
3. なたね	
(1)キザキノナタネ (キザキノナタネ) .....	88
III 果樹.....	90
1. りんご	
(1)ノースクイーン (H A C - 4) .....	90
(2)ニュージョナゴールド (ニュージョナゴールド) .....	91

2. なし	
(1)北新(67-17-22)	92
3. おうとう	
(1)南陽(南陽)	93
4. クリ	
(1)オオタムポロン(道南1号)	94
(2)オオタムコロン(道南2号)	95
5. ブドウ	
(1)ノースレット(安芸津4号)	95
(2)ノースブラック(ノースブラック)	96
6. ハスカップ	
(1)ゆうふつ(HC1)	97
7. ラズベリー	
(1)チルコチン(チルコチン)	98
(2)ヌートカ(ヌートカ)	98
(3)スキーナ(スキーナ)	99
<b>IV 野菜</b>	100
1. たまねぎ	
(1)アーク(原名アーク)	100
(2)天心(試交21-15)	101
(3)北もみじ86(H-86)	102
(4)(北見交17号)	103
(5)ツキサップ(月交16号)	104
(6)改良オホーツク1号(H-146)	105
(7)スーパー北もみじ(H-136A)	106
2. イチゴ	
(1)きたえくぼ(道南8号)	107
3. トマト	
(1)(KRN-2011)	108
(2)NDMO51(NDMO51)	108
<b>V 飼料作物</b>	109
1. アカクローバ	
(1)タイセツ(北海6号)	110
(2)ホクセキ(北海8号)	110
(3)メルビィ(Merviot)	111
(4)スタート(Start)	112
(5)エムアールワン(MR-1-83)	113
(6)テトリ(TETRI)	113
(7)マキミドリ(SB-R-8603)	114
2. シロクローバ	
(1)エспанソ(エспанソ)	115
(2)ソーニャ(ソーニャ)	115
(3)マキバシロ(マキバシロ)	116

3. アルファルファ	
(1)マ ヤ (Maya)	117
(2)レーシス (Resis)	118
(3)アロー (Arrow)	119
(4)5444 (5444)	119
(5)ユーパー (Euper)	120
(6)バータス (Vertus)	121
(7)マキワカバ (月系1号)	122
(8)ヒサワカバ (月系4号)	122
4. チモシー	
(1)アッケシ (北見16号)	123
(2)キリタツプ (北見18号)	124
(3)S B-T-8710 (S B-T-8710)	125
(4)オーロラ (MT-I-85)	125
(5)S B-T-8704 (S B-T-8704)	126
5. オーチャードグラス	
(1)ワセミドリ (北海20号)	127
(2)ヘイキングII (S B-O-7801)	127
(3)ホクト (帯広2号)	128
(4)グローラス (WWH-94)	129
(5)トヨミドリ (北海25号)	129
6. メドーフェスク	
(1)トモサカエ (北海6号)	130
(2)S B-M-8201 (S B-M-8201)	131
(3)コマグリーン (MM-1-85)	132
7. スムーズブROOMグラス	
(1)アイカップ (北見1号)	132
8. ペレニアルライグラス	
(1)ファントム (Fantoom)	133
(2)トープ (Tove)	134
9. 飼料用二条大麥	
(1)あおみのり (北育18号)	135
10. 飼料用ビート	
(1)ソランカ (ソランカ)	136
(2)モノパール (モノパール)	137

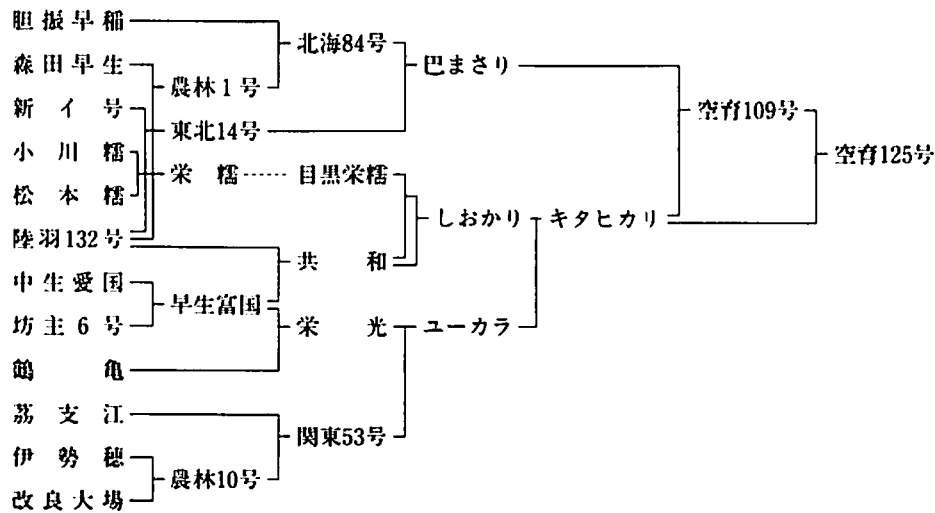
# I 普通作物

## 1. 水 稻

< 梗 種 >

- (1) 空育125号 (系統名 空育125号) 1987年  
 登録番号：(北海道) 水稲北海道うち第34号  
 (種苗法) 第1796号

来歴 本品種は、1978年に北海道立中央農業試験場において「空育109号」を母、「キタヒカリ」を父として人工交配を行い育成したもので、1982年より「空系57225」、1984年から「空育125号」の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



### 特性概要

1. 稈長は「ともゆたか」より長く「ゆきひかり」並で、穂長は「ともゆたか」よりやや短く、穂数は「ともゆたか」より少なく「ともひかり」並で、偏穂数型である。
2. 稈先には稀に短い芒があり、割穂の発生は「ともひかり」より少なく「ゆきひかり」並の少である。
3. 出穂期は「ともひかり」より1～2日遅く「ともゆたか」並の中生の早、成熟期は「ともゆたか」より2～3日早く、「ともひかり」並で早生の晩に属し、登熟性が良い。
4. 障害型冷害に対する抵抗性はやや強～強、いもち病抵抗性はやや強～強、耐倒伏性は中～やや強である。
5. 玄米収量は、「ともゆたか」よりやや低く、「ともひ

かり」並である。

6. 梗種で、粒形は「ともゆたか」より短い中、粒大は中粒で、玄米品質は上下上であり、食味は「ゆきひかり」並である。

### 栽培適地と奨励態度

空知、石狩、胆振、日高、後志、上川(士別以南)、留萌中南部と渡島及び檜山北部の「ともゆたか」の全部及び「ともひかり」の一部とおきかえる。栽培上の注意は、苗が徒長しやすいので育苗管理に注意し、多肥栽培では食味が低下するので、北海道施肥標準を守り、分けつ数がやや劣るので、茎数の早期確保をはかるため、植付株数は25株/m<sup>2</sup>とし、気象条件の劣る地帯では出穂期の遅延程度がやや大きくなることがあるので、生育の促進を図るため、中苗以上のものを用いること。

試験場名	苗の種類	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
中央農試	中苗	空育125号	7.30	9.10	64	16.7	608	497	100	21.1	1中	1984～1985
		ともゆたか	7.31	9.14	62	17.1	625	496	100	22.6	2下	
		ともひかり	7.30	9.11	60	18.3	557	485	98	21.0	1中	
		ゆきひかり	8.1	9.15	63	17.8	576	462	93	20.4	1下	

試験場名	苗の種類	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					穂長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	中苗	空育125号	7.31	9.9	68	15.9	667	599	102	21.4	1中	1984~1986
		ともゆたか	7.30	9.11	63	15.9	757	588	100	22.1	2上	
		ともひかり	7.30	9.12	65	17.9	672	583	99	21.0	1中	
		ゆきひかり	8.1	9.16	66	17.5	645	569	97	20.5	1中	
遺伝資源センター	中苗	空育125号	7.29	9.15	63	15.9	629	611	97	22.6	1中	1984~1986
		ともゆたか	7.30	9.17	59	16.4	660	629	100	23.8	2中	
		ともひかり	7.29	9.15	59	16.7	585	591	94	22.2	1下	
		ゆきひかり	7.31	9.18	63	17.8	601	633	101	21.4	2上	
道南農試	中苗	空育125号	8.1	9.14	70	16.4	472	496	103	21.4	1中	1984~1986
		ともゆたか	8.2	9.18	67	16.7	540	481	100	22.6	2中	
		ともひかり	8.1	9.13	67	17.3	424	462	96	21.0	1下	
		ゆきひかり	8.4	9.16	73	17.8	470	512	106	20.9	2中上	

注 1) 試験成績はいずれも標準施肥区。穂数はm<sup>2</sup>当たりの本数で示し、以下同様である。

2) 玄米重比率は「ともゆたか」対比である。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 3-6(1987)。

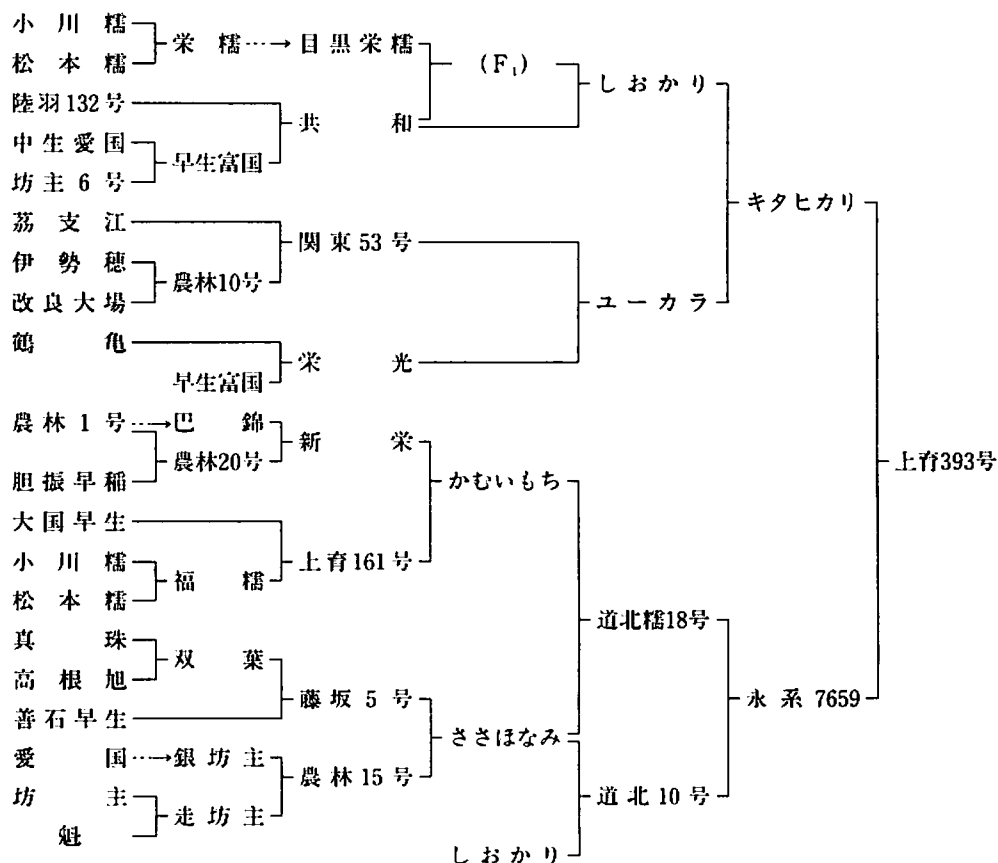
2) 三分一 敬等, 北海道立農試集報, 53, 25-40(1988)。

(2) 上育393号 (系統名 上育393号) 1987年

登録番号: (北海道) 水稲北海道うるち第35号

(種苗法) 第1797号

来歴 本品種は、北海道立上川農業試験場において「キタヒカリ」を母、「永系7659」を父として人工交配を行い育成したもので、1982年より「上系8258」、1984年から「上育393号」の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「キタアケ」より長く「ともひかり」より短く、穂数は「キタアケ」より少なく、「ともゆたか」に比べるとやや少ない偏穂数型で、稈先は無芒である。
2. 割穂の発生は「ともひかり」より少なく、「はやこがね」や「キタアケ」程度の少である。
3. 出穂期は「はやこがね」よりやや遅く、「キタアケ」程度で早生の中に属する。成熟期は「キタアケ」よりやや遅いが、早生の中に属し、登熟日数は「ともひかり」並である。
4. 障害型耐冷性はやや強～強、いもち病抵抗性は中～やや強、耐倒伏性は中～やや強である。
5. 稈種で粒形はやや長、粒大は中位、粒重は「ともひ

かり」並の中位で、玄米品質は「キタアケ」より優り上中下で、腹白は「はやこがね」程度、搗精歩合は「キタアケ」並である。

栽培適地と奨励態度

上川、網走、十勝、留萌、空知、石狩、後志、胆振、日高支庁管内および渡島、檜山北部における「はやこがね」「キタアケ」の一部におきかえ、早生種地帯の良質、良食味米の生産に貢献する。栽培上の注意は、出穂期は早生の中であるが、登熟性が劣るので、生育の遅れる地帯では成苗を用いる。耐倒伏性といもち病抵抗性が不十分なので、多肥栽培を避け適期防除を行い、植付け株数は25株/m<sup>2</sup>以上とし、障害型耐冷性は「キタアケ」より劣るので、適切な水管理を励行する。

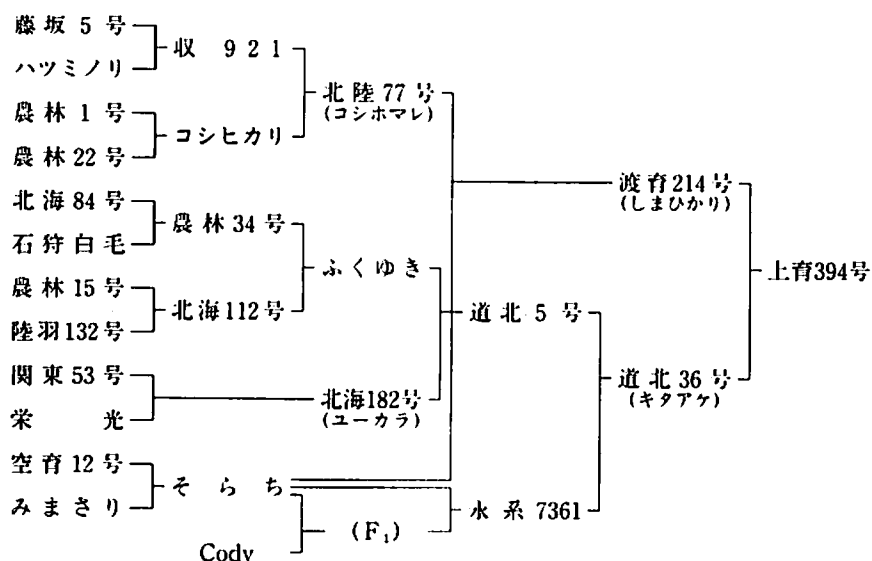
試験場名	苗の種類	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	中苗	上育393号	7.28	9.8	67	17.1	621	546	105	21.3	1中	1984~1986
		はやこがね	7.27	9.3	59	14.3	785	520	100	20.2	1中	
		キタアケ	7.29	9.5	60	15.0	735	549	106	22.3	1下	
		ともひかり	7.30	9.12	65	17.9	672	583	112	21.0	1中	
北見農試	中苗	上育393号	8.5	9.19	65	17.2	547	538	116	21.2	1下	1984~1986
		はやこがね	8.2	9.15	57	14.4	672	463	100	19.8	1中	
		キタアケ	8.5	9.18	58	14.8	613	489	106	22.2	1下	
		ともひかり	8.7	9.21	61	17.2	567	511	110	21.1	1中	
遺伝資源センター	中苗	上育393号	7.29	9.14	66	17.8	516	563	102	22.1	1中	1984~1986
		はやこがね	7.28	9.12	58	14.1	725	554	100	20.7	2下	
		キタアケ	7.29	9.12	59	14.8	579	558	101	23.5	2上	
		ともひかり	7.29	9.15	59	16.7	585	591	107	22.2	1下	
道南農試	中苗	上育393号	8.2	9.20	68	18.1	494	493	120	20.7	2中	1984~1986
		はやこがね	8.1	9.16	62	14.7	658	410	100	19.5	2中	
		キタアケ	8.2	9.15	60	15.4	541	482	118	22.2	2上	
		ともひかり	8.2	9.17	60	18.1	503	483	118	20.9	2上	

注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 6-9(1987)。  
 2) 佐々木一男 等, 北海道立集報, 58, 1-11(1988)。

(3) 上育394号 (系統名 上育394号) 1987年  
 登録番号: (北海道) 水稲北海道うち第36号  
 (種苗法) 第1798号

来歴 本品種は、1980年に北海道立上川農業試験場において、「渡育214号」を母、「道北36号」を父として人工交配を行い、その雑種第1代の蒔培養により育成したもので、1982年より「A C 82209」、1984年から「上育394号」の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「マツマエ」並かやや長く「巴まさり」より短い、穂長は「マツマエ」より短く、穂数は「マツマエ」並で、偏穂数型である。
2. 穎色は淡黄色、稈先色は黄白で無芒、脱粒性は難、割粒発生率は「マツマエ」より低い。
3. 出穂期は「マツマエ」と同じか1日程度早い晩生の中、成熟期は「マツマエ」とほぼ同じで「巴まさり」より4～5日早い晩生の中に属し、登熟はやや劣る。
4. 障害型耐冷性は「マツマエ」並のやや強、葉いもち病抵抗性は「マツマエ」より優りやや強～強、穂いもち病抵抗性は「マツマエ」並で、耐倒伏性は「マツマエ」よりやや劣るが、「巴まさり」より明らかに強い。
5. 玄米収量は「マツマエ」より多収で、「巴まさり」に比べると明らかに多収を示す。

6. 梗種で玄米形状はやや円粒、粒長は「マツマエ」「巴まさり」よりやや短く、粒大及び千粒重は中位で、心白は「マツマエ」並に少なく、腹白は「巴まさり」並に多く、玄米品質は「マツマエ」より劣り「巴まさり」並で、食味は「巴まさり」並かやや良い。

栽培適地と奨励態度

渡島南部、檜山南部及び西胆振の「マツマエ」の一部とおきかえ、道南南部地帯の良食味米の安定生産に寄与する。栽培上の注意は、穂の粒着が密であるため登熟が遅れる場合があるので、中苗以上の苗を用い植付株数は25株/m<sup>2</sup>以上とし、稈質と耐倒伏性が十分でないので多肥栽培を避ける。いもち病抵抗性は「マツマエ」並かやや強いが、発病の早期発見に努め適期防除をおこない、障害型耐冷性は「マツマエ」並のやや強であるが、穂孕期が低温の際には深水灌漑を行う。

試験場名	苗の種類	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	成苗	上育 394号	8. 6	9.20	71	15.0	600	590	104	21.5	2中	1984～1986
		マツマエ	8. 6	9.20	68	16.6	584	566	100	22.8	2上	
		巴まさり	8. 8	9.25	80	17.6	746	522	92	20.2	2下	
道南農試	成苗	上育 394号	8. 8	9.23	70	16.0	484	511	99	21.8	2下	1984～1986
		マツマエ	8. 9	9.24	68	16.9	465	517	100	22.9	1下	
		巴まさり	8.10	9.27	79	17.7	572	506	98	20.4	2中	
北海道農試	成苗	上育 394号	8. 1	9.14	65	14.1	444	571	108	21.9	2	1984
		マツマエ	8. 2	9.11	68	15.6	410	530	100	23.4	1	
		巴まさり	8. 3	9.14	80	16.6	528	504	95	21.2	1	

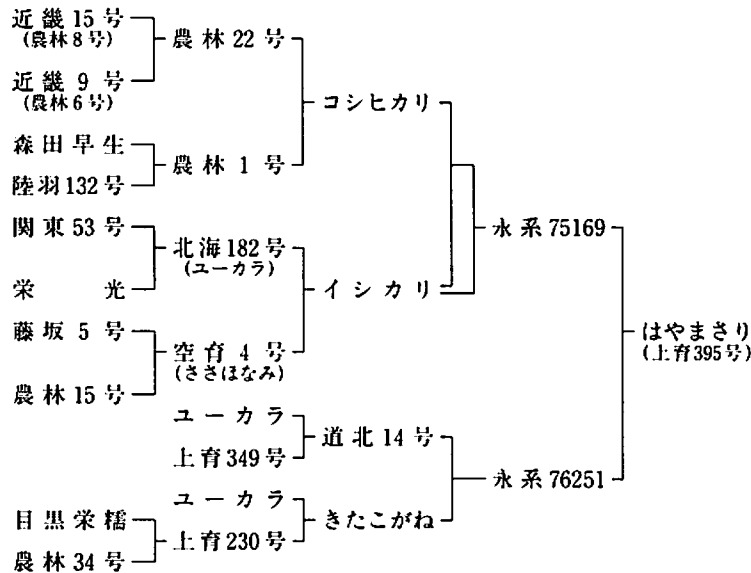
注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 10-14(1987)。  
 2) 佐々木一男等, 北海道立農試集報, 58, 13-23(1988)。



(4) はやまさり (系統名 上育395号) 1988年  
 登録番号：(北海道) 水稲北海道うるち第37号  
 (種苗法) 第2150号

来歴 本品種は、1977年に北海道立上川農業試験場において、「永系75169」を母、「永系76251」を父として人工交配を行い育成したもので、1981年より「上系81209」、1985年から「上育395号」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「はやこがね」並で「キタアケ」よりやや短く、穂長は「キタアケ」「はやこがね」より長く、穂数は「はやこがね」より少なく「キタアケ」並で、穂数型である。
2. 先には芒がなく、色と先色は黄白で、脱粒性は難、割粃は「キタアケ」「はやこがね」より多いが「ともひかり」より少ない。
3. 直播栽培における出穂期は「はやこがね」と同程度で、登熟日数は「はやこがね」並である。
4. 障害型耐冷性は強～やや強、葉いもち病と穂いもち病の抵抗性は強で、耐倒伏性は強である。
5. 粃種で玄米の形状はやや長、粒大と粒重は中位、腹白の発生は微、玄米品質は上下上であり、食味は「キ

タアケ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

上川、空知支庁管内の良地帯及びこれに準ずる地帯の「キタアケ」に替え、直播栽培の安定化と品質向上並びに低コスト米生産に寄与する。栽培上の注意は、移植栽培では不時出穂をする場合があり、穂揃いが悪くなり品質が劣化するので直播栽培を行う。低温発芽性がやや劣るので、種子の子措と催芽を十分に行い、適期播種と適正な水管理により苗立ち性の向上を図る。耐倒伏性といもち病抵抗性が不十分なので、多肥栽培を避け適期防除に努め、障害型耐冷性はやや強であるが、幼穂形成期以降の水管理は的確に実施し、割粃が「キタアケ」より多く、刈遅れによる品質低下の恐れがあるので、適期刈取りを行う。

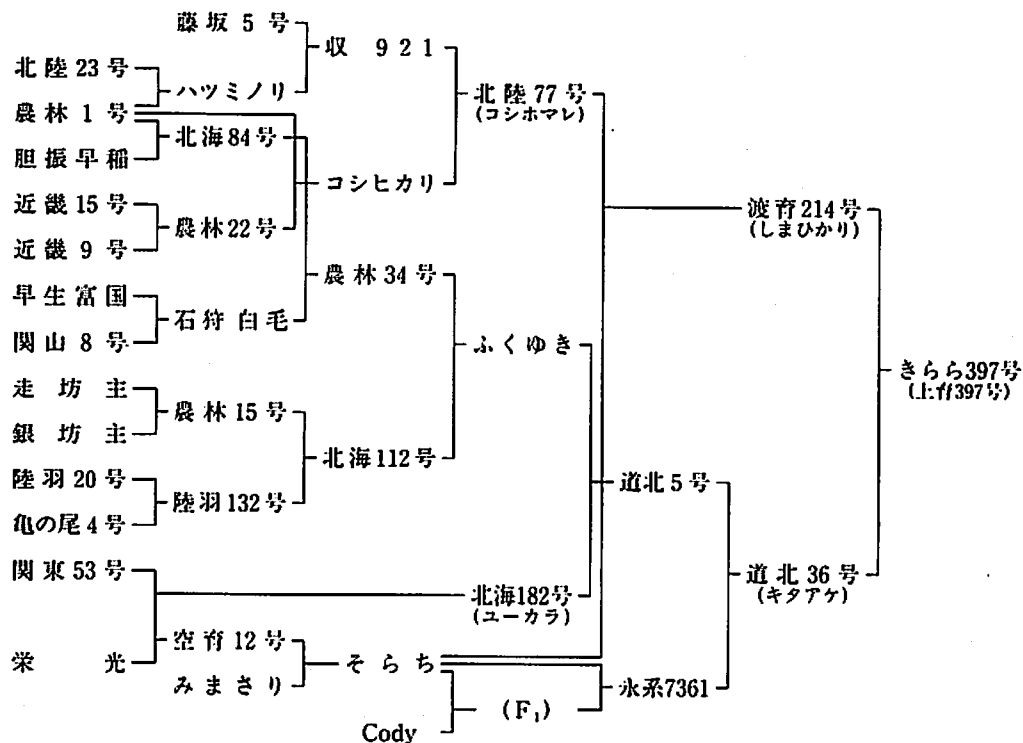
試験場名	栽培条件	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	直播 栽培	はやまさり	8.3	9.17	56	15.2	882	531	101	21.3	1下	1982~1987
		キタアケ	8.7	9.23	59	13.1	892	529	100	22.2	2上	
		はやこがね	8.2	9.15	55	12.9	1028	513	97	20.6	1下	

注) 試験成績は標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 3-6(1988).  
 2) 沼尾吉則 等, 北海道立農試集報, 54, 19-30(1990).

(5) きらら397 (系統名 上育397号) 1988年  
 登録番号：(北海道) 水稲北海道うち第38号  
 (種苗法) 第2151号

来歴 本品種は、1980年北海道立上川農業試験場において「渡育214号」(しまひかり)を母とし、「道北36号」を父として人工交配を行い育成したもので、1983年より「上系8381」、1985年からは「上育397号」の系統名で各種の試験を行い、1988年優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「ともひかり」並かやや短く、穂長は「ともひかり」より短く「キタヒカリ」並であり、穂数は「キタヒカリ」「ともひかり」より多く、草型は典型的な穂数型である。
2. 粒着密度は中で、稈先には稀に短芒があり、稈色と稈先色は黄白である。脱粒性は難、割粒は「キタヒカリ」より多く、「ともひかり」より少ない。
3. 出穂期は中生の早、登熟日数は「キタヒカリ」より長く「ともひかり」並で、成熟期は中生の早である。
4. 障害型耐冷性は「ともひかり」並のやや強、出穂遅延は「キタヒカリ」や「ともひかり」より小さく、いもち病抵抗性は葉いもち、穂いもちともにやや強、耐倒伏性はやや強～中である。
5. 玄米収量は「ともひかり」よりやや劣るが、「キタヒカリ」に比べると優る。

6. 梗種で、粒形はやや長く、粒大は「ともひかり」並かやや大、粒重は「キタヒカリ」よりやや軽く「ともひかり」より重い。腹白の発生はやや少で、玄米品質は上中下であり、食味は「ゆきひかり」にやや優り、「キタヒカリ」より明らかに良い。

栽培適地と奨励態度

石狩、空知、後志、日高、上川中南部、留萌中南部、檜山北部、渡島北部及びこれらに準ずる地帯の「キタヒカリ」の全部と「ともひかり」の一部におきかえて栽培し、本道産米の食味向上に寄与する。栽培上の注意は、出穂期は中生の早であるが、登熟性が劣るので中苗以上を用い、生育の遅れる地帯では成苗を用いる。耐倒伏性が劣り、穂数が過剰になりやすいので多肥栽培を避け、いもち病抵抗性はやや強であるが適期防除を行う。障害型耐冷性はやや強であるが、不十分なので穂孕期の低温の際には深水灌漑を励行する。

試験場名	苗の種類	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	中苗	きらら397	8.4	9.19	61	16.0	722	536	104	22.1	1中	1985~1987
		キタヒカリ	8.7	9.20	64	16.3	611	517	100	22.1	1下	
		ともひかり	8.2	9.19	62	17.5	664	549	106	21.7	1中	
		ゆきひかり	8.4	9.23	62	17.4	630	548	106	20.8	1中	
遺伝資源センター	中苗	きらら397	8.4	9.23	63	16.7	670	632	106	22.3	2上	1985~1987
		キタヒカリ	8.7	9.23	63	17.4	551	598	100	22.6	2中	
		ともひかり	8.1	9.20	61	17.4	602	621	104	21.8	2上	
		ゆきひかり	8.3	9.23	64	17.8	604	624	104	21.1	2上	
中央農試	中苗	きらら397	8.8	9.26	64	17.1	683	479	113	20.9	2中	1985~1987
		キタヒカリ	8.10	9.27	67	16.5	600	424	100	20.6	3中	
		ともひかり	8.6	9.23	63	18.1	594	462	109	20.1	2上	
		ゆきひかり	8.10	9.27	69	18.4	566	432	102	19.6	2中	
道南農試	中苗	きらら397	8.3	9.12	67	16.8	509	455	97	21.6	1下	1985~1987
		キタヒカリ	8.6	9.20	69	16.5	481	472	100	21.8	1下	
		ともひかり	8.2	9.15	67	17.2	428	460	97	20.5	1下	
		ゆきひかり	8.4	9.19	73	17.7	477	477	101	20.7	1下	

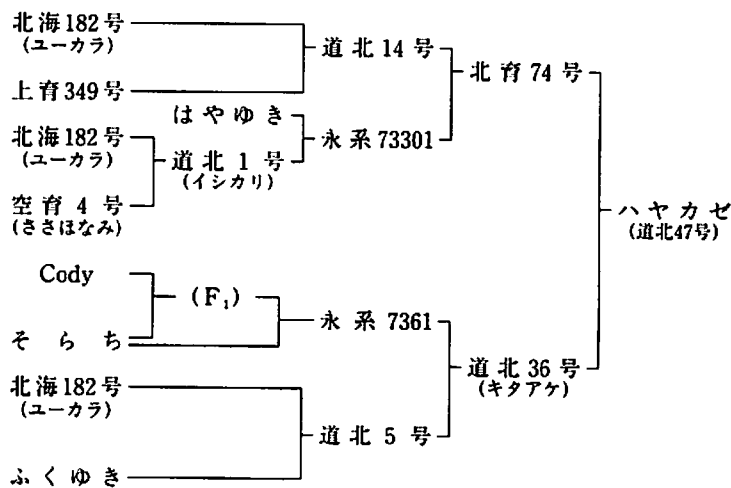
注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 6-10(1988).  
 2) 佐々木多喜雄 等, 北海道立農試集報, 60, 1-18(1990).

(6) ハヤカゼ (系統名 道北47号) 1990年

登録番号: (北海道) 水稻北海道うち第40号  
 (農水省) 水稻農林303号  
 (種苗法) 第2868号

来歴 本品種は, 1982年に北海道立上川農業試験場において, 「北育74号」を母, 「道北36号」(キタアケ)を父として人工交配を行い育成したもので, 1987年から「道北47号」の系統名で各種の試験を行い, 1990年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「はやこがね」並の短稈で穂長も短い。穂数は「はやこがね」と「上育393号」の中間程度で、一穂粒数は「上育393号」より少なく「はやこがね」並で、
2. 出穂期及び成熟期はともに早生の早に属する。
3. 障害型耐冷性はやや強～強、いもち病の圃場抵抗性は、葉いもち並びに穂いもちともに強、耐倒伏性はや

や強である。

4. 玄米収量は「はやこがね」並で、「上育393号」より少ない。
5. 梗種で、粒形は中、粒大はやや小粒、玄米品質は上下～上下上であり、白米の白度は「キタアケ」並に良く、食味は「キタアケ」より明らかに優り、「上育393号」並である。

**栽培適地と奨励態度**

網走、上川北部およびこれらに準ずる地帯の「はやこ

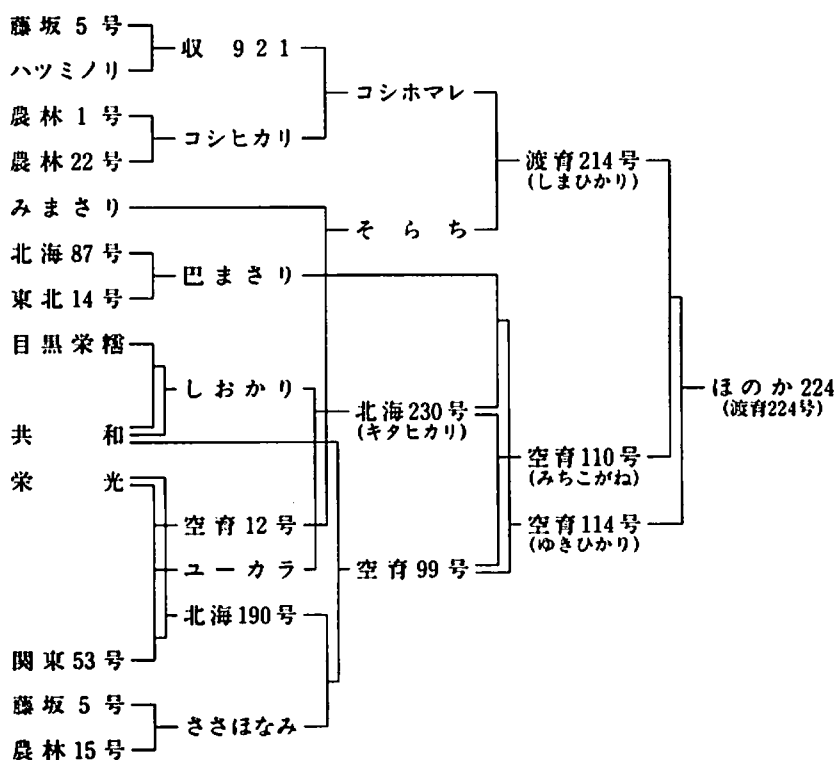
がね」の全部と「上育393号」の一部に替えて栽培し、早生種地帯の食味向上と安定化を図る。栽培上の注意は、気象変動や栽培条件による玄米品質の変動が大きいと見られるので、施肥標準を守り安全栽培を心がける。耐冷性は比較的強いが、普及見込み地帯は冷害の頻度が高いので、穂孕期低温時には深水による幼穂保護を行う。一穂粒数が少なく収量は穂数に左右されるので、健苗育成を図り早期に有効茎数を確保する。登熟性が良いので刈り遅れに注意し、適期刈り取りに努める。

試験場名	栽培条件	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
北見農試	中苗 標肥	ハヤカゼ	8.2	9.18	58	15.0	702	445	103	20.6	3上	1987～1989
		はやこがね	8.1	9.20	58	14.2	755	432	100	19.5	2下	
		上育393号	8.2	9.23	63	16.7	615	477	110	21.0	2下	
		キタアケ	8.4	9.23	59	14.7	634	468	108	21.8	3上	

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 3-5(1990).  
 2) 丹野久等, 農業技術, 45, 465(1990).

(7) ほのか224 (系統名 渡育224号) 1990年  
 登録番号: (北海道) 水稲北海道うち第41号  
 (種苗法) 第3046号

来歴 本品種は1981年に北海道立中央農業試験場が「渡育214号」、「空育110号」及び「空育114号」の3系交配を行い、その交雑後代の中から道南農業試験場が選抜育成したもので、1985年より「渡系6040」、1987年から「渡育224号」の系統名で各種の試験を行い1990年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は中で「マツマエ」より長く、穂長はやや長、穂数は中で「巴まさり」より少なく、偏穂数型である。
2. 稈先には稀に短い芒があり、稈色と稈先色は黄白、脱粒性は難、割れ粒は「マツマエ」より少なく「ゆきひかり」並かやや少ない。
3. 出穂期は晩生の中、成熟期は晩生の早で登熟日数は「マツマエ」より短い。
4. 障害型耐冷性はやや強、いもち病耐病性は、葉いもち、穂いもちとも中～やや強、耐倒伏性はやや強～強である。
5. 玄米収量は「マツマエ」よりやや劣るが、「巴まさり」や「ゆきひかり」よりやや優る。
6. 粳種で粒形は中、粒大は中、粒重は中で「ゆきひかり」より大きい。腹白は僅かにあるが、心白はほとん

ど無く、玄米品質は上中下、食味は「ゆきひかり」より優り「きらら397」並である。

栽培適地と奨励態度

渡島南部、檜山南部およびこれに準ずる良地帯の「マツマエ」の全部、「巴まさり」と「ゆきひかり」の一部にかえて栽培することにより、北海道南部の産米の品質と食味水準の向上に寄与する。栽培上の注意は、苗が徒長しやすく初期分けつ性がやや劣るので健苗を用い、栽植密度は25株/㎡以上とし、稈長がやや長く耐倒伏性が十分でないため、多肥栽培は避ける。いもち病耐病性が十分でないため、その発生に注意し適期防除を行う。障害型耐冷性は「ゆきひかり」より弱いので、穂孕期の低温の際には深水灌漑を励行する。また、登熟性が良いので刈り遅れないように留意し、適期刈りを励行する。

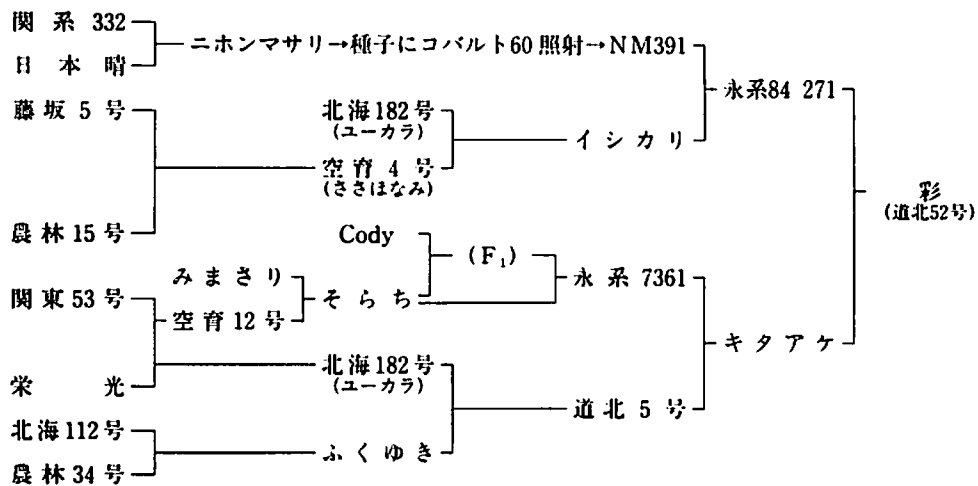
試験場名	苗の種類	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
道南農試	中苗	ほのか224	8.10	9.27	71	16.7	457	511	98	22.1	1下中	1987~1989
		マツマエ	8.11	9.30	67	16.1	461	524	100	23.4	2中中	
		巴まさり	8.14	10.5	76	17.6	537	495	94	20.9	3上中	
		ゆきひかり	8.5	9.21	69	17.5	528	494	94	21.3	2上上	
資源センター	中苗	ほのか224	8.10	9.27	67.5	17.0	494	609	108	21.9	1下	1987~1989
		マツマエ	8.13	10.2	65.1	16.5	550	569	100	22.9	3上上	
		ゆきひかり	8.3	9.22	61.2	17.7	585	586	104	21.4	2中	
中央農試	中苗	ほのか224	8.14	9.29	66.3	16.8	512	469	89	21.1	2上下	1987~1989
		マツマエ	8.16	10.2	62.0	16.8	544	524	100	22.5	2下下	
		ゆきひかり	8.10	9.25	66.3	17.8	572	445	85	19.9	2中	

注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 6-10(1990)。  
 2) 竹川昌和等, 北海道立農試集報, 64, 43-58(1992)。

- (8) 彩 (系統名 道北52号) 1991年  
 登録番号: (北海道) 水稻北海道うち第42号  
 (農水省) 水稻農林309号  
 (種苗法) 第3283号

来歴 本品種は、1984年に北海道立上川農業試験場において、「永系84 271」を母、「キタアケ」を父として人工交配し、その雑種第1代の薬培養により育成したもので、1986年より「AC8688」、1987年から「道北52号」の系統名で各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



**特性概要**

1. 稈長は「ユーカラ」とほぼ同じで、穂長は「ユーカラ」や「ゆきひかり」より短く、穂数は「ユーカラ」と同程度かやや多い穂数型である。
2. 粒着密度はやや疎、芒は中短で稈先色ならびに穎色は黄白であり、脱粒性は難、割れ穂の発生は「ゆきひかり」より多く「ユーカラ」並である。
3. 出穂期は中生の晩、成熟期も「ユーカラ」より早い中生の晩である。
4. 障害型耐冷性は中～やや強、いもち病の圃場抵抗性は、葉いもち病は弱、穂いもち病はやや弱～弱、耐倒伏性は中程度である。

**栽培適地と奨励態度**

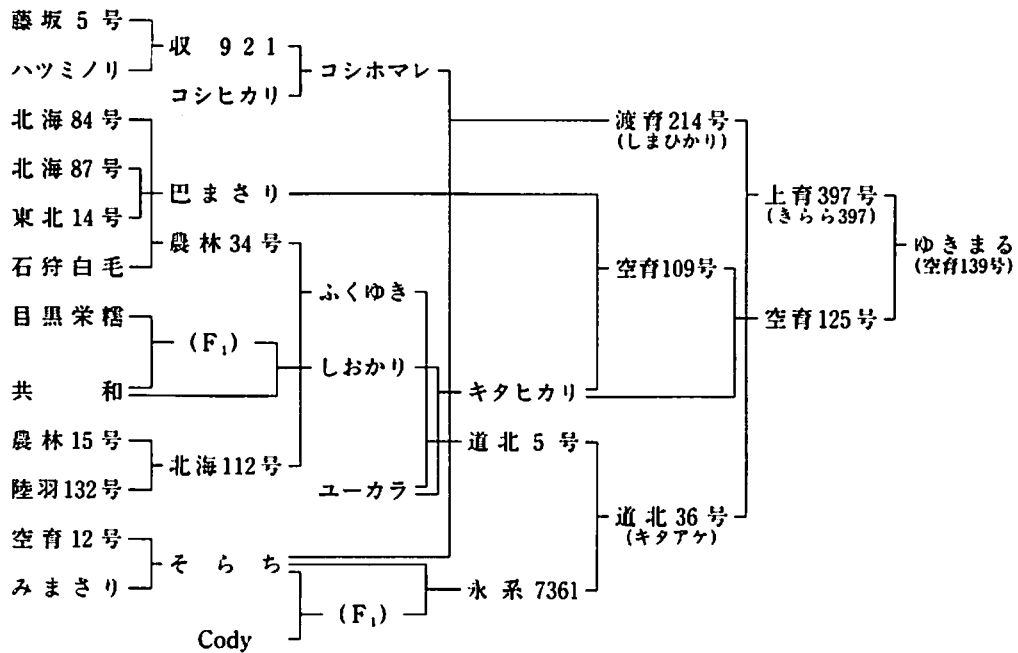
北海道空知北部の良地帯で、いもち病の発生が少なく「ユーカラ」栽培実績があった所の「ユーカラ」の全部と「ゆきひかり」の一部に替えて栽培し、当該地帯の産米の食味向上に寄与する。栽培上の注意は、いもち病が発生しやすい場所での作付けを避け、水面施用剤の使用により初期防除を徹底し、その後も茎葉散布剤を併用して予防的防除に努める。耐倒伏性、耐冷性が十分でないため多肥栽培は避け、穂孕期の低温の際には深水灌漑を励行する。熟期がやや遅く、生育が遅延したときの品質の低下が懸念されるので、成苗を用いて早植えを行い、栽培基準に従った栽植密度を守り生育の促進と斉一性の向上を図る。

試験場名	栽培条件	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	中苗	彩	8.5	9.24	68	16.7	702	591	98	23.3	2	1988～1990
	標肥	ユーカラ	8.6	9.24	65	17.8	693	602	100	22.5	1下	
	標肥	ゆきひかり	7.31	9.24	64	17.5	624	619	103	21.8	2上	

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 3-6(1991).  
 2) 国広泰史 等, 育種学雑誌, 43, 155-163(1993).

(9) ゆきまる (系統名 空育139号) 1993年  
 登録番号: (北海道) 水稲北海道うち第43号  
 (種苗法) 第4530号

来歴 本品種は、1985年北海道立中央農業試験場において、「上育379号」を母、「空育125号」を父として人工交配を行い育成したもので、1988年より「空系63327A」、1990年から「空育139号」の系統名で各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



**特性概要**

1. 稈長は「空育125号」よりやや短く、穂長は「空育125号」よりやや長く、穂数も多く、草型は穂数型である。
2. 稈先に「空育125号」よりやや長い芒が生ずることがあり、その頻度は中であり、穎色および稈先色は黄白色、粒着密度はやや疎、割れ粒の発生はやや少である。
3. 出穂期は早生の中、成熟期は早生の晩で、登熟日数は「空育125号」より少し長い。
4. 障害型冷害に対する抵抗性はやや強～強、いもち病耐病性は強、耐倒伏性はやや強である。
5. 玄米収量は、「空育125号」並ないしはやや劣る。
6. 粳種で粒形はやや長、粒大は中、玄米品質は上下上であり、食味は「きらら397」並である。

**栽培適地と奨励態度**

網走、上川、留萌、空知、石狩、後志、胆振、日高の各支庁管内と渡島及び檜山支庁北部地帯の「空育125号」と「上育393号」の殆どにおき替えて栽培し、作付け基準による適正な熟期配分を推進し、早生品種地帯の食味水準の向上と道産良食味米の安定生産に寄与する。栽培上の注意は、障害型耐冷性はやや強～強であるが、十分とは言えないので幼穂形成期から穂孕期にかけての低温の際には深水灌漑を励行し、穂摘いが劣るため植え付け株数は栽培基準を厳守し、適期刈り取りに特に留意する。短稈であるが耐倒伏性はやや強と不十分であり、また、腹白が栽培条件により発生することがあるので、多肥栽培を避け北海道施肥基準を守り、出穂変動が大きいので、熟期を考慮して、その地帯に適した育苗法を用いる。

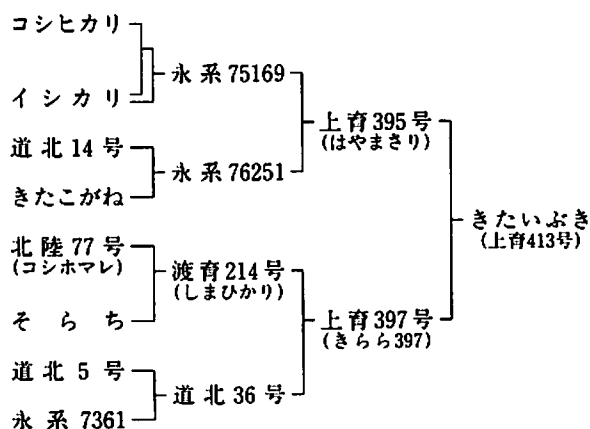
試験場名	栽培条件	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
中央農試	中苗 標肥	ゆきまる	7.30	9.14	55	16.3	662	497	100	20.5	1中下	1990~1992
		上育393号	8.2	9.16	64	17.9	532	491	99	20.3	1下	
		空育125号	8.1	9.14	58	15.9	564	496	100	20.4	1中	
		きらら397	8.6	9.22	59	16.6	640	519	105	21.0	1下	

注) 玄米比率は「空育125号」対比である。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-5(1993)。  
 2) 佐々木忠雄 等, 北海道立農試集報, 67, 1-17(1994)。

(10) きたいぶき (系統名 上育413号) 1993年  
 登録番号: (北海道) 水稻北海道うるち第44号  
 (農水省) 水稻農林318号  
 (種苗法) 出願中

来歴 本品種は、1985年に北海道立上川農業試験場において、「上育395号」(はやまさり)を母、「上育397号」(きらら397)を父として人工交配を行い育成したもので、1988年より「上系88145」、1990年から「上育413号」の系統名で各種の試験を行い、1993年に直播栽培向優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「はやまさり」よりやや長く、穂長は「はやまさり」より短く、穂数は「はやまさり」より多く、草型は穂数型に属する。
2. 稈先に稀に極短芒が有り、稈色および稈先色は黄白で、脱粒性は難、割れ靱「ハヤカゼ」より多くほぼ「はやまさり」並である。
3. 出穂期は極早生、登熟日数は「はやまさり」よりやや長く、成熟期は「ハヤカゼ」並である。
4. 障害型耐冷性はやや強、低温による出穂の遅れはやや大、いもち病圃場抵抗性は葉いもち病、穂いもち病ともに強、耐倒伏性は中～やや強である。
5. 玄米収量は、「ハヤカゼ」より劣るが「はやまさり」に優る。
6. 粳種で粒形はやや長、粒大はやや小、玄米品質は上上、白米白度は「はやまさり」に優り、食味は「ゆ

きひかり」並で、「はやまさり」より明らかに優る。

栽培適地と奨励態度

上川 (中南部)、留萌 (中南部)、石狩、空知、後志、胆振、日高、渡島、檜山の各支庁管内の良地帯の「はやまさり」の大部分と置き替えて栽培し、北海道における直播栽培の定着を図る。栽培上の注意は、低温発芽性は「はやまさり」並かやや劣るので種子の予措及び催芽を適切に行い、低温下での苗立ち性が不十分なので、適期播種と適切な水管理を行い、苗立ちの確保に努める。耐倒伏性と登熟性が劣るので多肥栽培は避け、透排水の改善等により根の発育と活力の維持を図り、倒伏の防止と登熟の促進に努める。障害型耐冷性が不十分なので幼穂形成期から穂孕期にかけての低温の際には深水灌溉を励行し、割れ靱の発生が「はやまさり」並に多いので適期収穫に努める。

試験場名	栽培条件	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における		10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	直播	きたいぶき	8.6	9.21	54	1065	491	96	20.5	1下	1991~1992
	散播	はやまさり	8.4	9.16	51	1016	510	100	21.4	1下	
中央農試	直播	きたいぶき	8.6	9.17	50	1179	481	96	20.4	1下	1990~1993
	条播	はやまさり	8.4	9.15	48	1049	499	100	20.6	1下	

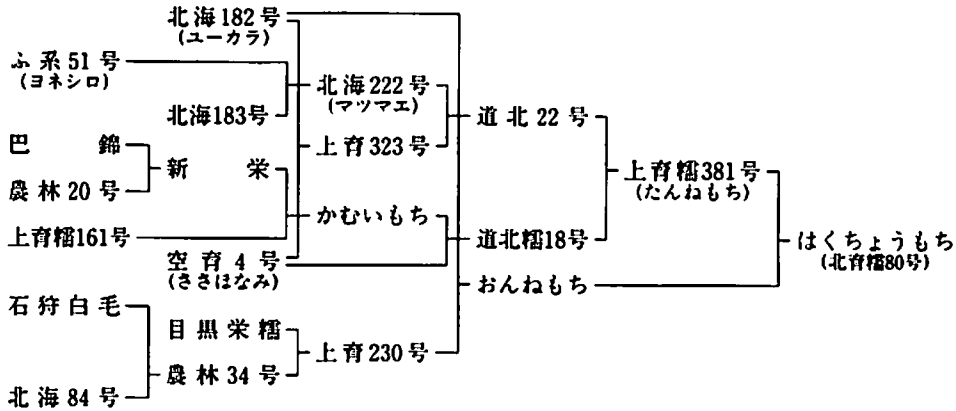
注) 中央農試の1990年は散播。穂数は㎡当たりで示す。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 6-10(1993).  
 2) 田縁勝洋 等, 農業技術, 48, 462(1993).



< 糯 種 >

- (1) はくちょうもち (系統名 北育糯80号) 1989年  
 登録番号: (北海道) 水稲北海道もち第39号  
 (種苗法) 第2449号



特性概要

1. 稈長、穂長ともに「おんねもち」並、穂数は「おんねもち」より少なく、「たんねもち」並の偏穂数型である。
2. 稈先には、「たんねもち」並に極短芒を少程度有し、稈先色は黄白である。
3. 出穂期は「おんねもち」とほぼ同じで早生の晩、成熟期は「おんねもち」並の早生の晩である。
4. 障害型耐冷性は「たんねもち」や「おんねもち」より強い強、いもち病耐病性は、葉いもち病では中、穂いもち病では中～やや強、耐倒伏性はやや強～強である。
5. 玄米収量は「おんねもち」より優り、「たんねもち」に比べるとやや劣る。
6. 糯種で、粒形は「たんねもち」よりやや長い中粒、粒大は「たんねもち」より大きく、「おんねもち」並か僅かに大きい。玄米品質は「おんねもち」並であるが、

来歴 本品種は、1980年に北海道立上川農業試験場において、「上育糯381号」(たんねもち)を母とし、「おんねもち」を父として行った人工交配の雑種後代から育成された。1982年そのF<sub>2</sub>集団を北海道立北見農業試験場が譲り受け、1984年より「北系8482」、1986年以降「北育糯80号」の系統名で各種の試験を行い、1989年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

白米白度は「たんねもち」や「おんねもち」より良好で、つき餅の食味は「たんねもち」並である。

栽培適地と奨励態度

網走、十勝、留萌北部、上川北部の全域及び留萌中南部。上川中南部、空知、石狩、後志、檜山北部、渡島北部の山間地帯及びこれらに準ずる地帯。これらの地帯の「おんねもち」と「たんねもち」の一部に替えて栽培し、当該地帯の良質糯米の安定生産を図る。栽培上の注意は、不稔発生やいもち病発生及び登熟不良の誘因となるので多肥栽培は避け、「北海道施肥標準」を守る。いもち病耐病性が不十分なので適期防除に努める。障害型耐冷性は強であるが、穂孕期の低温の際には深水灌漑を励行する。不時出穂を防ぐため、成苗栽培の場合、育苗中の温度管理や育苗日数に特に注意する。「おんねもち」に比べて穂数が少ないので、栽培株数は㎡当り25株以上する。また、登熟性が良いので刈遅れに注意し適期刈取りを励行する。

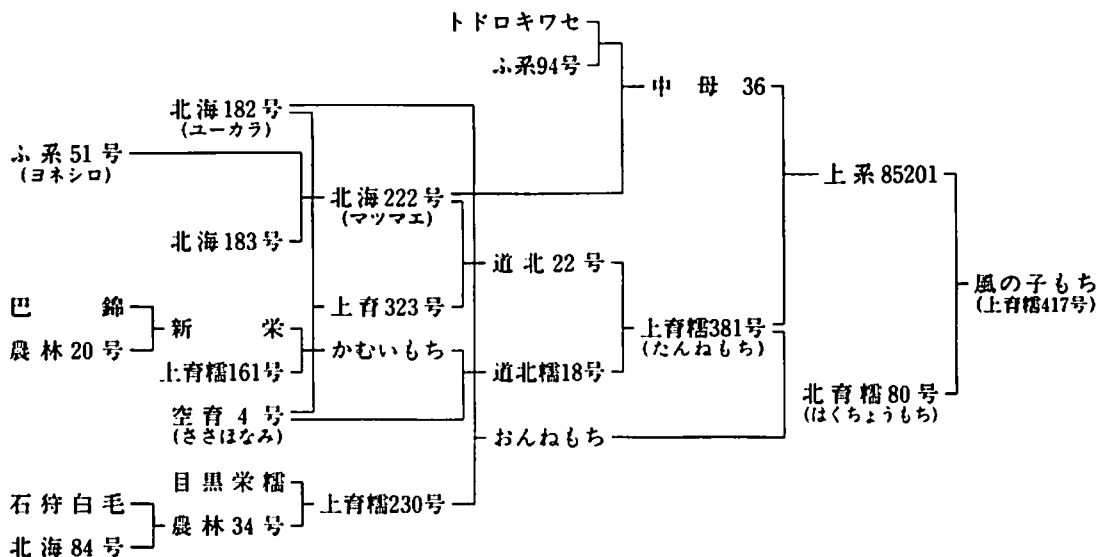
試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
北見農試	はくちょうもち	8.12	9.29	60	15.5	496	429	106	19.3	2下	1986~1988
	おんねもち	8.10	9.29	58	15.0	574	406	100	19.0	2下	
	たんねもち	8.8	9.30	58	16.1	466	450	111	19.0	2中	

注) 試験成績は中苗標肥の値である。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 3-6(1989)。  
 2) 本間 昭 等, 北海道立農試集報, 62, 1-11(1991)。

(2) 風の子もち (系統名 上育糯417号) 1995年  
 登録番号：(北海道) 水稲北海道もち第45号  
 (農水省) 水稲農林333号  
 (種苗法) 出願中

来歴 本品種は1987年に北海道立上川農業試験場において、「上系85201」を母、「北育糯80号」を父として人工交配を行い育成したもので、1990年より「上系90352」、1992年から「上育糯417号」の系統名で各種の試験を行い、1995年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「はくちょうもち」より長く、「たんねもち」に比べてやや長い。穂長は「たんねもち」より長く、穂数は「たんねもち」より少なく、草型は偏穂数型である。
2. 稈先に極短芒を生じ、稈色と稈先色は黄白であり、脱粒性は難、割れ粒は「たんねもち」より少なく「はくちょうもち」並である。
3. 出穂期は中の早、成熟期は「たんねもち」よりやや遅い中の早に属する。
4. 障害型耐冷性は強～極強、低温による出穂遅延の程度は「たんねもち」や「はくちょうもち」よりやや大きく、いもち病抵抗性は葉・穂いもち病ともに中で、紅変米の発生は少なく、耐倒伏性はやや強である。
5. 玄米収量は「たんねもち」より多く、「はくちょうもち」に比べて明らかに多収である。

6. 糯種で、粒形と粒大はともに中、千粒重は「たんねもち」や「はくちょうもち」より重く、玄米品質は「はくちょうもち」並の上下上、白米の白度は「はくちょうもち」並に高く、食味はつき餅、おこわともに「たんねもち」より優り「はくちょうもち」並である。

栽培適地と奨励態度

上川(士別以南)、空知、石狩、渡島各支庁管内およびこれに準ずる良地帯の「たんねもち」の大部分と「はくちょうもち」の一部に置き替えて作付けする事により、全道的な良質糯米の安定生産を図る。栽培上の注意は、中生種であり、かつ登熟日数が比較的長いので、生育の遅延する地帯及び登熟期間の短い地帯では成苗を用い、また、早植えなど生育促進技術を励行する。中生種としてはいもち病抵抗性が不十分なので、適期防除に努め、初期分けつが劣るので基準の栽植株数を確保し、品質低下を防止するため適期刈取りに努める。

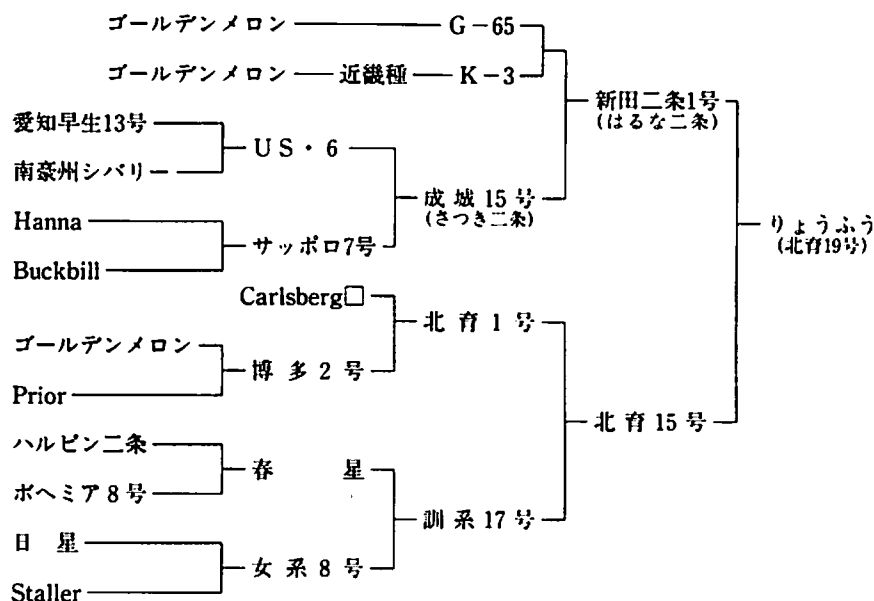
試験場名	栽培条件	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	中苗 標肥	風の子もち	8.4	9.2	62	16.5	544	513	109	20.3	2中	1992~1994
		たんねもち	8.2	9.2	61	16.1	568	470	100	18.6	2中	
		はくちょうもち	8.2	9.1	53	14.3	572	419	89	19.1	2上	

参照 1) 北海道農政部編, 平成7年度普及奨励ならびに指導参考事項, 1-4(1995)。

## 2. 大 麦

- (1) りょうふう (系統名 北育19号) 1989年  
 登録番号：(北海道) 大麦北海道春第4号  
 (種苗法) 第2154号

**来歴** 本品種は、1976年北海道立北見農業試験場において、「新田二条1号」を母、「北育15号」を父として人工交配を行いその雑種後代から育成したもので、1979年より「北系54138」、1983年から「北育19号」の系統名で各種の試験を行い、1989年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



### 特性概要

1. 株は閉じており、葉色は「ほしまさり」よりやや淡く、稈長は「ほしまさり」より短く、穂長は「ほしまさり」と同等であるが、穂数は多く、一穂粒数はやや少ない。
2. 穂型は矢羽根型、穂の抽出度は「ほしまさり」より少なく、穂には長芒があり、ふの色は淡黄である。
3. 粒形はやや長、粒の大小は「ほしまさり」よりやや小さく、穀皮の厚さはやや薄い。千粒重は「ほしまさり」よりやや軽く、リットル重もやや軽く、原麦粒の品質は中の中である。
4. 中生種に属し、出穂期・成熟期は「ほしまさり」より3日程度遅く、耐倒伏性は「ほしまさり」より強い。雲形病抵抗性は「ほしまさり」と同等で、網斑病抵抗性は「ほしまさり」よりやや弱い。
5. 子実重と整粒歩合はともに「ほしまさり」と同等である。

6. 麦芽エキスとエキス収量とも「ほしまさり」より多く、麦芽粗蛋白質含有量は「ほしまさり」よりやや少ない。可溶性窒素含量は「ほしまさり」よりやや多く、コールバツハ数はやや大きい。全窒素当りジアスターゼ力は「ほしまさり」と同等で、最終発酵度は「ほしまさり」より多く、麦芽品質総合評点は「ほしまさり」より優れている。

### 栽培適地と奨励態度

北海道の二条大麦(子実用)の作付け地帯の「ほしまさり」と全面的に置き替えて栽培し、当該地帯の二条大麦の安定生産と品質の向上を図る。栽培上の注意は、種子消毒は従来品種と同様に行い、早期播種を励行し、耐倒伏性は従来品種より強いが、倒伏により品質の低下を招くので窒素増肥を避ける。また、干ばつの条件下では減収することがあるので、干ばつの起きやすい圃場での作付けには注意する。

試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		子実		試験年次
				穂長 (cm)	穂数 (本)	一穂 粒数	子実重 (kg)	同左比 (%)	1立重 (g)	千粒重 (g)	
北見農試	りょうふう	7.11	8.12	93	580	21.5	396	100	642	43.2	1983~1988
	ほしまさり	7.8	8.9	102	519	22.5	396	100	659	45.3	
センター	りょうふう	7.2	7.31	66	506	-	389	102	697	49.5	1983~1988
	ほしまさり	6.29	7.28	77	494	-	381	100	701	51.0	

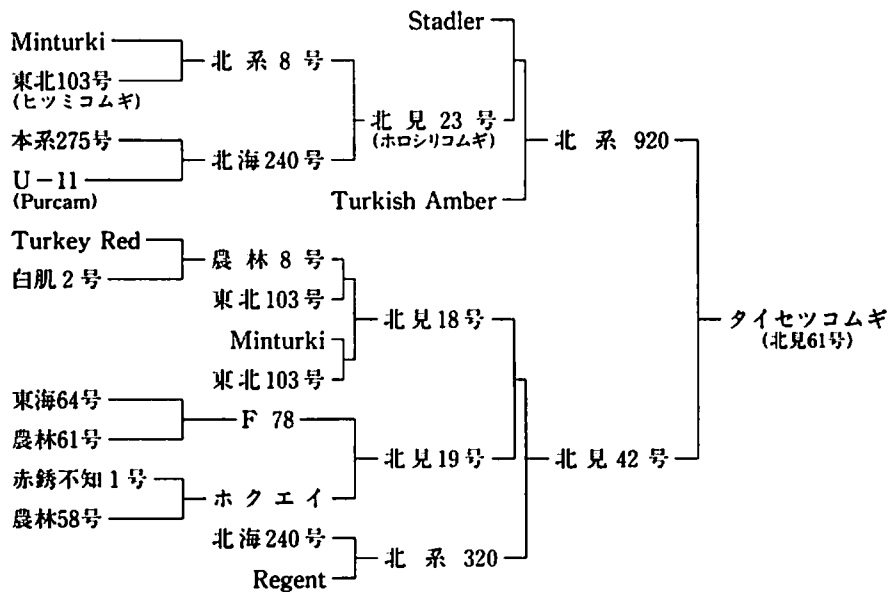
注 1) 試験成績はいずれも標準施肥区。穂数はm<sup>2</sup>当たりで示し、以下同様である。  
 2) センターは北海道立植物遺伝資源センターである。

参照 1) 北海道農務部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 7-10(1989)。  
 2) 佐藤和広 等, 北海道立農試集, 60,31-43(1990)。

### 3. 小麦

(1) タイセツコムギ (系統名 北見61号) 1990年  
 登録番号: (北海道) 小麦北海道秋第11号  
 (農水省) 小麦農林136号  
 (種苗法) 第3107号

来歴 本品種は、1979年に北海道立北見農業試験場において、「北系920」を母、「北見42号」(チホクコムギ)を父として人工交配を行い育成したもので、1983年より「北系1362」、1985年からは「北見61号」の系統名で各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



#### 特性概要

1. 叢生は直立で、穂長はやや短、穂径は中で「チホクコムギ」並で、ワックスの多少は中である。穂型は棒状、穂長は「ホロシリコムギ」と同じ中で芒はなく、ふ色は黄白である。
2. 粒着は密で、粒形は中、粒の大小はやや大、粒色は黄褐色であり、千粒重はやや大で、リットル重は「チホクコムギ」より大きく、原麦粒のみかけの品質は「チホクコムギ」や「ホロシリコムギ」と同等である。
3. 中生種に属するが、「チホクコムギ」に比較して出穂期で1日早く、成熟期は1日程度遅い。

4. 耐倒伏性やや劣り、耐寒性は「ホロシリコムギ」と同等、耐雪性は「ホロシリコムギ」より弱く、「チホクコムギ」より強い。赤さび病抵抗性は極強、赤かび病抵抗性はやや弱、うどんこ病に対しては「ホロシリコムギ」並で、「チホクコムギ」より強い。黒目粒は少、穂発芽性は「チホクコムギ」より優り、「ホロシリコムギ」と同等かやや優る。
5. 収量は「チホクコムギ」よりやや多収である。
6. 製粉歩留、ミリングスコアともに「ホロシリコムギ」や「チホクコムギ」よりやや優れ、粉色は「チホクコムギ」並で、粒質は粉状質、蛋白含量は「チホクコムギ」よりやや劣る。

ギ」並で、ファリノグラム特性は「チホクコムギ」に類似し、製めん適性は「チホクコムギ」よりやや優る。  
栽培適地と奨励態度  
道央・道北の上川支庁管内の雪腐病の危険が比較的少

なく、本品種の特徴が十分に発揮できる地域の製めん適性の劣る「ホロシリコムギ」と、収量・品質が不安定な「チホクコムギ」に置き替えて栽培し、当該地域の秋まき小麦の安定生産と品質の向上を図る。

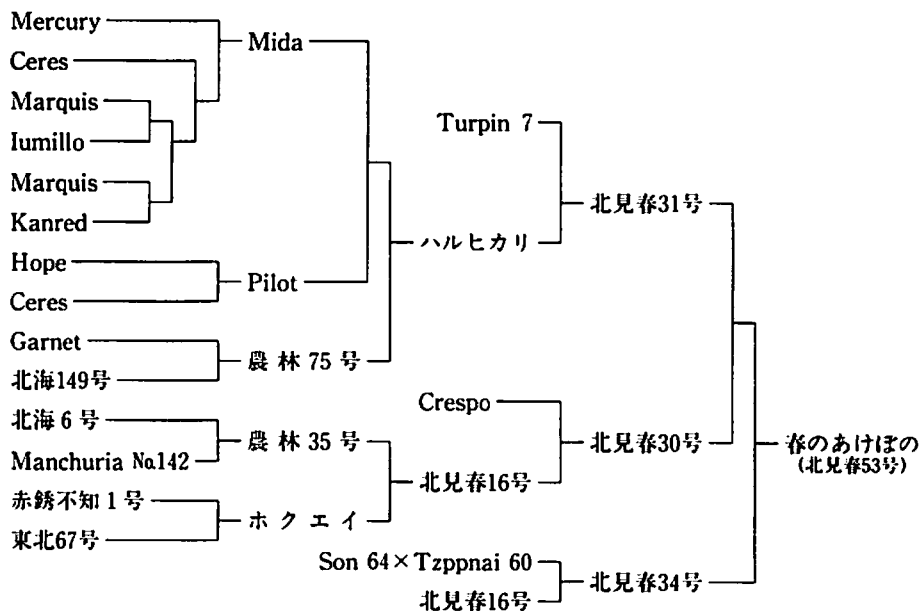
試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当り		子 実		試験年次
				穂長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	子実重 (kg)	同左比 (%)	1立重 (g)	千粒重 (g)	
北見農試	タイセツコムギ	6.17	8.2	96	9.0	762	681	105	788	37.5	1985~1988
	チホクコムギ	6.18	8.1	99	7.6	808	646	100	764	36.7	
	ホロシリコムギ	6.17	8.3	104	8.3	639	638	99	784	44.2	
上川農試	タイセツコムギ	6.21	7.27	83.9	8.9	449	452	109	788	41.4	1985~1988
	チホクコムギ	6.21	7.27	81.3	7.0	436	413	100	767	39.9	
	ホロシリコムギ	6.20	7.27	92.0	8.2	403	389	94	777	46.9	

注) 試験成績はいずれも標準施肥区

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 10-14(1990)。

(2) 春のあけぼの(系統名 北見春53号) 1993年  
登録番号: (北海道) 小麦北海道春第12号  
(農水省) 春播小麦農林139号  
(種苗法) 第4417号

来歴 本品種は、1980年に北海道立北見農業試験場において、「北見春31号×北見春30号」を母とし、「北見春34号」を父として人工交配を行い育成したもので、1986年に「北系575」、1989年より「北見春53号」の系統名で各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 葉色はやや濃く、株は閉じている。葉鞘や稈にはワックスおよび毛は無く、穂長はやや短、穂長は中、穂の細太はやや細く、穂の剛柔はやや剛に属する。
2. 穂型は紡錘状で、粒着はやや密、芒は多くて長く、ふ色は黄色である。
3. 粒形は中、粒大は大、粒色は赤褐色である。千粒重

4. 出穂期は「ハルユタカ」と同程度であるが、成熟期はやや晩に属し、黒目粒の発生は極少、穂発芽性は難である。
5. 耐倒伏性は強、赤かび病抵抗性は中、うどんこ病抵抗性はやや強、赤さび病抵抗性は強である。

- 6. 子実収量は「ハルユタカ」よりやや少なく、やや多である。
- 7. 粒は硬く、粒質は硝子質で、蛋白含有率はやや多であり、製粉歩留は中、ミリングスコアは高く、製粉適性は良好である。
- 8. エキステンソグラムの生地の力の程度は大、伸長度や形状係数は中、伸長抵抗性は「ハルユタカ」より強く、グルテンの質も良好で、製パン適性は「ハルユタカ」より優れる。

栽培適地と奨励態度

道央中部・北部及び道北地域の製粉用（主にパン用）の「ハルユタカ」の一部に替えて栽培し、品質の安定化を図る。栽培上の注意は、ドリル播栽培とし、多肥による増収や高蛋白化の効果は小さいので標準施肥量を遵守し、晩播では減収のみならず千粒重の低下も見られるので、融雪後出来るだけ早く播種し、成熟期を早め収量の安定化をはかる。穂発芽性は難であるが、刈り遅れによる品質の劣化が懸念されるので、製パン適性の低下を防止するため適期収穫を励行し、品質の安定化を図るため集団的栽培による一元集荷に努める。

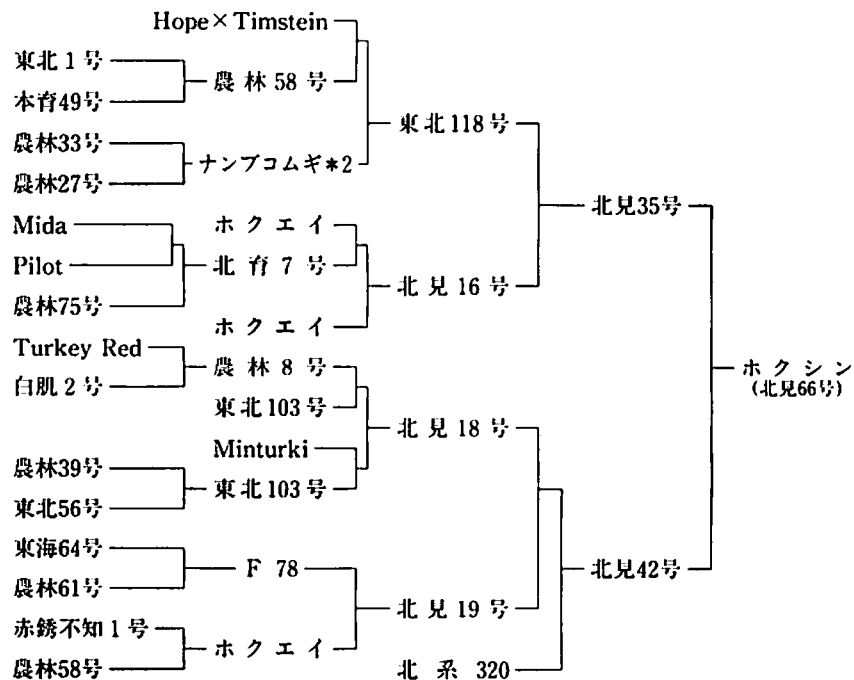
試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当り		子 実		試験年次
				稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本)	子実重 (kg)	同左比 (%)	1立重 (g)	千粒重 (g)	
中 央 農 試	春のあけぼの	6.26	8.10	81	8.0	488	333	103	784	40.4	1989~1993
	ハルユタカ	6.26	8.6	81	8.2	506	323	100	763	38.7	
	ハルヒカリ	6.26	8.6	103	8.2	478	271	84	778	38.1	
上 川 農 試	春のあけぼの	6.27	8.4	86	7.3	434	423	102	794	38.6	1989~1990 1992
	ハルユタカ	6.27	8.3	83	7.4	417	416	100	777	37.3	
	ハルヒカリ	6.27	8.1	107	7.6	409	333	80	786	37.5	

注) 栽培条件：北見農試はドリル標肥，中央と上川農試は条播標肥である。

参照 1) 北海道農政部編，平成5年普及奨励ならびに指導参考事項，10-15(1993)。

(3) ホクシン (系統名 北見66号) 1994年  
登録番号：(北海道)小麦北海道秋第13号  
(農水省)小麦農林142号  
(種苗法)出願中

来歴 本品種は、1979年に北海道立北見農業試験場において、「北見35号」を母とし、「北見42号」(チホクコムギ)を父として人工交配を行い育成したもので、1985年より「北系1538」、1989年から「北見66号」の系統名で各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



**特性概要**

1. 叢生は直立で株は閉じており、稈長はやや短、稈の太さはやや太、稈のワックスは少である。穂型は棒状、粒着は密、芒は無く、ふ色は淡黄色である。
2. 粒形は中、粒の大小はやや大、粒色は黄褐色であり、千粒重はやや大、リットル重は中、原麦粒のみかけの品質は「チホクコムギ」や「ホロシリコムギ」と同等である。
3. 出穂期や成熟期は「チホクコムギ」より5～4日早い。
4. 耐倒伏性は強く、耐寒性は「ホロシリコムギ」や「チホクコムギ」と同等、耐雪性は「ホロシリコムギ」並に強く、赤さび病抵抗性は強、うどんこ病抵抗性は「ホロシリコムギ」並、赤かび病抵抗性は「チホクコムギ」よりやや強い。黒目粒の発生は少、穂発芽性は中で「チ

ホクコムギ」より優る。

5. 子実収量は「チホクコムギ」並である。
6. 製粉歩留やミリングスコアは「チホクコムギ」よりやや優れ、粉色は「チホクコムギ」並、粒質は粉状質で、蛋白含量は「チホクコムギ」並の少である。アミログラムの最高粘度は「チホクコムギ」より高く、製めん適性は「チホクコムギ」並に優れる。

**栽培適地と奨励態度**

全道の「チホクコムギ」の一部に置き替えて普及し、北海道の小麦生産の安定化を図る。栽培上の注意は、耐倒伏性は「チホクコムギ」並であるが十分と言えないので施肥管理に気をつけ、耐穂発芽性は「チホクコムギ」より強いが抵抗性は中程度なので適期収穫に努める。その他の栽培管理は「チホクコムギ」の栽培上の注意(昭和56年)に準ずる。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当り		子 実		同左比 (%)	試験年次
				稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本)	子実重 (kg)	同左比 (%)	1立重 (g)	千粒重 (g)		
北見農試	ホ ク シ ン	6.11	7.26	91	8.3	831	575	101	802	36.3	103	1989～1992
	チホクコムギ	6.16	7.30	95	7.3	790	571	100	776	35.2	100	
	ホロシリコムギ	6.15	7.31	100	8.9	714	578	101	793	42.3	120	
	タクネコムギ	6. 6	7.23	97	7.7	885	530	93	810	37.9	108	
中央農試	ホ ク シ ン	6. 6	7.19	82	7.8	620	487	106	774	40.1	102	1989～1992
	チホクコムギ	6.10	7.23	83	6.9	571	461	100	734	39.2	100	
	ホロシリコムギ	6.10	7.23	93	8.3	480	468	102	748	45.4	116	
上川農試	ホ ク シ ン	6. 9	7.19	85	8.4	545	585	113	793	38.0	104	1989～1992
	チホクコムギ	6.14	7.22	90	7.4	475	515	100	749	36.6	100	
	ホロシリコムギ	6.14	7.23	97	8.8	405	487	95	777	42.8	117	
十勝農試	ホ ク シ ン	6. 6	7.16	91	7.7	722	551	108	786	38.1	106	1989～1992
	チホクコムギ	6.10	7.20	94	6.7	690	512	100	750	36.0	100	
	ホロシリコムギ	6.11	7.24	100	8.3	627	562	110	756	43.5	121	

注) 畦幅30cm, その他は標準栽培法による。

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-4(1994)。

**4. え ん 麦**

(1) ヒダカ(系統名 北海47号) 1990年

登録番号: (北海道) えん麦北海道第6号  
(農水省) えん麦農林7号  
(種苗法) 第3106号

来歴 本品種は、1980年に農林水産省北海道農業試験場にて、「本系776号」×「Flamande Desprez」のF1を母に、「本系434号」×「Sang」(F1)を父として交配し、

以後系統育種法により育成したもので、1985年より「札系16号」、1987年から「北海47号」の系統名で各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 叢生は直立、株の開閉は「オホーツク」より開き中で、葉色は濃緑である。
2. 稈長は中、茎は太く、稈のワックスは極少なく、穂数は少、穂長は中、小穂数は多である。

- 穂型は散穂で粒着は密、芒は極少、ふ色は淡黄色、粒大は中、千粒重は中で、リットル重は「オホーツク」より軽い。
- 出穂期は「オホーツク」より4～5日早く、成熟期も2～4日早い中生種である。
- 耐倒伏性は強、冠さび病抵抗性は「オホーツク」並の弱である。
- 子実収量は「オホーツク」や「前進」より多収である。

- 子実のふ率は中で、家畜のし好性は「オホーツク」や「前進」と差がない。

**栽培適地と奨励態度**

全道一円の「オホーツク」や「前進」の大部分と置き替えて栽培し、えん麦の生産力の向上と安定化を図る。栽培上の注意は、冠さび病は「オホーツク」や「前進」並で強くないので、栽培に当たっては留意し、耐倒伏性が強いいため、「前進」よりやや多めの施肥で多収が期待できる。

試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期の		倒伏 程度	10a 当り			稈率 (%)	試験年次
				穂長 (cm)	穂数 (本)		稈重 (kg)	子実重 (kg)	同左比 (%)		
北海道農試	ヒダカ	7.3	8.8	98	363	無	571	594	114	28.7	1987～1989
	オホーツク	7.8	8.13	112	360	少	603	521	100	29.0	
	前進	7.6	8.10	112	404	中	577	521	100	33.9	

注 1) 畦幅30cm, 播種量: 340粒/m<sup>2</sup>, その他は標準栽培法による。  
2) 穂数はm<sup>2</sup>当りの値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 15-17(1990)。

(2) **アキワセ** (系統名 北海44号) 1990年  
登録番号: (北海道) えん麦北海道第7号  
(農水省) えん麦農林6号  
(種苗法) 第2334号

**来歴** 本品種は、1978年に農林水産省北海道農業試験場において、「本系712号」を母とし、「Paramo」を父として人工交配を行い育成したもので、1983年より「本系989号」、1985年からは「北海44号」の系統名で各種の試験を行い、1989年に暖地及び温暖地の晩夏播用として農林登録され、1990年に北海道の優良品種となった。

**特性概要**

- 叢生は直立型で株は閉じており、葉は濃緑色、葉身は短く、葉幅は狭く、葉身の下垂度は小さい。
- 稈長と穂長は短、穂数は中、茎は「オホーツク」より細く、小穂数は少、穂形は散穂である。

- 粒着は中で、芒は極少、ふ色は淡黄色、粒形は中、粒の大小は大である。
- 出穂期は「ウェスト」並かやや遅く、成熟期は10日早い極早生種である。
- 耐倒伏性で、冠さび病に弱く、乾物収量は6月一斉刈り取りや極早生品種の出穂期刈り取りでは多収である。
- 早生で穂数が少なく、草姿が立型のため牧草との同伴適性が優れる。

**栽培適地と奨励態度**

全道一円、オーチャードなどの同伴栽培に利用し、飼料の生産性の向上を図る。栽培上の注意は、牧草との同伴栽培では、えん麦の播種量増やえん麦の生育期間の延長は牧草の収量減や翌春の牧草を抑制するので注意する。

試験場名	品種名	一 斉 刈 り					出 穂 刈 り				試験年次
		刈取日 (月日)	生 育 期	乾収量 (kg)	収量比 (%)		刈取日 (月日)	乾収量 (kg)	収量比 (%)		
					ウエスト	前 進			前 進	ウエスト	
北海道農試	アキワセ	6.26	出穂期	337	114	122	6.26	333	64	117	1985～1989
	ウエスト	6.26	出穂期	296	100	107	6.26	284	55	100	
	前進	6.26	7葉期	277	94	100	7.8	517	100	182	
	アーリークイーン	6.26	出穂期	276	93	100	6.26	256	50	90	
	アキユタカ	6.26	止葉期	333	113	120	7.2	457	88	161	

注) 収量は10a 当りで示す。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 45-47(1990)。



## 5. とうもろこし

### <飼料用>

#### (1) ドリーナ (系統名 PH2301) 1987年

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輪第26号

来歴 本品種は、アメリカのバイオニア社(独と共同)が育成したもので、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1984年以降「PH2301」の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。三系交配一代雑種で構成系統名は不明である。

#### 特性概要

1. 絹糸抽出期は「C535」と同程度かやや遅く、収穫熟度は「C535」並、総体の乾物率は「C535」並かやや高いが、「ワセホマレ」よりはやや低い。

2. 初期生育は「C535」並かやや優り、耐倒伏性は「C535」とほぼ同程度である。
3. 稈長は「C535」並かやや高く、着雌穂高はやや高い。
4. すず紋病抵抗性は「C535」並に弱く、こま葉枯病抵抗性は「C535」よりやや弱い。
5. TDN収量は「C535」より高いが、雌穂収量が低いため乾物中TDNは1%程度低い。

#### 栽培適地と奨励態度

十勝、網走、道北(山麓、沿海を除く)、道央北部、根釧内陸地帯を適地とし、栽培上の注意は、早生品種一般に準じて栽培できるが、すず紋病の発生軽減のため適正な肥培管理を行う。また、「ワセホマレ」に比べて発芽が遅く、初期生育が劣るので、肥料やけや初期雑草の対策を十分に行う。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ドリーナ	1.9	8.5	16.8	黄中	1,238	886	105	26.4	71.5	1984~1986
	C535	2.0	8.5	17.9	黄中	1,159	842	100	25.9	72.7	
	ワセホマレ	1.3	8.4	38.0	黄中~後	1,040	761	90	28.6	73.2	
北見農試	ドリーナ	2.2	8.6	0	黄中~後	1,386	984	102	28.0	71.0	1984~1986
	C535	2.7	8.6	0.7	黄中~後	1,350	966	100	26.2	71.5	
	ワセホマレ	1.2	8.5	0.7	黄後~完	1,336	963	100	29.0	72.0	
天北農試	ドリーナ	(3.4)	8.16	30.3	糊後	1,105	775	105	25.0	69.4	1984~1986
	C535	(3.7)	8.16	24.6	糊後	1,041	741	100	25.0	70.5	
	ワセホマレ	(3.0)	8.15	17.8	糊後~黄初	1,001	720	97	26.9	71.5	
根釧農試	ドリーナ	3.0	8.19	49.3	糊後~黄初	1,206	845	104	25.8	69.8	1984~1986
	C535	2.8	8.17	51.0	黄初	1,140	813	100	25.3	71.1	
	ワセホマレ	3.0	8.17	37.0	黄初	996	704	87	24.7	70.5	

注) 初期生育は1:良~5:否で示し、以下同様である。( )は1985年の成績。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励並びに指導参考事項, 56-58(1987)。

#### (2) JX47 (系統名 SH3097) 1987年

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輪第27号

来歴 本品種は、アメリカのJacques Seed社が育成したもので、雪印種苗株式会社が導入し、1984年から「SH3097」の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。テント種×テント種の単交配一代雑種で構成系統は不明である。

#### 特性の概要

1. 中生の晩に属する。絹糸抽出期は「バッファロー」より1~2日遅い。発芽や初期生育は「バッファロー」並かやや劣り、稈長や着雌穂高は「バッファロー」よりやや低く、耐倒伏性は同程度である。
2. 乾物収量やTDN収量はともに「ホクユウ」より優り、「バッファロー」と同等かやや優る。
3. 乾物中のTDNは「ホクユウ」や「バッファロー」より高く、総体の乾物率は「ホクユウ」や「バッファロー」とほぼ同程度である。

4. すず紋病抵抗性は「ホクユウ」や「バッファロー」並、ごま葉枯病抵抗性は「ホクユウ」や「バッファロー」よりやや強い。

栽培適地と奨励態度  
道央及び道南地域に適応し、栽培上の注意は一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
中央農試	J X 4 7	3.1	8.6	33.4	黄中後	1,637	1,195	104	32.3	72.9	1984~1986
	ホクユウ	1.7	8.5	47.9	黄後	1,472	1,035	91	29.7	70.4	
	バッファロー	2.5	8.5	33.8	黄中後	1,575	1,137	100	31.5	72.2	
滝川畜試	J X 4 7	2.2	8.8	5.9	黄中	1,830	1,344	108	30.9	73.5	1986
	ホクユウ	2.0	8.10	8.8	黄中	1,844	1,292	104	29.9	70.1	
	バッファロー	1.5	8.8	14.8	黄中	1,716	1,246	100	30.2	72.7	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 58-60(1987)。

(3) コスタル (原名 コスタル) 1987年  
登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第28号

「P3732」よりやや劣る。  
2. 耐倒伏性は「P3715」並で「P3732」よりやや劣り、稈長及び着雌穂高は両品種よりも高い。  
3. 乾物・TDN収量とも「P3715」や「P3732」より若干優り、乾物中のTDNは両品種よりやや低い。総体の乾物率は両品種よりやや高い。  
4. すず紋病抵抗性とごま葉枯病抵抗性は「P3715」や「P3732」並である。

来歴 本品種は、アメリカのアスグロシード社が育成し、北海製缶(株)が導入したもので、1984年以降原名のまま各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。三系交配の一代雑種で構成系統は不明である。

特性概要

1. 晩生の早に属する。絹糸抽出期は「P3715」並で「P3732」よりやや遅い。初期生育は「P3715」より優り、

栽培適地と奨励態度

道央(北部を除く)及び道南地域を適地とし、栽培上の注意は、一般の栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	コスタル	2.3	8.12	0.2	黄後	1,758	1,262	103	30.7	71.8	1984~1986
	P 3 7 1 5	2.3	8.12	0.6	黄後	1,578	1,144	94	28.4	72.5	
	P 3 7 3 2	2.0	8.10	0.2	黄後	1,678	1,221	100	30.5	72.8	
中央農試	コスタル	3.1	8.9	33.3	黄中	1,753	1,263	102	28.8	72.0	1984~1986
	P 3 7 1 5	3.3	8.10	33.4	黄後	1,617	1,167	94	27.5	72.2	
	P 3 7 3 2	2.7	8.8	33.1	黄後	1,708	1,237	100	27.5	72.5	
滝川畜試	コスタル	2.5	8.12	8.1	黄中	1,927	1,364	101	27.2	70.8	1984~1986
	P 3 7 1 5	2.8	8.12	14.8	黄初	1,826	1,317	97	26.5	72.2	
	P 3 7 3 2	1.8	8.11	0.0	黄中	1,884	1,356	100	28.6	72.0	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 60-61(1987)。

(4) キタユタカ (系統名 北交42号) 1988年  
登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 北海道交第19号: (農水省) とうもろこし農林交29号: (種苗法) 第2040号

来歴 本品種は、農林水産省北海道農業試験場が「W182EHt×Pa70-5」を種子親とし、「CM91×914-2」を花粉親として、1980年に育成したデント種×デント種の複交配一代雑種で、その後各種の試験を行い、1988年に

優良品種となった。

特性概要

1. 発芽は良好で、初期生育は「ホクユウ」よりやや劣るが「バッファロー」より優る。
2. 中生種に属する。絹糸抽出期は「ホクユウ」や「バッファロー」より1日早く、収穫時の熟度は「ホクユウ」並かやや遅く、「バッファロー」と同程度か僅かに早い。総体の乾物率は両品種より低い。
3. 稈長は「ホクユウ」や「バッファロー」より低く、着雌穂高は「ホクユウ」並かやや高く、「バッファロー」よりやや低い。

4. 耐倒伏性は「ホクユウ」より明らかに優るが、「バッファロー」よりやや劣る。
5. 乾物・TDN収量とも「ホクユウ」より優れ、「バッファロー」並かやや優れる。乾物中TDNは「ホクユウ」より高く、「バッファロー」並である。
6. すず紋病抵抗性は「バッファロー」並で、ごま葉枯病抵抗性は「ホクユウ」や「バッファロー」より強い。

栽培適地と奨励態度

道央及び道南地域に適する。栽培上の注意は、一般の栽培に準ずるが、すず紋病の多発が予想される地帯では発生に留意する。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	キタユタカ	1.9	8.9	20.2	黄初	1,518	1,085	101	29.8	71.5	1981~1987
	ホクユウ	1.2	8.9	34.7	黄後	1,541	1,075	100	32.6	69.8	
	バッファロー	2.2	8.10	16.2	黄初	1,470	1,058	98	32.1	72.0	
中央農試	キタユタカ	1.7	8.5	39.6	黄後	1,626	1,148	112	26.5	70.7	1985~1987
	ホクユウ	1.9	8.7	55.5	黄後	1,476	1,027	100	27.7	69.6	
	バッファロー	2.3	8.7	36.4	黄中	1,602	1,140	111	29.2	71.1	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 41-43(1988)。

(5) 3790 (系統名 PH3305) 1988年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輪第29号

来歴 本品種は、アメリカのバイオニア種子会社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入したもので、1985年から道内で各種の試験を行い、1988年に優良品種になった。デント種×デント種の一代雑種で構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽及び初期生育は「バッファロー」並で、稈長もほぼ同等で、着雌穂高は「バッファロー」より高い。

2. 中生の中に属する。絹糸抽出期は「バッファロー」より2日程度遅く、収穫時の熟度と総体の乾物率は「バッファロー」並である。
3. 耐倒伏性は「バッファロー」よりやや強く、すず紋病抵抗性は「バッファロー」並かやや強く、ごま葉枯病抵抗性は同等である。
4. 乾物・TDN収量とも「バッファロー」より優り、乾物中のTDNは同等である。

栽培適地と奨励態度

道央及び道南地域に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	3790	1.8	8.9	3.7	黄後	1,650	1,190	104	29.4	72.1	1985~1987
	バッファロー	1.9	8.8	6.0	黄後	1,605	1,147	100	30.4	71.4	
	ホクユウ	1.7	8.8	32.0	黄後	1,492	1,046	91	29.2	70.1	
中央農試	3790	2.3	8.7	34.4	黄後	1,820	1,309	115	29.0	72.3	1985~1987
	バッファロー	2.5	8.7	36.4	黄中	1,602	1,140	100	29.2	71.1	
	ホクユウ	1.9	8.7	55.5	黄中~後	1,476	1,026	90	27.8	69.9	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 61-63(1988)。

(6) O's Gold 2570 (原名 O's Gold2570) 1988年  
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第  
30号

来歴 本品種はアメリカのアスグロシード社が育成し、北海道製缶(株)が導入し1985年から各種の試験を行い、1988年に優良品種となったものである。三系交配一代雑種で、その構成系統名は不明である。

特性概要

1. 初期生育は「P3390」や「P3715」よりやや劣り、  
稈長及び着雌穂高は両品種よりも高い。

2. 晩生の晩に属する。絹糸抽出期は「P3390」と同程度で、収穫時の熟度は「P3390」と同程度かやや遅く、  
総体の乾物率もやや低い。  
3. 耐倒伏性は「P3390」並で「P3715」より劣り、  
すす紋病抵抗性とこま葉枯病抵抗性は「P3715」と同様に強い。  
4. 乾物・TDN収量は「P3390」や「P3715」より高いが、  
乾物中TDNは両品種より低い。

栽培適地と奨励態度

道央(北部を除く)及び道南地域の気象条件の良い地帯に適する。栽培上の注意は、一般の栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	O's Gold 2570	2.3	8.19	31.7	黄初	2,064	1,355	105	24.9	68.2	1985~1987
	P 3 3 9 0	2.3	8.20	21.0	黄初	1,829	1,290	100	24.3	70.5	
	P 3 7 1 5	2.1	8.14	11.4	黄後	1,655	1,191	92	26.6	72.0	
中央農試	O's Gold 2570	3.2	8.17	39.6	黄初~中	2,093	1,449	101	24.9	41.1	1985~1987
	P 3 3 9 0	3.0	8.17	33.0	黄初~中	2,032	1,432	100	26.9	46.0	
	P 3 7 1 5	3.0	8.12	34.8	黄中~後	1,619	1,208	84	26.4	49.3	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 65-66(1988)。

(7) ロイヤルデント105T (系統名 T1200) 1988年  
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第  
31号

来歴 本品種は、アメリカのトロージャン社が育成し、  
タキイ種苗(株)が導入したもので、1985年から各種の  
試験を行い、1988年に優良品種となった。単交配の一代  
雑種で両親の系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「P3732」よりやや早く、初期生育もやや優  
り、稈長は高く、着雌穂高は「P3732」並である。

2. 晩生の中に属する。絹糸抽出期は「P3732」より3  
日程度遅く、収穫時の熟度は「P3732」並かやや遅く、  
総体の乾物率も同等かやや低い。  
3. 耐倒伏性は「P3732」より弱く、すす紋病抵抗性も  
弱く、こま葉枯病抵抗性は「P3732」より強い。  
4. 乾物・TDN収量とも「P3732」よりやや高く、乾  
物中TDNはやや低い。

栽培適地と奨励態度

道央(北部を除く)及び道南地域の気象条件の良い地帯に適する。栽培上の注意は、一般の栽培基準に準ずるが、  
すす紋病の発生軽減のため適正な肥培管理を行う。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	ロイヤルデント105T	1.8	8.15	20.3	黄中	1,986	1,375	118	27.2	69.2	1985~1987
	P 3 7 3 2	2.1	8.12	4.0	黄後	1,615	1,164	100	27.5	72.0	
	P 3 7 1 5	2.1	8.14	11.4	黄後	1,655	1,191	102	26.6	72.0	
中央農試	ロイヤルデント105T	2.7	8.14	36.0	黄後	2,028	1,425	115	26.8	70.2	1985~1987
	P 3 7 3 2	2.7	8.11	34.9	黄中	1,729	1,240	100	26.1	71.7	
	P 3 7 1 5	3.0	8.12	34.8	黄中~後	1,691	1,208	97	26.4	71.4	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 63-64(1988)。

(8) **ロイヤルデントリンダ** (系統名 TH82082) 1988年  
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第  
32号

**来歴** 本品種は、アメリカのトップファーム社が育成したもので、タキイ種苗(株)が導入し1983年から各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。単交配の一代雑種で両親の系統名は不明である。

**特性概要**

1. 発芽は「C535」より早い、初期生育は「C535」並かやや劣り、稈長・着雌穂高とも「C535」より高い。
2. 中生の早に属する。絹糸抽出期は「C535」より3日

程度遅く、収穫時の熟度は「C535」より遅く、総体の乾物率も「C535」より低い。

3. 耐倒伏性は強く、すす紋病抵抗性は「C535」よりやや弱く、こま葉枯病抵抗性はやや強い。
4. 乾物・TDN収量とも「C535」より高いが、莖葉が比較的多いので、乾物中のTDNは「C535」より低い。

**栽培適地と奨励態度**

十勝中部及び道央北部地域に適する。栽培上の注意は、低温時には初期生育が劣るので、肥料やけや初期雑草の対策に留意し生育の促進を図り、すす紋病の発生軽減のため適正な肥培管理を行う。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (%)	同左比 (%)			
十勝農試	ロイヤルデントリンダ	2.5	8.12	23.0	樹後~黄初	1,119	789	107	23.0	70.3	1983 1985~1987
	C 5 3 5	2.3	8. 8	34.0	黄 初	1,023	736	100	24.0	71.9	
	ワセホマレ	1.2	8. 6	44.1	黄 中	966	698	95	27.8	72.3	
上川農試	ロイヤルデントリンダ	2.3	8. 1	0	黄 後	1,475	1,065	120	30.8	72.2	1985~1987
	C 5 3 5	2.7	7.30	9.5	黄 後	1,234	890	100	28.7	72.1	
	ワセホマレ	2.9	7.29	2.1	黄後~完	1,068	769	86	29.3	72.0	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 57-59(1988)。

(9) **バリエント** (原名 OS104) 1988年  
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交  
第33号

**来歴** 本品種はカナダのオセコ社が育成し、三井東圧肥料株式会社が導入し1984年から各種の試験を行い、1988年に優良品種となったものである。変形単交配一代雑種で、その構成系統名は不明である。

**特性概要**

1. 発芽・初期生育は「バッファロー」並で、「ホクユウ」よりやや劣り、稈長は「バッファロー」に比べ高く、着雌穂高は同程度である。
2. 中生の中に属する。絹糸抽出期は「バッファロー」

より1~2日早く、収穫時の熟度は「バッファロー」より進が、総体の乾物率同程度である。

3. 耐倒伏性は「バッファロー」と同程度で、すす紋病抵抗性とこま葉枯病抵抗性は「バッファロー」よりやや強い。
4. 乾物・TDN収量とも「バッファロー」よりやや高く、乾物中TDNは同程度である。

**栽培適地と奨励態度**

十勝中部・網走内陸部及び道央北部地域に適する。栽培上の注意は、一般の栽培基準に準ずるが、初期生育がやや劣るので、肥料やけや初期雑草の対策に留意する。また、すす紋病の発生軽減のため適正な肥培管理を行う。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (%)	同左比 (%)			
十勝農試	OS104	2.0	8. 9	38.4	黄初~中	1,326	937	101	25.3	46.6	1984~1987
	バッファロー	2.0	8.10	47.2	樹後~黄初	1,307	926	100	25.2	47.5	
	ホクユウ	1.9	8.11	87.2	黄初~中	1,179	815	88	25.1	41.0	
北見農試	OS104	3.2	8.16	2.0	黄初~後	1,609	1,124	110	26.3	43.5	1985~1987
	バッファロー	3.4	8.18	1.7	黄 初	1,453	1,022	100	25.9	45.3	
	ホクユウ	2.9	8.18	24.3	黄 中	1,550	1,053	103	25.8	36.5	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 61-62(1988)。

(10) **ヘイゲンミノリ** (系統名 道交S10号) 1989年  
 登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)北海道  
 交第20号(農水省)とうもろこし農林  
 交30号(種苗法)第2338号

**来歴** 本品種は、1979年に北海道立十勝農業試験場において、「66C5-4×To15」を母とし、「CM91×CM174」を父として育成したフロント種×テント種の複交配一代雑種である。1985年より「十交S36」、1986年から「道交S10号」の系統名で各種の試験を行い、1989年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 発芽は「ダイヘイゲン」並かやや早く、低温発芽性も「ダイヘイゲン」並に優れ、初期生育は「ダイヘイゲン」よりやや劣る。
2. 稈長は「C535」及び「ダイヘイゲン」よりやや高く、着雌穂高は「ダイヘイゲン」並で、耐倒伏性は「C535」より明らかに優り、「ダイヘイゲン」に比べても優る。
3. 早生の晩に属する。絹糸抽出期は「C535」より2日

程度遅く、「ダイヘイゲン」より2～3日遅い。収穫時の熟度は「C535」並かやや遅く、総体の乾物率は「C535」と同程度かやや高い。

4. 乾物・TDN収量は「C535」、「ダイヘイゲン」を上回る。
5. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く「C535」並、ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く「C535」並かやや弱い。
6. 飼料成分は「C535」や「ダイヘイゲン」並、乾物中TDNは「ダイヘイゲン」よりやや低くて「C535」並である。

**栽培適地と奨励態度**

十勝中部、網走内陸部及び道央北部に適する。栽培上の注意は、耐倒伏性に優れ、密植による増収効果も見られるが、過度の密植はサイレージ用原料としての品質低下を招き必ずしも栄容収量の増加につながらないので、栽植本数は6,500本/10a程度とし、また、すず紋病抵抗性は比較的弱いので、適期播種と適正な肥培管理を行い健全な生育を図る。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ヘイゲンミノリ	1.5	8.9	13.1	黄初~中	1,066	757	108	25.7	71.0	1981~1988
	C 5 3 5	2.5	8.7	32.7	黄初~中	995	702	100	24.9	70.2	
	ダイヘイゲン	1.2	8.6	22.9	黄中	963	694	99	26.4	71.9	
北見農試	ヘイゲンミノリ	2.7	8.13	0.8	黄中	1,288	896	98	24.7	69.5	1985~1988
	C 5 3 5	3.6	8.12	4.9	黄初~中	1,319	911	100	24.0	68.9	
	ダイヘイゲン	1.8	8.11	4.6	黄中~後	1,328	942	103	25.9	70.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 29-31(1989)。

(11) **キタアサヒ** (系統名 北交43号) 1989年  
 登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)北海道  
 交第20号(農水省)とうもろこし農林  
 交31号(種苗法)第2875号

**来歴** 本品種は、農林水産省北海道農業試験場において育成したテント種×フロント種の複交配一代雑種で、1982年より「月交537」、1987年から「北交43号」の系統名で各種の試験を実施し、1990年に優良品種となった。なお、組合せは(914-2×CM174)×(Ho3×Ho4)である。

**特性概要**

1. 発芽は良好で、初期生育は「C535」並かやや優り、稈長と着雌穂高は「C535」より高く、「バッファロー」

より低い。

2. 中生の早に属する。絹糸抽出期は「C535」より3日程度遅く、「バッファロー」より2日程度早い。収穫時の熟度は「C535」より遅く、「バッファロー」より早い。総体の乾物率は「C535」並かやや低い。
3. 耐倒伏性は「C535」より明らかに優り、「バッファロー」と同程度である。すず紋病抵抗性とごま葉枯病抵抗性は「C535」と同程度である。
4. 乾総重及びTDN収量は「C535」より多く、乾物中TDNは「C535」よりやや低く、「バッファロー」よりやや高い。

**栽培適地と奨励態度**

十勝中部、網走内陸部の気象条件の良好な地帯及び道央北部に適する。栽培上の注意は、耐倒伏性が強く、密

植効果も認められるが、過度の密植はサイレーシ原料品質の低下を招くので避け、また、すす紋病抵抗性は比較

的弱いので、適正な肥培管理を行って健全な生育をはかる。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	稈長 (cm)	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	キタアサヒ	8.5	5.8	黄後	205	1,460	1,061	99	32.9	72.7	1982~1989
	C 5 3 5	8.3	11.0	黄後	185	1,314	959	96	30.6	73.0	
	バッファロー	8.8	6.3	黄中後	207	1,481	1,070	100	31.9	72.3	
十勝農試	キタアサヒ	8.9	12.9	黄初中	246	1,196	857	100	27.8	71.3	1982~1989
	C 5 3 5	8.6	22.7	黄中	223	1,081	778	91	28.4	71.9	
	バッファロー	8.12	13.4	黄初	255	1,218	856	100	26.7	70.2	
北見農試	キタアサヒ	8.16	0.8	黄中	216	1,289	906	99	26.8	70.0	1982~1989
	C 5 3 5	8.12	4.0	黄中	207	1,285	902	98	25.6	69.9	
	バッファロー	8.18	1.6	糊後	226	1,336	916	100	26.0	68.0	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 42-45(1990).  
2) 三浦康男, 農業技術, 46, 90(1991).

(1) ANJOU 09 (原名 ANJOU 09) 1989年  
登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輪第  
34号

来歴 本品種は、フランスのリマグラン社が育成し、  
タキイ種苗(株)が導入し1986年から各種の試験を行い、  
1989年に優良品種となった。三系交配一代雑種で構成系  
統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「ヒノデワセ」並かやや遅く「ワセミノリ」  
並で、初期生育は「ヒノデワセ」より劣る。
2. 稈長はほぼ「ヒノデワセ」並、着穂高はやや低い。
3. 早生の中に属する。絹糸抽出期は「ヒノデワセ」に

比べ1~2日遅い、収穫時の熟度は「ワセミノリ」並  
で「ヒノデワセ」よりやや遅れ、総体の乾物率は「ヒ  
ノデワセ」並かやや高い。

4. 耐倒伏性は「ヒノデワセ」並かやや弱く、すす紋病  
抵抗性は「ヒノデワセ」よりやや弱く、こま葉枯病抵  
抗性は「ヒノデワセ」並かやや弱い。

5. TDN収量は「ヒノデワセ」よりやや高く「ワセミ  
ノリ」並、乾物中のTDNは両品種と同程度である。

栽培適地と奨励態度

根釧内陸、道北及び十勝山麓・沿海地帯に適する。栽  
培上の注意は、発芽がやや遅く、初期生育が劣るので初  
期雑草の対策に留意し、また、すす紋病発生軽減のため  
適正な肥培管理を行い、健全な生育を図る。

試験場名	品種名	初期 生育 (1-5)	絹糸 抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
根釧農試	ANJOU 09	3.5	8.25	29.3	糊中~後	871	608	97	22.4	69.8	1986~1988
	ヒノデワセ	2.5	8.23	7.7	糊後	889	626	100	21.8	69.7	
	ワセミノリ	3.6	8.24	55.3	糊後	881	618	99	22.4	70.2	
天北農試	ANJOU 09	3.0	8.22	4.9	糊中~後	934	658	104	23.1	70.3	1986~1988
	ヒノデワセ	2.2	8.20	7.0	糊後	882	630	100	22.3	71.4	
	ワセミノリ	2.9	8.21	5.2	糊中	900	641	102	22.1	71.1	
十勝農試	ANJOU 09	2.2	8.3	24.3	黄初~中	1,078	775	111	26.8	71.8	1986~1988
	ヒノデワセ	1.1	8.2	28.0	黄中	969	696	100	27.0	71.8	
	ワセミノリ	2.2	8.3	32.8	黄初~中	1,040	744	107	25.7	71.4	

参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 34-35(1989).

(13) **ロイヤルデントコメット80** (系統名 LG2080) 1989年  
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第  
35号

**来歴** 本品種は、フランスのリマグラン社が育成し、タキイ種苗(株)が導入し1986年から道内各地で各種の試験を行い、1989年に優良品種となったものである。三系交配で構成系統名は不明である。

**特性概要**

1. 発芽はほぼ「ヒノデワセ」並、初期生育は「ワセミノリ」よりやや優り、「ヒノデワセ」に比べるとやや劣る。
2. 絹糸抽出期は「ワセミノリ」と同程度の早生の早、収穫時熟度は「ヒノデワセ」並かやや進み、「ワセミノリ」よりやや進む。総体の乾物率は両品種より高い。

3. 稈長は「ヒノデワセ」や「ワセミノリ」よりやや長く、着雌穂高は両品種とほぼ同程度である。
4. すず紋病抵抗性は「ヒノデワセ」並、ごま葉枯病抵抗性は両品種より強い。
5. TDN収量は「ヒノデワセ」より多く、「ワセミノリ」に比べると同程度かやや多い。乾物中TDNは両品種とほぼ同程度である。

**栽培適地と奨励態度**

根釧、道北及び十勝・沿海地帯に適する。栽培上の注意は、初期生育がやや劣るので、初期雑草の対策に留意し、また、すず紋病発生軽減のため適正な肥培管理を行い、健全な生育を図る。

試験場名	系統名 および 品種名	初期 生育 (1-5)	絹糸 抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
根釧農試	ロイヤルデントコメット80	2.8	8.24	12.3	糊後~黄初	944	657	105	24.2	69.5	1986~1988
	ヒノデワセ	2.5	8.23	7.7	糊後	899	626	100	21.8	69.7	
	ワセミノリ	3.6	8.24	55.3	糊後	881	618	99	22.4	70.2	
天北農試	ロイヤルデントコメット80	2.4	8.21	4.2	糊後~黄初	928	660	105	25.0	70.9	1986~1988
	ヒノデワセ	2.2	8.20	7.0	糊後	882	630	100	22.3	71.4	
	ワセミノリ	2.9	8.21	5.2	糊中	900	641	102	22.1	71.1	
十勝農試	ロイヤルデントコメット80	2.2	8.3	31.2	黄中	1,102	790	114	29.2	71.4	1986~1988
	ヒノデワセ	1.1	8.2	28.0	黄中	969	696	100	27.0	71.8	
	ワセミノリ	2.2	8.3	32.8	黄初~中	1,040	744	107	25.7	71.4	

参照 1) 北海道農政部編、平成元年普及奨励ならびに指導参考事項、32-33(1989)。

(14) **R X 420** (系統名 H402238) 1989年  
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第  
36号

**来歴** 本品種は、アメリカのアスグロシード社が育成し、北海製缶(株)が導入したもので、1987年から各種の試験を行い、1989年に優良品種となった。デント種×デント種の複交配一代雑種で構成系統名は不明である。

**特性概要**

1. 発芽及び初期生育は「バッファロー」よりやや劣り、稈長は「バッファロー」より高く、「P3732」より低く、着雌穂高は両品種より高い。

2. 中生の晩に属する。絹糸抽出期は「バッファロー」より2~3日遅く、「P3732」より1~2日早く、総体の乾物率は「バッファロー」よりやや低い。
3. 耐倒伏性は「バッファロー」より明らかに強く、「P3732」並である。すず紋病抵抗性は「バッファロー」並かやや強く、ごま葉枯病抵抗性は「バッファロー」より弱い。
4. 乾物・TDN収量とも「バッファロー」より優り、乾物中のTDNはやや低い。

**栽培適地と奨励態度**

道央地域に適する。栽培上の注意は、一般の栽培基準に準ずる。



試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	R X 4 2 0	1.9	8.11	4.0	黄後	1,565	1,124	107	28.2	71.8	1986~1988
	バッファロー	1.6	8.8	6.3	黄後	1,466	1,054	100	29.2	71.9	
	P 3 7 3 2	1.7	8.13	4.2	黄後	1,514	1,090	103	27.2	72.0	
中央農試	R X 4 2 0	2.7	8.12	0.6	黄初~中	1,909	1,375	115	30.0	72.0	1987~1988
	バッファロー	2.2	8.8	3.8	黄初	1,659	1,193	100	30.4	71.9	
	P 3 7 3 2	2.6	8.12	2.7	黄中	1,841	1,321	111	29.1	71.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 36-37(1989)。

(15) リビア (系統名 LIVIA) 1990年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輪第37号

来歴 本品種はフランスのパイオニア社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入したもので、1987年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。テント種×フリント種の三系交配一代雑種で、構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「C535」並で「ダイヘイゲン」よりやや遅く、初期生育は「C535」並である。
2. 絹糸抽出期は「C535」より1日程度早く、ほぼ「グ

- イヘイゲン」並、収穫時の熟度は「C535」よりやや進み、「ダイヘイゲン」と同程度である。総体の乾物率は「C535」並やや高く、「ダイヘイゲン」よりやや低い。
3. 稈長は「C535」と同程度であるが、着雌穂高は高い。
  4. 耐倒伏性は「C535」や「ダイヘイゲン」と同程度かやや強く、すす紋病抵抗性は「C535」並かやや弱く、こま葉枯病抵抗性は弱い。
  5. 乾物・TDN収量とも「C535」並かやや多く、乾物中のTDN割合は「C535」より低い。

栽培適地と奨励態度

道北の気象条件の良い所及び十勝中部、網走内陸部に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	リビア	2.5	8.3	21.5	黄初~中	1,215	851	113	25.5	69.9	1987~1989
	C 5 3 5	1.9	8.4	32.3	黄初	1,068	756	100	25.3	70.7	
	ダイヘイゲン	1.0	8.3	30.0	黄初~中	1,072	764	101	27.9	71.3	
北見農試	リビア	3.0	8.10	1.4	黄中	1,286	891	102	25.0	69.4	1987~1989
	C 5 3 5	2.9	8.12	3.6	黄初~中	1,270	876	100	23.9	68.9	
	ダイヘイゲン	1.3	8.10	5.1	黄中	1,151	807	92	24.9	69.7	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 54-56(1990)。

(16) 3540 (系統名 VALERIA) 1990年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輪第38号

来歴 本品種は、アメリカのパイオニア社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1987年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。テント種×テント種の単交配一代雑種で構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「P3732」よりやや早く、初期生育は優り、稈長や着雌穂高は「P3732」より高い。
2. 晩生の中に属する。絹糸抽出期は「P3732」より3~4日遅く、収穫時の熟度は「P3732」よりやや遅く、総体の乾物率は「P3732」より低い。
3. 耐倒伏性は「P3732」より強く、すす紋病抵抗性は「P3732」よりやや弱く、こま葉枯病抵抗性は「P3732」

並かやや強い。

栽培適地と奨励態度

4. 乾物・TDN収量とも「P3732」より優り、総体の乾物率・乾物中TDNとも「P3732」より低い。

道央(北部は除く)、道南地域に適する。栽培上の注意は、一般栽培に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
中央農試	3 5 4 0	1.9	8.13	0.9	黄中	2,089	1,478	113	29.2	70.8	1987~1989
	P 3 7 3 2	2.2	8.10	1.8	黄中	1,809	1,305	100	29.5	72.1	
道南農試	3 5 4 0	2.3	8.12	14.3	黄中	1,947	1,373	109	26.5	70.2	1987~1989
	P 3 7 3 2	3.1	8.8	13.4	黄中~後	1,743	1,255	100	29.3	72.1	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考, 56-58(1990)。

(17) AW611 (原名 AW611) 1991年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輸交第40号

来歴 本品種は、フランスのアズグロシード社が育成し、北海製缶(株)が導入し1988年より各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。テント種×フリント種の単交配一代雑種で、構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「ダイヘイゲン」より遅く、初期生育は劣る。稈長は「ダイヘイゲン」並かやや低く、着雌穂高は「ダイヘイゲン」よりやや低い。
2. 早生の晩に属する。絹糸抽出期は「ダイヘイゲン」

並で、収穫時の熟度は「ダイヘイゲン」並かやや進み、総体の乾物率は「ダイヘイゲン」並かやや低い。

3. 耐倒伏性は「ダイヘイゲン」並かやや強く、すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」並かやや強く、ごま葉枯病抵抗性もやや強い。

4. 乾物・TDN収量は「ダイヘイゲン」に比べて多く、乾物中のTDNはほぼ「ダイヘイゲン」並である。

栽培適地と奨励態度

十勝中部、網走内陸及び道北、根釧の気候条件の良い地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずるが、「ダイヘイゲン」に比べて発芽が遅く、初期生育が劣るので肥料やけに留意し、初期雑草対策を十分に行う。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	AW611	1.4	8.1	0.2	黄初~中	1,286	925	114	27.6	71.8	1988~1990
	ダイヘイゲン	1.0	8.1	1.2	黄初~中	1,125	809	100	29.2	71.8	
	ワセホマレ	1.0	8.1	6.0	黄初~後	1,059	762	94	30.5	71.8	
北見農試	AW611	1.8	8.6	1.2	黄中~後	1,257	905	111	26.6	72.0	1988~1990
	ダイヘイゲン	1.3	8.7	2.2	黄中~後	1,146	815	100	25.6	70.6	
	ワセホマレ	1.2	8.6	6.1	黄中~後	1,023	732	90	26.9	70.9	
天北農試	AW611	1.6	8.13	9.2	黄初	1,155	833	116	26.3	72.1	1988~1990
	ダイヘイゲン	1.2	8.15	26.0	黄初~後	993	718	100	25.7	72.3	
	ワセホマレ	1.1	8.14	29.3	黄初	937	680	95	27.2	72.7	
根釧農試	AW611	3.0	8.19	21.3	黄初	1,068	744	105	23.3	69.5	1988~1990
	ダイヘイゲン	2.1	8.19	25.7	黄中~後	1,007	706	100	22.9	69.8	
	ワセホマレ	2.3	8.17	44.3	黄初~後	948	654	93	23.8	68.6	

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 42-44(1991)。

(18) DK464 (系統名 EXP-646) 1991年  
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第  
41号

**来歴** 本品種はアメリカのデカルブプラントジェネテックス社が育成し、カネコ種苗(株)が導入し、1988年より各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。デント種×デント種の単交配一代雑種で、両親の系統名は不明である。

**特性概要**

1. 発芽は「P3732」よりやや早く「キタユタカ」並、初期生育は「P3732」並で「キタユタカ」よりやや劣る。
2. 中生の晩に属する。絹糸抽出期は「キタユタカ」よ

り3日程遅く、「P3732」より2日程早い。収穫時の熟度は「キタユタカ」よりやや遅く、「P3732」よりやや早い。

3. 稈長と着雌穂高は「P3732」より低い。
4. 耐倒伏性は「P3732」よりやや弱く、すす紋病抵抗性は「P3732」よりやや弱く、ごま葉枯病抵抗性は「P3732」より強い。
5. TDN収量は「P3732」並で「キタユタカ」より高い。総体の乾物率、乾物中のTDNは「P3732」並で「キタユタカ」よりやや高い。

**栽培適地と奨励態度**

道央(北部は除く)、道南地域に適する。栽培上の注意は、耐倒伏性が強いとはいえないので適正な栽培密度と施肥量を守る。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
中央農試	DK464	1.7	8.4	0.0	黄中	1,858	1,352	101	31.1	72.8	1988~1990
	P3732	1.8	8.6	0.0	黄中	1,852	1,341	100	30.1	72.4	
	キタユタカ	1.7	8.1	0.0	黄中	1,676	1,210	90	30.2	71.9	
道南農試	DK464	2.3	8.5	4.4	黄中後	1,876	1,353	99	28.4	72.1	1988~1990
	P3732	2.4	8.7	2.8	黄中	1,913	1,371	100	28.4	71.6	
	キタユタカ	2.1	8.2	4.4	黄中	1,638	1,174	86	26.9	71.6	

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 45-46(1991)。

(19) DK535 (系統名 EXP-654) 1991年  
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第  
42号

**来歴** 本品種はアメリカのデカルブプラントジェネテックス社が育成し、カネコ種苗(株)が導入し、1988年より各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。デント種×デント種の単交配一代雑種で、両親の系統名は不明である。

**特性概要**

1. 発芽は「P3732」並で、初期生育は「P3732」並かやや劣り、「3540」より劣る。
2. 晩生の中に属する。絹糸抽出期は「P3732」よりや

や遅く、「3540」よりやや早く、収穫時の熟度は「P3732」や「3540」並かやや遅い。

3. 稈長、着雌穂高は「P3732」や「3540」より低く、耐倒伏性は両品種並である。
4. すず紋病抵抗性は「P3732」よりやや強く、ごま葉枯病抵抗性は「P3732」より強い。
5. 乾物・TDN収量は「P3732」よりやや高く、「3540」より低い。総体の乾物率は「P3732」より低く、「3540」より高い。

**栽培適地と奨励態度**

道央(北部は除く)、道南(八雲を除く)の気象条件の良好な地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	DK535	2.2	8.12	1.6	黄中後	1,610	1,165	101	28.6	72.4	1988~1990
	P3732	1.8	8.9	0.2	黄中後	1,578	1,153	100	29.4	73.1	
	3540	1.6	8.13	0.0	黄後	1,734	1,243	108	27.8	71.2	

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
中央農試	D K 5 3 5	1.7	8.7	0.0	黄初	2,024	1,468	109	28.9	72.6	1988~1990
	P 3 7 3 2	1.8	8.6	0.0	黄中	1,852	1,341	100	30.1	72.4	
	3 5 4 0	1.0	8.7	0.0	黄中	2,072	1,482	111	28.5	71.5	
道南農試	D K 5 3 5	2.3	8.8	0.0	黄中	1,881	1,353	99	26.4	71.9	1988~1990
	P 3 7 3 2	2.4	8.7	2.8	黄中	1,913	1,371	100	28.4	71.6	
	3 5 4 0	2.0	8.10	0.0	黄中後	2,111	1,484	108	25.7	70.0	

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 48-50(1991)。

(20) カーギル123 (系統名 SX123) 1992年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第43号

来歴 本品種は、アメリカのカーギル・インコーポレテッド社が育成し、カーギルジャパンリミテッドが導入し、1989年から各種の試験を行い、1992年に優良品種となった。テント種×テント種の単交配一代雑種で、構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「キタユタカ」より早く、初期生育は「キタユタカ」や「キタアサヒ」並である。
2. 稈長は「キタユタカ」より高く、着雌穂高は「キタユタカ」よりもやや高い。

3. 中生の早に属する。絹糸抽出期は「キタユタカ」並か1日遅く、「キタアサヒ」に比べると2~3日遅い。収穫時の熟度はほぼ「キタユタカ」並で、「キタアサヒ」に比べるとやや遅く、総体の乾物率は「キタアサヒ」に比べるとやや低い。

4. 耐倒伏性は「キタユタカ」並である。すす紋病抵抗性は「キタユタカ」に比べやや強く、こま葉枯病抵抗性はやや弱い。

5. 乾物・TDN収量は「キタユタカ」より多く、乾物中のTDNは「キタユタカ」より高く、ほぼ「キタアサヒ」並である。

栽培適地と奨励態度

十勝中部の気象条件の良好な地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	カーギル123	1.7	8.5	0.6	黄初~中	1,464	1,068	110	29.9	73.0	1989~1991
	キタユタカ	1.6	8.5	3.6	黄初~中	1,358	968	100	26.1	71.2	
	カーギル123	1.6	8.3	0.4	黄初~中	1,511	1,106	115	30.6	73.2	1990~1991
	キタユタカ	1.5	8.3	2.2	黄初~中	1,353	963	100	25.8	71.1	
	キタアサヒ	1.4	8.2	0.2	黄中	1,366	977	101	30.2	71.5	

参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 49-51(1992)。

(21) 3897 (系統名 XCD73) 1992年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第44号

来歴 本品種は、アメリカのパイオニア社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1989年から各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。テント種×テント種の単交配の一代雑種で、両親の系統名は不明で

ある。

特性概要

1. 発芽と初期生育は「キタユタカ」並、稈長と着雌穂高はともに「キタユタカ」よりやや高い。
2. 中生の早に属する。絹糸抽出期は「キタユタカ」より1日程度早く、収穫時の熟度は「キタユタカ」並かやや進み、総体の乾物率は「キタユタカ」より高い。
3. 耐倒伏性は「キタユタカ」並である。すす紋病抵抗

性とごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強い。

**栽培適地と奨励態度**

4. 乾物・TDN収量は「キタユタカ」より高く、乾物中TDNも「キタユタカ」より高い。

道央地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
中央農試	3 8 9 7 キタユタカ	1.2	7.28	0.1	黄中	1,758	1,291	108	31.6	73.5	1989~1991
		1.2	7.29	0.0	黄中	1,645	1,196	100	31.0	72.7	
滝川畜試	3 8 9 7 キタユタカ	2.1	7.29	0.0	黄中後	1,731	1,260	116	28.5	72.8	1989~1991
		2.0	7.31	0.0	黄中後	1,510	1,086	100	26.1	71.0	

参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 51-54(1992)。

(2) セリア (系統名 XCPD76) 1993年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輪第45号

**来歴** 本品種はフランスのパイオニア社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1990年から各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。テント種×テント種の単交配一代雑種で、構成系統名は不明である。

**特性概要**

1. 発芽は「ヘイゲンミノリ」よりやや遅く、初期生育は「ヘイゲンミノリ」に比べやや劣る。

2. 稈長や着穂高は「ヘイゲンミノリ」や「ディア」より高く、耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」や「ディア」並である。

3. 早生の晩に属する。絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」並で、収穫時の熟度及び総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」や「ディア」並である。

4. すず紋病抵抗性は「ヘイゲンミノリ」並、ごま葉枯病抵抗性は「ヘイゲンミノリ」より強い。

**栽培適地と奨励態度**

十勝中部、道央北部及び網走内陸の気候条件の良好な地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	セリア	1.8	8.3	0.3	黄初	1,348	970	111	26.3	71.8	1990~1992
	ヘイゲンミノリ	1.4	8.3	0.5	黄初	1,215	873	100	27.3	71.8	
	ディア	1.9	8.3	0.5	黄初	1,264	910	104	26.8	71.9	
北見農試	セリア	2.2	8.9	0.7	黄初~中	1,507	1,072	108	25.9	71.1	1990~1992
	ヘイゲンミノリ	1.1	8.9	1.0	黄中	1,380	991	100	26.2	71.8	
	ディア	2.2	8.7	0.1	黄中	1,460	1,053	106	26.0	72.1	
上川農試	セリア	2.3	7.27	0.3	黄中~後	1,349	980	116	32.2	72.7	1990~1992
	ヘイゲンミノリ	1.5	7.28	0.1	黄中	1,178	846	100	30.2	71.8	
	ディア	2.6	7.26	0	黄中	1,343	977	115	32.2	72.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-42(1993)。

(3) コラリス (原名 コラリス) 1993年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輪第46号

**来歴** 本品種はフランスのコーポ・ド・ポーが育成し、ゲン・コーポレーションが導入して1990年から各種の試

験を行い、1993年に優良品種となった。(フロント種×テント種)×テント種の三系交配一代雑種で、構成系統名は不明である。

**特性の概要**

1. 発芽は「ダイヘイゲン」よりやや遅く、「ヘイゲンミノリ」より遅い。初期生育は「ダイヘイゲン」より劣

- り、「ディア」並である。
- 2. 稈長や着雌穂高は「ディア」並で、「ダイヘイゲン」や「ヘイゲンミノリ」より高く、耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」や「ディア」よりやや弱く、「ダイヘイゲン」並である。
- 3. 早生の中に属する。絹糸抽出期は「ダイヘイゲン」並で、「ヘイゲンミノリ」に比べると4日程度早い。収穫時の熟度は「ダイヘイゲン」に比べてやや進み、総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」や「ディア」と同程度である。

- 4. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く、こま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強い。
- 5. 乾物・TDN収量は「ダイヘイゲン」より多く、「ヘイゲンミノリ」に比べると同程度かやや多く、ほぼ「ディア」並である。乾物中TDNは「ダイヘイゲン」より低く、「ヘイゲンミノリ」や「ディア」並である。

**栽培適地と奨励態度**

十勝中部、網走内陸部及び根釧の気候条件の良好な地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	コ ラ リ ス	1.8	7.30	1.6	黄 中	1,239	883	111	26.9	71.1	1990~1992
	ダイヘイゲン	1.0	7.31	2.2	黄初~中	1,099	793	100	28.1	72.0	
	ヘイゲンミノリ	1.4	8. 3	0.5	黄 初	1,215	873	110	27.3	71.8	
	デ ィ ア	1.9	8. 2	0.5	黄 初	1,264	910	115	26.8	71.9	
北見農試	コ ラ リ ス	2.6	8. 8	3.7	黄 中	1,399	994	108	25.4	71.0	1990~1992
	ダイヘイゲン	1.7	8. 8	2.5	黄初~中	1,266	922	100	25.2	72.8	
	ヘイゲンミノリ	1.9	8.13	1.1	黄初~中	1,287	916	99	24.9	71.0	
	デ ィ ア	2.8	8.11	0.1	黄初~中	1,345	955	104	24.5	70.9	
根釧農試	コ ラ リ ス	2.0	8.17	31	黄 初	1,195	829	101	24.2	69.8	1990~1992
	ダイヘイゲン	1.0	8.17	29	糊後~黄初	1,150	817	100	24.9	71.2	
	ヘイゲンミノリ	1.6	8.20	15	糊 後	1,158	800	98	23.2	68.9	
	デ ィ ア	2.3	8.20	14	糊 後	1,213	842	103	24.3	69.3	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 43-44(1993)。

(24) 3477 (原名 3477) 1993年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輪第  
47号

**来歴** 本品種はアメリカのカーギル・インコーポレツド社が育成し、カーギル・ジャパン・リミテツド社が導入し、1990年から各種の試験を行い、1993年に優良品種となったもので、デント種×デント種の単交配一代雑種で、両親の系統名は不明である。

**特性概要**

- 1. 発芽は「キタユタカ」並、初期生育は「キタユタカ」並かやや劣る。
- 2. 稈長は「キタユタカ」より高く、着雌穂高は「キタ

ユタカ」並かやや高い。耐倒伏性は「キタユタカ」並である。

- 3. 中生の中に属する。絹糸抽出期は「キタユタカ」と同程度で、収穫時の熟度は「キタユタカ」並である。総体の乾物率は「キタユタカ」より高い。

- 4. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く、こま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より弱い。

- 5. 乾物・TDN収量は「キタユタカ」より多く、乾物中TDNは「キタユタカ」より高い。

**栽培適地と奨励態度**

道央(北部を除く)、道南に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
中央農試	3 4 7 7	1.3	7.29	6.1	黄中	1,934	1,414	122	30.8	73.1	1990~1992
	キタユタカ	1.4	7.29	2.7	黄中	1,610	1,161	100	30.2	72.2	
	P 3 7 3 2	1.3	8.2	1.2	黄中	1,919	1,401	121	29.6	73.1	
道南農試	3 4 7 7	2.4	7.29	8.3	黄中	1,774	1,290	119	33.1	72.3	1990~1992
	キタユタカ	1.5	7.29	36.6	黄後	1,517	1,082	100	28.9	71.3	
	P 3 7 3 2	2.2	8.2	3.2	黄中	1,959	1,409	130	32.2	72.0	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 45-46(1993)。

(25) ライサ (系統名 X9033) 1994年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第 49号

来歴 本品種は、フランスのバイオニア社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入し1991年から各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。デント種×デント種の単交配一代雑種で、両親の系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「キタユタカ」並かやや早く、初期生育は「キタユタカ」よりやや劣る。
2. 稈長と着雌穂高は「キタユタカ」より高いが、耐倒

伏性は「キタユタカ」より強い。

3. 中生の中に属する。絹糸抽出期は「キタユタカ」と同程度で、収穫時の熟度は「キタユタカ」と同程度かやや遅れ、総体の乾物率は「キタユタカ」より高い。
4. すず紋病抵抗性、ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強い。
5. 乾物・TDN収量は「キタユタカ」より多く、乾物中TDNも「キタユタカ」より高い。

栽培適地と奨励態度

道央地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	ラ イ サ	2.7	8.5	0.0	黄中後	1,519	1,118	104	28.5	73.6	1991~1993
	キタアサヒ	2.5	8.3	0.0	黄中後	1,292	938	88	28.2	72.6	
	キタユタカ	2.4	8.4	3.7	黄中	1,480	1,072	100	27.4	72.5	
中央農試	ラ イ サ	1.7	8.4	1.3	黄初中	1,615	1,186	108	28.8	73.4	1991~1993
	キタアサヒ	1.5	7.30	4.3	黄中	1,584	1,151	104	30.5	72.6	
	キタユタカ	1.7	8.3	3.2	黄中	1,520	1,102	100	29.6	72.5	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 46-67(1994)。

(26) 3845 (原名 3845) 1994年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第 50号

来歴 本品種は、アメリカのバイオニア社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入したもので、1991年から各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。デント種×デント種の単交配一代雑種で構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「キタユタカ」や「P3732」より早く、初期生育は「キタユタカ」並で、「P3732」より優れる。
2. 稈長は「キタユタカ」並かやや高く、着雌穂高は「P3732」よりやや低く、「キタユタカ」より高い。耐倒伏性は「キタユタカ」より強く、「P3732」に比べるとやや弱い。
3. 中生の晩に属する。絹糸抽出期は「キタユタカ」より2~4日程度遅く、「P3732」より1~3日早い。収

穫時の熟度は「キタユタカ」よりやや遅れ、「P3732」並かやや進み、総体の乾物率は両品種より多い。

- すず紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く、「P3732」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く、「P3732」よりやや弱い。
- 乾物・TDN収量は「キタユタカ」より多く、「P3732」

並かやや少ない。乾物中TDNは「キタユタカ」より高く、「P3732」よりやや高い。

**栽培適地と奨励態度**

道央、道南地帯に適する。栽培上の注意は、耐倒伏性は必ずしも十分とは言えないので、密植を避け、施肥量に留意する。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	3 8 4 5	1.9	8.7	1.2	黄中	1,618	1,188	111	29.0	73.3	1991~1993
	キタユタカ	2.4	8.6	3.7	黄中	1,480	1,078	100	27.4	72.5	
	P 3 7 3 2	3.4	8.11	0.0	黄中	1,608	1,178	110	28.1	73.2	
中央農試	3 8 4 5	1.6	8.7	3.0	黄初	1,696	1,241	113	30.2	73.2	1991~1993
	キタユタカ	1.7	8.3	3.2	黄中	1,520	1,102	100	29.6	72.5	
	P 3 7 3 2	1.7	8.8	1.2	黄中	1,802	1,316	119	29.4	72.9	
道南農試	3 8 4 5	1.3	8.5	4.7	黄中	1,808	1,310	121	33.6	72.4	1991~1993
	キタユタカ	1.3	8.3	47.5	黄中	1,520	1,083	100	28.8	71.2	
	P 3 7 3 2	1.8	8.7	35.6	黄中	1,890	1,351	125	31.5	71.5	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 68-70(1994)。

(7) ゴールドデントDK300 (系統名 DK300) 1994年  
登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輸第  
51号

**来歴** 本品種は、アメリカのデカルブ・プラント・ジェネテイクス社が育成し、カネコ種苗(株)が導入し1991年から各種の試験を行い、1994年優良品種となった。デント種×フリント種の単交配の一代雑種で、構成系統名は不明である。

**特性概要**

- 発芽は「キタアサヒ」並かやや遅く「キタユタカ」並で、初期生育は「キタアサヒ」や「キタユタカ」並である。
- 稈長は「キタアサヒ」や「キタユタカ」よりやや低く、着雌穂高「キタアサヒ」や「キタユタカ」並で、

耐倒伏性は「キタアサヒ」や「キタユタカ」より強い。

- 中生の早に属する。絹糸抽出期は「キタアサヒ」より2-3日遅く、「キタユタカ」とほぼ同じである。収穫時の熟度は「キタユタカ」並で、総体の乾物率は「キタユタカ」より高い。

- すず紋病抵抗性は「キタアサヒ」や「キタユタカ」よりやや強く、ごま葉枯病抵抗性は「キタアサヒ」より強く、「キタユタカ」よりやや強い。

- TDN収量は「キタアサヒ」や「キタユタカ」より多く、乾物中のTDNは「キタアサヒ」より高い。

**栽培適地と奨励態度**

道央北部、十勝中部および網走内陸部の気象条件の良好な地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ゴールドデントDK300	1.9	8.14	0.0	糊後	1,258	891	112	25.0	70.6	1991~1993
	キタアサヒ	1.7	8.12	2.9	糊後	1,161	798	100	24.6	68.7	
	キタユタカ	1.8	8.14	13.0	糊後	1,173	788	98	22.2	67.1	
北見農試	ゴールドデントDK300	1.9	8.18	0.0	糊初	1,376	954	106	23.3	69.2	1991~1993
	キタアサヒ	1.8	8.17	4.4	糊中	1,310	901	100	22.7	68.7	
	キタユタカ	2.0	8.19	3.1	糊初	1,358	918	102	20.6	67.5	



試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
上川農試	ゴールドデントDK300	2.1	8.6	0.0	黄中	1,347	977	106	29.3	72.7	1991-1993
	キタアサヒ	1.9	8.3	0.1	黄中	1,300	920	100	29.2	70.6	
	キタユタカ	1.8	8.6	0.0	黄中	1,377	952	102	25.5	69.9	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 71-73(1994)。

(28) ロイヤルデント90H (原名 TH8913) 1995年  
登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輸第  
52号

来歴 本品種はアメリカのアグリセネティックス社が育成し、タキイ種苗(株)が導入し1992年から各種の試験を行い1995年に優良品種となった。フリント種×デント種の単交配一代雑種で、両親の系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「キタアサヒ」や「ヘイゲンミノリ」よりやや遅く、初期生育は「キタアサヒ」並、「ヘイゲンミノリ」と同程度かやや劣る。
2. 稈長は「キタアサヒ」より低く、「ヘイゲンミノリ」よりやや高い。着穂穂高は「キタアサヒ」より低く、

「ヘイゲンミノリ」並で、耐倒伏性は「キタアサヒ」や「ヘイゲンミノリ」より強い。

3. 中生の早に属する。絹糸抽出期は「キタアサヒ」より2-3日、「ヘイゲンミノリ」より1-2日早い。収穫時の熟度は「キタアサヒ」並かやや進み、「ヘイゲンミノリ」並かやや遅い。総体の乾物率は「キタアサヒ」よりやや低い。
4. すず紋病抵抗性は「キタアサヒ」並かやや強く、ごま葉枯病抵抗性は「キタアサヒ」並である。
5. 乾物・TDN収量は「キタアサヒ」並かやや多く、乾物中のTDNは「キタアサヒ」より高い。

栽培適地と奨励態度

道央北部、十勝中部及び網走内陸の気象条件の良好な地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ロイヤルデント90H	1.9	8.8	0.0	糊後	1,105	778	96	22.5	70.5	1992-1994
	キタアサヒ	1.6	8.10	2.5	糊後	1,169	811	100	24.4	69.1	
	ヘイゲンミノリ	1.7	8.9	0.5	糊後	1,091	782	96	24.5	71.5	
	デアイア	2.1	8.8	0.3	糊後~黄初	1,168	827	102	24.6	70.7	
	ロイヤルデントリング	2.2	8.10	2.7	糊後	1,157	814	100	23.4	70.2	
北見農試	ロイヤルデント90H	1.4	8.13	0.0	糊後	1,321	949	108	25.1	71.6	1992-1994
	キタアサヒ	1.9	8.16	4.4	糊後	1,250	880	100	25.8	70.1	
	ヘイゲンミノリ	1.4	8.15	4.4	糊後	1,174	846	96	27.6	71.9	
	デアイア	2.0	8.14	0.7	糊後	1,333	951	108	25.5	71.2	
上川農試 (土別)	ロイヤルデント90H	2.8	8.4	0.0	黄中~後	1,326	961	101	26.9	72.5	1992-1993
	キタアサヒ	2.3	8.6	0.2	黄中	1,366	954	100	26.8	69.8	
	ヘイゲンミノリ	2.4	8.5	0.0	黄後	1,307	940	99	27.7	71.9	

参照 1) 北海道農政部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 32-34(1995)。

<加工用>

(1) メロディスweet (系統名 十生13号) 1987年  
 登録番号：(北海道)とうもろこし(普)北海道  
 交第18号(農水省)とうもろこし農林  
 交28号(種苗法)第2272号

来歴 本品種は、1978年に北海道立十勝農業試験場が、  
 缶詰加工用sweetコーンの欠点である耐倒伏性並びに  
 初期生育などの栽培特性や、加工適性の改良を目標に「G  
 61D」を母とし、「Tos2」を父として育成したsweet  
 種の単交配一代雑種で、1987年に優良品種となった。

特性の概要

1. 中生の早に属する。絹糸抽出期は「メローゴールド」  
 より1~2日遅く、ほぼ「リライアンス」並である。  
 収穫期は「メローゴールド」より2日遅く、「リライ  
 アンス」に比べ1日早い。
2. 稈長は「メローゴールド」より高く、着雌穂高は低  
 く、耐倒伏性は「メローゴールド」や「リライアンス」

より明らかに優る。

3. 雌穂長は「メローゴールド」や「リライアンス」に  
 比べやや短く、穂芯は「メローゴールド」よりやや細  
 く、穂先の不稔が少ないため歩留まりは良好である。
4. 収量性は「メローゴールド」より多収で、「リライ  
 アンス」とほぼ同等の収量を示す。
5. すず紋病抵抗性、ごま葉枯病抵抗性は「メローゴ  
 ルド」より弱い。
6. 粒色は濃黄で「メローゴールド」並、粒形は長方~く  
 さび型、ホールカーネル用としての加工適性は「メロ  
 ゴールド」より高く、「リライアンス」に近い。

栽培適地と奨励態度

十勝中部、道央中部及び北部、網走内陸部の「メロ  
 ゴールド」並の中生品種の栽培出来る地帯に栽培し、当  
 該地域の加工用sweetコーンの安定生産に寄与する。  
 栽培上の注意は、倒伏防止のための頂部切除の必要はな  
 く、すず紋病抵抗性が弱いので連作をさけ、適期播種と  
 適正な肥培管理を行い、熟期が比較的早いので適期収穫  
 に努める。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1~5)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 期 (月日)	10 a 当 り		雌穂長 (cm)	先 端 不 稔 長 (cm)	粒 列 数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十 勝 農 試	メロディスweet	1.7	8.10	7	9.9	1,032	106	15.0	2.3	15.4	1981~1986
	メローゴールド	1.1	8.9	63	9.6	974	100	15.7	3.5	13.7	
	リライアンス	1.6	8.10	64	9.7	1,030	106	15.4	2.3	16.9	
北 見 農 試	メロディスweet	2.1	8.10	0	9.1	1,098	98	18.1	0.6	16.1	1981~1986
	メローゴールド	1.0	8.9	22	8.30	1,115	100	19.2	1.0	13.9	
	リライアンス	3.0	8.9	41	9.2	1,099	99	19.2	0.7	17.1	
資 源 セ ン タ ー	メロディスweet	2.0	8.7	0	8.30	970	105	15.0	2.5	16.1	1985~1986
	メローゴールド	2.5	8.5	0	8.28	920	100	15.7	3.0	13.7	
	リライアンス	2.5	8.6	0	8.31	1,032	143	15.9	3.2	16.6	

参照 1) 北海道農務部編、昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項、24-27(1987)。

(2) デューク (系統名 HS11号) 1991年  
 登録番号：(北海道)とうもろこし(普)準輪交  
 第39号

来歴 本品種はアメリカのアズグロシード社が育成  
 し、ホクレン農業協同組合連合会が導入したもので、1988  
 年から各種の試験を行い1991年に優良品種となった。ス  
 weet種の単交配一代雑種で構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「G.C.B」や「コマンダー」並、初期生育  
 は「G.C.B」と同等で、「コマンダー」より優れる。

2. 稈長は「G.C.B」より高く「コマンダー」並かや  
 や低い。着雌穂高は「G.C.B」より高いが、「コマン  
 ダー」より低く、耐倒伏性は「G.C.B」より明らか  
 に強く、「コマンダー」並である。
3. 晩生の早に属する。絹糸抽出期は「G.C.B」並か  
 1日程度早く、「コマンダー」に比べると4日程度早い。  
 収穫時粒水分からみると収穫適期は「コマンダー」よ  
 りやや早い。
4. 雌穂長は「G.C.B」、「コマンダー」より長く、平  
 均一穂重は「G.C.B」より大きく、「コマンダー」並  
 かやや小さい。粒列数は18行程度である。

- 5. すず紋病抵抗性は、これまでの品種に比べかなり強く、強に属する。
- 6. 収量は「G.C.B」より多く、「コマンダー」並かやや少ない。
- 7. 缶詰加工した時の品質は「ジュビリー」、「コマンダー」

よりやや劣る。

**栽培適地と奨励態度**

道央、十勝中部及びこれに準ずる地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培法に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫期 (月日)	10a 当り		雌穂長 (cm)	雌穂径 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	デューク	2.1	8.11	0	9.8	979	119	16.9	4.9	18.4	1988~1990
	G.C.B	1.9	8.11	24.1	9.7	829	100	16.8	4.3	11.8	
	コマンダー	2.8	8.13	1.1	9.12	1,084	131	16.3	5.1	18.7	
上川農試	デューク	2.7	8.6	0.8	8.29	1,530	141	18.7	4.9	19.2	1988~1990
	G.C.B	1.6	8.5	1.5	8.29	1,077	100	18.4	4.2	11.4	
	コマンダー	3.2	8.9	0	9.4	1,517	141	18.3	5.0	20.1	

注) G, C, Bはゴールデンクロスバンタムである。

参照 1) 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 33-35(1991)。

- (3) スイートメモリー (系統名 十生24号) 1993年  
登録番号: (北海道) とうもろこし (普) 北海道  
交第22号 (農水省) とうもろこし農林  
交32号 (種苗法) 第4589号

**来歴** 本品種は、北海道立十勝農業試験場とホクレン農業協同組合連合会との共同研究により、1987年に「87:13」を母とし、「Tos12」を父として交配・育成したスイート種の単交配一代雑種で、1990年から「十生24号」の系統名で道内各試験機関で、各種の試験を行い1993年に優良品種となった。

**特性概要**

- 1. 発芽は「メロディスweet」並かやや遅く、「ページェント」並である。初期生育は「メロディスweet」並で「ページェント」に比べると同程度かやや優る。
- 2. 稈長は「メロディスweet」より高く、「ページェント」並かやや高い。着雌穂高は両品種より高く、耐倒伏性は「メロディスweet」より劣り、「ページェント」よりは明らかに優る。
- 3. 中生の中に属する。絹糸抽出期は「メロディスweet」より1日程度遅く、「ページェント」より1~2日

早い。収穫時粒水分からみた収穫適期は「メロディスweet」より1~2日遅く、「ページェント」並かやや早い。

- 4. 雌穂長は両品種より長く、雌穂先端の不稔割合は低い。雌穂径や穂芯の太さは両品種並で、粒列数は17行程度である。
- 5. 剥皮雌穂重は「メロディスweet」より多く、「ページェント」に比べると同程度かやや多い。
- 6. すず紋病抵抗性は「メロディスweet」や「ページェント」並に弱く、ごま葉枯病抵抗性は他の品種よりも弱い。
- 7. 缶詰加工した時の品質は「ジュビリー」、「ページェント」並である。

**栽培適地と奨励態度**

道央、十勝中部、網走内陸部及び道南に適し、同地域の「ページェント」に代わる加工用品種として普及させる。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずるが、気象の不良な年や密植栽培では無効・不稔雌穂が発生することがあるため、適正な栽植密度を守り、気象条件の不良な地帯での作付けは避ける。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫期 (月日)	10a 当り		穂芯長 (cm)	雌穂長 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	スイートメモリー	1.7	8.4	5.9	8.31	1,183	121	18.9	16.5	16.6	1989~1992
	メロディスweet	1.9	8.3	0.2	8.31	964	100	17.4	14.7	15.8	
	ページェント	2.0	8.6	35.2	9.2	1,216	127	19.8	16.3	17.5	

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫期 (月日)	10a 当り		穂芯長 (cm)	雌穂長 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
北見農試	スイートメモリー	2.6	8.11	16.1	9.8	1,284	104	19.3	17.7	17.0	1990~1992
	メロディスweet	2.6	8.11	1.1	9.6	1,240	100	18.1	16.2	16.0	
	ページェント	2.4	8.12	43.9	9.10	1,280	103	19.5	16.7	18.0	
道南農試	スイートメモリー	2.2	7.25	0	8.20	1,350	122	20.3	18.2	17.1	1990~1991
	メロディスweet	2.2	7.25	0	8.20	1,104	100	18.1	15.8	16.2	
	ページェント	1.5	7.25	10.4	8.20	1,286	117	20.3	17.4	18.5	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-29(1993)。

(4) マーキス (系統名 HS14号) 1994年

登録番号: (北海道)とうもろこし(普)準輸交  
第48号

来歴 本品種はアメリカのアズグロシード社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入し1991年から各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。スイート種の単交配の一代雑種で、構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「メロディスweet」や「リワード」並か1日程度早く、初期生育は両品種よりやや優れる。
2. 早生の中に属する。絹糸抽出期は「リワード」並か1日程度遅く、「メロディスweet」より5日程度早い。収穫時の粒水分からみると収穫適期は「リワード」よりやや遅い。
3. 稈長は「リワード」並で、着雌穂高は「メロディス

weet」より高く、「リワード」並かやや高い。

4. 耐倒伏性は「メロディスweet」より弱く、「リワード」並である。
5. 平均一穂重は「メロディスweet」や「リワード」よりやや大きく、雌穂長は両品種よりやや長く先端不稔は少ない。粒列数は「メロディスweet」よりやや多く、「リワード」より少ない。
6. 剥皮雌穂重は「メロディスweet」より多く、「リワード」並かやや多い。
7. すず紋病抵抗性は「メロディスweet」より強く、「リワード」並かやや強い。
8. 缶詰加工した時の品質は「メロディスweet」、「リワード」より優れる。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は、耐倒伏性が劣るため、密植は避ける。その他は一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫期 (月日)	10a 当り		穂芯長 (cm)	雌穂長 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	マーキス	2.1	8.6	22.9	9.6	860	101	17.4	15.8	15.4	1991~1993
	メロディスweet	2.3	8.12	0.2	9.11	847	100	16.3	13.2	16.1	
	リワード	2.2	8.6	23.6	9.6	833	99	17.9	14.1	17.6	
上川農試	マーキス	1.5	7.29	0	8.24	1,218	106	19.0	18.7	15.7	1991~1993
	メロディスweet	2.0	7.31	0	8.25	1,153	100	17.7	15.6	15.8	
	リワード	2.0	7.27	0	8.22	1,201	105	18.8	16.0	18.1	
北見農試	マーキス	2.6	8.15	12.0	9.14	1,212	102	18.3	17.4	16.1	1991~1993
	メロディスweet	2.2	8.19	0	9.18	1,186	100	18.1	16.3	15.8	
	リワード	1.9	8.13	25.0	9.11	1,136	97	18.7	15.9	17.9	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 52-55(1994)。

(5) サマースイート (系統名 十生26号) 1995年  
 登録番号: (北海道)とうもろこし(普)北海道  
 交第23号(農水省)とうもろこし農林  
 交36号(種苗法)出願中

来歴 本品種は、北海道立十勝農業試験場とホクレン  
 農業協同組合連合会との共同研究により、1987年に  
 「Tos10」を種子親とし、「87:14」を花粉親として交配・  
 育成したスイート種単交配の一代雑種で、1989年より「K  
 8806」、1991年から「十生26号」の系統名で各種の試験を  
 行い、1995年に優良品種となった。

特性概要

1. 発芽は「メロディスイート」並か1日早く「スイートメモリー」より1~2日早く、初期生育は「メロディスイート」や「スイートメモリー」に比べ優る。
2. 早生の早に属する。絹糸抽出期は「メロディスイート」より1~2日、「スイートメモリー」より2~3日早い。収穫適期は「メロディスイート」より2日程度早い。
3. 稈長は「メロディスイート」やや低く、着雌穂高は「メロディスイート」より高く、「スイートメモリー」

よりやや低い。耐倒伏性は「メロディスイート」より劣り、「スイートメモリー」並である。

4. 穂芯長は「メロディスイート」より長く、雌穂長は「スイートメモリー」並であり「メロディスイート」より長い。粒列数は17~18行である。
5. 剥皮雌穂重は「メロディスイート」や「リワード」より明らかに多く、「スイートメモリー」に比べると道東では多く、道央・道南では同等かやや少ない傾向である。
6. すず紋病抵抗性は「ジュビリー」よりやや強く、「メロディスイート」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ジュビリー」並で、「メロディスイート」より弱く「スイートメモリー」より強い。
7. ホールカーネル加工の品質は、粒色が優れ、香味、食感は「メロディスイート」並で「リワード」より優り、「スイートメモリー」や「ジュビリー」に比べるとやや劣る。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は一般栽培法に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	収穫期 (月日)	倒伏 (%)	10a 当り		穂芯長 (cm)	雌穂長 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	サマースイート	1.5	8.6	9.3	1.6	1,038	119	19.2	15.5	17.6	1991~1994
	メロディスイート	2.3	8.8	9.5	0.0	874	100	16.7	13.3	16.1	
	スイートメモリー	1.8	8.8	9.5	0.3	954	109	17.8	14.8	16.3	
	リワード	2.1	8.3	9.1	31.7	850	97	17.9	14.3	17.8	
上川農試	サマースイート	1.6	7.29	8.22	0.0	1,238	105	19.7	16.6	17.2	1991~1994
	メロディスイート	1.8	7.30	8.23	0.0	1,176	100	17.5	15.7	16.1	
	スイートメモリー	1.5	8.1	8.25	0.4	1,287	109	18.9	17.2	16.4	
北見農試	サマースイート	1.5	8.14	9.11	5.0	1,330	110	19.5	17.2	17.6	1991~1994
	メロディスイート	2.4	8.15	9.13	0.0	1,212	100	18.4	16.7	15.9	
	スイートメモリー	2.2	8.16	9.14	2.1	1,287	106	19.1	17.3	16.4	
中央農試	サマースイート	1.9	8.6	8.31	0.2	1,393	109	19.9	16.9	17.3	1991~1994
	メロディスイート	2.3	8.7	9.1	0.0	1,278	100	17.7	15.8	15.5	
	スイートメモリー	2.0	8.7	9.2	0.2	1,662	130	19.5	18.2	16.2	

参照 1) 北海道農政部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 14-18(1995)。

(6) スイートエール (系統名 十生27号) 1995年  
 登録番号: (北海道)とうもろこし(普)北海道  
 交第24号(農水省)とうもろこし農林  
 交37号(種苗法)出願中

来歴 本品種は、北海道立十勝農業試験場とホクレン  
 農業協同組合連合会との共同研究により、1986年に「86:  
 206」を種子親とし、「Tos14」を花粉親として交配・育成  
 したスイート種の単交配一代雑種である。1988年より「K  
 8703」、1992年からは「十生27号」の系統名で各種の試験

を行い、1995年に優良品種となった。

特性概要

1. 発芽は「メロディスweet」や「リワード」並かやや早く、初期生育は「メロディスweet」や「リワード」よりやや優る。
2. 早生の中に属する。抽出期は「メロディスweet」より4日程度早く、「リワード」に比べると1日遅い。収穫適期は「メロディスweet」より6日程度早く、「リワード」並である。
3. 稈長と着雌穂高は「リワード」並で、「メロディスweet」に比べ稈長は低く、着雌穂高は高い。耐倒伏性は「メロディスweet」に比べ劣るが、「リワード」よりは明らかに優る。
4. 穂芯長は「メロディスweet」並かやや長く、「リワ

ド」より短い。雌穂長は「リワード」並で「メロディスweet」よりやや長い。粒列数は約17行である。

5. 剥皮雌穂重は「メロディスweet」より多く、「リワード」よりやや多い。
6. すず紋病抵抗性は「メロディスweet」並かやや強く、「リワード」や「メロゴールド」に比べるとやや弱い。こま葉枯病抵抗性は「メロディスweet」より弱く、「リワード」より強い。

7. ホールカーネル加工の品質は、色、香味、食感は「ジュビリー」と同程度で、「リワード」より明らかに優る。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適し、「リワード」に置き換えて普及し、加工用sweetコーンの高品質・安定多収に寄与する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

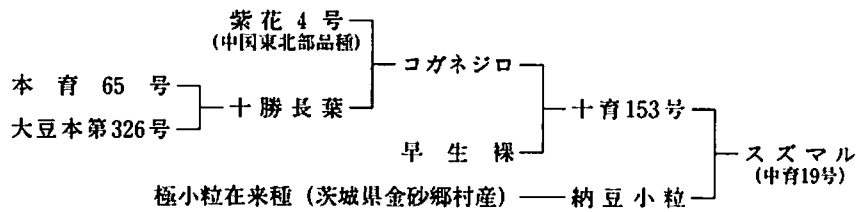
試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	収穫期 (月日)	倒伏 (%)	10a 当り		穂芯長 (cm)	雌穂長 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	sweetエール	2.2	8.5	9.2	1.4	912	101	17.1	14.4	16.8	1992~1994
	メロディスweet	2.2	8.9	9.7	0.2	905	100	16.7	13.3	16.3	
	リワード	2.2	8.4	9.2	36.3	838	93	17.6	14.4	17.9	
上川農試	sweetエール	2.1	7.28	8.21	0.0	1,239	105	18.1	16.8	17.2	1992~1994
	メロディスweet	2.1	8.1	8.26	0.0	1,183	100	17.6	15.7	16.0	
	リワード	1.9	7.27	8.21	0.0	1,172	99	19.0	16.4	17.9	
北見農試	sweetエール	1.9	8.12	9.9	1.0	1,216	104	17.5	15.9	17.2	1991~1994
	メロディスweet	2.6	8.17	9.16	0.0	1,172	100	18.4	16.6	15.9	
	リワード	2.4	8.12	9.8	29.3	1,185	101	19.4	16.0	18.1	
中央農試	sweetエール	2.0	8.4	8.29	1.7	1,395	108	18.1	15.7	16.5	1991~1994
	メロディスweet	2.3	8.8	9.4	0.0	1,297	100	17.4	15.3	15.3	
	リワード	1.9	8.2	8.27	13.4	1,252	97	18.5	15.1	17.4	

参照 1) 北海道農政部編、平成7年普及奨励ならびに指導参考事項、18-21(1995)。

## 6. 大豆

- (1) スズマル (系統名 中育19号) 1988年  
 登録番号：(北海道) 大豆北海道第30号  
 (農水省) だいで農林89号  
 (種苗法) 第2043号

来歴 本品種は、道央地方に適する納豆用小粒種の育成を目標として、1975年に北海道立中央農業試験場において「十育153号」を母とし、「納豆小粒」を父として人工交配し、その雑種後代から育成した納豆用品種で、1982年より「中系108号」、1984年から「中育19号」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



**特性概要**

1. 主茎長は「スズヒメ」よりやや長く、主茎節数はやや多く、分枝数も多い。伸育型は有限である。
2. 胚軸色は紫、小葉の形は長葉、毛茸の色は白、熟莢色は淡褐である。
3. 子実は球形、種皮色及び臍色は黄であり、粒の大きさは「スズヒメ」よりやや大きく、外観品質は「スズヒメ」より優る。
4. 開花期は「キタムスメ」より4日、「スズヒメ」より2日それぞれ遅く、成熟期は「スズヒメ」より4日遅く「キタムスメ」より4日早い中生種であり、生態型は夏大豆型に属する。
5. 耐倒伏性は「スズヒメ」並に強く、裂莢性は「スズヒメ」と同様に中である。
6. ダイズわい化病抵抗性とダイズシストセンチュウ抵抗性は弱である。
7. 子実収量は「スズヒメ」より多い。

8. 子実の粗蛋白質含有量は「スズヒメ」よりやや高く、粗脂肪含有率は「スズヒメ」並で、納豆の加工適性は「スズヒメ」と同程度である。

**栽培適地と奨励態度**

道央中・南部、羊蹄山麓地域及びこれに準ずる地域に適し、道央向け納豆用大豆として、栽培の多い秋田銘柄大豆の一部にかえて集団栽培として普及する。栽培上の注意は、種子消毒、ダイズわい化病及びマメシクイガなどの防除は従来品種同様に行い、ダイズシストセンチュウ抵抗性や耐湿性は弱なので、輪作を行い、排水不良地へは作付けしない。やや密植で多収となるので、10a当たり8,000株程度を確保し肥沃地では倒伏させない。納豆加工適性をもたせるため、刈り取り後の乾燥は、急激な人工乾燥を避け自然乾燥とし、均一な品質の納豆用大豆を安定供給するため、集団栽培をする。その他の肥培管理は従来品種に準じて行う。

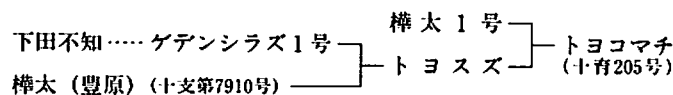
試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒伏 程度	10a当り		百粒重 (g)	品質	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
中央農試	スズマル	7.30	9.30	56	8.9	126.0	少	309	95	13.4	上下	1984~1987
	スズヒメ	7.28	9.26	51	6.6	114.5	無	256	79	13.0	中上	
	キタムスメ	7.26	10.4	70	5.3	87.0	中	325	100	27.9	中上	
	ユウヒメ	7.28	10.6	60	6.0	63.2	中	310	95	41.1	上下	
	トヨスズ	7.22	10.5	43	4.7	66.9	無	311	96	32.4	中上	

注) 成熟期における分枝数と莢数は株当たりの数値であり、以下同様である。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 10-13(1988).  
 2) 番場宏治 等, 北海道立農試集報, 58, 55-69(1988).

(2) トヨコマチ (系統名 十育205号) 1988年  
 登録番号: (北海道) 大豆北海道第31号  
 (農水省) だいで農林90号  
 (種苗法) 第2042号

**来歴** 本品種は、1975年に北海道立十勝農業試験場において「トヨスズ」より早熟な品種の育成を目標とし、「樺太1号」を母に、「トヨスズ」を父として人工交配し、以後選抜と固定を図り、その後代系統から育成したもので、1982年より「十系669号」、1983年からは「十育205号」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



**特性概要**

1. 主茎長は「トヨスズ」や「トヨムスメ」と同様短茎、主茎節数は少、分枝数は「トヨムスメ」や「ヒメユタカ」と同様に中で、伸育型は有限であり、熟莢色は淡褐を呈する。
2. 胚軸色及び花は紫、小葉は円葉、毛茸は白、直毛、その多少は中である。
3. 粒形は「トヨスズ」や「トヨムスメ」と同様扁球、粒の大小は中の大である。種皮及び臍色は各々黄白及び黄である。外観品質は「トヨスズ」と同じ上である。
4. 裂皮の発生は「トヨスズ」より少なく、臍周辺の着色粒の発生は「トヨスズ」や「トヨムスメ」及び「キタコマチ」より少ない。
5. 開花期は「ヒメユタカ」より早く、「トヨスズ」や「トヨムスメ」及び「キタコマチ」並で中の早に属し、成

熟期は「キタコマチ」並の中の早である。

6. 耐倒伏性やダイズシストセンチュウ抵抗性は強、低温及び黒根病抵抗性は各々やや強及び弱である。
7. 子実収量は「トヨムスメ」や「ヒメユタカ」より劣り、「キタコマチ」と同水準である。
8. 子実成分は「トヨムスメ」や「ヒメユタカ」と同じく粗蛋白含有率は中、粗脂肪含有率は低である。

**栽培適地と奨励態度**

道央中・北部、十勝、網走内陸・沿海及びこれに準ずる地帯に適し、当該地帯の「トヨスズ」や「秋田銘柄品種」とおきかえて普及する。栽培上の注意は、種子消毒、ダイズわい化病、ダイズ茎疫病及びマメシンクイガなどの防除は従来品種同様に行い、ダイズシストセンチュウ抵抗性をもっているが、連作あるいは短期の輪作は避ける。その他の肥培管理は、従来品種に準じて行う。

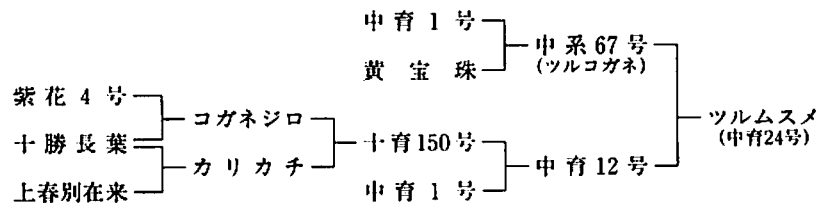
試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	主 茎 節 数 (節)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)	倒 伏 程 度	10 a 当り		百粒重 (g)	品 質	試験年次
									子実重 (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	トヨコマチ	7.25	9.29	52	10.9	4.5	50.6	微	259	97	30.4	上	1983~1987
	トヨスズ	7.25	10.8	49	10.6	3.9	50.1	微	266	100	31.0	上	
	トヨムスメ	7.25	10.5	51	10.4	4.5	54.4	微	274	103	31.9	上	
	ヒメユタカ	7.28	10.6	69	12.3	5.0	53.7	少	283	106	32.7	上	
	キタコマチ	7.24	9.29	52	10.9	3.9	52.2	微	258	97	28.1	中	

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 14-18(1988).  
 2) 佐々木絃一 等, 北海道立農試集報, 60, 45-58(1990).

(3) ツルムスメ (系統名 中育24号) 1990年  
 登録番号: (北海道) 大豆北海道第32号  
 (農水省) だいで農林94号  
 (種苗法) 第2876号

来歴 本品種は、道央地方に適する白目・極大粒・良質およびダイズわい化病抵抗性品種の育成を目標とし

て、1979年に北海道立中央農業試験場において「中系67号」を母、「中育12号」を父として人工交配を行い、以後選抜と固定を図り、1986年より「中系155号」、1987年からは「中育24号」の系統名で各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



**特性概要**

1. 主茎長及び主茎節数は「ユウヒメ」並であるが、分枝数はやや少ない。
2. 胚軸色は緑、小葉の形は円葉、花色は白、毛茸は白・

直毛でその多少は中である。

3. 粒の大きさは「ユウヅル」並に大きく、極大粒に属し、種皮及び臍の色は黄白・黄で、粒形は扁球に近い球、裂皮の発生は比較的少なく、外観品質は良い。



4. 開花期は「ユウヒメ」並で、成熟期は「ユウヒメ」と同等かやや早い中生種で、生態型は夏大豆型に属する。
5. 耐倒伏性は強、ダイズわい化病抵抗性は「ツルコガネ」よりやや弱く、「ユウヅル」より優り、やや強である。ダイズシストセンチュウ抵抗性と耐湿性は比較品種並に弱、耐冷性は中である。
6. 子実収量は標準品種の「ユウヒメ」及び参考品種の「トヨムスメ」並である。
7. 子実の粗蛋白含有率は「ユウヒメ」並、粗脂肪含有率は「ユウヒメ」並で「ユウヅル」より高く、加工適

性は「ユウヅル」並である。

**栽培適地と奨励態度**

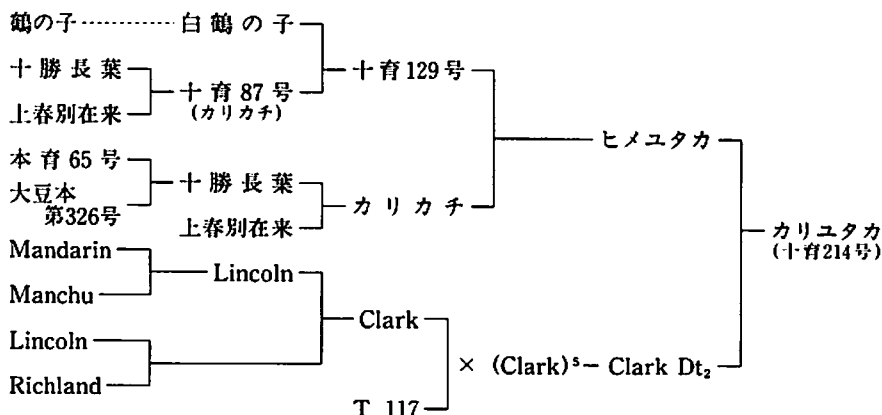
道央の中部、南部、羊蹄山麓及び道南地域に適する。栽培上の注意は、ダイズわい化病に抵抗性であるが、アブラムシの多発する圃場では、播種時の防除及び生育初期の茎葉散布による防除を実施する。耐倒伏性が優れるので、やや密植で多収が期待できる。ダイズシストセンチュウ抵抗性は弱なので、発生圃場への作付けは避け、適正な輪作のもとで栽培し、耐湿性が弱いので排水不良地での栽培は避ける。その他の肥培管理及び脱穀調整は従来の極大粒品種に準じて行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期における			10 a 当り			百粒重 (g)	試験年次
					主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)	全 重 (kg)	子実重 (kg)	同左比 (%)		
中央農試	ツルムスメ	7.28	10.3	微	56	5.6	66	670	343	99	40.7	1987~1989
	ユウヒメ	7.29	10.6	多	59	6.3	64	710	345	100	40.4	
	ユウヅル	8.3	10.16	多	75	4.3	57	630	278	81	41.4	
	ツルコガネ	7.24	10.9	少	74	6.7	70	680	308	89	35.1	
	トヨムスメ	7.23	10.4	微	47	5.1	71	680	345	100	34.4	
道南農試	ツルムスメ	7.23	9.30	無	53	4.0	44	540	279	113	40.9	1987~1988
	ユウヒメ	7.26	10.1	少	63	5.5	49	560	264	98	44.0	
	ユウヅル	7.30	10.9	中	76	3.7	50	590	248	100	40.9	

- 参照 1) 北海道農務部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 18-21(1990).  
 2) 中村茂樹 等, 北海道立農試集報, 63, 71-82(1991).

- (4) カリユタカ (系統名 十育214号) 1991年  
 登録番号: (北海道)大豆北海道第33号  
 (農水省)だいで農林95号  
 (種苗法)第3293号

来歴 本品種は、難裂莢で機械収穫適性の高い白目中粒品種の育成を目標として、1980年に北海道立十勝農業試験場において「ヒメユタカ」を母とし、「Clark Dt<sub>2</sub>」を父として人工交配し、以後選抜と固定を図り1986年より「十系735号」、1987年から「十育214号」の系統名で各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



**特性概要**

1. 主茎長は「トヨムスメ」と同様短茎、主茎節数は少、分枝数は「トヨムスメ」並の中である。伸育型は有限であり、熟莢色は淡褐を呈する。
2. 胚軸色および花色は紫、小葉は円葉、毛茸は白、直毛でその多少は中程度である。
3. 粒形は球、粒の大小は中の大で、種皮色は黄白、臍色は黄である。外観品質は「トヨムスメ」と同様上であり、裂皮粒の発生は「トヨスズ」より少ない。
4. 開花期は「トヨムスメ」より遅く、成熟期は「トヨムスメ」並の中であり、生態型は夏大豆に属する。
5. 耐倒伏性は強で、最下着莢節位は高い。ダイズシストセンチュウ抵抗性は弱、黒根病抵抗性は強、低温抵抗性は中、裂莢の難易は「ワセコガネ」と同じく難で

あり、コンバイン収穫に適する。

6. 子実収量は「トヨムスメ」より劣り、「トヨスズ」と同水準である。
7. 子実の粗蛋白含有率と粗脂肪含有率は中に分類され、豆腐加工適性は「トヨムスメ」並で、「キタムスメ」より優れる。

**栽培適地と奨励態度**

十勝、道央、網走内陸地域に適する。栽培上の注意は、コンバイン収穫では、汚粒発生が品質に大きく影響するので、ダイズわい化病や雑草の発生がないように防除を徹底し、ダイズシストセンチュウ抵抗性は弱なので、発生圃場への作付けは避け、適正な輪作のもとで栽培する。その他の肥培管理は従来の品種に準じて行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期における			10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	カリユタカ	7.24	10. 6	少	57	5.8	59.6	281	94	30.8	2下	1987~1990
	トヨムスメ	7.20	10. 4	微	52	4.5	53.6	298	100	36.0	2下	
	トヨスズ	7.19	10. 9	微	51	4.1	49.1	281	94	34.1	2下	
	ワセコガネ	7.17	10. 3	中	86	5.6	79.2	294	99	20.9	2下	
	キタコマチ	7.17	9.28	少	52	4.2	54.0	274	92	30.4	3中	
	キタムスメ	7.22	10. 6	少	74	5.9	63.3	320	107	31.8	2下	
北 見 農 試	カリユタカ	7.27	10. 4	微	58	5.7	72	279	98	29.3	2中	1987~1990
	トヨムスメ	7.23	10. 2	微	51	5.1	60	285	100	33.6	2中	
	トヨコマチ	7.22	9.27	微	53	5.0	58	282	99	32.0	2中	
上 川 農 試	カリユタカ	7.21	10. 1	少	74	4.7	76	348	109	30.7	2上	1987~1990
	キタコマチ	7.14	9.23	少	63	5.3	57	320	100	31.1	3中	
	トヨムスメ	7.17	10. 1	少	60	5.7	64	364	114	35.4	2中	

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 7-11(1991).  
 2) 田中義則 等, 北海道立農試集報, 65, 29-43(1993).

(5) 音更大袖 (原名 音更大袖) 1991年  
 登録番号: (北海道) 大豆準北海道第1号

**来歴** 本品種は、音更町中音更の農家が「大袖振」大豆から選抜し、1970年頃から栽培されていた在来種である。1964年の大冷害に早熟安定性が注目され、さらに1966年の冷害年以降は急速に普及し、産地品種銘柄として取引されるに至った。十勝農業試験場では、1985年から生産力検定予備試験に供試し、1988年からは道内関係機関で各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 主茎長は「早生緑」と同様の短茎、主茎節数は少、

分枝数は中である。伸育型は有限であり、熟莢色は褐色を呈する。

2. 胚軸色と花色は紫、毛茸色は褐、直毛でその多少は中程度である。
3. 粒形は扁球、粒の大小は大の小、種子色は緑、臍色は暗褐、外観品質は「早生緑」並かやや優る。
4. 開花期は中、成熟期も「キタムスメ」並の中であり、生態型は夏大豆に属する。
5. 耐倒伏性は中、ダイズシストセンチュウ抵抗性、ダイズ黒根病、ダイズわい化病、ダイズ茎疫病抵抗性はいずれも弱で、低温抵抗性は強である。
6. 子実収量は「早生緑」を上回り、製菓原料としては、

粒揃い及び味が良く評価が高い。

**栽培適地と奨励態度**

十勝・道央・網走内陸地域に適す。栽培上の注意は、

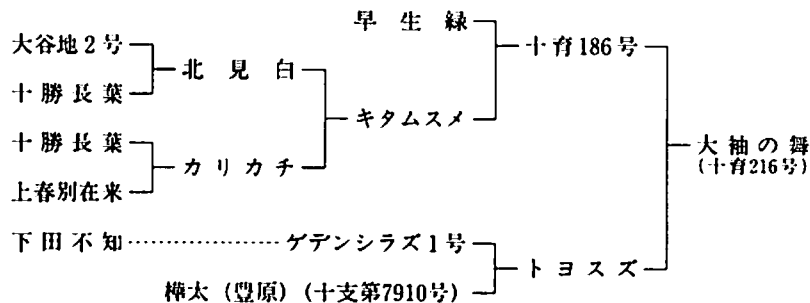
ダイズシストセンチュウ抵抗性が弱なので、発生圃場への作付けは避け、適正な輪作のもとで栽培する。その他の肥培管理及び防除は、従来の品種に準じて行う。

試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒伏 程度	10a 当り		百粒重 (g)	品質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	音更大袖	7.22	10. 2	54	6.1	50	少	291	111	36.9	3上	1988~1990
	早生緑	7.24	9.28	50	6.5	54	微	263	100	33.4	3中	
	キタムスメ	7.22	10. 6	74	6.0	65	少	333	127	32.4	3上	

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-32(1991)。

(6) 大袖の舞 (系統名 十育216号) 1992年  
登録番号: (北海道) 大豆北海道第34号  
(農水省) だいず農林98号  
(種苗法) 第4116号

来歴 本品種は、ダイズシストセンチュウ抵抗性強のあお豆品種の育成を目標として、1978年に北海道立十勝農業試験場において「十育186号」を母、「トヨスズ」を父として人工交配し、以後選抜と固定を図り、1985年より「十系720号」、1988年からは「十育216号」の系統名で各種の試験を行い、1992年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



**特性概要**

1. 主茎長は短、主茎節数は少、分枝数は中である。伸育型は有限であり、熟莢色は淡褐を呈する。
2. 胚軸色は緑、花色は白、小葉は円葉で毛茸色は白、直毛でその多少は中程度である。
3. 粒形は球、粒の大小は大の小、種皮色は緑、臍色は黄であり、外観品質は「早生緑」より優れ、裂皮の発生は「早生緑」よりやや多く、臍周辺の着色は「トヨムスメ」より少ない。
4. 開花期は「早生緑」より早く中の早、成熟期は中に分類される。
5. 耐倒伏性とダイズシストセンチュウ抵抗性は強、低

温抵抗性は中、黒根病抵抗性は弱、裂莢の難易は易である。

6. 子実収量は「トヨムスメ」並に多収である。
7. 製菓用原料としては、「音更大袖」とほぼ同等で「早生緑」より優れる。

**栽培適地と奨励態度**

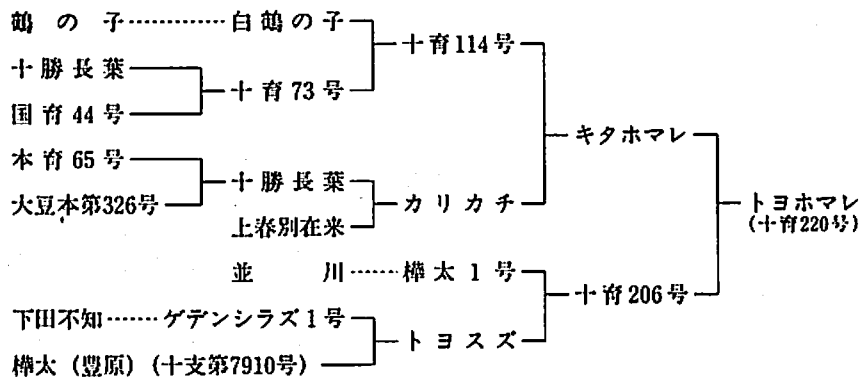
十勝、網走地域及びこれに準ずる地帯に適する。栽培上の注意は、ダイズわい化病抵抗性は弱なので、防除を徹底する。ダイズシストセンチュウに対して「トヨムスメ」並の抵抗性を持つが、栽培に当たっては適正な輪作を前提とし、収穫が遅れると種皮色が淡くなり、裂莢は易であるので、成熟後すみやかに収穫する。

試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒伏 程度	10a 当り		百粒重 (g)	品質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢数 (英)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	大袖の舞	7.16	10.4	46	5.7	59	微	319	115	34.4	2中	1988~1991
	早生緑	7.23	9.29	53	6.7	55	少	277	100	33.7	3中	
	音更大袖	7.23	10.3	58	6.3	52	少	301	109	37.5	3上	
	トヨムスメ	7.19	10.3	54	4.7	56	微	313	113	37.2	2下	
	キタムスメ	7.22	10.7	78	6.3	66	少	342	123	33.3	3上	
北見農試	大袖の舞	7.20	10.1	48	5.9	63	微	307	112	32.8	2中	1988~1991
	早生緑	7.27	9.28	56	6.8	59	少	278	100	33.8	2中	
	音更大袖	7.25	10.2	65	5.7	60	少	285	104	35.1	2下	

参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 3-5(1992).  
 2) 湯本節三等, 北海道立農試集報, 65, 45-59(1993).

(7) トヨホマレ (系統名 十育220号) 1994年  
 登録番号: (北海道) 大豆北海道第35号  
 (農水省) だいで農林99号  
 (種苗法) 出願中

来歴 本品種は, 白目でダイズシストセンチュウ抵抗性強及び安定多収品種の育成を目標とし, 1983年に北海道立十勝農業試験場において「キタホマレ」を母, 「十育206号」を父として人工交配し, 以後選抜と固定を図り, 1989年より「十系763号」, 1990年からは「十育220号」の系統名で各種の試験を行い, 1994年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

- 主茎長及び主茎節数は短及び少, 分枝数は少である。伸育型は有限であり, 熟莢色は淡褐を呈する。
- 胚軸色は緑, 花色は白, 小葉は円葉, 毛茸色は白, 直毛でその多少は中程度である。
- 粒形は球, 粒の大小は中の大, 種皮色は黄白で, 臍色は黄である。外観品質は「トヨムスメ」並であるが, 裂皮の発生は同品種より少ない。
- 開花期と成熟期は中に分類され, 生態型は夏大豆に属する。
- 耐倒伏性は強, ダイズシストセンチュウ抵抗性とダイズわい化病抵抗性は弱, 低温抵抗性は強であり, 着色粒の発生は「トヨムスメ」より少なく, 「トヨコマチ」

並である。

- 子実収量は「トヨムスメ」及び「キタムスメ」よりやや優る。
- 煮豆加工適性は「トヨムスメ」並に良く, 豆腐加工適性も同品種並に良好である。

栽培適地と奨励態度

網走, 十勝 (山麓, 沿海), 道央 (北部・中部の一部) 及びこれに準ずる地帯に適する。栽培上の注意は, ダイズわい化病抵抗性は弱なので, 防除を徹底するとともに, 圃場周辺の雑草化したクローバの除去に努め, ダイズシストセンチュウ抵抗性も弱なので, 発生圃場への作付けは避け, 適正な輪作のもとで栽培する。

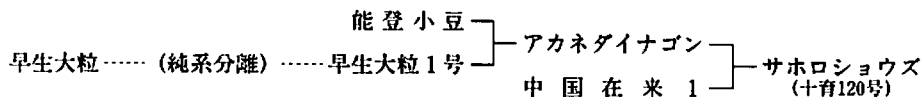
試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	トヨホマレ	7.24	10. 8	55	4.0	64.6	微	307	107	32.9	2下	1990~1993
	トヨムスメ	7.22	10. 7	57	4.7	54.6	微	287	100	35.3	2下	
	トヨコマチ	7.20	9.30	59	4.7	48.7	微	254	89	33.5	2中	
	キタムスメ	7.22	10.10	70	5.0	54.9	少	293	102	33.4	2下	
北見農試	トヨホマレ	7.25	10. 7	51	4.2	65.1	微	284	108	31.5	2上	1990~1993
	トヨムスメ	7.24	10. 6	50	4.4	52.0	少	262	100	33.6	3中	
	トヨコマチ	7.23	10. 1	54	4.5	53.2	少	262	100	32.8	2上	
	キタムスメ	7.26	10.12	71	4.8	65.2	中	283	108	31.0	2中	
上川農試	トヨホマレ	7.20	10. 6	67	5.0	76.8	少	323	99	31.2	2下	1990~1993
	トヨムスメ	7.20	10. 3	66	6.2	62.3	中	325	100	33.1	2下	
	トヨコマチ	7.21	9.28	67	5.0	59.9	少	302	93	31.7	3上	
	キタムスメ	7.22	10. 5	97	4.8	75.5	中	321	99	28.1	3中	
遺伝資源 センター	トヨホマレ	7.13	9.27	48	5.0	69.9	無	351	97	32.6	2下	1990~1993
	トヨムスメ	7.14	9.25	50	6.3	63.0	無	363	100	34.3	2中	
	トヨコマチ	7.13	9.21	49	5.4	55.5	無	314	87	32.9	2中	
	キタムスメ	7.14	9.29	70	5.3	74.6	無	398	110	30.8	2下	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 4-7(1994)。  
2) 湯本節三 等, 北海道立農試集報, 68, 33-49(1995)。

## 7. 小 豆

(1) サホロショウズ (系統名 十育120号) 1989年  
登録番号: (北海道) 小豆北海道第15号  
(農水省) あずき農林第7号  
(種苗法) 第2339号

来歴 本品種は, 大粒・多収品種の育成を目標とし, 1977年に北海道立十勝農業試験場で「アカネダイナゴン」を母, 「中国在来1」を父として人工交配を行い, 以後選抜と固定を図り1983年より「十系310号」, 1985年から「十育120号」の系統名で各種の試験を行い, 1989年に優良品種となった。なお, ほん品種の系譜は次のとおりである。



### 特性概要

1. 主茎長は「ハヤテショウズ」より短く, 主茎節数も少ない。分枝数は「ハヤテショウズ」より多く, 株当たり莢数は「ハヤテショウズ」よりやや多い。
2. 小葉の形は下位葉, 上位葉とも円葉, 毛茸の形は鈍で多少は少である。花色は黄, 莢の長さは中, 熟莢色は褐で, 子実の形は円筒, 大きさは中の大である。種皮色は赤で, 外観品質は「ハヤテショウズ」より優る。
3. 開花期は早の晩, 成熟期は早で「ハヤテショウズ」並であり, 早生種に属する。
4. 耐倒伏性は強, 低温抵抗性は中, 莖疫病及び落葉病

抵抗性はともに弱, ウイルス病抵抗性は中であり, いずれも「ハヤテショウズ」と同じである。

5. 子実収量は「ハヤテショウズ」並である。

### 栽培適地と奨励態度

十勝山麓・沿海, 網走, 道北, 道央北部及び道央羊蹄山麓とこれに準ずる地域に適し, 当該地域の「ハヤテショウズ」及び「茶殻早生」等に置き換えて普及する。栽培上の注意は, アズキ落葉病・アズキ莖疫病に対する抵抗性が弱いので適正な輪作を行う。また, 密植により多収が期待出来る。

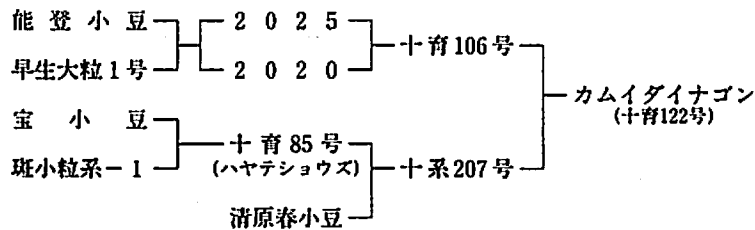
試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢 数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	サホロショウズ	8. 1	9.21	1.5	48	49	281	100	16.0	3中	1985~1988
	ハヤテショウズ	8. 1	9.22	1.7	52	47	280	100	13.4	4上	
	エリモショウズ	8. 5	9.26	1.8	56	43	310	111	14.9	4上	
北見農試	サホロショウズ	8. 2	9.18	0.6	35	38	236	99	15.9	3中	1985~1988
	ハヤテショウズ	8. 2	9.19	0.6	37	41	239	100	13.3	4上	
	エリモショウズ	8. 6	9.24	0.6	39	37	258	108	15.1	3中	
上川農試	サホロショウズ	7.24	9. 7	1.4	56	45	255	100	14.0	3中	1985~1988
	ハヤテショウズ	7.24	9. 7	1.4	58	46	256	100	11.1	3中	
	エリモショウズ	7.27	9.12	1.8	58	44	264	103	12.4	2中	
中央農試	サホロショウズ	7.27	9. 3	0.3	36	39	183	103	12.7	3中	1985~1988
	ハヤテショウズ	7.26	9. 4	0.4	37	39	177	100	10.2	4上	
	エリモショウズ	7.29	9.10	0.5	42	40	230	130	12.1	2下	

注 1) 倒伏程度は無:0, 微:0.5, 少:1, 中:2, 多:3, 甚:4で示し, 以下同じ。  
 2) 成熟期の莢数は株当たりの莢数であり, 以下同様である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 11-14(1989)。  
 2) 島田尚典等, 北海道立農試集報, 60, 59-72(1990)。

(2) カムイダイナゴン (系統名 十育122号) 1989年  
 登録番号: (北海道) 小豆北海道第16号  
 (農水省) あずき農林第8号  
 (種苗法) 第2340号

来歴 本品種は, 大粒・良質・多収品種の育成を目標とし, 1979年に北海道立十勝農業試験場において「十育106号」を母, 「十系207号」を父として人工交配を行い, 以後選抜と固定を図り, 1985年より「十系400号」, 1986年からは「十育122号」の系統名で各種の試験を行い, 1989年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長は「アカネダイナゴン」より長く, 主茎節数は中, 分枝数は中で「アカネダイナゴン」より少ない。
2. 小葉の形は下位葉, 上位葉とも円葉で大きい。毛茸の多少と形は少と鈍, 花色は黄である。
3. 子実は円筒, 大きさは極大に属し, 百粒重は「アカネダイナゴン」より30%以上重く, 種皮色は濃赤を呈し「アカネダイナゴン」よりやや濃い。
4. 開花期は「アカネダイナゴン」よりやや遅く中の晩, 成熟期も同じ中の晩である。

5. 耐倒伏性は弱, 低温抵抗性は中, 落葉病抵抗性は弱, 茎疫病抵抗性は中, ウイルス病抵抗性は強で「アカネダイナゴン」より強い。
6. 子実収量は「アカネダイナゴン」と同じ中であるが, 同品種と比べやや多い。

栽培適地と奨励態度

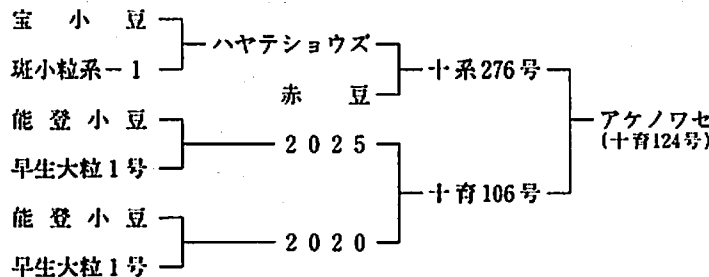
道南及び道央南部に適し, 同地域の大納言小豆 (アカネダイナゴン, その他) に置き換えて普及する。栽培上の注意は, 耐倒伏性が弱いので密植・多肥栽培は避け, アズキ落葉病に対する抵抗性が弱いので適正な輪作を行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢 数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
道南農試	カムイダイナゴン	7.27	9.12	1.0	46	34	262	104	26.1	4上	1987~1988
	アカネダイナゴン	7.27	9.12	0.5	42	43	252	100	17.9	4中	
中央農試	カムイダイナゴン	7.31	9.12	1.3	47	33	252	111	21.0	4上	1986~1988
	アカネダイナゴン	7.30	9.14	0.9	40	46	227	100	15.4	3下	

参照 1) 北海道農務部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 15-18(1989).  
2) 白井滋久 等, 北海道立農試集報, 60, 73-85(1990).

(3) アケノワセ (系統名 十育124号) 1992年  
登録番号: (北海道) 小豆北海道第17号  
(農水省) あずき農林第9号  
(種苗法) 第4112号

来歴 本品種は, 大粒・耐病 (落葉病, 茎疫病)・多収品種の育成を目標とし, 1981年に北海道立十勝農業試験場において「十系276号」を母, 「能登小豆」を父として人工交配を行いF<sub>2</sub>まで北海道立十勝農業試験場で, F<sub>3</sub>以降は北海道立上川農業試験場で選抜と固定を図り, 1986年より「十系420号」, 1988年からは「十育124号」の系統名で各種の試験を行い, 1992年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長は短であり「ハヤテショウズ」より短く, 主茎節数は少, 分枝数は少に属すが「ハヤテショウズ」より少ない。
2. 小葉の形は下位葉, 上位葉とも円葉であり, 毛茸の多少は少, 形は鈍, 花色は黄である。熟莢色は極淡褐で「ハヤテショウズ」とは異なる。
3. 子実の形は円筒, 大きさは中の少に属し百粒重は「ハヤテショウズ」より重く, 種皮色は同品種より鮮やかな赤である。
4. 開花期は中の早で「ハヤテショウズ」より遅く, 成

熟期は早であるが同品種並かやや遅い。

5. 耐倒伏性は強, 低温抵抗性は中, 萎凋病抵抗性は弱, ウイルス病抵抗性は中, 茎疫病及び落葉病抵抗性はともに強である。

栽培適地と奨励態度

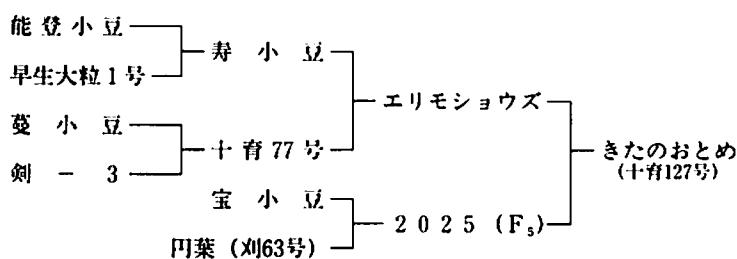
十勝山麓, 沿海, 網走, 道央北部, 道央羊蹄山麓及び道北の一部とこれに準ずる地帯で落葉病または茎疫病の常発地帯に適する。栽培上の注意は, 本品種は落葉病と茎疫病に抵抗性を持つが, 栽培に当っては適正な輪作を前提する。また, 密植により多収が期待でき, 刈り遅れによる品質低下を防ぐため適期収穫を行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢 数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	アケノワセ	7.29	9.16	0.0	43	56	312	91	13.7	3上	1988~1991
	ハヤテショウズ	7.27	9.16	0.3	52	56	342	100	12.3	3中	
	サホロショウズ	7.28	9.15	0.2	49	54	326	95	15.6	2下	
	ハツネショウズ	7.29	9.23	1.1	52	48	328	96	14.0	3中	
北見農試	アケノワセ	7.26	9.15	0.9	41	45	275	98	14.1	3上	1988~1991
	ハヤテショウズ	7.25	9.14	0.8	46	45	281	100	12.3	3上	
	ハツネショウズ	7.27	9.21	1.0	44	40	285	101	14.1	2下	
上川農試	アケノワセ	7.23	9.7	0.8	46	41	261	113	11.7	3上	1988~1991
	ハヤテショウズ	7.24	9.7	0.6	46	41	230	100	10.7	3下	
	サホロショウズ	7.25	9.13	1.1	45	37	240	104	11.5	3上	
	ハツネショウズ	7.24	9.11	0.7	46	39	252	110	13.0	2下	

参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 6-8(1989).  
 2) 島田尚典等, 北海道立農試集報, 64, 59-73(1992).

(4) きたのおとめ (系統名 十育127号) 1994年  
 登録番号: (北海道) 小豆北海道第18号  
 (農水省) あずき農林第10号  
 (種苗法) 出願中

来歴 本品種は, 耐冷・耐病 (落葉病)・多収品種の育成を目標とし, 1982年に北海道立十勝農業試験場において「エリモショウズ」を母, 「2025 (F<sub>5</sub>)」を父として人工交配を行い, 以後選抜と固定を図り, 1987年より「十系454号」, 1989年からは「十育127号」の系統名で各種の試験を行い, 1994年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



**特性概要**

1. 主茎長は中の短, 主茎節数は中で「ハツネショウズ」よりやや多く, 分枝数も多い。
2. 小葉の形は下位葉, 上位葉とも円葉であり, 毛茸の多少は少, 形は鈍, 花色は黄である。莢の長さは中で, 熟莢色は褐色である。
3. 子実の形は円筒, 大きさは中の小に属し, 百粒重は「ハツネショウズ」よりやや小さく, 種皮色は淡赤で「エリモショウズ」並で, 外観品質も「エリモショウズ」と同等である。
4. 開花期は中の早, 成熟期は中の早に分類され「エリモショウズ」並である。

5. 耐倒伏性と低温抵抗性は中, 茎疫病抵抗性とウイルス病抵抗性は弱, 萎ちょう病抵抗性と落葉病抵抗性は強である。

6. 子実収量は「ハツネショウズ」より多く, 「エリモショウズ」より少ない。

**栽培適地と奨励態度**

十勝中部, 道央中・南部及び道南とこれに準ずる地帯で落葉病と萎ちょう病の多発地帯に適する。栽培上の注意は, 本品種は落葉病と萎ちょう病に抵抗性を持つが, 栽培に当たっては適正な輪作を前提とし, 茎疫病には抵抗性を持たないので, 茎疫病の発生圃場での栽培は避ける。



試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程 度	成熟期の		10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢 数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	きたのおとめ	7.31	9.21	1.1	52	50	309	111	13.4	3上	1989~1993
	ハツネショウズ	7.31	9.23	0.7	45	43	279	100	13.9	3下	
	エリモショウズ	7.31	9.21	0.9	53	51	329	118	14.0	3上	
資源センター	きたのおとめ	7.21	9. 2	0.0	34	40	258	103	12.1	2下	1989~1993
	ハツネショウズ	7.21	9. 2	0.0	32	36	251	100	13.1	3中	
	エリモショウズ	7.22	9. 7	0.0	36	39	267	106	13.1	2下	
中央農試	きたのおとめ	7.24	9. 7	0.1	32	42	254	120	12.1	2下	1989~1993
	ハツネショウズ	7.24	9.10	0.1	29	36	212	100	12.7	3中	
	エリモショウズ	7.24	9. 8	0.1	35	40	260	123	12.5	2下	
道南農試	きたのおとめ	7.26	9.10	0.0	37	44	257	135	10.7	4中	1989
	ハツネショウズ	7.25	9. 9	0.0	33	35	191	100	9.1	4下	
	エリモショウズ	7.26	9.11	0.0	37	38	251	131	10.8	4上	

注) 資源センターは北海道立植物遺伝資源センターである。

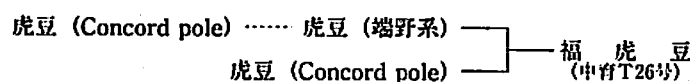
- 参照 1) 北海道農務部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 7-11(1994)。  
 2) 藤田正平等, 北海道立農試集報, 68, 17-31(1995)。

## 8. 菜 豆

(1) 福虎豆 (系統名 中育T26号) 1989年  
 登録番号: (北海道) 菜豆北海道第23号  
 (種苗法) 第2573号

来歴 本品種は早熟・多収の虎豆品種の育成を目標に,  
 1976年に北海道立中央農業試験場において「虎豆 (端野

系)」を母に、「虎豆」を父として人工交配を行い、以後  
 選抜と固定を図り、1983年より「T5803」、1985年からは  
 「中育T26号」の系統名で各種の試験を行い、1989年に  
 優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりで  
 ある。



### 特性概要

- 主茎長は「改良虎豆」より短く、伸育性と草型は無  
限つる性である。
- 胚軸色は緑色、花色は「白に微紅色を帯びる」であ  
る。莢の硬軟はやや硬、若莢の色は淡緑で斑紋はない。
- 子実は短楕円体で、色は白、臍の周囲には「淡肉色  
地に赤褐色の偏斑紋」がある。粒大は中の大に属し「改  
良虎豆」よりやや小さく、外観品質は「改良虎豆」と  
差がない。
- 開花期は「改良虎豆」と同じ、成熟期は同品種より  
10日程度早く晩の早である。
- インゲンモザイク病とインゲン黄斑モザイク病抵抗  
性は弱、インゲンかさ枯れ病抵抗性も弱、インゲン炭

そ病に対する抵抗性は、C3菌株に対しては極強、C  
13菌株に対しては中である。

- 総合的な加工適性は「改良虎豆」と差が無く、煮豆  
の原料に適する。

### 栽培適地と奨励態度

道内の虎豆栽培地帯に適する。現在栽培されている熟  
期の早い「虎豆在来種」は採種体系が整備されてい  
ないので、「虎豆在来種」に替えて栽培を奨励する。栽培上  
の注意は、「改良虎豆」の栽培に準じて良いが、各種の病害  
に弱いので無病種子の使用に努め、病害の防除を励行し  
する。また、密植で多収が期待できるので、「改良虎豆」  
より密植にすることが望ましい。

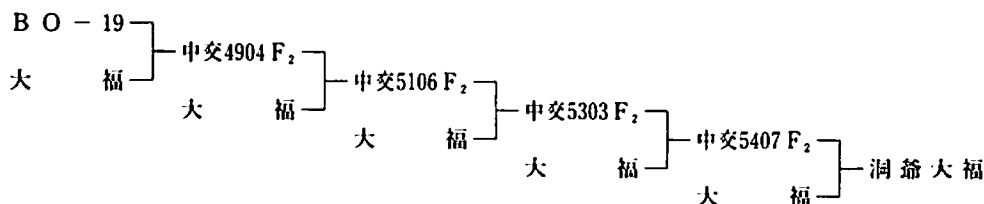
試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	着莢数 (個/株)	子実重 (kg/10a)	子実重比 (%)		百粒重 (g)	品質 (等級)	試験年次
								改良 虎豆比	虎豆 端野比			
中央農試	福虎豆	7.28	9.16	237	3.3	28.6	185	79	88	69.7	2	1985~1988
	改良虎豆	7.28	9.26	290	2.1	34.8	233	100	111	71.1	2	
	虎豆(端野)	7.28	9.24	283	2.3	32.6	210	90	100	71.5	2	

参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 19-21(1989)。

(2) 洞爺大福 (系統名 中育F12号) 1992年  
登録番号: (北海道) 菜豆北海道第24号  
(種苗法) 第4175号

「BO19」を母本, 「大福」を花粉親として交配したF<sub>2</sub>に, 「大福」を戻し交配する手順を4回繰り返した後代から選抜と固定を図り, 1987年より「中交5503-7」, 1989年からは「中育F12号」の系統名で各種の試験を行い, 1992年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。

来歴 本品種は, 1980年に北海道立中央農業試験場において大粒・良質・多収の大福類品種の育成を目標に



特性概要

1. 伸育性と草型は無限つる性に属し, 主茎長は長く, 胚軸色は緑, 花色は白, 莢の硬軟は硬である。
2. 子実は腎臓形で, 粒大は中の大, 種皮色は白で斑紋は無い。
3. 開花期は7月中旬, 成熟期は8月下旬~9月上旬で「改良早生大福」と同じで, 「大福」より10日早い中生種である。
4. インゲン黄斑モザイク病及びインゲンモザイク病抵抗性は「改良早生大福」や「大福」と同様弱である。

5. 子実収量は「改良早生大福」よりやや劣るが, 規格内収量は「改良早生大福」より多収である。
6. 煮豆, 甘納豆の原料として「改良早生大福」と同程度の加工適性を有する。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。現在栽培されている「改良早生大福」は年次や地域によって規格内収量が少なくなるので, 「改良早生大福」や「大福」の一部に置き換えて普及する。栽培上の注意は, 各種の病害に対して耐病性がないので, 無病種子の使用に努め, 防除を励行する。

試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	着莢数 (個/株)	子実重 (kg/a)	標準 対比 (%)	規格 内率 (%)	規格内 収量 (kg/a)	百粒重 (g)	厨豆 歩合 (%)	品質 (等級)	試験年次
中央農試	洞爺大福	7.17	9.3	32	21.1	92	86.3	18.3	72.8	7.5	3	1989~1991
	改良早生大福	7.17	9.3	35	23.0	100	48.7	11.2	63.2	4.5	3	
	大福	7.21	9.13	32	24.4	106	93.4	22.7	77.7	3.8	2	

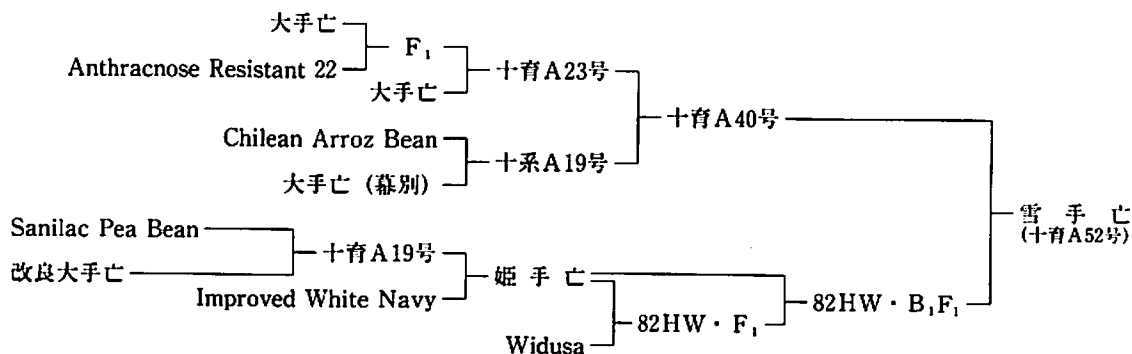
注) 規格内率は9.1mmの篩選別による。

参照 1) 北海道農務部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 13-15(1992)。  
2) 南忠等, 北海道立農試集報, 67, 19-28(1994)。

(3) 雪手亡 (系統名 十育A52号) 1992年  
 登録番号：(北海道) 菜豆北海道第25号  
 (種苗法) 第4713号

来歴 本品種は炭そ病抵抗性で良質、多収の手亡類品種の育成を目標とし、1983年に北海道立十勝農業試験場

において「十育A40号」を母、「82HW・B<sub>1</sub>F<sub>1</sub>」を父として人工交配し、以後選抜と固定を図り、1987年より「十系A154号」、1989年からは「十育A52号」の系統名で各種の試験を行い、1992年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 胚軸色は緑、伸育性と草型は有限叢生、草丈は高、主茎節数は中である。
2. 花は白、莢の硬軟な硬、若莢色は淡緑、斑紋色はなしである。
3. 子実は楕円体、大小は小、種皮色は白、環色は無である。
4. 開花期と成熟期は「姫手亡」並の中である。
5. 耐倒伏性は中、インゲン黄斑モザイク病及びモザイク病抵抗性は弱、炭そ病抵抗性と低温抵抗性は強である。

る。

6. 子実収量は「姫手亡」と同じ中であるが、やや多収である。
7. 原料豆の種皮歩合、煮熟及び製あん特性は「姫手亡」とほぼ同様であり、加工適性も同品種と同等である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円の「姫手亡」の一部と置き換えて普及し、クリーン農業・低コスト農業に寄与する。栽培上の注意は、インゲン炭そ病の茎葉防除は不要であり、その他の病害防除と肥培管理は、従来の品種に準じて行う。

試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程度	落葉 良否	草丈 (cm)	分枝数 (本/株)	莢数 (本/株)	10a当り		百粒重 (g)	品質 (等級)
									子実重 (kg)	同左比 (%)		
十勝農試	雪手亡	7.22	9.13	1.9	1.7	58	5.5	28.6	362	105	32.7	1
	姫手亡	7.22	9.13	2.0	2.7	53	5.7	29.6	344	100	32.7	2下
北見農試	雪手亡	7.22	9.17	1.8	2.6	50	6.3	29.1	354	108	35.3	1
	姫手亡	7.22	9.16	1.9		47	6.3	28.5	328	100	34.3	2上
上川農試	雪手亡	7.16	8.30	1.9	1.5	54	5.4	22.3	241	111	25.9	2上
	姫手亡	7.17	8.28	2.3	1.5	56	5.6	23.3	218	100	25.3	3中
センター	雪手亡	7.12	8.19	0	1.0	47	3.9	21.6	249	110	27.2	2中
	姫手亡	7.11	8.19	0	1.0	46	3.7	21.1	227	100	26.7	2下

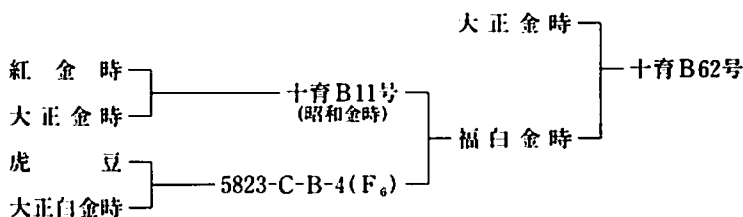
注 1) 試験年次：1989～1991年。  
 2) 倒伏程度：0(無)～4(甚)、落葉良否：1(良)～5(不良)で示し、以下同様である。  
 3) センターは北海道立植物遺伝資源センターである。

参照 1) 北海道農務部編、平成4年普及奨励ならびに指導参考事項、9-13(1992)。  
 2) 品田裕二等、北海道立農試集報、66、25-34(1994)。

(4) 福勝 (系統名 十育B62号) 1994年  
 登録番号：(北海道) 菜豆北海道第26号  
 (種苗法) 出願中

来歴 本品種は、早生で多収・大粒良質の金時類の育成を目標とし、1985年に北海道立十勝農業試験場におい

て「大正金時」を母、「福白金時」を父として人工交配をし、以後固定と選抜を図り、1990年より「十系B185号」、1991年からは「十育B62号」の系統名で各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 胚軸色は淡赤紫で、伸育性と草型は有限矮性であり、草丈は「大正金時」よりやや高く、主莖節数は少である。花色は淡赤紫、莢の硬軟は硬、若莢色は緑、斑紋は無である。
2. 子実は楕円体、大きさは大、種皮色は赤紫で斑紋は無く、環色は無である。
3. 開花期と成熟期は「大正金時」と同じ早であるが1～2日遅く、「北海金時」よりは早い。
4. 耐倒伏性は中、葉落ちの良否はやや良で、インゲン黄化病抵抗性は「北海金時」より弱く「大正金時」並、

インゲン黄斑モザイク病及び炭そ病抵抗性は「大正金時」と同じ弱である。

5. 子実収量は「大正金時」より多収である。
6. 加工適性は総じて「大正金時」と同等である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は、草丈がやや高く、倒伏を招くことがあるので多肥栽培はさけ、大粒なので脱穀時の粒の損傷に注意する。また、インゲン黄化病の防除を徹底するとともに、圃場の雑草化したクローバの除去に努める。その他の病害防除と肥培管理は、従来の品種に準じて行う。

試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程度	落葉 良否	草丈 (cm)	分枝数 (本/株)	莢数 (本/株)	10a当り		百粒重 (g)	品質 (等級)
									子実重 (kg)	同左比 (%)		
十勝農試	十育B62号	7.16	9.11	0.9	1.8	40	3.3	12.3	272	113	95.0	2下
	大正金時	7.15	9.9	0.5	3.5	38	3.3	12.8	241	100	77.5	3上
	北海金時	7.14	9.16	0.7	3.6	43	3.2	12.3	261	117	95.3	3中
北見農試	十育B62号	7.12	9.10	1.5	1.6	41	3.1	15.8	307	114	99.1	3上
	大正金時	7.11	9.8	1.3	2.0	37	3.3	16.2	270	100	81.2	3上
	北海金時	7.11	9.17	1.4	2.2	42	3.3	13.8	343	127	98.8	3上
上川農試	十育B62号	7.10	8.31	0.5	1.8	40	4.0	13.9	265	148	77.0	1上
	大正金時	7.9	8.30	1.0	3.0	38	4.1	11.9	179	100	63.5	2中
	北海金時	7.9	9.4	0.3	3.1	43	4.0	12.0	218	122	77.6	2中
資源センター	十育B62号	7.5	8.17	0.0	1.8	29	1.5	10.2	169	109	71.6	2中
	大正金時	7.4	8.16	0.0	2.0	29	2.1	9.8	156	100	63.9	2中
	北海金時	7.4	8.20	0.0	2.7	31	1.7	9.2	187	120	78.5	2上

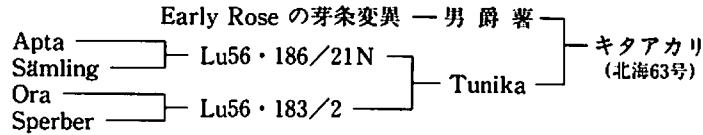
注) 資源センターは北海道立植物遺伝資源センターである。

参照 1) 北海道農務部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 12-15(1994)。

## 9. 馬 鈴 しよ

(1) キタアカリ (系統名 北海63号) 1987年  
 登録番号：(北海道) ばれいしよ北海道第19号  
 (農水省) ばれいしよ農林29号  
 (種苗法) 第1812号

来歴 本品種は1975年に農林水産省北海道農業試験場において、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性の食用品種育成を目標に「男爵薯」を母とし、「ツニカ」を父として交配を行った組み合わせから選抜したもので、1980年より「島系524号」、1981年からは「北海63号」の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



### 特性概要

1. 茎長は「男爵薯」より長く、「農林1号」より短く両品種の間で、茎数は中、分枝数は少なく、茎の太さは中である。
2. 茎色は緑色を基調に基部に赤紫色の斑点があり、茎翼は直である。萌芽時の葉色は赤紫を帯び、生育が進むと緑色になる。小葉はやや大きく、花色は赤紫色、花数や大きさは中、花卉の先端は両面とも白で花粉量が多く、結果する。
3. 塊茎の形は扁球形、皮色は白黄色、目の部分に赤紫色の着色がある。表皮はやや粗く、芽の深さや数は中、塊茎の大きさは「男爵薯」並かやや小さく、肉色は黄色、肉質はやや粉質である。
4. 萌芽、初期生育とも「男爵薯」並で「農林1号」より良く、茎葉黄変期は「男爵薯」より1～2日遅い早生種に属する。
5. でん粉価は16～17%で「男爵薯」より1%程度高く、いも数型の品種で、上いも1個重の増加はやや遅く、

大きさは「男爵薯」並かやや小さいが、中以上いも収量は「男爵薯」より10%多い。

6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病抵抗性と塊茎腐敗抵抗性は弱、軟腐病抵抗性は中、粉状そうか病はやや弱、ウイルス病に対する抵抗性はない。
7. 水煮塊茎の肉質はやや粉状、煮崩れ程度は「男爵薯」並の中、舌ざわりはやや滑、水煮黒変は認められず、食味は「男爵薯」並の中の上である。

### 栽培適地と奨励態度

道央地域で特にジャガイモシストセンチュウ発生地帯に優先して普及する。栽培上の注意は、施肥量や栽植密度など栽培管理は「男爵薯」に準ずる。密植は中、小いもを増加し経済収量の増加につながらないので、10a当たり3,500～4,000株とする。排水不良地では、生育後期の大雨などによって塊茎腐敗の多発を招く恐れがある。「男爵薯」と同様に疫病に弱いので、疫病の防除に留意する。

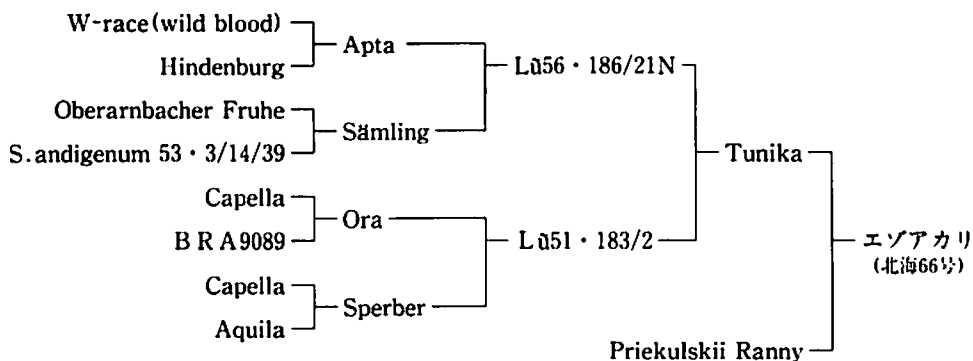
試験場名	品 種 名	萌 芽 期 (月日)	枯 凋 期 (月日)	茎 長 (cm)	株 上 当 り いも数 (個)	上 いも 一 個 平均重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同 左 比 (%)	試験年次
							上 収 いも量 (kg)	同 左 比 (%)	中 以 上 いも 収量 (kg)	同 左 比 (%)			
北海道農試	キタアカリ	6. 1	9. 3	46	10.1	91	3,155	112	2,714	110	17.1	106	1981～1986
	男 爵 薯	6. 3	9. 1	38	8.8	94	2,810	100	2,463	100	16.1	100	
	農 林 1 号	6. 1	9.27	56	8.3	129	3,560	127	3,373	137	16.2	101	
中央農試	キタアカリ	5.30	9. 4	51	11.8	85	3,817	108	3,078	98	15.2	105	1982～1986
	男 爵 薯	5.30	9. 1	40	9.1	103	3,536	100	3,146	100	14.5	100	
	農 林 1 号	5.30	9.24	62	9.5	124	4,480	127	4,196	133	14.9	103	
上川農試	キタアカリ	6. 4	9.14	50	12.8	83	3,514	117	2,840	108	17.0	103	1981～1986
	男 爵 薯	6. 4	9. 7	33	9.9	92	3,014	100	2,618	100	16.5	100	
	農 林 1 号	6.16	10. 7	75	8.5	126	4,177	130	3,919	148	16.6	113	

注) 試験成績は標準施肥区

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励並びに指導参考事項, 28-32(1987)。

(2) エゾアカリ (系統名 北海66号) 1987年  
 登録番号：(北海道) ばれいしょ北海道第20号  
 (農水省) ばれいしょ農林30号  
 (種苗法) 第1813号

来歴 本品種は、1972年に農林水産省北海道農業試験場において、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性の食用品種育成を目標に「ツニカ」を母とし、「Priekulskii Ranny」を父として、交配を行った組み合わせから選抜したもので、1981年より「島系529号」、1982年からは「北海66号」の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. そう性はやや開張型、茎長は「男爵薯」と「農林1号」の中間、茎は緑色、茎葉は直でやや細く、分枝数は少ないが茎数はやや多い。
2. 萌芽時の茎色は淡緑色、小葉の形・大きさともに「男爵薯」に類似するが色調は異なりやや淡い。小葉の着生は「男爵薯」よりやや疎の中に属し、花色は白、花数は少なく、花粉量が多く稀に結果する事がある。
3. 塊茎の形は球、皮色は白黄色、表皮はやや粗、目の深さと数は中、肉色は淡黄色で肉質は粘質、塊茎はやや小さく、塊茎の着生は密でふく枝は短い。
4. 萌芽と初期生育はともに「男爵薯」より早く、茎葉黄変期は「男爵薯」より3～5日、「ワセシロ」より約9日遅い早生種に属する。
5. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病抵抗性は弱、塊茎腐敗に対する抵抗性は中、粉状そうか

病抵抗性は強、青枯病は弱、塊茎軟腐病はやや弱、ウイルス病に抵抗性はない。

6. 水煮塊茎の肉質は粘質で煮くずれ程度は微、舌触りは「男爵薯」並のやや滑、「男爵薯」程度の水煮黒変を生じ、食味は「男爵薯」並の中の上である。

栽培適地と奨励態度

道内食用馬鈴しょ栽培地帯向けであるが、特にジャガイモシストセンチュウ発生地帯に普及を優先する。栽培上の注意は、施肥量・栽植密度等の栽培管理は「男爵薯」に準ずるが、密植は中以下のいも重割合が増加し、必ずしも経済収量の増加にならないので、10a当たり3,500～4,000株とする。また、茎がやや細く倒伏しやすいので、茎葉の軟腐病発生地帯では、防除対策が必要である。さらに、疫病抵抗性は「男爵薯」並に弱いので防除対策が必要であり、萌芽が「男爵薯」より早いので、種いもは施設貯蔵が望ましい。

試験場名	品種名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎長 (cm)	株上り数 (個)	上いも平均重 (g)	10a当り				でん粉価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上収量 (kg)	同左比 (%)	中いも収量 (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	エゾアカリ	5.31	9.5	46	11.1	95	3,588	128	3,513	128	15.9	99	1981～1986
	男爵薯	6.3	9.1	38	8.8	94	2,810	100	2,463	100	16.1	100	
	農林1号	6.1	9.27	56	8.3	129	3,560	127	3,373	137	17.4	108	
中央農試	エゾアカリ	5.27	9.3	54	11.7	97	4,317	122	3,644	116	14.9	103	1982～1986
	男爵薯	5.30	9.1	40	9.1	103	3,536	100	3,146	100	14.5	100	
	農林1号	5.29	9.24	62	9.5	124	4,480	127	4,196	133	14.9	103	

試験場名	品種名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	莖長 (cm)	株上り数 (個)	上りも平均重 (g)	10 a 当り				でん粉価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上りも収量 (kg)	同左比 (%)	中上りも収量 (kg)	同左比 (%)			
上川農試	エゾアカリ	5.31	9.10	47	12.6	87	3,622	121	3,090	118	17.5	104	1981~1986
	男爵薯	6.3	9.9	34	10.0	91	3,000	100	2,614	100	16.8	100	
	農林1号	6.1	10.11	58	10.5	116	4,013	134	3,725	143	18.4	109	
十勝農試	エゾアカリ	5.28	9.8	64	11.5	88	4,401	117	3,682	118	14.5	99	1981~1986
	男爵薯	5.30	9.8	46	9.7	90	3,746	100	3,125	100	14.6	100	
	農林1号	5.28	9.30	77	9.7	109	4,605	123	4,236	136	16.5	113	
北見農試	エゾアカリ	6.8	9.15	80	11.1	88	4,271	115	3,680	108	14.4	106	1981~1986
	男爵薯	6.9	9.10	54	9.1	107	3,725	100	3,395	100	13.6	100	
	農林1号	6.9	10.6	92	8.7	143	4,712	126	4,464	132	17.2	126	

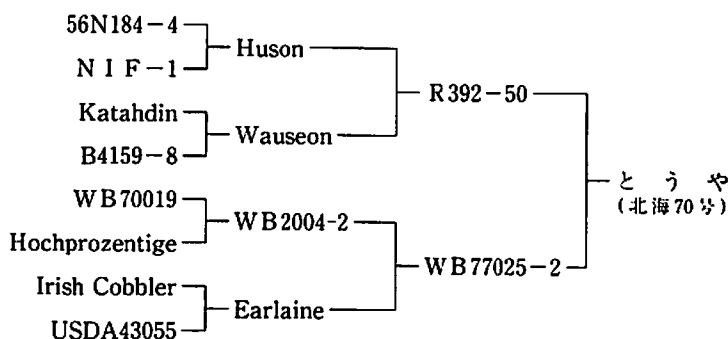
注) 試験成績は標準施肥区

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励並びに指導参考事項, 32-36(1987)。

(3) とうや (系統名 北海70号) 1992年  
登録番号: (北海道) ばれいしょ北海道第21号  
(農水省) ばれいしょ農林31号  
(種苗法) 第4232号

来歴 本品種は早期肥大及びジャガイモシストセンチュウ抵抗性の食用品種育成を目的として, 1981年に農

林水産省北海道農業試験場において「R392-50」を母, 「WB77025-2」を父として交配した組み合わせから選抜したもので, 1987年より「島系546号」, 1988年からは「北海70号」の系統名で各種の試験を行い, 1992年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



#### 特性概要

1. 莖は太くて緑色で基部が紫, 分枝数が少ない。莖長は「男爵薯」よりやや長く, 葉は大きくて光沢があり, 厚くてややでこぼこしている。
2. 着葉はやや疎, 葉色は緑, 花色は白でおおきさは中位, 自然結果し, 果実はごく大である。
3. 塊茎は球, 目は浅くて少なく, 皮色は褐色を帯びた黄色で表面がやや粗い。肉色は黄で均一, 中心空洞は無く, 褐色心腐も少ない。いも着生はやや密, 粒揃いが良く, 平均一個重は「ワセシロ」並に大きい。
4. 萌芽と初期生育は「男爵薯」並, 枯凋期は2~3日

早い。

5. ジャガイモシストセンチュウに抵抗性を有し, 粉状そうか病と塊茎腐敗抵抗性は弱, ウイルス病の発生は「男爵薯」や「農林1号」より少ない。

6. 剥皮しやすく, 歩留まりが高く, 剥皮褐変や水煮黒変が少なく, 煮くずれも少ないため業務用に適する。

#### 栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は, でん粉価の低下や裂開を防ぐため, 多窒素を避け密植とする。浴光催芽を十分に行い初期生育の促進に努め, 「男爵薯」に比べ緑化いもとなりやすいので注意する。

試験場名	品種名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎長 (cm)	株上り 数(個)	1個平均 重(g)	10a当り				でん粉 価(%)	同左 比(%)	試験年次
							上り 量(kg)	同左 比(%)	中上り 量(kg)	同左 比(%)			
北海道農試	とうや	5.31	8.25	42	8.6	119	3,474	112	3,181	119	15.6	98	1986~1991
	男爵薯	5.31	9.1	34	10.0	92	3,103	100	2,662	100	15.9	100	
	ワセシロ	5.30	8.26	41	5.7	145	2,950	95	2,835	106	16.5	104	
根釧農試	とうや	6.13	9.14	52	8.2	124	3,754	104	3,485	108	13.1	94	1987~1991
	男爵薯	6.12	9.12	47	9.0	103	3,607	100	3,215	100	14.0	100	
	ワセシロ	6.13	9.12	58	7.2	140	3,910	108	3,740	116	14.9	106	
十勝農試	とうや	5.27	8.26	59	9.2	111	4,450	110	4,016	119	14.0	89	1987~1991
	男爵薯	5.24	8.26	46	10.6	87	4,031	100	3,376	100	15.7	100	
	ワセシロ	5.27	8.30	77	7.9	125	4,250	105	4,007	119	15.9	101	
北見農試	とうや	6.4	9.4	64	8.6	138	4,356	111	4,118	113	13.3	92	1988~1991
	男爵薯	6.2	9.5	44	9.3	114	3,940	100	3,632	100	14.5	100	
	ワセシロ	6.4	9.8	58	7.0	179	4,684	113	4,592	117	14.1	97	
上川農試	とうや	6.1	9.2	52	9.4	107	3,317	107	2,977	107	15.3	94	1988~1991
	男爵薯	5.31	9.4	40	9.7	95	3,092	100	2,760	100	16.2	100	
	ワセシロ	6.5	9.3	59	8.6	116	3,320	124	3,084	134	18.2	112	
中央農試	とうや	5.30	8.21	48	8.4	116	3,692	122	3,207	147	15.0	99	1988~1991
	男爵薯	5.29	8.25	38	9.5	80	3,034	100	2,186	100	15.2	100	
	ワセシロ	5.27	8.20	54	8.1	101	3,082	102	2,660	122	16.8	111	

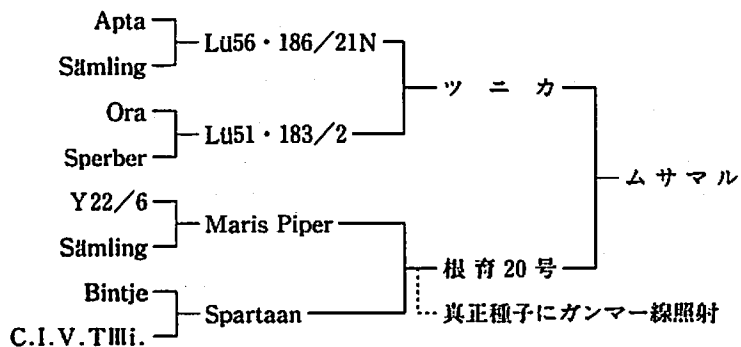
注) 試験成績は標準施肥区

参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 16-19(1992)。

(4) ムサマル (系統名 根育22号) 1992年

登録番号: (北海道) ばれいしょ北海道第22号  
(農水省) ばれいしょ農林32号  
(種苗法) 第4110号

来歴 本品種は, ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し油加工適性の高い品種の育成を目標とし, 1980年に北海道立根釧農業試験場において「ツニカ」を母, 「根育20号」を父として人工交配し, 以降選抜を図り, 1986年より「根系60号」, 1988年からは「根育22号」の系統名で各種の試験を行い, 1992年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。





特性概要

1. そう性はやや開張で、茎長は「農林1号」より長く、茎の太さの中、分枝数は「農林1号」並の中、頂小葉は「ホッカイコガネ」並の大きさであるが、小葉は「ホッカイコガネ」より小さく「農林1号」並の中である。
2. 花の数は中、大きさは大きく、花色は赤紫、花粉の多少は中、稀に結果する。
3. 塊茎は卵形、皮色は黄褐、表皮はやや粗く、目の数は中、深さは「農林1号」よりやや浅く、肉色は淡黄である。
4. 初期生育は「ホッカイコガネ」より優り「農林1号」並の中、枯凋期は両品種並で中晩生に属す。
5. 上いも重及び中以上いも重は多、上いも数は「ホッカイコガネ」や「農林1号」よりやや少なく、粒揃い

はやや整、でん粉価は両品種より高い。

6. 中心空洞の発生は微、褐色心腐は「ホッカイコガネ」より多く「農林1号」より少ない。ジャガイモシストセンチュウに抵抗性を有し、疫病による塊茎腐敗抵抗性は強、青枯病と粉状そうか病抵抗性は弱である。
7. 水煮の肉質はやや粉状、水煮後黒変は微で「ホッカイコガネ」より多く「農林1号」より少なく、舌ざわりは「農林1号」並の中である。食味は「農林1号」より優り「ホッカイコガネ」並で、「ホッカイコガネ」並のフレンチフライ加工適性を持っている。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は、褐色心腐が発生することがあるので、乾燥しやすい圃場への作付けは避ける。

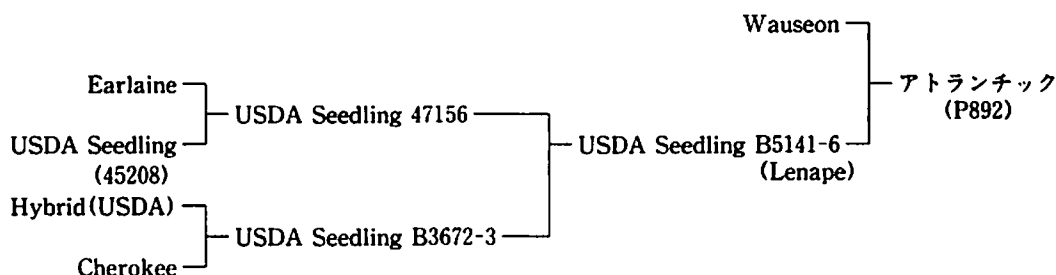
試験場名	品 種 名	開 花 期 (月日)	枯 凋 期 (月日)	茎 長 (cm)	株 上 当 り 数 (個)	上 い も 一 個 平 均 重 (g)	10 a 当り				でん 粉 価 (%)	試 験 年 次
							上 収 い も 量 (kg)	同 左 比 (%)	中 上 い も 収 量 (kg)	同 左 比 (%)		
根 釧 農 試	ム サ マ ル	7.27	10. 8	76	8.7	144	4,713	107	4,488	111	18.0	1985~1991
	ホ ッ カ イ コ ガ ネ	7.27	10. 7	77	9.6	121	4,386	100	4,016	100	15.7	
	ト ヨ シ ロ	7.24	9.15	55	9.5	110	4,002	91	3,669	90	15.7	
	農 林 1 号	7.22	10. 8	66	9.3	129	4,612	105	4,318	106	16.3	
北 海 道 農 試	ム サ マ ル	7. 8	9.25	71	9.4	137	4,384	120	4,146	123	19.2	1986~1991
	ホ ッ カ イ コ ガ ネ	7. 8	9.22	63	9.5	115	3,645	100	3,362	100	15.8	
	ト ヨ シ ロ	7. 5	9. 2	43	8.9	110	3,305	91	2,989	89	17.4	
	農 林 1 号	7. 3	9.24	57	8.8	136	4,069	112	3,867	115	16.8	
中 央 農 試	ム サ マ ル	7. 2	9.16	59	11.4	105	4,481	106	3,822	119	16.5	1985~1991
	ホ ッ カ イ コ ガ ネ	7. 2	9.19	61	13.7	81	4,211	100	3,200	100	15.4	
	ト ヨ シ ロ	6.29	8.31	50	11.8	91	3,980	95	3,197	100	16.3	
	農 林 1 号	6.27	9.14	55	11.8	100	4,429	105	3,896	122	15.6	
上 川 農 試	ム サ マ ル	7. 6	10. 7	64	11.7	107	4,096	123	3,658	131	20.1	1988~1991
	ホ ッ カ イ コ ガ ネ	7. 5	9.29	64	12.1	85	3,332	100	2,794	100	17.1	
	ト ヨ シ ロ	7. 3	9. 7	49	10.0	99	3,234	97	2,834	101	17.5	
	農 林 1 号	7. 1	10. 6	56	10.7	106	3,742	112	3,409	122	17.5	
十 勝 農 試	ム サ マ ル	7. 6	9.25	93	9.6	122	5,139	107	4,768	109	17.8	1986~1991
	ホ ッ カ イ コ ガ ネ	7. 6	9.25	90	10.4	104	4,782	100	4,366	100	16.6	
	ト ヨ シ ロ	7. 4	9. 2	64	10.7	99	4,548	95	3,949	90	16.8	
	農 林 1 号	6.30	9.21	74	10.2	106	4,788	100	4,417	101	16.0	
北 見 農 試	ム サ マ ル	7.12	10. 8	89	8.1	166	5,022	121	4,823	123	17.3	1987~1991
	ホ ッ カ イ コ ガ ネ	7.11	10. 4	81	8.2	135	4,136	100	3,906	100	14.7	
	ト ヨ シ ロ	7. 6	9.10	60	9.8	122	4,461	108	4,126	106	15.9	
	農 林 1 号	7. 4	10.10	75	8.8	152	4,921	119	4,714	121	16.5	

注) 試験成績はいずれも標準区

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 20-24(1992).  
 2) 村上紀夫 等, 北海道立農試集報, 66, 35-48(1994).

(5) アトランチック (系統名 P892) 1992年  
 登録番号：(北海道)ばれいしょ北海道(輸)第  
 15号

来歴 本品種は、カルビーポテト株式会社が米国より  
 輸入したもので、1988年より「C2」、1989年からは「P  
 892」の系統名で各種の試験を行い、1992年に優良品種と  
 なった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. そう性は直立型、莖長は「トヨシロ」よりやや短く、分枝数はやや少ない。莖は緑色で一部淡赤紫を帯ており、葉色は緑、小葉は大きく幅がやや広い。花は大きく、花色はごく薄い淡青紫、花数がやや多く自然結果は認められない。
2. 塊茎は球形で大きく、揃いが良く、着生はやや疎である。皮色は黄褐色、表皮はざらざらし、目の数は少なく浅い。外観はやや良く、肉色は「トヨシロ」と同じ白である。
3. 萌芽期は「トヨシロ」並、熟期は中生に属し「トヨシロ」より10日程遅い。中以上いも収量は「トヨシロ」並かやや優り、でん粉価は高い。

4. ジャガイモシストセンチュウに抵抗性を有し、疫病菌による塊茎腐敗は中、中心空洞は殆ど認められないが、褐色心腐が発生しやすい。
5. 肉質は粉質、煮くずれは「トヨシロ」並で「ホッカイコガネ」より多く、水煮後黒変はわずかである。
6. ポテトチップカラーは、年内処理では「トヨシロ」に比べやや劣る傾向にあるが、長期低温貯蔵後やリコンデショニング後は「トヨシロ」や「農林1号」より優る。用途はポテトチップ用である。

栽培適地と奨励態度

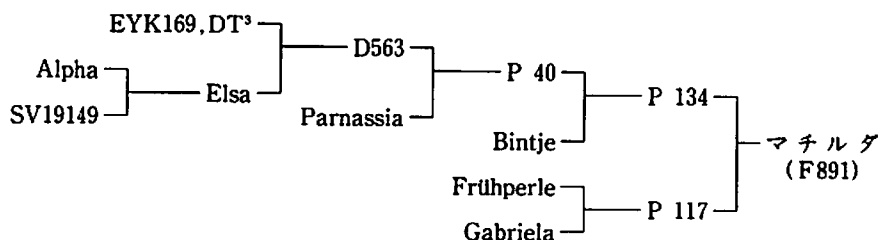
道東、道北、道央北部及びこれに準ずる地帯に適する。栽培上の注意は、褐色心腐が発生しやすいため、乾燥地をさけ、十分な培土を行い、窒素の多用や疎植をさける。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯調期 (月日)	莖長 (cm)	株上いも 数(個)	上いも 平均重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	試験年次
							上いも 量 (kg)	同左 比 (%)	中いも 以上 量 (kg)	同左 比 (%)		
中央農試	アトランチック トヨシロ	5.27	9.5	47	8.5	123	3,964	104	3,683	117	16.5	1989~1991
		5.28	8.25	51	10.7	95	3,803	100	3,159	100	16.9	
上川農試	アトランチック トヨシロ	5.29	9.14	45	9.5	105	3,458	105	3,236	110	19.7	1989~1991
		5.31	9.6	47	9.8	103	3,285	100	2,938	100	17.5	
十勝農試	アトランチック トヨシロ	5.23	9.8	55	8.9	110	4,310	97	3,967	100	17.4	1989~1991
		5.24	9.2	65	9.3	109	4,433	100	3,971	100	16.8	
北見農試	アトランチック トヨシロ	6.1	9.18	53	8.0	134	3,995	93	3,828	97	16.4	1989~1991
		6.1	9.6	60	9.9	116	4,307	100	3,964	100	15.7	
根釧農試	アトランチック トヨシロ	6.12	10.4	52	8.2	117	3,666	103	3,413	103	17.9	1989~1991
		6.11	9.14	49	8.5	111	3,572	100	3,314	100	15.9	

参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-27(1992)。

(6) マチルダ (系統名 F891) 1993年  
 登録番号：(北海道) ばれいしょ北海道 (輸) 第  
 24号

来歴 本品種はスウェーデンのSvalöf社が「P134」を母、「P117」を父として交配し、以後選抜を加え、「Matilda」の名で公開されたものをホクレン農業協同組合連合会が導入し、1989年から各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. そう性は中間型、茎長は「農林1号」並かやや長く、葉色は淡緑、小葉の大きさは中、花色は白、自然結果は少から中程度認められる。
2. 塊茎は卵形で揃いが良く、皮色は黄、表皮はやや粗い。目は浅く外観が良く、肉色は黄白である。
3. 萌芽期及び開花期は「男爵薯」よりやや遅く、枯凋期は中晩生に属し、「農林1号」よりやや遅い。上いも重は「男爵薯」より優り「農林1号」並かやや劣り、でん粉価は「男爵薯」並かやや高い。
4. 疫病に対する圃場抵抗性が強く、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性遺伝子は保有していない。そうか病には抵抗性は認められない。褐色心腐及び中心空洞は殆どみられないが、二次生長が発生することがある。
5. 肉質は「男爵薯」よりやや粘質で、煮くずれは少な

く、舌ざわりがやや滑らかであるが、でん粉価が高い場合はやや粉質となり、煮くずれが増加する。調理後黒変は殆どみられない。

6. 剥皮歩留まり及び作業性は「男爵薯」より優り、蒸しめ及び加工品の食味は総じて良好で、用途は、生食用及び油加工以外の加工食品用である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は、疫病の抵抗性がかなり強いので、防除回数が軽減出来る。小粒完熟塊茎の生産を主な目的とするので、窒素の多用及び疎植を避ける。ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持たないので、同センチュウの棲息圃場には作付けしない。また、そうか病には既存品種並に罹病するので、同病の発生圃場には作付けしない。

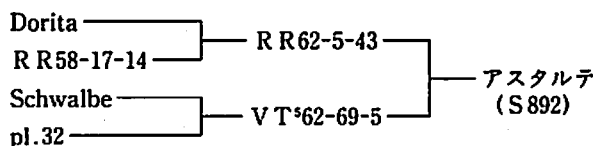
試験場名	品種名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎長 (cm)	株上り数 (個)	上いも平均重 (g)	10 a 当り				でん粉価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上りも量 (kg)	同左比 (%)	中いも以上も量 (kg)	同左比 (%)			
中央農試	マチルダ	5.31	9.26	61	16.7	65	4,100	121	2,448	92	15.1	97	1989~1992
	男爵薯	5.27	8.25	39	10.7	81	3,381	100	2,660	100	15.3	100	
	農林1号	5.26	9.18	55	12.2	94	4,487	133	3,921	136	16.2	106	
上川農試	マチルダ	6.1	10.2	65	20.0	66	4,309	131	3,081	107	17.8	109	1989~1992
	男爵薯	5.30	9.4	36	10.6	94	3,279	100	2,873	100	16.4	100	
	農林1号	5.28	10.2	57	11.0	110	3,987	122	3,661	127	18.4	112	
十勝農試	マチルダ	5.30	9.24	90	15.8	67	4,679	120	3,286	102	15.9	101	1989~1992
	男爵薯	5.24	8.27	43	10.4	86	3,900	100	3,231	100	15.8	100	
	農林1号	5.23	9.21	76	10.4	100	4,585	118	4,171	129	16.3	103	
根釧農試	マチルダ	6.15	10.6	73	13.7	77	4,022	119	3,163	105	16.3	116	1989~1992
	男爵薯	6.12	9.15	46	8.8	101	3,391	100	3,009	100	14.0	100	
	農林1号	6.11	10.8	63	9.2	130	4,526	133	4,226	140	17.1	120	

試験場名	品種名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎長 (cm)	株上り も数 (個)	上りも 平均 重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同左 比 (%)	試験年次
							上りも 量 (kg)	同左 比 (%)	中上り も量 (kg)	同左 比 (%)			
北見農試	マチルダ	6.4	9.23	83	17.1	73	4,884	123	3,603	99	14.6	102	1989~1992
	男爵薯	6.1	9.1	45	9.0	113	3,959	100	3,637	100	14.3	100	
	農林1号	5.31	9.28	74	8.8	133	4,530	114	4,289	118	16.0	112	
北海道農試	マチルダ	6.3	9.28	70	16.4	71	3,934	113	2,913	101	15.2	99	1989~1992
	男爵薯	5.29	9.4	39	12.4	85	3,474	100	2,872	100	15.3	100	
	農林1号	5.28	9.28	64	10.5	128	4,432	128	4,186	146	16.6	108	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 15-19(1993)。

(7) アスタルテ (系統名 S892) 1993年  
登録番号: (北海道) ばれいしょ北海道(輸)第  
17号

来歴 本品種は, オランダアベベ社において「RR62-5-43」を母, 「VT\*62-69-5」を父として交配し, 以後選抜を加え育成したもので, 1896年にホクレン農業協同組合連合会と北海道澱粉工業会が共同して輸入し, 1989年から各種の試験を行い1993年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次ぎのとおりである。



特性概要

1. そう性は中間, 茎長は「紅丸」や「コナフブキ」より長く, 頂小葉は「コナフブキ」並の大きさであるが, 小葉は「紅丸」よりやや小さい。生育後半に葉基部が淡緑化し, 葉縁が巻くことがある。
2. 花色は赤紫で, 花卉の先が白く, 結果数は「コナフブキ」より少なく稀である。
3. 塊茎は卵形, 皮色は白黄, 表皮はやや粗く, 目の深さはやや浅く, 肉色は黄白である。
4. 初期生育は「コナフブキ」並のやや遅, 枯凋期は「紅丸」及び「コナフブキ」より遅い晩生に属する。
5. 上りも重は多, でん粉価は「紅丸」よりやや高, 10

- a 当たりのでん粉重は「コナフブキ」並の多に属する。
6. 褐色心腐の発生は「紅丸」より少なく, 中心空洞の発生は「コナフブキ」並の微である。
7. 疫病及びジャガイモシストセンチュウに対する抵抗性を有する。

栽培適地と奨励態度

十勝, 網走, 根釧地域に適する。栽培上の注意は, 塊茎の肥大及びでん粉価の上昇が遅いので, 浴光催芽によって生育の促進を図る。疫病の発生過程は「紅丸」に類似するので, 疫病の防除は「紅丸」に準ずる。小いものが多いので, 掘り残しのないよう収穫時に注意する。

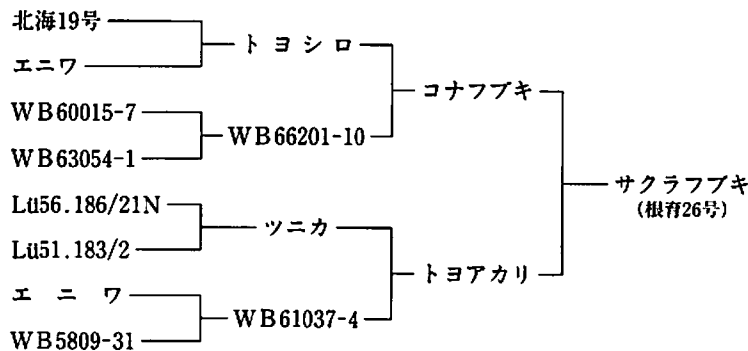
試験場名	品種名	開花期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎長 (cm)	株上り も数 (個)	上りも 平均 重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同左 比 (%)	試験年次
							上りも 量 (kg)	同左 比 (%)	中上り も量 (kg)	同左 比 (%)			
十勝農試	アスタルテ	7.4	9.29	102	13.4	74	4,394	92	810	114	19.4	124	1989~1990 1992
	紅丸	7.3	9.24	93	12.4	89	4,798	100	709	100	15.6	100	
	コナフブキ	7.4	9.21	91	10.6	92	4,165	87	846	119	21.3	137	
	トヨアカリ	7.3	9.23	87	10.2	87	3,939	84	724	102	19.3	124	

試験場名	品種名	開花期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎長 (cm)	株上り数 (個)	上り平均 個重 (g)	10 a 当り				でん粉価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上り量 (kg)	同左比 (%)	中上り量 (kg)	同左比 (%)			
北見農試	アスタルテ	7. 9	10. 5	92	11.7	88	4,044	92	705	128	18.4	137	1989～1992
	紅丸	7. 6	10. 2	89	11.1	102	4,412	100	550	100	13.4	100	
	コナフブキ	7. 6	9.25	76	9.8	105	4,055	92	769	140	20.0	149	
	トヨアカリ	7. 8	9.30	85	8.3	127	4,137	95	733	144	18.7	140	
根釧農試	アスタルテ	7.20	10.14	84	11.0	97	4,025	90	795	114	20.7	125	1989～1992
	紅丸	7.21	10.12	69	10.3	114	4,490	100	695	100	16.5	100	
	コナフブキ	7.18	10. 6	71	9.5	102	3,729	83	781	112	22.0	133	
	トヨアカリ	7.20	10.11	75	7.7	120	3,565	79	705	101	20.8	126	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 19-22(1993)。

(8) サクラフブキ (系統名 根育26号) 1994年  
 登録番号: (北海道) ばれいしょ北海道第26号  
 (農水省) ばれいしょ農林34号  
 (種苗法) 出願中

来歴 本品種は、北海道立根釧農業試験場においてジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有するでん粉原料用品種の育成を目標に、「コナフブキ」を母、「トヨアカリ」を父として人工交配し、以後選抜を図り、1989年より「根系67号」、1990年からは「根育26号」の系統名で各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. そう性は中間、茎長は「紅丸」よりやや長く、茎はやや太く、分枝数は「紅丸」や「コナフブキ」より多い。
2. 花色は「コナフブキ」よりやや濃い赤紫系で、花卉の両面の先端は白、結果は多である。
3. 塊茎は偏球形で、皮色は黄褐、目は淡赤色で「紅丸」より浅く、肉色は白である。
4. 初期生育は「紅丸」より遅く「コナフブキ」並で、枯凋期は「紅丸」や「コナフブキ」より遅く晩生に属する。
5. 上りも重は「コナフブキ」並、でん粉価は「紅丸」より高く「コナフブキ」並かやや高い。でん粉重は「紅

丸」や「コナフブキ」よりやや多い。

6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、粉状そとか病に対する抵抗性は強、疫病による塊茎腐敗抵抗性はやや強、そとか病抵抗性は「紅丸」並に弱い。褐色心腐・中心空洞の発生は「コナフブキ」並の微、塊茎の休眠期間は「コナフブキ」並のやや長である。

栽培適地と奨励態度

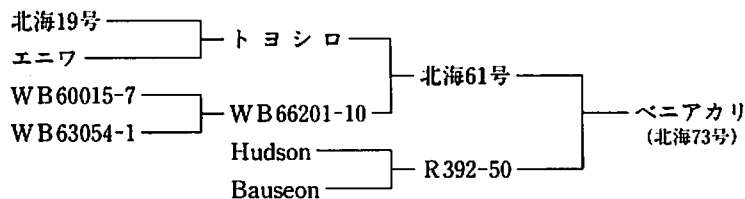
北海道一円に適する。栽培上の注意は、初期生育及び塊茎形成が遅く、早期肥大性がやや劣るので、浴光催芽によって生育の促進をはかる。疫病圃場抵抗性はやや強いが、防除低減可能なレベルではないので、防除は「紅丸」及び「コナフブキ」に準じて行うこと。

試験場名	品 種 名	萌 芽 期 (月日)	枯 凋 期 (月日)	茎 長 (cm)	株 上 当 り 数 (個)	上 一 個 平均 重 (g)	10 a 当 り				でん 粉 価 (%)	同 左 比 (%)	試 験 年 次
							上 収 量 (kg)	同 左 比 (%)	中 上 収 量 (kg)	同 左 比 (%)			
根 釧 農 試	サクラフブキ	7.27	10.14	74	8.7	125	4,095	90	884	126	22.7	138	1988~1993
	紅 丸	7.23	10.13	71	10.8	112	4,565	100	701	100	16.4	100	
	コナフブキ	7.21	10.7	67	9.5	107	3,938	86	815	116	21.8	133	
	トヨアカリ	7.23	10.12	74	7.9	123	3,978	82	731	104	20.5	125	
北 海 道 農 試	サクラフブキ	7.9	10.2	71	10.7	114	4,087	74	875	107	22.5	142	1989~1993
	紅 丸	7.5	10.1	73	15.0	110	5,510	100	820	100	15.9	100	
	コナフブキ	7.5	10.1	71	9.3	134	4,019	73	831	101	21.7	136	
	トヨアカリ	7.5	10.1	70	10.8	120	3,939	71	761	93	20.4	128	
中 央 農 試	サクラフブキ	7.6	9.28	57	12.2	75	3,847	77	823	112	22.3	140	1991~1993
	紅 丸	7.2	9.28	54	14.4	83	4,973	100	736	100	15.9	100	
	コナフブキ	7.2	9.23	62	12.8	80	4,280	86	864	117	21.3	134	
	トヨアカリ	6.30	9.23	56	11.9	68	3,384	68	655	89	20.4	128	
上 川 農 試	サクラフブキ	7.8	10.7	60	12.1	96	3,741	92	941	124	26.1	134	1991~1993
	農 林 1 号	7.2	9.30	54	11.8	107	4,077	100	757	100	19.5	100	
	紅 丸	7.3	10.5	54	15.1	95	4,707	115	826	109	18.5	95	
	コナフブキ	7.4	9.30	61	11.9	94	3,564	87	866	114	25.3	130	
	トヨアカリ	7.2	10.6	62	12.3	93	3,751	92	872	115	24.3	125	
十 勝 農 試	サクラフブキ	7.10	10.1	86	10.2	95	4,188	89	922	127	23.0	141	1989~1993
	紅 丸	7.4	9.25	91	12.6	86	4,698	100	725	100	16.3	100	
	コナフブキ	7.5	9.24	90	10.4	92	4,108	87	869	120	22.1	136	
	トヨアカリ	7.3	9.25	82	10.4	85	3,868	81	719	99	19.6	120	
北 見 農 試	サクラフブキ	7.15	10.3	85	8.0	128	4,137	81	882	128	22.2	151	1989 1991~1993
	紅 丸	7.9	9.30	84	11.9	103	5,019	100	687	100	14.7	100	
	コナフブキ	7.8	9.20	78	9.8	99	4,135	84	802	119	20.4	139	
	トヨアカリ	7.7	9.27	84	8.9	120	4,425	90	833	123	19.8	135	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 16-19(1994)。  
 2) 村上紀夫 等, 北海道立集報, 68, 1-16(1995)。

(9) ベニアカリ (系統名 北海73号) 1994年  
 登録番号: (北海道) ばれいしょ北海道第27号  
 (農水省) ばれいしょ農林33号

来歴 本品種は, 農林水産省北海道農業試験場において, でん粉原料用ジャガイモシストセンチウ抵抗性品種育成を目標として「北海61号」を母とし, 「R392-50」を父として交配採種し, 実生集団より選抜されたもので, 1989年より「島系556号」, 1991年からは「北海73号」の系統名で各種の試験を行い, 1994年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. そう性は生育前半では中間型であるが、生育後半はやや開帳する。莖長は中位、葉は濃緑でやや細く、花は赤紫で自然結果する。
2. 塊茎は扁円形で、赤皮白肉、目はやや浅く、粒揃いが良く特大いものは見られない。
3. 萌芽は「男爵薯」や「農林1号」よりやや遅く、熟性は「男爵薯」より19日遅く「農林1号」より10日早い中生種である。
4. 塊茎の肥大は「男爵薯」に比べやや遅いが、でん粉価の上昇は早く、8月上旬には15%を越え、食用可能となる。塊茎の休眠が長く、貯蔵性が良い。
5. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病抵抗性 (R<sub>1</sub>R<sub>2</sub>)を持つが圃場抵抗性はない。そうか病、

粉状そうか病、黒あざ病に対する抵抗性は無く、褐色心腐・中心空洞・黒色心腐や二次成長は「農林1号」より少ないが、乾燥年に褐色心腐が発生している。

6. 剥皮褐変と調理後黒変は「男爵薯」や「農林1号」より少ないが煮崩れしやすい。肉質は粉質で蒸しいも、マッシュ、コロッケに向くが、チップスやフライの原料には不向きである。

栽培適地と奨励態度

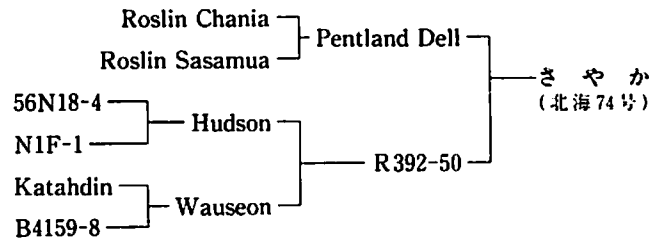
北海道一円に適する。栽培上の注意は、疫病の初発生が遅れ、生育後半の茎葉罹病により塊茎腐敗が増加することがあるので疫病防除は後半まで行い、莖が柔らかく、倒伏と軟腐病の発生の危険があるので多肥栽培はしない。赤皮のため緑化いもの識別が難しいので曝光を避ける。

試験場名	品種名	枯凋期 (月日)	平均 一個重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
				上いも重 (kg)	同左比 (%)	中以上いも重 (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	ベニアカリ	9.26	109	4,613	125	4,238	146	20.0	131	1990~1993
	男爵薯	9.7	80	3,694	100	2,909	100	15.3	100	
	農林1号	未	134	4,814	130	4,569	157	16.5	108	
根釧農試	ベニアカリ	9.30	155	3,964	114	3,784	122	19.3	133	1991~1993
	男爵薯	9.16	101	3,476	100	3,091	100	14.5	100	
十勝農試	ベニアカリ	9.10	90	4,001	105	3,441	105	20.3	125	1991~1993
	男爵薯	8.30	86	3,799	100	3,251	100	16.3	100	
北見農試	ベニアカリ	9.16	117	4,277	101	4,039	107	18.9	128	1991~1993
	男爵薯	9.4	108	4,237	100	3,779	100	14.8	100	
上川農試	ベニアカリ	9.21	91	3,494	108	3,059	112	23.4	136	1991~1993
	男爵薯	9.4	92	3,232	100	2,729	100	17.2	100	
中央農試	ベニアカリ	9.7	71	3,580	108	2,586	103	20.0	130	1991~1993
	男爵薯	8.25	70	3,312	100	2,489	100	15.4	100	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 19-22(1994)。

- (10) さやか (系統名 北海74号) 1995年  
 登録番号: (北海道) ばれいしょ北海道第28号  
 (農水省) ばれいしょ農林36号

来歴 本品種は、農林水産省北海道農業試験場においてジャガイモシストセンチュウ抵抗性と疫病抵抗性を併せ持つ食用品種育成を目標として、1983年に「Pentland Dell」を母とし、「R392-50」を父として交配採種し、実生集団より選抜されたもので、1991年より「島系558号」、1992年からは「北海74号」の系統名で各種の試験を行い、1995年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



**特性概要**

1. 茎長は「男爵薯」と「農林1号」の中間で、茎は太く、分枝数は少なく、そう性は開帳型である。花色は白、花数は中、自然結果は少ない。
2. 塊茎は白皮白肉で卵形、表皮は滑らかで、目は浅くて少ない。いも着の粗密はやや密で、粒揃いが良い。一個重がごく大きく、株当たりいも数が少なくいも重型品種である。
3. 萌芽は「農林1号」よりやや遅く「男爵薯」と同じで、開花期は「男爵薯」や「農林1号」よりやや遅く、熟性は中性である。
4. いもの肥大は「男爵薯」に比べやや遅く、でん粉価の上昇も遅い。上いも収量は「男爵薯」より多く、「農林1号」と同等、でん粉価は「男爵薯」並で、塊茎の休眠性はやや長く、貯蔵性が良い。

5. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病の圃場抵抗性はなく、そうか病、粉状そうか病、黒あざ病、青枯病抵抗性はない。塊茎の内部異常や二次成長などの発生は「男爵薯」や「農林1号」より少ない。
6. 生いもの剝皮褐変と水煮放冷後の調理後黒変は「男爵薯」や「農林1号」より少なく、煮くずれも少なく、調理特性に優れる。肉質は中で、サラダや煮物に向き、チップスやフライの原料には不向きである。

**栽培適地と奨励態度**

北海道一円に適する。栽培上の注意は、でん粉価の上昇がいもの肥大に比べやや遅れるので、完全後収穫する。Yウイルス病のえそ反応が無～弱なので、採種管理に当たっては特に注意し、ごく大いもができやすいので、多肥・粗植を避け、5,000株/10a以上の密植とする。

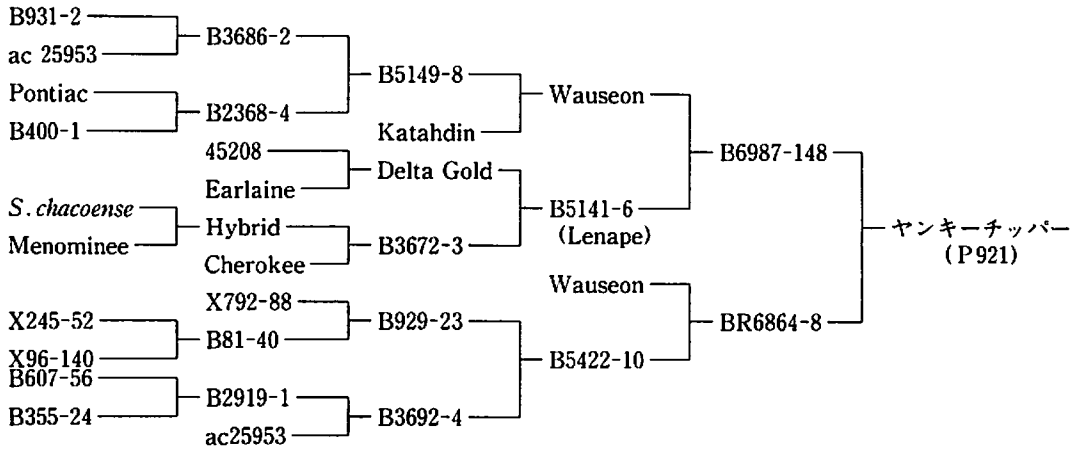
試験場名	品種名	枯凋期 (月日)	平均 一個重 (g)	10a当り				でん粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
				上いも重 (kg)	同左比 (%)	中以上いも重 (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	さやか	9.23	167	4,350	129	4,231	155	15.1	98	1988～1995
	男爵薯	9.2	85	3,384	100	2,738	100	15.4	100	
	農林1号	9.26	128	4,360	129	4,119	150	16.3	106	
中央農試	さやか	9.9	102	3,775	125	3,249	151	14.2	95	1992～1994
	男爵薯	8.23	69	3,019	100	2,183	100	15.0	100	
	農林1号	9.21	80	3,979	132	3,246	149	15.6	104	
上川農試	さやか	9.21	113	3,725	118	3,496	136	15.3	99	1992～1994
	男爵薯	9.2	86	3,150	100	2,527	100	15.5	100	
	農林1号	9.29	95	3,689	117	3,310	129	16.2	105	
十勝農試	さやか	9.13	112	4,074	111	3,805	131	14.7	94	1992～1994
	男爵薯	9.1	80	3,689	100	2,902	100	15.6	100	
	農林1号	9.27	97	4,557	124	4,082	141	16.2	104	
北見農試	さやか	9.13	135	4,814	111	4,632	121	14.2	98	1992～1994
	男爵薯	9.4	101	4,343	100	3,829	100	14.5	100	
	農林1号	9.22	114	4,742	109	4,419	115	15.5	107	
根釧農試	さやか	9.28	144	3,286	99	3,181	110	16.0	109	1992～1994
	男爵薯	9.15	92	3,322	100	2,894	100	14.7	100	
	農林1号	10.16	123	4,193	126	3,978	137	17.9	122	

参照 1) 北海道農政部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 4-7(1995)。



(11) ヤンキーチップパー (系統名 P921) 1995年  
 登録番号：(北海道)ばれいしょ北海道(輸)第  
 29号

来歴 本品種は、カルビーポテト株式会社が米国から輸入したもので、米国メイン大学生活科学農業試験場が「B6987-148」を母、「BR6864-8」を父として1970年に交配し、以後選抜を加え、1983年に「Yankee Chipper」の名で公開されたものである。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. そう性はやや開帳型で、茎長は「トヨシロ」よりやや短く、分枝数は少、茎色は緑で赤紫の斑点を帯びる。葉色は淡緑、小葉の大きさは大、花色は青紫、花数は中、自然結果は認められない。
2. 塊茎は楕円形で揃いが良く、皮色は白黄、表皮は滑らかで、目は少なく「トヨシロ」より浅く、外観が良く、肉色は白である。
3. 萌芽期、開花期及び枯凋期は「トヨシロ」並である。
4. 上いも重は「トヨシロ」よりやや少なく、でん粉価は「トヨシロ」並かやや低い。
5. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病菌

による塊茎腐敗抵抗性は「トヨシロ」並、そうか病には既存の品種と同程度に罹病する。褐色心腐、中心空洞及び二次成長の発生は「トヨシロ」と同程度に少ない。

6. 肉質はやや粘質、煮くずれは少なめ、舌ざわりはやや粗、調理後黒変はやや多く、剥皮褐変は少なく、食味は中である。用途は加工食品用(ポテトチップ用)である。

栽培適地と奨励態度

道央、道北及び網走地域に適する。栽培上の注意は、地上部の生育量が少なくと低収となりやすいので、適切な肥培管理により生育量を確保する。

試験場名	品 種 名	開 花 期 (月日)	枯 凋 期 (月日)	茎 長 (cm)	株 上いも 当り数 (個)	上いも 平均重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同 左 比 (%)	試験年次
							上 収 いも量 (kg)	同 左 比 (%)	中いも 以上も 収量 (kg)	同 左 比 (%)			
中央農試	ヤンキーチップパー	7. 3	8.26	41	11.4	62	3,184	92	2,061	76	16.4	103	1992~1994
	トヨシロ	7. 4	9. 1	47	10.2	78	3,467	100	2,732	100	16.0	100	
	農林1号	6.30	9.21	51	11.2	80	3,979	115	3,246	119	15.6	97	
上川農試	ヤンキーチップパー	7. 5	9. 3	37	11.9	81	3,032	94	2,413	92	16.8	99	1992~1994
	トヨシロ	7. 6	9. 2	42	11.9	85	3,231	100	2,631	100	17.0	100	
	農林1号	7. 3	9.29	54	12.1	95	3,689	114	3,310	126	16.2	95	
北見農試	ヤンキーチップパー	7. 9	9. 1	48	11.8	83	4,425	92	3,664	88	14.9	93	1992~1994
	トヨシロ	7.11	9. 7	63	11.7	92	4,820	100	4,179	100	16.0	100	
	農林1号	7. 8	9.22	68	9.3	114	4,742	98	4,419	106	15.5	97	

試験場名	品種名	開花期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎長 (cm)	株上りも数 (個)	上りも平均重 (g)	10a当り				でん粉価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上りも量 (kg)	同左比 (%)	中以上も量 (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	ヤンキーチップ	7.7	9.11	43	11.8	99	3,981	92	3,577	90	15.0	90	1992~1994
	トヨシロ	7.5	9.7	45	11.1	125	4,318	100	3,965	100	16.6	100	
	農林1号	7.4	-	65	11.4	117	4,474	104	4,174	105	15.5	93	

参照 1) 北海道農政部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 7-10(1995)。

## 10. そば

(1) キタワセソバ (系統名 北海1号) 1989年  
 登録番号: (北海道) そば北海道第1号  
 (農水省) そば農林1号  
 (種苗法) 第2337号

来歴 本品種は, 1981年農林水産省北海道農業試験場において早生, 多収化を目標に北海道立十勝農業試験場より導入した「牡丹そば(富良野産)」を集団選抜と系統選抜を交互に2回繰り返して, 特性の向上を図ってきたもので, 1983年に15母系を選抜し, 採種混合したものを1984年以降「北海1号」の系統名で各種の試験を行い, 1989年に優良品種となった。

### 特性概要

1. 草型は「牡丹そば」と同じく直立・短枝型, 葉の形はやや丸型で, 草丈はやや極短である。花色は白で, 子実の粒揃いが良い。
2. 生態型は夏型で開花期は「牡丹そば」より2日早く, 成熟期も13日早く, 登熟も比較的斉一で, 耐倒伏性は「牡丹そば」並である。
3. 子実収量は「牡丹そば」より多収で, 千粒重はやや重く, 脱粒性の難易は「牡丹そば」と同じ中である。

### 栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培上の注意は, 「牡丹そば」に比較して, 登熟が斉一であり脱粒性が同程度であるので, 収穫適期を失しないこと。

試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	生育日数 (日)	成熟期の		倒伏 程度	10a当り		千粒重 (g)	リットル重 (g)	試験年次
					草丈 (cm)	分枝数 (本)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
北農試	キタワセソバ	7.15	8.28	85	103	3.4	無	193	103	26.5	558	1986~1988
	牡丹そば	7.17	9.4	92	111	3.9	無	190	100	24.9	549	
中央農試	キタワセソバ	7.16	8.25	81	106	3.0	無	123	117	28.8	563	1986~1988
	牡丹そば	7.18	9.4	90	118	4.1	無	105	100	28.8	563	
十勝農試	キタワセソバ	7.13	8.21	77	123	2.4	無	175	115	31.0	536	1986~1988
	牡丹そば	7.15	8.25	81	129	2.4	無	152	100	30.5	563	
北見農試	キタワセソバ	7.18	8.25	80	124	3.3	中	258	124	30.0	-	1986~1988
	牡丹そば	7.19	8.28	83	129	2.0	中	208	100	27.2	-	
上川農試	キタワセソバ	7.14	8.28	84	116	2.4	無	137	123	28.8	592	1986~1988
	牡丹そば	7.17	9.4	92	122	2.7	無	111	100	28.8	616	

注) 試験成績は標準播き, 試験年次は1986~1988である。

参照 1) 北海道農務部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 26-28(1989)。

(2) キタユキ (系統名 北海2号) 1991年  
 登録番号: (北海道) そば北海道第2号  
 (農水省) そば農林2号  
 (種苗法) 第2751号

**来歴** 本品種は、北海道農業試験場において、1983年に十勝農業試験場から導入した「津別産」から、中晩生・多収化を目標に個体選抜と系統選抜を交互に2回繰り返して、特性の均一化と向上を図ってきたもので、1986年より「北系5号」、1988年からは「北海2号」の系統名で各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 草丈は「牡丹そば」並で「キタワセソバ」より高く、分枝数は「牡丹そば」よりやや少ないが「キタワセソバ」より多い。草型は夏そば特有の直立・短枝型である。

2. 開花期は「牡丹そば」より2日程度早く、「キタワセソバ」とほぼ同じで、成熟期は「牡丹そば」より2日遅く、「キタワセソバ」より10日程度遅い。  
 3. 子実重は「牡丹そば」より多収で、おおむね「キタワセソバ」と同水準かやや優り、千粒重は「牡丹そば」並で「キタワセソバ」より軽く、リットル重は「牡丹そば」や「キタワセソバ」より10%程度重い。そばべと病の発生は「牡丹そば」や「キタワセソバ」に比べて少ない。

**栽培適地と奨励態度**

北海道道央地域及びそばべと病の発生が懸念される地帯に適する。栽培上の注意は、多肥により倒伏しやすくなり、増収効果も期待できないので適性施肥に努める。「牡丹そば」並に脱粒しやすいので、適期収穫に努める。本品種の採種栽培及び一般栽培とも他品種と自然交雑するので集团的に隔離栽培する。

試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	生育日数 (日)	成熟期の		倒伏 程度	10a 当り		千粒重 (g)	リットル 重 (g)	試験年次
					草丈 (cm)	分枝数 (本)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	キタユキ	7.14	9.10	97	121	3.9	少	220	108	27.7	618	1988~1990
	キタワセソバ	7.14	8.30	87	109	3.4	少	242	119	28.9	573	
	牡丹そば	7.16	9.8	95	125	4.3	少	203	100	28.1	598	
中央農試	キタユキ	7.14	9.9	99	112	3.6	無	167	118	29.0	-	1988~1990
	キタワセソバ	7.14	8.26	85	96	3.3	無	107	76	30.3	-	
	牡丹そば	7.16	9.7	97	108	4.1	無	141	100	30.0	-	
上川農試	キタユキ	7.10	9.3	90	111	2.8	無	161	116	25.0	-	1988~1990
	キタワセソバ	7.11	8.26	82	106	2.4	無	139	100	27.4	-	
	牡丹そば	7.13	9.2	89	114	3.1	無	139	100	26.3	-	

注) 試験成績は標準播き。

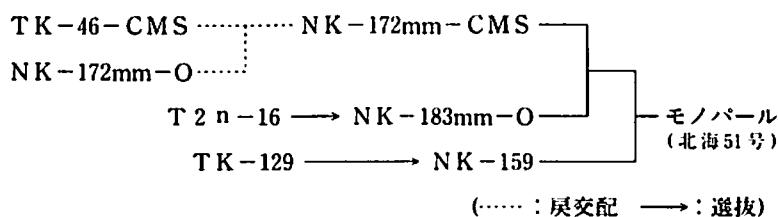
参照 1) 北海道農務部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 21-23(1991)。

## II 特用作物

### 1. てんさい

- (1) モノパール (系統名 北海51号) 1988年  
 登録番号：(北海道) てんさい北海道交第22号  
 (農水省) てんさい農林交12号  
 (種苗法) 第2046号

来歴 本品種は、農林水産省北海道農業試験場において高糖多収品種を目標に育成された単胚、二倍体の三系交配一代雑種「(NK-172mm-CMS×NK-183mm-O)×NK-159」である。1983年より「N1220」、1984年からは「北海51号」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



#### 特性概要

1. 葉姿は直立型、葉長は「モノヒカリ」並に長く、葉数はやや多い。クラウンは小さく、根部の形態は「モノヒカリ」と大差無く、根形は円錐形で露肩は中程度、分岐根は少ない。
2. 抽苔性は欧州品種よりやや劣るが「モノヒカリ」よりかなり優れている。
3. 褐斑病抵抗性はやや強で「モノミドリ」、「モノヒカリ」並である。根腐病抵抗性は「モノミドリ」、「モノヒカリ」及び欧州品種と同じ弱である。
4. 根重は「モノエース」、「ハイラーベ」より多く、「ダイヒル」とほぼ同程度である。

5. 根中糖分は「モノヒカリ」並で「ハイラーベ」、「ダイヒル」より高い。
6. 品質は「モノヒカリ」、「モノエース」より劣るが、「ハイラーベ」、「ダイヒル」より良品質で製糖歩留まりは良い。

#### 栽培適地と奨励態度

十勝中部及びこれに準ずる地域の「ハイラーベ」、「モノヒカリ」の一部におきかえて栽培する。栽培上の注意は、耐湿性がやや弱いので、湿害のおそれの多い畑は避ける。抽苔耐性はやや強であるが、まれに発生することがあるので極早播きを避ける。

試験場名	品種名	根重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根重	根中糖分	糖量	不純物価	
北海道農試	モノパール	5.42	16.39	889	107	100	108	104	1985~1987
	ハイラーベ	5.40	16.04	896	107	98	104	110	
	モノヒカリ	5.57	16.48	919	111	101	112	84	
	ダイヒル	5.41	16.25	877	116	99	106	105	
	モノエース	5.13	16.93	867	102	103	105	95	
	モノミドリ	5.05	16.35	825	100	100	100	100	
十勝農試	モノパール	6.28	17.68	1,111	109	101	109	98	1984~1987
	ハイラーベ	5.79	17.05	988	100	97	97	111	
	モノヒカリ	6.37	17.47	1,114	110	100	110	81	
	ダイヒル	6.35	17.19	1,092	110	98	108	115	
	モノエース	5.87	17.83	1,048	102	102	103	101	
	モノミドリ	5.87	17.55	1,015	100	100	100	100	

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
北 見 農 試	モノパール	5.26	17.87	938	108	103	111	95	1984~1987
	ハイラーベ	5.29	17.26	912	109	99	108	119	
	モノヒカリ	5.17	17.96	928	106	103	110	75	
	ダイヒル	5.32	17.63	937	110	101	111	101	
	モノエース	5.02	18.23	915	103	105	108	101	
	モノミドリ	4.88	17.40	847	100	100	100	100	

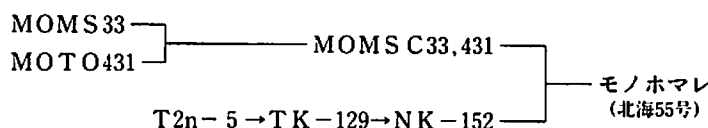
注 1) 北見農試の1984年と北海道農試の成績は直播栽培である。  
 2) 十勝農試と北見農試の不純物価は1986年~1987年の平均値である。

参照 1) 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 18-21(1988)。  
 2) 北海道農業試験場研究報告, 第155号, 49-64(1991)。

(2) モノホマレ (系統名 北海55号) 1988年  
 登録番号: (北海道) てんさい北海道交第23号  
 (農水省) てんさい菜農林交13号  
 (種苗法) 第2047号

ンデルハーベ社の単胚雄性不稔「MOMSC33,431」を母, [NK-152]を父として交配を行い育成した単胚二倍体三系交配の一代雑種である。1983年より「NV104」, 1985年からは「北海55号」の系統名で各種の試験を行い, 1988年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。

来歴 本品種は農林水産省北海道農業試験場において, 高糖多収品種の育成を目標として, オランダのファ



特性概要

1. 葉姿は直立型で葉色はやや濃緑, 葉形は針形で葉柄の太さはやや細い。根元の形態は円錐型で, 側根を生じる溝が深く, 分枝根は少ない。
2. 抽苔耐性は「ハイラーベ」並の強である。
3. 褐斑病抵抗性はやや強で「ハイラーベ」より優れている。根腐病抵抗性は「モノヒカリ」, 「モノミドリ」及び「ハイラーベ」等の欧州品種と同じく弱い。
4. 耐湿性は「ダイヒル」より強いが, 他の品種より弱い。

5. 根重は「ハイラーベ」より多収である。
6. 根中糖分は「モノヒカリ」に近く「ハイラーベ」より高糖である。
7. 品質は「モノヒカリ」より劣るが「ハイラーベ」よりまさる。

栽培適地と奨励態度

網走内陸・沿海, 十勝山麓及びこれに準ずる地域の「ハイラーベ」におきかえて栽培する。栽培上の注意は, 耐湿性がやや弱いので, 湿害の多い畑は避ける。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
北 見 農 試	モノホマレ	5.27	17.46	920	109	102	111	95	1985~1987
	ハイラーベ	5.28	17.08	901	108	99	108	119	
	モノヒカリ	5.14	17.82	915	106	104	110	75	
	モノミドリ	4.88	17.13	835	100	100	100	100	

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
十 勝 農 試	モノホマレ	6.43	17.55	1,129	109	100	109	103	1985~1987
	ハイラーベ	5.97	17.13	1,024	102	98	99	111	
	モノヒカリ	6.57	17.57	1,155	111	100	112	81	
	モノミドリ	5.89	17.52	1,032	100	100	100	100	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 21-24(1988)。  
 2) 北海道農業試験場報告, 第155号, 65-80(1991)。

(3) スターヒル (系統名 HILL monol352) 1988年  
 登録番号: (北海道) てんさい輸交第24号

来歴 本品種は1979年にスウェーデンのヒレスヘーグ種子会社が二倍体の単胚雄性不稔系統「MS-236D」と、二倍体多胚花粉親系統「2X/27」とを交配し育成したもので、1980年に北海道糖業株式会社が輸入し、1981年から「Hillmonol352」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。

特性概要

1. 葉長は「ダイヒル」と同程度、葉姿は「ダイヒル」と同様にやや開平であるが、「ハイラーベ」よりは立っている。根形は円錐形で分岐根は少ない。
2. 抽苔耐性は「ハイラーベ」と同様に強く、当年抽苔することはほとんどない。
3. 褐斑病に対しては、「ダイヒル」同様に弱く、その他の病害についても「ダイヒル」との差はほとんどない。

4. 根重は「ダイヒル」よりやや劣り「ハイラーベ」並であり、根中糖分は「ダイヒル」よりもやや高く、「ハイラーベ」よりも高い。
5. 有害性非糖分は、アミノ態窒素が「ダイヒル」より高いが、カリウム、ナトリウムは「ダイヒル」よりも低い。このため不純物価は低く、品質は「ダイヒル」や「ハイラーベ」よりも優っている。
6. 過湿条件における「スターヒル」の根部腐敗度は「ダイヒル」よりも低く、耐湿性は「ダイヒル」よりも強く、「ハイラーベ」並である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適応し、「ダイヒル」や「ノバヒル」及び「モノヒル」の一部におきかえて栽培する。栽培上の注意は、根中糖分の低下や有害性非糖分の増加を招く多肥栽培は避ける。「ダイヒル」と同様に褐斑病に弱いので適期防除に留意する。その他の栽培法は「ダイヒル」に準ずる。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
十 勝 農 試	スターヒル	6.07	17.38	1,058	104	99	103	103	1984~1987
	ダイヒル	6.34	17.27	1,096	109	99	107	109	
	ハイラーベ	5.87	17.08	1,003	101	97	98	112	
	モノミドリ	5.84	17.52	1,023	100	100	100	100	
北 見 農 試	スターヒル	5.15	17.66	910	109	102	111	99	1984~1987
	ダイヒル	5.30	17.44	922	112	101	113	108	
	ハイラーベ	5.13	17.14	879	109	99	108	113	
	モノミドリ	4.72	17.33	817	100	100	100	100	
中 央 農 試	スターヒル	6.47	16.56	1,064	106	103	109	97	1985~1987
	ダイヒル	6.79	16.01	1,080	111	99	111	105	
	ハイラーベ	6.77	16.25	1,096	111	101	113	94	
	モノミドリ	6.10	16.14	974	100	100	100	100	

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
上 川 農 試	ス タ ー ヒ ル	5.24	18.74	980	113	101	114	101	1986~1987
	ダ イ ヒ ル	5.27	18.37	966	113	99	112	108	
	ハ イ ラ ー ベ	4.88	18.34	894	105	99	104	111	
	モ ノ ミ ド リ	6.65	18.57	863	100	100	100	100	

注 1) 中央農試の不純物価は1986年~1987年の成績。

2) 北見農試の1984年の成績は直播栽培による。

参照 1) 北海道農務部報, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-31(1988)。

(4) サンヒル (系統名 Hill mono5559) 1988年  
登録番号: (北海道) てんさい輸交第25号

来歴 本品種は1983年にスウェーデンのヒレスヘーグ種子会社が二倍体の単胚雄性不稔系統「MS-283E」と、四倍体多胚花粉親系統「4X/7」とを交配し育成した三倍体単胚の一代雑種であり、1984年に北海道糖業株式会社が入力し、1985年から「Hillmono5559」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。

特性概要

1. 葉姿はやや開平型、葉長は「ダイヒル」並でやや短く、葉数は中程度である。根形は円錐形、露肩は少で分岐根は少ない。
2. 根重は「ダイヒル」よりやや劣り「モノエース」並で、根中糖分は「ダイヒル」より高く、「モノエース」に近い高糖性を示す。

3. 有害性非糖分のアミノ態窒素は「モノミドリ」よりやや低く、カリウムは「モノミドリ」並で、ナトリウムは「モノミドリ」より低く良質である。

4. 抽苔耐性は既存のヨーロッパ品種と同様に強く、当年抽苔することはほとんどない。

5. 耐病性は、褐斑病に対しては「ダイヒル」と同様に弱く、その他の病害についても「ダイヒル」との差はほとんどない。

6. 耐湿性は「ダイヒル」より強く、「ハイラーベ」並である。

栽培適地と奨励態度

十勝及び網走地域に適応する。栽培上の注意は、褐斑病に弱いので適期防除を行う。根中糖分の低下や有害非糖分を増加させる多肥栽培は避ける。その他の栽培は「モノエース」に準ずる。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
北 見 農 試	サ ン ヒ ル	4.75	17.49	832	109	105	115	97	1985~1987
	ダ イ ヒ ル	5.24	17.34	907	121	101	121	111	
	モ ノ エ ース	4.67	17.35	811	107	104	112	101	
	ハ イ ラ ー ベ	4.84	16.50	799	111	99	110	118	
	モ ノ ミ ド リ	4.35	16.66	724	100	100	100	100	
十 勝 農 試	サ ン ヒ ル	5.91	17.86	1,058	105	102	107	99	1985~1987
	ダ イ ヒ ル	6.81	17.74	1,208	113	100	113	105	
	モ ノ エ ース	5.85	18.08	1,062	104	103	107	98	
	ハ イ ラ ー ベ	5.91	17.24	1,021	105	98	103	106	
	モ ノ ミ ド リ	5.62	17.56	989	100	100	100	100	

参照 1) 北海道農務部報, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 32-35(1988)。

(5) サンラーベ (系統名 H6664) 1988年  
登録番号：(北海道) てんさい輸交第26号

来歴 本品種は1981年オランダのファンデルハーベ種子会社において、二倍体の単胚雄性不稔系統「MOMS 023・801」と四倍体の多胚花粉親系統「EKT13」とを交配し育成した三倍体、単胚の一代雑種であり、1983年にホクレン農業協同組合連合会が輸入し、1984年から「H6664」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。

特性概要

1. 葉長は「ハイラーベ」に比べやや長く、葉姿はやや開平であり、根形は円錐型で分岐根は少ない。
2. 「ハイラーベ」同様に抽苔耐性は強く、当年抽苔することはほとんどない。
3. 褐斑病に対しては「ハイラーベ」同様に弱であり、

その他の病害についても「ハイラーベ」との差はほとんどない。

4. 根重は「ハイラーベ」より多く、「モノヒカリ」並である。
5. 根中糖分は「ハイラーベ」並かつ高く「モノミドリ」よりわずかに劣る。
6. 有害性非糖分は「ハイラーベ」並であり、品質は「モノミドリ」に比べやや劣る。

栽培適地と奨励態度

十勝中部・山麓、網走内陸・沿海及びこれに準ずる地域に適應し、当該地域の「ハイラーベ」とおきかえて栽培する。栽培上の注意は、根中糖分の低下や有害非糖分の増加を招く多肥栽培は避ける。「ハイラーベ」と同様褐斑病に弱いので適期防除に留意する。その他の栽培法は「ハイラーベ」に準ずる。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
十 勝 農 試	サンラーベ	6.33	17.26	1,095	111	99	110	108	1984~1987
	ハイラーベ	5.86	17.07	1,001	103	98	101	109	
	モノヒカリ	6.42	17.50	1,124	112	101	113	87	
	モノミドリ	5.71	17.39	994	100	100	100	100	
北 見 農 試	サンラーベ	5.50	17.55	964	117	100	118	111	1984~1987
	ハイラーベ	5.13	17.20	881	109	98	108	113	
	モノヒカリ	5.04	18.16	914	107	104	112	75	
	モノミドリ	4.69	17.47	819	100	100	100	100	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 24-25(1988)。

(6) モノエースS (系統名 Kawe-J 338) 1988年  
登録番号：(北海道) てんさい輸交第27号

来歴 本品種は1981年に西ドイツのクラインワッツレーベン種子会社が二倍体の単胚雄性不稔系統「2A 0079」と、四倍体の多胚花粉親系統「9X0022」とを交配し育成した三倍体、単胚一代雑種で、1982年に日本甜菜製糖株式会社が輸入し、1983年から「Kawe-J 338」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。

特性概要

1. 葉長は「モノエース」とほぼ同程度で、葉姿はやや開平であり、根形は円錐型で分岐根は少ない。
2. 抽苔耐性は「ハイラーベ」と同様に強く、当年抽苔することはほとんどない。

3. 褐斑病に対しては、「モノエース」同様に弱く、その他の病害についても「モノエース」との差はほとんどない。

4. 根重はほぼ「モノエース」並で、根中糖分は「モノエース」よりやや高い。
5. 有害性非糖分はアミノ態窒素、カリウムは「モノエース」よりやや高いが、ナトリウムは「モノエース」より低く、不純物価は「モノエース」並で良質である。

栽培適地と奨励態度

道央南部、道南を除く全道一円に適應し、「カーベメガモノ」、「モノエース」の一部におきかえて栽培する。栽培上の注意は、根中糖分の低下や有害非糖分の増加を招く多肥栽培は避ける。「モノエース」と同様に褐斑病に弱いので適期防除に留意する。その他の栽培法は「モノエース」に準ずる。



試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
十 勝 農 試	モノエース S	5.52	18.12	1,002	101	104	106	100	1983~1987
	モノエース	(6.16)	(17.80)	(1,098)	(103)	(102)	(105)	(100)	
	ハイラーベ	5.59	17.05	953	103	98	101	109	
	モノミドリ	5.44	17.36	945	100	100	100	100	
北 見 農 試	モノエース S	4.52	18.27	826	103	105	109	100	1983~1987
	モノエース	(4.88)	(17.77)	( 866)	(104)	(104)	(109)	( 94)	
	ハイラーベ	4.79	17.06	818	110	98	108	113	
	モノミドリ	4.37	17.32	757	100	100	100	100	
上 川 農 試	モノエース S	5.14	19.01	972	105	105	109	96	1985~1987 1987
	モノエース	5.18	18.63	961	106	102	108	94	
	ハイラーベ	5.18	17.82	919	106	98	103	114	
	モノミドリ	4.96	16.70	826	100	100	100	100	

注 1) 十勝、北見農試の「モノエース」の成績は1985年~1987年の平均。  
 2) 不純物価は十勝と北見農試は1984年~1987年平均、上川農試は1985年~1987年平均。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 26-27(1988)。

(7) メガエース (系統名 Kawe-J 537) 1988年  
 登録番号: (北海道) てんさい輸交第28号

来歴 本品種は1983年に西ドイツのクラインワンツレーベン種子会社が二倍体の単胚雄不稔系統「1 A 0069」と、四倍体の多胚花粉親系統「P S 54177」とを交配し育成した三倍体、単胚一代雑種で、1984年に日本甜菜製糖株式会社が輸入し、1985年より「MC 84-08」、1986年からは「Kawe-J 537」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。

特性概要

1. 葉長は「モノミドリ」とほぼ同程度で、葉姿はやや開平であり、根形は円錐型で分岐根は少ない。
2. 抽苔耐性は「モノエース」と同様に強く、当年抽苔することはほとんどない。
3. 褐斑病に対しては、「モノエース」同様に弱く、その

他の病害についても「モノエース」との差はほとんどない。

4. 根重は「モノエース」より多く、「モノヒカリ」と同程度かやや優り、根中糖分は「モノエース」より低く「モノミドリ」並かやや高い。
5. 有害性非糖分はアミノ態窒素、カリウム、ナトリウムとも「モノミドリ」よりやや高く、不純物価は「モノミドリ」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度

道央中部・北部、十勝中部、網走内陸及びこれに準ずる地域に適應し、「カーベメガモノ」、「モノエース」の一部におきかえて栽培する。栽培上の注意は、根中糖分の低下や有害非糖分の増加を招く多肥栽培は避ける。「モノエース」と同様に褐斑病に弱いので適期防除に留意する。その他の栽培法は「モノエース」に準ずる。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
十 勝 農 試	メガエース	6.52	17.46	1,139	116	99	115	106	1985~1987
	モノエース	5.87	18.08	1,062	104	103	107	98	
	モノヒカリ	6.43	17.61	1,135	114	100	115	88	
	モノミドリ	5.62	17.56	989	100	100	100	100	

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
北 兄 農 試	メガエース	5.21	16.99	887	120	102	123	106	1985~1987
	モノエース	4.67	17.35	811	107	104	112	101	
	モノヒカリ	4.80	17.39	835	110	104	115	76	
	モノミドリ	4.35	16.66	724	100	100	100	100	
中 央 農 試	メガエース	6.66	16.86	1,119	118	99	116	110	1986~1987
	モノエース	5.97	17.51	1,043	106	103	109	96	
	モノヒカリ	6.47	17.42	1,126	115	102	117	85	
	モノミドリ	5.64	17.06	961	100	100	100	100	
上 川 農 試	メガエース	5.26	18.69	982	113	101	114	103	1986~1987
	モノエース	4.85	19.00	920	104	102	107	94	
	モノヒカリ	5.33	18.53	987	115	100	114	88	
	モノミドリ	4.65	18.57	863	100	100	100	100	

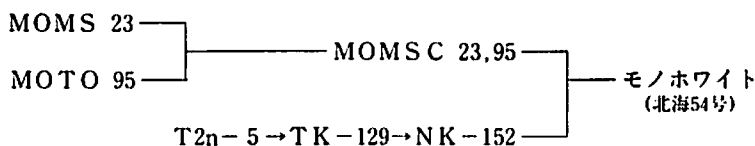
参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 28-29(1988)。

(8) モノホワイト (系統名 北海54号) 1989年

登録番号: (北海道) てんさい北海道交第29号  
(農水省) てんさい農林交14号  
(種苗法) 第2345号

雄性不稔系統 (ホクレン農業協同組合連合会を通じて導入) と, 北海道農業試験場育成の多胚花粉親系統を交配して育成した単胚二倍体の一代雑種である。1984年より「NV101」, 1985年からは「北海54号」の系統名で各種の試験を行い, 1989年優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。

来歴 本品種は, 1981年に農林水産省北海道農業試験場においてオランダのバンデルハーベ社の保持する単胚



特性概要

1. 二倍体単胚一代雑種で, 葉姿は直立, 葉形は皮針形, 葉身はやや小さく, 葉柄はやや細い。根形はやや短円錐形を示し, 「モノホマレ」及び「モノヒカリ」の円錐形と異なる。
2. 抽苔は「モノヒカリ」より少なく, 「モノホマレ」並である。
3. 褐斑病抵抗性は弱で「モノホマレ」及び「モノヒカリ」より弱い。根腐病抵抗性は「モノホマレ」及び「モノヒカリ」と同じ弱である。そう根病の軽度の発生圃

場では「モノヒカリ」並の耐性を示す。

4. 耐湿性は「モノヒカリ」より若干弱い, 「モノホマレ」よりやや強い。
5. 根重は「モノホマレ」及び「モノヒカリ」より少なく, 根中糖分は現行品種中最も高い。
6. 品質は「モノヒカリ」に次いで良好である。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適応する。栽培上の注意は, 道東及び道北の一部沿海地域では, まれに当年抽苔の発生することがあるので, 極端な早まき育苗を避ける。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノホマレ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
北海道農試	モノホワイト	5.64	17.07	963	94	104	97	93	1985~1987
	ハイラーベ	5.81	16.19	941	97	98	96	108	
	モノヒカリ	6.10	16.58	1,012	102	101	102	83	
	モノホマレ	6.03	16.52	997	100	100	100	100	
北 見 農 試	モノホワイト	5.18	18.38	955	92	104	96	90	1985~1987
	ハイラーベ	5.54	17.35	961	98	98	96	118	
	モノヒカリ	5.57	17.95	1,001	98	102	100	77	
	モノホマレ	5.66	17.63	999	100	100	100	100	
十 勝 農 試	モノホワイト	5.90	18.24	1,078	93	93	104	95	1985~1987
	ハイラーベ	6.00	17.20	1,032	94	94	99	110	
	モノヒカリ	6.46	17.60	1,137	101	101	101	85	
	モノホマレ	6.37	17.58	1,120	100	100	100	100	

参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 22-25(1989)。

2) 北海道農業試験場報告, 第155号, 81-99(1991)。

#### (9) エ マ (系統名 HT-1) 1990年

登録番号: (北海道) てんさい輸交第30号

**来歴** 本品種はスウェーデンのヒレスヘッグ種子会社が、二倍体の単胚細胞質雄性不稔系統「MS-257D」と、二倍体の多胚花粉親系統「2X/32」をとを交配し育成したそう根病圃場抵抗性を有する二倍体、単胚の一代雑種である。1986年に北海道糖業株式会社が輸入し、1987年より「Hillmonol168」、1988年からは「HT-1」の系統名で各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

#### 特性概要

1. 葉長は「モノミドリ」と同程度で、葉色は緑、葉形はやや皮針で、葉姿はやや直立である。クラウンは小さく、露肩が少なく、根形は短円錐で分岐根が少ない。肉質はやや軟らかい。
2. 抽苔耐性は既存のヨーロッパ系輸入品種並に強く、当年抽苔することはほとんどない。
3. そう根病の圃場抵抗性は「モノミドリ」より強く、褐斑病抵抗性は「スターヒル」並の弱であり、耐湿性は既存の品種と同様に弱である。
4. 根重は健全圃場では、「モノミドリ」より多く、「スターヒル」、「モノエース」より少ない。そう根病発病圃場では「モノミドリ」に比べ、少程度の発病圃場で

9~29%、中程度で38~42%多い。

5. 根中糖分は健全圃場では、「モノミドリ」、「スターヒル」より高く、「モノエース」並の高糖分品種に属する。そう根病発病圃場では「モノミドリ」にくらべ、少程度の発病圃場で29~44%、中程度で34~37%高い。
6. 有害性非糖分は、健全圃場でアミノ態窒素が「モノミドリ」、「モノエース」より高く、カリウムが同程度、ナトリウムがやや低く、不純物価がやや高い。そう根病発病圃場では、カリウムとナトリウムが相対的に低くなり、不純物価は少以下の発病圃場で「モノミドリ」よりやや少なく、中以上の発病圃場では「モノミドリ」より明らかに低い。

#### 栽培適地と奨励態度

全道のそう根病発生地帯に適應する。栽培上の注意は、「エマ」はそう根病圃場抵抗性を有するが、前回作付けした圃場の発病程度を十分に考慮して、汚染程度が高いと思われる圃場では栽培を避ける。既存の品種と同様に耐湿性は弱いので、過湿になりやすい圃場での栽培は避ける。褐斑病に対しては強度の抵抗性を有していないので適期防除に留意する。根中糖分の低下や有害非糖分の増大を招くので多肥栽培は避ける。その他の栽培法は「スターヒル」に準ずる。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
北 見 農 試	エ マ	5.92	18.22	1,080	107	104	112	108	1987~1989
	ス タ ー ヒ ル	6.17	17.90	1,106	112	102	114	107	
	モ ノ エ ース	5.97	17.84	1,065	108	102	110	101	
	モ ノ ミ ドリ	5.51	17.55	966	100	100	100	100	
十 勝 農 試	エ マ	6.02	18.02	1,086	102	104	106	105	1987~1989
	ス タ ー ヒ ル	6.45	17.58	1,134	109	101	110	100	
	モ ノ エ ース	6.21	17.69	1,099	105	102	107	101	
	モ ノ ミ ドリ	5.90	17.41	1,027	100	100	100	100	
中 央 農 試	エ マ	6.63	16.82	1,113	101	101	103	104	1987~1989
	ス タ ー ヒ ル	6.87	16.68	1,143	105	100	106	100	
	モ ノ エ ース	7.21	16.73	1,199	110	101	111	104	
	モ ノ ミ ドリ	6.55	16.61	1,083	100	100	100	100	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-27(1990)。

(10) リゾール (系統名 SESIR2) 1990年  
登録番号: (北海道) てんさい輸交第31号

**来歴** 本品種は、1984年にベルギーのヨーロッパ種子会社が、二倍体の単胚細胞質雄性不稔系統「MS-24-6」と、二倍体多胚の花粉親系統「4-21775」を交配して育成したそう根病圃場抵抗性を有する二倍体の単胚一代雑種である。1985年に日本甜菜製糖株式会社が輸入し、1986年から「SESIR2」の系統名で各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 草丈は「モノミドリ」とほぼ同程度で、葉姿はやや直立である。葉数はやや多く、葉身はやや小さい。クラウンは小さく、根形は円錐形で、根長がやや短く、分岐根は少ない。
2. 抽苔耐性は既存のヨーロッパ系輸入品種と同様強く、当年抽苔することはほとんどない。
3. そう根病圃場抵抗性は、現在検定試験に供試されている品種系統の中で最も強い。褐斑病抵抗性は「モノミドリ」よりやや弱い。既存のヨーロッパ系輸入品種より強く、抵抗性は中である。
4. 耐湿性は既存の品種と同様に弱である。
5. 根重は健全圃場では「モノミドリ」より多く、「モノエース」と同程度かやや劣る。そう根病圃場では

「モノミドリ」に比べ、少程度の発病圃場では9~20%、中程度では90~92%根重が多い。

6. 根中糖分は健全圃場では「モノミドリ」よりやや低い。そう根病圃場では「モノミドリ」に比べ、少程度の発病圃場では17~40%、中程度では34~36%根中糖分が高い。

7. 有害性非糖分は、健全圃場では「モノミドリ」や「モノエース」に比べアミノ態窒素、カリウムが高いが、ナトリウムは低い。不純物価は「モノミドリ」や「モノエース」より高い。そう根病圃場では、カリウムとナトリウムが相対的に低くなり、不純物価は、少以下の発病圃場では「モノミドリ」よりやや高いが、中以上の発病圃場では「モノミドリ」より明らかに低い。

**栽培適地と奨励態度**

全道のそう根病発生地帯に適應する。栽培上の注意は、「リゾール」はそう根病圃場抵抗性を有するが、前回は付けた圃場の発病程度を十分に考慮して、汚染程度が高いと思われる圃場では栽培を避ける。既存の品種と同様に耐湿性は弱いので、過湿になりやすい圃場での栽培は避ける。褐斑病に対しては強度の抵抗性を有していないので適期防除に留意する。根中糖分の低下や有害性非糖分の増大を招くので多肥栽培は避ける。その他の栽培法は「モノエース」に準ずる。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
十 勝 農 試	リゾール	6.20	17.12	1,061	105	98	103	118	1986~1989
	モノエース	6.18	17.83	1,101	105	102	107	99	
	モノミドリ	5.88	17.50	1,029	100	100	100	100	
北 見 農 試	リゾール	5.65	17.07	962	109	98	107	117	1986~1989
	モノエース	5.63	17.92	1,007	109	103	112	99	
	モノミドリ	5.16	17.48	901	100	100	100	100	

参照 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 22-24(1990)。

(II) リゾホート (系統名 H4612) 1991年  
登録番号: (北海道) てんさい輸交第32号

**来歴** 本品種は1983年にオランダのバンデルハーベ種子会社が、二倍体単胚の細胞質雄性不稔系統「MOMS RM25・38」と、二倍体多胚の花粉親系統「RT46-1」とを交配し育成したそう根病圃場抵抗性を有する二倍体、単胚の一代雑種である。1986年にホクレン農業協同組合連合会が輸入し、1987年から「H4612」の系統名で各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 葉姿がやや直立型であり、葉形は皮針、葉長は「モノホマレ」より短く「モノミドリ」と同程度の中である。クラウンは小さく、根形は円錐形で分岐根は少ない。
2. 抽苔耐性は既存のヨーロッパ系輸入品種と同様に強く、耐湿性は「モノミドリ」、「モノホマレ」のやや弱に対して弱である。
3. そう根病の圃場抵抗性は強、褐斑病抵抗性は「モノミドリ」並で、既存のヨーロッパ系輸入品種に優りやや強である。
4. 根重は健全圃場では「モノミドリ」より多く、「モノ

ホマレ」より少ない。そう根病発病圃場では「モノミドリ」に比べ、少程度の発病圃場で96~151% (平均128%)、中程度では153~179% (平均168%) の指数を示す。

5. 根中糖分は健全圃場では「モノミドリ」、「モノホマレ」より低い。そう根病発病圃場では「モノミドリ」に比べ、少程度の発病圃場で114~140% (平均124%)、中程度で132~211%で平均160%の指数を示す。

6. 健全圃場ではアミノ態窒素とカリウムが「モノミドリ」、「モノホマレ」より高く、ナトリウムが低い。不純物価はやや高い。そう根病発病圃場でもアミノ態窒素は減少量が少なく、相対的に高くなる。不純物価は少以下の発病圃場で「モノミドリ」よりやや高く、中以上では糖分の低下が少ないため明らかに低い。

**栽培適地と奨励態度**

全道のそう根病発生地帯に適應する。栽培上の注意は、「リゾホート」はそう根病圃場抵抗性を有するが、前回作付けした圃場の発病程度を十分に考慮して、汚染程度が高いと思われる圃場では栽培を避ける。耐湿性は弱いので、過湿になりやすい圃場での栽培は避け、その他の肥培管理は「モノホマレ」に準ずる。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノミドリ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
中 央 農 試	リゾホート	7.52	16.44	1,237	99	101	100	106	1989~1990
	モノホマレ	8.19	16.22	1,327	108	100	107	106	
	モノミドリ	7.61	16.26	1,237	100	100	100	100	
上 川 農 試	リゾホート	6.06	17.02	1,030	107	98	105	118	1989~1990
	モノホマレ	6.30	17.56	1,107	111	101	113	100	
	モノミドリ	5.66	17.39	983	100	100	100	100	

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 12-14(1991)。

(12) メロディー (系統名 H114) 1991年  
登録番号：(北海道) てんさい輸交第33号

来歴 本品種は1986年にオランダのバンデルハーベ種子会社が、二倍体雄性不稔系統「MOMS105・859」に四倍体多胚系統「T947/6」を花粉親として交配し育成した三倍体、単胚の一代雑種である。1987年にホクレン農業協同組合連合会が輸入し、同年から各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。

特性概要

1. 葉姿はやや開平で、葉長がやや短く、葉形は楕円形である。葉数は中で「モノホマレ」より少なく、葉身の大きさは中で、「モノホマレ」より大きい。
2. 根重は「モノエース」、「スターヒル」より多く、「モノホマレ」並かやや少ない。根中糖分は「モノホマレ」より高く、「モノエース」、「スターヒル」並かやや高い。
3. 有害性非糖分はアミノ態窒素、カリウムが「モノホ

マレ」より低く、ナトリウムが「モノホマレ」よりかなり低い。不純物価は「モノエース」、「スターヒル」より低く、品質は良好である。

4. 抽苔耐性は「モノホマレ」並の強、耐湿性は「モノホマレ」、「モノエース」、「スターヒル」並のやや弱である。
5. 褐斑病に対する抵抗性は「スターヒル」、「モノエース」並の弱であり、他の病害については「モノホマレ」、「モノエース」、「スターヒル」との差はない。

栽培適地と奨励態度

北海道十勝・網走地域及びこれに準ずる地帯に適応する。栽培上の注意は、排水の劣る圃場では根重及び根中糖分が低下する場合がある。褐斑病に対する抵抗性は弱なので適期防除に留意する。多肥栽培は、根中糖分の低下や有害性非糖分の増加を招くだけでなく、根重も減収することがあるので、北海道施肥標準を守る。その他の栽培法は「モノホマレ」に準ずる。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノホマレ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
十 勝 農 試	メロディー	6.57	17.20	1,127	101	102	103	94	1988~1990
	モノエース	6.17	17.07	1,052	95	101	96	93	
	スターヒル	6.50	17.09	1,108	100	101	101	96	
	モノホマレ	6.50	16.85	1,093	100	100	100	100	
北 見 農 試	メロディー	6.71	17.87	1,197	98	102	100	91	1988~1990
	モノエース	6.32	17.62	1,114	92	101	93	91	
	スターヒル	6.66	17.77	1,182	97	101	99	95	
	モノホマレ	6.84	17.51	1,196	100	100	100	100	

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 15-17(1991)。

(13) ハンナ (系統名 HT3) 1991年  
登録番号：(北海道) てんさい輸交第34号

来歴 本品種は1985年にスウェーデンのヒレスヘック種子会社が、二倍体単胚雄性不稔系統「MS-289-0」と、二倍体多胚花粉親系統「2X/20」の交配により育成した二倍体単胚の一代雑種である。1987年に北海道糖業株式会社が輸入し、各種の試験を行い1991年に優良品種となった。

特性概要

1. 葉長は「スターヒル」と同程度で、葉色は緑、葉形がやや皮針で、葉姿がやや開平型である。クラウンは小さく、露肩は中で、根形は短円錐形で分岐根が少ない。

2. 根重は「モノホマレ」、「スターヒル」より劣り、「モノエースS」並である。
3. 根中糖分は「モノホマレ」、「スターヒル」より高く、「モノエースS」に近い高糖性を示す。
4. 褐斑病に対しては「スターヒル」同様に弱く、その他の病害についても「スターヒル」との差はほとんどない。
5. 抽苔耐性は「モノホマレ」、「スターヒル」と同様に強く、当年抽苔することはほとんどない。
6. 有害性非糖分は、アミノ態窒素とカリウムが「モノホマレ」、「スターヒル」、「モノエースS」よりやや低く、ナトリウムが「モノホマレ」、「モノエースS」よりかなり低く「スターヒル」並である。また不純物価は「モノホマレ」、「モノエースS」、「スターヒル」よ

り低く、品質は良好である。

7. 耐湿性は「スターヒル」、「モノエースS」より強い。  
栽培適地と奨励態度  
道央、道南地域及びこれに準ずる地帯に適應する。栽

培上の注意は、根中糖分や品質を低下させる多肥栽培は避ける。「スターヒル」と同様に褐斑病に弱いので、適期防除に留意する。その他の栽培法は「スターヒル」に準ずる。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノホマレ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
中央農試	ハ ン ナ	7.58	17.03	1,291	93	105	97	87	1988~1990
	スターヒル	7.92	16.65	1,321	97	102	100	94	
	モノエースS	7.57	17.18	1,302	93	106	98	93	
	モノホマレ	8.16	16.26	1,327	100	100	100	100	
北海道農試	ハ ン ナ	6.71	17.16	1,152	90	103	93	93	1988~1990
	スターヒル	7.04	17.11	1,205	95	102	97	98	
	モノエースS	6.43	17.40	1,118	89	105	93	94	
	モノホマレ	7.42	16.72	1,242	100	100	100	100	

注) 北海道農試の「モノエースS」は1989年~1990年の平均値。

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 18-20(1991)。

(14) アレグロ (系統名 H116) 1993年  
登録番号: (北海道) てんさい輸交第35号

来歴 本品種は1986年にオランダのバンデルハーベ種子会社が、二倍体雄性不稔系統「MOMS52,89」に四倍体多胚系統「T. 6/14」を花粉親として交配し育成した三倍体、単胚の一代雑種である。1987年にホクレン農業協同組合連合会が輸入し各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。

特性概要

1. 草丈は「モノホワイト」よりやや低く、葉姿は開平である。葉数は「モノホワイト」と同程度で、葉形は楕円、葉身は「モノホワイト」よりやや大きく、葉柄長はやや短い。クラウンは「モノホワイト」よりやや大きく、根形は円錐形で分岐根は少ない。
2. 根重は「モノホワイト」より多く、「モノホマレ」より少ない。

3. 根中糖分は「モノホワイト」に近い高糖分で、「モノホマレ」より高い。
4. 有害性非糖分はアミノ態窒素が「モノホワイト」より低く、カリウムは「モノホワイト」よりやや高く、ナトリウムは「モノホワイト」より高い。不純物価は「モノホワイト」並である。
5. 抽苔耐性は既存のヨーロッパ系輸入品種と同様に強である。
6. 褐斑病抵抗性は「モノホワイト」並の弱である。
7. 耐湿性は「モノホワイト」並のやや弱である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適應する。栽培上の注意は、褐斑病に対する抵抗性は弱なので、適期防除に留意する。多肥栽培は、根中糖分の低下や有害性非糖分の増加を招くので、北海道施肥標準を守る。その他の栽培法は「モノホワイト」、「モノホマレ」に準ずる。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノホマレ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
十勝農試	アレグロ	6.34	17.75	1,122	96	104	100	90	1990~1994
	モノホワイト	6.18	17.88	1,101	94	105	98	90	
	モノホマレ	6.60	17.05	1,123	100	100	100	100	
北見農試	アレグロ	6.14	18.56	1,135	95	102	97	91	1990~1994
	モノホワイト	5.89	18.85	1,109	91	104	95	85	
	モノホマレ	6.46	18.13	1,168	100	100	100	100	

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノホマレ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
中央農試	アレグロ	8.89	17.76	1,581	101	106	107	90	1990～1994
	モノホワイト	8.22	17.58	1,447	93	105	98	88	
	モノホマレ	8.80	16.76	1,477	101	100	100	100	
上川農試	アレグロ	6.13	19.12	1,172	101	104	105	89	1990～1994
	モノホワイト	5.81	19.03	1,104	95	104	99	92	
	モノホマレ	6.09	18.38	1,117	100	100	100	100	

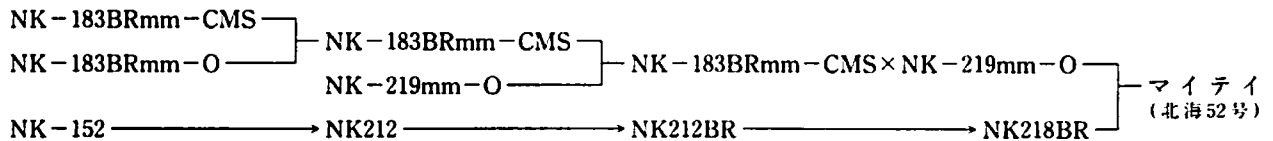
参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 22-25(1993)。

(15) マイテイ (系統名 北海62号) 1994年

登録番号: (北海道) てんさい北海道交第36号  
(農水省) てんさい農林交15号

系統「NK-1838mm-CMS× NK-219mm-O」に、多胚二倍体花粉親系統「NK-218RB」を交配し育成した単胚二倍体の三系交配一代雑種である。1990年より「K1140」, 1991年からは「北海62号」の系統名で各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

来歴 本品種は農林水産省北海道農業試験場において、高糖分、高品質、多収を目標に単胚二倍体雄性不稔



特性概要

1. 葉姿は直立型で葉長はやや長く「モノホマレ」と同じである。葉数は多く、葉形は「モノホマレ」と同じく皮針形で「モノエースS」(楕円形)とは明確に区別される。
2. 根重は「モノホマレ」より多く多収性で、根中糖分は「モノホマレ」並、糖量は「モノホマレ」より多い。品質は「モノホワイト」より劣るが、「モノホマレ」よりやや良い。

3. 抽苔性は「モノホマレ」, 「モノホワイト」並で少なく、耐湿性は「モノホマレ」並でやや弱い。
4. 褐斑病抵抗性は「モノホマレ」並のやや弱、根腐病抵抗性は「モノホマレ」並に弱い。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適応する。栽培上の注意は、耐湿性がややよわいので、湿害の恐れが多い地帯は避ける。抽苔性は少であるが、まれに発生することがあるので極端な早播きを避ける。その他の栽培法は「モノホマレ」に準ずる。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノホマレ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
北海道農試	マイテイ	7.24	17.12	1,239	103	101	103	95	1991～1993
	モノホマレ	7.05	17.05	1,199	100	100	100	100	
	モノホワイト	6.41	17.80	1,140	91	105	95	88	
	モノエースS	6.31	17.94	1,116	88	105	93	95	
十勝農試	マイテイ	6.30	17.98	1,129	106	100	106	94	1991～1993
	モノホマレ	5.94	18.00	1,069	100	100	100	100	
	モノホワイト	5.60	18.69	1,042	94	104	98	91	
	モノエースS	5.55	18.93	1,048	93	105	98	89	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 22-25(1994)。



(16) サラ (系統名 HT 7) 1994年

登録番号：(北海道) てんさい輸交37号

来歴 本品種はスウェーデンのヒレスヘッグ種子会社が、二倍体雄性不稔系統「MS-298-E」に四倍体多胚花粉親系統「4X/6」を交配し、1889年に育成した三倍体単胚の一代雑種である。1990年に北海道糖業株式会社が輸入し、1991年から各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 草丈は「スターヒル」よりやや低く、葉姿はやや開平である。葉数は「スターヒル」より少なく、葉形はやや皮針、葉身の大きさは「スターヒル」とほぼ同程度で、葉柄長はやや短い。

2. 根重は「スターヒル」並で、根中糖分は「スターヒル」より高い。
  3. 有害性非糖分は、アミノ態窒素が「スターヒル」より低く、カリウムは「スターヒル」よりやや低く、ナトリウムは「スターヒル」並で、不純物価は「スターヒル」より低く、品質は良好である。
  4. 抽苔耐性はやや強で「スターヒル」より弱く、耐湿性はやや弱で「スターヒル」より強い。
  5. 褐斑病抵抗性は中であり、「スターヒル」より強い。
- 栽培適地と奨励態度

道央、道南、道北、十勝、網走内陸部(抽苔に対する懸念のない地帯)に適應する。栽培上の注意は褐斑病に対する抵抗性は「スターヒル」より強いが、適期防除に留意する。その他の栽培法は「スターヒル」に準ずる。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノホマレ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
十 勝 農 試	サ ラ	5.84	18.73	1,095	97	104	101	89	1991~1993
	スターヒル	6.05	18.34	1,106	100	102	102	96	
	モノエースS	5.50	18.92	1,039	91	105	96	86	
	モノホマレ	6.04	17.95	1,081	100	100	100	100	
北 見 農 試	サ ラ	5.85	19.34	1,113	94	103	97	97	1991~1993
	スターヒル	5.80	18.94	1,098	93	100	94	105	
	モノエースS	5.63	19.63	1,103	90	104	94	90	
	モノホマレ	6.22	18.85	1,172	100	100	100	100	
中 央 農 試	サ ラ	8.38	17.67	1,480	98	103	101	92	1991~1993
	スターヒル	8.32	17.40	1,449	98	102	99	96	
	モノエースS	8.09	17.75	1,492	95	104	98	92	
	モノホマレ	8.52	17.11	1,458	100	100	100	100	
上 川 農 試	サ ラ	5.64	19.35	1,090	96	104	100	92	1991~1993
	スターヒル	5.72	18.84	1,077	98	101	99	104	
	モノエースS	5.32	19.57	1,040	91	105	96	91	
	モノホマレ	5.84	18.60	1,086	100	100	100	100	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-28(1994)。

(17) ハミング (系統名 H119) 1995年

登録番号：(北海道) てんさい輸交第38号

来歴 本品種はオランダのバンデルハーベ種子会社が、二倍体雄性不稔種子親系統「MOMS 52.13.4」に四倍体多胚花粉親系統「T 8/78」を交配し、1990年に育成した三倍体単胚の一代雑種である。1991年にホクレン農業協同組合連合会が輸入し、1992年から各種の試験を行い1995年に優良品種となった。

特性概要

1. 草丈はやや低く、葉姿はやや開平である。葉数は「メロディー」よりやや少なく、葉形はやや皮針形、葉身の大きさは中で「メロディー」並、葉柄長はやや短い。クラウンの大きさは「メロディー」並、露肩は「メロディー」よりやや少ない。根形は円錐形で、分岐根は少ない。
2. 根重は「メロディー」より多く「モノホマレ」並で、根中糖分は「メロディー」並の高糖分で「モノホマレ」

より高く、糖量は「メロディー」や「モノホマレ」より多い。

- 有害性非糖分はアミノ態窒素、カリウムは「メロディー」よりやや少なく、ナトリウムは「メロディー」並である。不純物価は「メロディー」や「モノホマレ」より低く、品質は良好である。
- 抽苔耐性は「メロディー」や「モノホマレ」並の強

で、耐湿性は「モノエースS」並の中である。

- 褐斑病抵抗性は「メロディー」並の弱である。

**栽培適地と奨励態度**

北海道一円に適応する。栽培上の注意は、褐斑病に対する抵抗性は弱なので、適期防除に留意する。排水不良な圃場では栽培を避ける。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10a)	対「モノホマレ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
十 勝 農 試	ハ ミ ン グ	5.94	18.07	1,066	101	103	104	94	1992~1994
	メ ロ デ ィ ー	5.73	18.14	1,032	97	103	100	95	
	モ ノ ホ マ レ	5.89	17.53	1,027	100	100	100	100	
北 見 農 試	ハ ミ ン グ	6.34	18.53	1,172	98	102	99	95	1992~1994
	メ ロ デ ィ ー	6.36	18.60	1,182	98	102	100	94	
	モ ノ ホ マ レ	6.49	18.20	1,178	100	100	100	100	
中 央 農 試	ハ ミ ン グ	8.18	16.83	1,374	103	101	104	96	1992~1994
	メ ロ デ ィ ー	7.74	17.01	1,309	97	102	99	94	
	モ ノ ホ マ レ	7.97	16.65	1,324	100	100	100	100	
上 川 農 試	ハ ミ ン グ	6.17	18.44	1,135	99	104	103	87	1992~
	メ ロ デ ィ ー	5.99	18.42	1,097	96	104	99	97	
	モ ノ ホ マ レ	6.26	17.71	1,104	100	100	100	100	

参照 1) 北海道農務部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 10-12(1995)。

(10) ストーク (系統名 Kawe-J039) 1995年

登録番号: (北海道) てんさい輸交第39号

**来歴** 本品種はドイツのクラインワンツレーベン種子会社が、二倍体単胚雄性不稔系統「MS7H9882」に四倍体多胚系統「PS7X8041」を花粉親として交配し、1988年に育成した三倍体の単胚一代雑種である。1989年に日本甜菜製糖株式会社が輸入し、1990年から各種の試験を行い1995年に優良品種となった。

**特性概要**

- 草丈は中で「モノエースS」並、葉姿はやや開平である。葉数は「モノエースS」と同程度で、葉形は楕円、葉身の大きさは中で「モノエースS」並、葉柄長は中で「モノエースS」並である。クラウンは小さく「モノエースS」並、露肩は「モノエースS」よりやや少ない。根形はやや短円錐形であり、分岐根は少ない。

- 根重は「モノエースS」より多く「モノホマレ」より少なく、根中糖分は「モノエースS」並の高糖分で「モノホマレ」より高い。糖量は「モノエースS」より多く「モノホマレ」並である。

- 有害性非糖分はアミノ態窒素が「モノエースS」より高く、カリウムは「モノエースS」よりやや低く、ナトリウムは「モノエースS」よりやや高い。不純物価は「モノエースS」よりやや高いが、「モノホマレ」より低く、品質は良好である。

- 抽苔耐性は「モノエースS」や「モノホマレ」並の強で、耐湿性は「モノエースS」並の中である。

- 褐斑病抵抗性は「モノエースS」並の弱である。

**栽培適地と奨励態度**

北海道一円に適応する。栽培上の注意は、褐斑病に対する抵抗性は弱なので、適期防除に留意する。根腐れの発生することがあるので、排水不良な圃場では栽培を避ける。

試験場名	品 種 名	根 重 (t/10 a)	根中糖分 (%)	糖 量 (kg/10 a)	対「モノホマレ」比 (%)				試験年次
					根 重	根中糖分	糖 量	不純物価	
十 勝 農 試	ス ト ー ク	6.05	18.12	1,090	96	105	100	97	1990~1994
	モノエースS	5.78	18.06	1,040	91	105	96	90	
	モノホマレ	6.33	17.23	1,086	100	100	100	100	
北 見 農 試	ス ト ー ク	6.19	18.89	1,165	95	104	100	86	1990~1994
	モノエースS	5.93	18.80	1,109	91	104	95	88	
	モノホマレ	6.49	18.10	1,170	100	100	100	100	
中 央 農 試	ス ト ー ク	8.52	17.60	1,499	100	105	105	85	1990~1994
	モノエースS	8.09	17.34	1,400	95	104	98	92	
	モノホマレ	8.52	16.69	1,422	100	100	100	100	
上 川 農 試	ス ト ー ク	6.11	18.91	1,151	98	105	103	90	1990~1994
	モノエースS	5.63	18.98	1,066	90	105	96	90	
	モノホマレ	6.23	18.00	1,116	100	100	100	100	

参照 1) 北海道農務部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 12-14(1995)。

## 2. ひまわり

(1) ノースクイーン (系統名 北交2号) 1994年

登録番号: (北海道) ひまわり北海道交第1号  
(農水省) ひまわり農林1号

**来歴** 本品種は農林水産省北海道農業試験場において、早生、高含油、多収性の品種育成を目標に、1988年に細胞質雄性不稔系統「ADY-4」を母として、稔性回復系統「ADK-4」を父として交配し育成した単交配の一代雑種である。

### 特性概要

1. 頭花は単性、筒状花は横向きで、頭花径は「DO-707」よりやや小さい。茎の緑色程度は淡緑で、葉形は心臟形、葉色は淡緑、葉縁は鋸歯で不規則である。
2. 種子の色は黒色で、斑紋はなく長卵型である。
3. 油料用の早生種に属し、莖長は「DO-707」に比べ30cm程高く、やや長稈である。開花期及び成熟期は「D

O-707」と大差なく同程度である。

4. 倒伏程度は「DO-707」と同程度のやや強で、菌核病の被害は「Sunwheat-101」と対しなく、「DO-707」と同程度である。
5. 子実収量は「DO-707」に比較して多収であるが、粗油量は含有率がやや低いため「DO-707」と同程度である。
6. 脂肪酸組成の主成分であるリノール酸は「DO-707」と同程度であるが、アルファトコフェロール (ビタミンE) の含量はやや少ない。

### 栽培適地と奨励態度

北海道一円に適応する。栽培上の注意は、菌核病は適期防除に努める。発芽、成熟期に鳥害防止対策を講じる事が望ましい。その他栽培法は「ひまわりの標準栽培法」(1987) に準ずる。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	莖 長 (cm)	頭花径 (cm)	倒 伏 程 度	菌核発 病株率 (%)	子実重 (kg/10 a)	同左比 (%)	含油率 (%)	粗油量 (kg/10 a)
北海道農試	ノースクイーン	7.28	9.4	171	17.3	無	15.9	284	108	47.3	134
	DO-707	7.28	9.4	139	19.9	無	13.8	264	100	49.3	131
	Sunwheat 101	7.23	8.28	87	15.3	無	23.3	188	71	41.9	78

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	茎 長 (cm)	頭花径 (cm)	倒 伏 程 度	菌核発 病株率 (%)	子実重 (kg/10 a)	同左比 (%)	含油率 (%)	粗油量 (kg/10 a)
中央農試	ノースクイーン	7.24	9.3	157	16.3	少	22.1	328	107	44.1	139
	DO - 7 0 7	7.21	9.4	116	17.0	少	26.2	307	100	46.5	138
	Sunwheat 101	7.20	8.28	79	12.3	無	25.1	312	102	41.3	127
北見農試	ノースクイーン	8.1	9.16	170	15.3	少	27.8	239	112	48.3	114
	DO - 7 0 7	7.31	9.18	141	17.4	中	30.8	213	100	51.6	110
	Sunwheat 101	7.27	9.5	89	12.8	無	41.1	168	87	44.5	75

注) 試験年次：1991～1993年

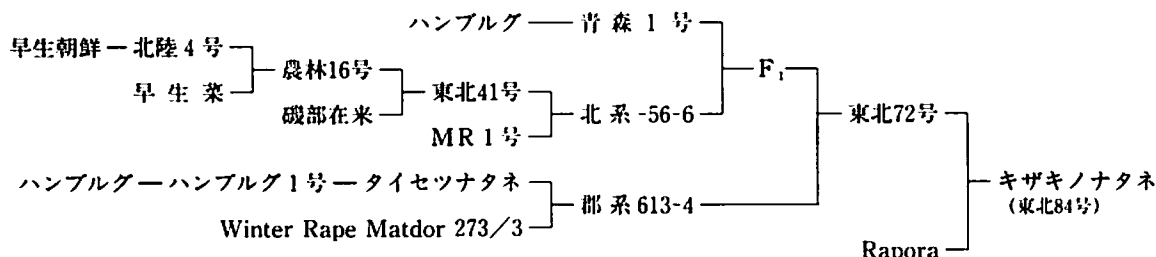
参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 28-30(1994)。

### 3. な た ね

(1) キザキノナタネ (原名 キザキノナタネ) 1992年  
登録番号：(北海道)なたね移第5号：  
(農水省)なたね農林47号

来歴 本品種は農林水産省東北農業試験場が「東北74号」を母, 「Rapora」を父とした雑種後代から選抜, 固定

され「東北84号」の系統名で各種の試験を経て平成2年に青森県を採用県として農林登録され「キザキノナタネ」と命名された無エルシン酸品種である。1987年に中央農業試験場が「東北84号」の配布を受け, 1988年から各種の試験を行い, 1992年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



#### 特性概要

1. 草型はIIIで, 草丈は長であるが「タイセツナタネ」よりは20cm程度短い。分枝数は少で「タイセツナタネ」並である。穂長は長であるが「タイセツナタネ」よりは短い。1穂莢数は多く, 「タイセツナタネ」よりやや多い。莢長は「タイセツナタネ」よりは短い。1莢結実数は多く, 「タイセツナタネ」並である。粒色は黒色で, 粒の大きさは「タイセツナタネ」よりやや小さく, 揃いは良い。
2. 抽苔性, 開花期は「タイセツナタネ」より早い, 成熟期は「タイセツナタネ」より1～2日遅い 中晩生種である。
3. 耐倒伏性は強で「タイセツナタネ」より倒伏が少ない。
4. 子実収量は「タイセツナタネ」より10%も優る多収

- 性で, 含油率は「タイセツナタネ」より1～2%高い。脂肪酸組成は, 「タイセツナタネ」は全脂肪酸に対して40%程度のエルシン酸を含むが, 本品種は無である。
5. 冬損及び菌核病抵抗性は, いずれもほぼ「タイセツナタネ」並である。

#### 栽培適地と奨励態度

北海道一円に適応する。栽培上の注意は, 自然交雑により脂肪酸組成中にエルシン酸がとり込まれる恐れがあるので, 高エルシン酸品種及びなたねと交雑可能なアブラナ科植物から十分隔離して栽培する。種子は無エルシン酸であることを保証したものを使用し, 播種適期は9月上旬であり, 適期播種に努める。耐倒伏性に勝るが, 春季追肥の窒素量をやや多肥 (10 a 当たり12kg程度) とすると生育が旺盛隣, 収量が高まる。雪腐病防除が必要である。

試験場名	品 種 名	成熟期 (月日)	越冬 株 率 (%)	倒伏程度		草 丈 (cm)	第1次 分枝数 (本)	総莢数 (莢/個体)	子実重 (kg/10a)	同左比 (%)	千粒重 (g)
				茎	穂						
中央農試	キザキノナタネ	7.15	93	無	無	110	7.4	170	241	111	4.2
	タイセツナタネ	7.14	97	無 少中	無 少多	134	7.4	168	217	100	5.3
センター	キザキノナタネ	7.8	(97)	無	無	116	9.4	(209)	367	100	4.0
	タイセツナタネ	7.7	(100)	無 無微	無 無少	149	9.6	(203)	368	100	4.9
上川農試	キザキノナタネ	7.11	87	無	無少	113	7.2	169	221	119	3.9
	タイセツナタネ	7.10	91	無 無少	無 微中	143	6.5	145	186	100	5.0
北見農試	キザキノナタネ	7.25	97	無	微	132	7.2	167	269	116	4.8
	タイセツナタネ	7.23	99	無	多	157	6.9	134	231	100	5.9

注 1) センターは北海道立植物遺伝資源センターである。

2) 試験年次：中央農試は1988～1990年，植物遺伝資源センターと上川農試は1989～1990年，北見農試は1990年である。

3) ( ) 内は1990年の値である。

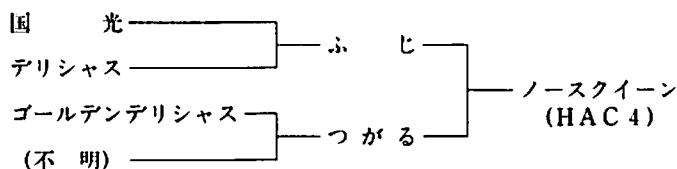
参照 1) 北海道農政部編，平成4年度普及奨励ならびに指導参考事項，27-30(1992)。

### III 果 樹

#### 1. りんご

(1) ノースクイーン (系統名 HAC 4) 1987年  
登録番号：(北海道)：りんご北海道第9号  
(種苗法) 第1864号

来歴 本品種は、1971年に北海道立中央農業試験場において「ふじ」を母、「つがる」を父として人工交配を行い育成したもので、1981年以降「HAC-4」(HACはHokkaido Apple Cloneの略)の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



#### 特性概要

1. 樹姿は中間で樹勢は中位であるが「つがる」よりやや強く、「レッドゴールド」と同程度である。樹の生育は良好で、樹の大きさは中位であり「つがる」と同程度である。
2. 枝梢は褐色で細く、節間長は長く、皮目は大であり「つがる」と同じであるが、皮目数は非常に多い。葉の形は楕円形で「つがる」よりいくぶん丸味を帯びており、大きさは「つがる」と同程度で、きょ歯は鋭きょ歯であり、葉柄は「つがる」より短い。
3. つぼみの色は濃桃色であるが、「つがる」よりいくぶん淡い。花は白～淡桃色で、おおきさは「つがる」よりやや大きく、花弁は卵形で「つがる」よりやや幅が広い。
4. 発芽期から展葉期までは「つがる」とほぼ同時期、開花期から落花期までは「つがる」、「レッドゴールド」より1～3日早く進み、「旭」とほぼ同時期である。
5. 頂芽の花芽率は「つがる」より低い、腋芽の萌芽が良く、頂芽の着生数が多いので1樹当たりの頂花数は多い。また、腋花芽の着生は「つがる」より少ない。
6. 早期落果はほとんどなく、後期落果は年によって認められるがその程度「つがる」より少ない。
7. 成熟期は10月中旬で「つがる」より約1週間遅く、「レッドゴールド」より約1週間早く、「旭」とほぼ同時期である。なお、熟期には同一樹内でも多少のばらつきが見られる。
8. 結実樹齡に達するのは、3～4年で「つがる」、「レッドゴールド」並で、生産性は高く「つがる」と同程度、隔年結果性の傾向がいくぶん認められるが、その程度は「つがる」と同程度である。
9. 果実の大きさは250～300gで、果形は円形、果皮色は地色が黄味の強い黄緑色で、陽向面が淡紅～紅色に着色する。果皮面は滑らかで、果粉、脂質は殆どなく、さびもほとんどない。
10. 果肉の硬さ及び肉質は中位で、完熟果では蜜が僅かに入り、糖度は13～14%、酸度は0.5g/100ml前後と甘味、酸味が適度にあり、果汁が多く芳香もあるので食味は良好である。
11. 最も食味の良いのは収穫直後～3週間であるが、適食期は冷蔵で10月中旬～12月下旬で、それ以降は酸味、果汁が急激に減少する。貯蔵性は冷蔵で約2箇月間であり、貯蔵中における貯蔵障害は認められない。
12. 標準栽培において、特に問題となる病害虫は認められない。

#### 栽培適地と奨励態度

北海道一円に適応し、全栽培面積の約10%を本品種におきかえる。栽培上の注意は、隔年結果の傾向が幾分認められるので、早期摘果を行い着果過多にならないようにする。熟期にばらつきがあるので、収穫は2～3回に分けて行う。樹勢が強くと果実の品質が低下するので、適度な樹勢を保つような剪定と肥培管理に努める。

試験場名	品 種 名	展葉期 (月日)	満開期 (月日)	収穫期 (月日)	一樹当たり 換算収量 (kg)	一果重 (%)	硬 度 (ポンド)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	試験年次
中央農試	ノースクイーン	5. 8	5.29	10.12	18.7	291	14.4	13.5	0.44	1983~1986
	つ が る	5.10	6. 1	10. 6	17.4	239	11.1	13.8	0.35	
	レッドゴールド	5. 8	6. 1	10.20	12.0	199	18.0	15.2	0.55	
	旭	5. 8	5.30	10.13	5.7	238	13.5	13.4	0.96	
北海道農試	ノースクイーン	5. 5	6. 2	10.24	6.5	226	13.4	14.3	0.44	1986
	レッドゴールド	5. 5	6. 5	10. 2	2.8	215	15.3	14.7	0.43	
	旭	5. 5	6. 5	10.20	6.6	159	20.4	15.6	0.59	
道南農試	ノースクイーン	5. 9	5.27	10.14	9.7	267	13.5	14.2	0.52	1983~1986
	つ が る	5. 9	6. 2	10. 3	22.2	237	14.6	13.8	0.41	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 37-41(1987)。

(2) ニュージョナゴールド (原名 ニュージョナゴールド) 1988年

登録番号: (北海道) りんご準第9号  
(種苗法) 第63号

**来歴** 本品種は、1973年に青森県弘前市の齊藤昌美氏が「ジョナゴールド」の早期着色系統として発見し、1980年福島天香園が種苗登録した品種で、1980年に北海道立中央農業試験場が導入し、以降本道での適応性を試験し、1988年に優良品種となった。

**特性概要**

- 樹勢は中程度、樹姿はやや開張性、新梢は太く、節間はやや狭いので樹はコンパクトである。葉の大きさは大、葉のきょ歯は鈍きょ歯である。花の色は蕾期、開花期ともに淡桃色である。花芽は短果枝に多く着生し、着生数も多い。発芽期～展葉期は「ハックナイン」、「ふじ」と同じで、開花期～落葉期は「レッドゴールド」とほぼ同じである。
- 熟期は10月下旬で「レッドゴールド」より4日遅く、「アリシャス」、「ハックナイン」より3～4日早い。果実の大きさは10月中旬以降殆ど変わらないが、早採りすると着色が著しく不良で、糖度も低く、渋味があるので適期に収穫する必要がある。
- 結果樹齢に達するのは4年生ごろであり、「レッドゴールド」とほぼ同じで普通である。豊産性で「つが

る」、「レッドゴールド」、「ふじ」と比べ同等以上の収量がある。

- 果実は、大きさは280～340gと大きく、球摘いは良好で円形、地色は黄緑、果皮色は赤で縞が入る。果肉は黄色味の強い黄白色で、硬さは中、きめはやや粗である。果汁は多く、糖度は15.0%前後、酸度は0.6～0.7g/100mlで、甘味、酸味とも濃厚で食味が良い。
- 適食期は11月中旬～1月中旬であり、貯蔵中の障害として脂質やゴム病の発生がある。
- 早期落果は一般品種並で後期落果もほとんどなく、斑点落葉病に強く、他の耐病虫性は中程度で、一般栽培では特に問題となる病害虫の発生はない。
- 三倍体なので花粉の稔性が低く、受粉樹としては使用できない。

**栽培適地と奨励態度**

北海道一円に適応し、全栽培面積の5%を本品種におきかえる。栽培上の注意は、無袋栽培とし収穫に気を付け、早採り・遅採りにならないように注意する。果実が小さいと品質が劣り、大き過ぎると脂質、ゴム病の発生が多くなるので適正な着果に努める。枝が込むと花芽の質が不良となり、青実が多くなるので、樹内に光が十分入るように剪定する。また、豊産性であるが枝が衰弱しやすいので、早めに切返し剪定を行い、枝の若返りを図る。本品種は三倍体品種なので、受粉管理に注意する。

試験場名	品 種 名	展葉期 (月日)	満開期 (月日)	収穫期 (月日)	一樹当たり 換算収量 (kg)	一果重 (%)	硬 度 (ポンド)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	試験年次
中央農試	ニュージョナゴールド	5.11	6.3	10.24	22.5	309	14.9	15.1	0.72	1984~1987
	レッドゴールド	4.12	6.3	10.21	22.4	209	16.4	15.2	0.52	
	スターキングテリシャス	5.13	6.4	10.27	6.4	193	16.5	14.6	0.41	

注 1) 試験年次：1984~1987年。

2) 台木はM26台，樹齡4~7年生まで。

参照 1) 北海道農務部編，昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項，44-48(1988)。

## 2. な し

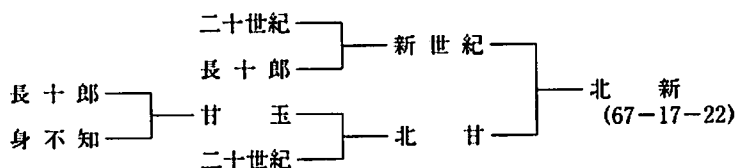
(1) 北 新 (系統名 67-17-22) 1995年

登録番号：(北海道) なし北海道第14号

(農水省) なし農林17号

(種苗法) 出願中

来歴 本品種は，1967年に農林水産省北海道農業試験場が「新世紀」を母とし，「北甘」を父として交配し育成したもので，1985年から「61-17-22」の系統名で各種の試験を行い，1995年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。



### 特性概要

- 樹勢は強く，樹姿は直立と開張性の中間で主枝はほぼ45度の角度で伸長するため整枝剪定がしやすく樹形の維持が容易である。枝の発生は密で，新梢の伸びは短く，新梢の太さは中程度である。短果枝の着生は多く，中果枝の着生も「北甘」に似てやや多く，腋花芽の着生は中程度である。耐寒性はやや強で「北甘」並で，樹の生育は「北甘」より優れている。
- 若葉は褐色に近い黄緑色，成葉は卵形に近く小さく，葉の先端の角度は中程度で基部は丸みを帯びている。葉緑状態，鋸歯の角度はともに中程度で鋸歯の大きさは小さい。葉柄の長さは「北甘」よりわずかに短い。品種全体では中位，蕾はほとんどが白で，花卉は円形，葯は紅色で花粉は多い。
- 交配和合性は「北甘」「身不知」「北豊」「北星」「ポートレット」「ブランデイワイン」で認められた。
- 発芽期は「北甘」より1日早く開花期はほぼ同じで，「身不知」とは満開期で2日遅い。収穫適期は9月下旬~10月上旬で「北甘」とはほぼ同時期か3日遅れて，「身不知」より約3週間早く，早生種の晩に属する。
- 収量は，早生種の晩としては多収性で「北甘」「北星」

「長十郎」より多く，「身不知」「北豊」より少ない。平均一果重は「北甘」「北星」「長十郎」より大きく，「身不知」「北豊」よりは小さい。

- 果実の大きさは平均約326gで「北甘」よりも大きく揃いも良好である。果形は偏円形で，果皮色は成熟すると黄緑色になり果点は小さく外観は良好である。果面のさびは「新世紀」に似て，果梗の周辺に外観を損なわないさびが発生することがある。裂果は秋期に降雨が多いと僅かに見られるが，「北甘」よりも極めて少ない。果心の大きさは「北甘」に似て小さい。
- 果肉は白色で渋みが無く香気はわずかにある。切り口の褐変は「長十郎」より遅く，果肉硬度は，「北甘」よりわずかに硬い。肉質はやや密で品質は良く，糖度は12.0%，酸度は0.23g/100mlと「北甘」より高い。また，糖度と酸度の調和が良く，食味は良好である。
- 貯蔵性は，普通貯蔵（風通しの良い室内または日陰に置いた場合）で11月2日（収穫後35日間）頃までである。収穫直後に冷蔵すると12月から翌年1月頃まで貯蔵できる。
- 通常の防除で病害虫の発生は見られていない。



**栽培適地と奨励態度**

道内日本なし栽培地帯に適する。観光果樹園などへの新植及び既存品種の代替えとして普及する。栽培上の注

意は、収穫が早すぎると甘味が不足するので、果皮が黄緑色になってから収穫する。着果過多は果実が小さくなるので、やや強めの摘果を行う。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	満開期 (月日)	収穫期 (月日)	平均 一果重 (%)	硬 度 (lbs)	糖 度 (%)	リンゴ酸 (g/100ml)	食 味	試験年次
北海道農試	北 新	4.26	5.22	9下~10上	326	9.2	12.0	0.23	良	1990~1994
	北 甘	4.27	5.22	9下~10上	260	7.7	11.3	0.17	やや良	
	身 不 知	4.21	5.20	10中~下	401	13.5	11.7	0.13	中	
中央農試	北 新	5. 6	5.24	9.27	269	5.4	11.3	0.22	良	1991~1994
	北 甘	5. 8	5.23	9.27	253	4.6	10.9	0.12	やや良	

注 1) 果実特性は1990~1994年平均で示す。

2) 硬度はマグネステラー型硬度計を用い、北海道農試は7/16インチ、中央農試は5/16インチプランジャー使用の値である。

参照 1) 北海道農政部編、平成7年普及奨励ならびに指導参考事項、21-24(1995)。

**3. おうとう****(1) 南 陽 (原名 南陽) 1988年**

登録番号：(北海道) おうとう準北海道第2号

**来歴** 本品種は1957年に山形県農業試験場置賜分場で、おうとうの胚培養の試験の際に得た「ナポレオン」の交雑実生の中から選抜されたもので、1971年から山形県園芸試験場で特性調査を行ったのち、1974年農産種苗法による種苗名称登録を出願し、1978年に登録された。1980年に北海道立道南農業試験場が導入し各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。

**特性概要**

- 樹勢は「ナポレオン」ほどではないが強い方である。樹体は「北光」「佐藤錦」よりは大きくなるが、「ナポレオン」よりは小さい。1年枝は太く赤褐色である。葉身は大きく、緑が波うつのが特徴である。花は白色で大きく、小花数は3花程度である。
- 生育相は「ナポレオン」より、発芽期で2日、満開期で3日程度遅い。
- 熟期は「ナポレオン」と同程度かやや早く、道南では平均して7月10日頃、北後志では7月20日頃収穫が始まり7月下旬に収穫が終わる。

- 花芽の着生は「ナポレオン」と同程度である。結実率は中位であるが、一果重が大きいため生産力は高い。
- 果実の大きさは8~10gで極めて大きく、果形は短心臓形で「ナポレオン」よりやや丸味を帯びる。果色は「ナポレオン」に似て陽向面が帯赤するが、全面に着色することは少ない。糖度はブリックスで14%程度で高く、酸味は「ナポレオン」より少なく食味は極めて良い。
- 降雨による裂果は「ナポレオン」より明らかに少なく、病害虫については、一般栽培では特に問題はない。
- その他、大玉のため単位時間当たりの収穫量が多い。「北光」「ナポレオン」とは交配親和であるが、「佐藤錦」とは交配不親和である。

**栽培適地と奨励態度**

道南及び道央のおうとう栽培地域一円に適し、おうとう栽培面積の30%程度に普及する。栽培上の注意は、受粉用品種としては「北光」などの親和性のある品種を用いる。「佐藤錦」は受粉用品種としては使用出来ない。陽当たりが不良であると着色が鈍くなるので、栽植距離を十分にとり整枝剪定によって陽当たりを良くする。その他はおうとうの一般栽培に準ずる。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	満開期 (月日)	良品収量 (kg)	一果重 (g)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	試験年次
道南農試	南 陽 ナポレオン	5. 3	5.17	11.6	9.1	13.9	0.58	1985~1987
		5. 1	5.14	4.4	7.5	13.6	0.87	

注) 一果重, 糖度, 酸度の成績は1982~1987年の平均値。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 48-51(1988)。

## 4. ク リ

(1) オオタムポロン (系統名 道南1号) 1990年  
登録番号: (北海道) その他北海道第17号  
(種苗法) 3226号

**来歴** 本品種は, 1966年に北海道立道南農業試験場で道南の在来種「銀太郎」の種子, 約5,000粒の実生の中から, 葉形が栽培グリに近いもの約500個体を選抜し, その後, 養成された実生は播種後7~8年で結実し, その中から, 果実特性, 耐寒性等で優良なものが選抜され, 1985年から各種の試験を行い, 1990年に優良品種となった。

### 特性概要

- 樹姿はやや開帳で, 樹勢は強く樹体の拡大は早い。樹体は「銀太郎」に比べると明らかに大きくなる。枝梢の長さは「丹沢」と同程度, 太さは「丹沢」より太く, 枝梢の色は褐色である。葉形は長楕円状ひ針形, 葉身は「丹沢」「銀太郎」よりも明らかに大きい。葉の毛茸は「丹沢」より多く, 葉柄は「丹沢」より太い。雄花穂は「丹沢」よりやや直立する。
- 発芽期および開花期は「銀太郎」より明らかに早く, 果実の熟期も「銀太郎」より明らかに早い。
- きゅう果(いが)の形は扁球で, 大きさは「丹沢」と同じく中程度, とげの長さは「丹沢」と同様短く, 密度は「丹沢」と同程度。きゅう果は果実が成熟すると, その多くは樹上で裂開し, 含有する果実を落とすか, 果実を含んだまま落下する。
- 果実は1きゅう果当たり1~3果含まれ, 果実の形

はほぼ円形で毛茸が多く, 大きさは「銀太郎」よりやや大きく, 色は褐色である。双子果は「丹沢」と同じ位発生するが, 果頂部裂果の発生は少ない。果肉の色は黄色で, 肉質は粉質である。果実の比重は1.06と高く, 食味は良い。

- 収量は「銀太郎」より明らかに多い。
- 「筑波」「ちの7」「銀太郎」よりは凍害の発生は少なく耐寒性は明らかに高い。
- 自家受粉した場合の着きゅう率は11%と低く, 実用的には自家不親和に近い。
- 標準栽培において, 特に問題となる病害虫は認められない。

### 栽培適地と奨励態度

道南(渡島, 桧山)及びこれに準ずる地帯に適應する。栽培上の注意は, 排水不良地や風当たりの強い場所は凍害が発生しやすいので十分な改善を図る。低率で自家結実するが実的には自家不親和に近いので, 必ず受粉用の異品種を混植する。一般に受粉に有効な花粉の飛散距離は10m内外といわれているので, 栽植に当たっては10m以内に受粉用品種が存在するように配置する。なお, 「オオタムポロン」と「オオタムコロン」との間には相互に親和性があり, 受粉用品種として適當である。陽当たりが不良になると樹勢が低下したり, 病害虫の発生を助長したりするので, 間伐や整枝剪定によって陽当たりの改善を図る。無防除で栽培すると, 果実に虫害を被ることが多いので, 防除暦に従う。

(2) オオタムコロン (系統名 道南1号) 1990年  
登録番号：(北海道) 其他北海道第18号  
(種苗法) 第3227号

来歴 「オオタムポロン」に準ずる。

特性概要

1. 樹勢は強く、樹体の拡大は早く、樹体は「銀太郎」に比べると明らかに大きくなる。枝梢の長さ及び太さは「丹沢」と同程度で、枝梢の色は褐色である。葉形は長楕円状ひ針形、葉の大きさは「丹沢」と同じく中程度で、葉の毛茸は「伊吹」より少ない。葉柄は「丹沢」より短く、雄花穂は「丹沢」と同じく長い。
2. 発芽期および開花期は「銀太郎」よりも明らかに早く、果実の熟期も「銀太郎」よりも明らかに早い。
3. きゅう果の形は扁球で、大きさは「丹沢」より小さく、とげの長さは「丹沢」と同様に短く、とげの密度は「丹沢」と同程度である。きゅう果は、果実が成熟

するとその多くは樹上で裂開し含有する果実を落とすか、果実を含んだまま落下する。

4. 果実は1きゅう果当たり1～3果含まれ、果実の形はほぼ円形、大きさは「銀太郎」よりも小さく育成地では8～9gである。果皮色は褐色、双子果は「丹沢」と同じ位発生し、果頂部裂果の発生はやや多い。果肉の色は黄色、肉質は粉質で、果実の比重は1.09と極めて高く、食味は非常に良い。
5. 収量は「銀太郎」と同程度である。
6. 「筑波」「ちの7」「銀太郎」よりは凍害の発生は少なく耐寒性は明らかに高い。
7. 自家受粉した場合の着きゅう率は15%と低く、実用的には自家不親和に近い。
8. 標準栽培において、特に問題となる病害虫は認められない。

栽培適地と奨励態度

「オオタムポロン」に準ずる。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	満開期 (月日)	収 穫 期 (月日)	一樹当たり 収 量 (g)	一果重 (g)	比 重	双子果 発生率 (%)	試験年次
道南農試	オオタムポロン	4.24	7.18	10.2～10.13	6,162	12.2	1.06	8.4	1987～1989
	オオタムコロン	4.22	7.15	9.25～10.6	4,330	8.4	1.09	11.0	
	銀太郎	4.28	7.25	10.8～10.19	3,363	11.2	1.03	17.1	
中央農試	オオタムポロン	5.7	7.19	10.5～10.18	1,216	8.7	-	-	1987～1989
	オオタムコロン	5.6	7.19	9.30～10.10	845	7.5	-	-	
	銀太郎	5.9	7.23	10.12～10.22	989	7.1	-	-	

注) 1樹当たり収量は1989年の値で示す。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 32-38(1990)。

## 5. ブドウ

(1) ノースレッド (系統名 安芸津4号) 1991年  
登録番号：(北海道) ぶどう準移第6号  
(種苗法) 第3117号

来歴 本品種は農林水産省果樹試験場安芸津支場が、寒冷地に適する優良品種の育成を目的として1976年に交配した「セネカ」×「キャンベルアーリー」の組合わせから選抜したもので、1978年に「80-21」の個体番号、1985年から「安芸津4号」の系統名で試験を行い、その結果、寒冷地で有望と判定され、1990年農林水産省果樹試験場が農林登録を行い、種苗登録に申請した。北海道立中央農業試験場では、1985年に本系統の配布を受け、以降各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。

特性概要

1. 樹勢はやや強めで、樹体の生育は「キャンベルアーリー」、「ポートランド」よりも旺盛である。樹冠の広がりや「キャンベルアーリー」よりやや早く、登熟は良好で「キャンベルアーリー」並である。耐寒性は「ポートランド」より強いが「キャンベルアーリー」より弱い。
2. 発芽期・展葉期までは「キャンベルアーリー」、「ポートランド」とほぼ同じで、開花期は「ポートランド」とほぼ同じである。
3. 熟期は「キャンベルアーリー」に比べて1～2週間早く、「ポートランド」と同じかやや早い。
4. 6年生時の1樹当たり収量は、長沼では「キャンベ

ルアーリー」より僅かに少なく、仁木では「キャンベルアーリー」より多い。

5. 果房長は「キャンベルアーリー」より小さく「ポートランド」より大きい。粒着は中～密で、果房重は「キャンベルアーリー」より小さく「ポートランド」と同程度である。果粒は円形で、果粒重は3.5～4g程度、果皮色は紫赤から暗赤色である。剥皮は容易で、果肉は塊状で軟らかい。糖度は18%酸度は0.8g/100ml前後で、フオクシー香に近い特殊な香気をもち、渋みが無く食味が良い。裂果性は「キャンベルアーリー」と同程度で僅かである。

6. 目立った病害虫の発生は認められていない。

**栽培適地と奨励態度**

道央南部以南の生食用ブドウ栽培地帯に適応し、栽培面積の10%を本品種に置き換える。栽培上の注意は、樹勢がやや強いため、「キャンベルアーリー」よりも栽植距離をやや広めにする。寒害を防ぐため冬期の枝おろしを行う。その際、樹体の折損がないように注意する。糖度が上っても酸が残り、果肉に酸味を強く感じるがあるので、糖度のみでなく酸味にも注意して収穫適期を判定する。赤色系であり、鮮やかな赤色を出すためにも、着果量を1新梢2果房程度とし、結果過多に注意し、枝梢の過繁茂を避け棚下を明るく維持するのが良い。その他は、一般栽培に準ずる。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	開花期 (月日)	収穫期 (月日)	果房重 (g)	果粒重 (g)	1樹当たり 収 量 (kg)	糖 度 (Brix)	酸 (g/100ml)	試験年次
中央農試	ノースレッド	5.12	7.11	10.1	233	4.7	7.1	18.0	0.75	1986～1990
	キャンベルアーリー	5.11	7.9	10.10	324	6.0	8.4	14.5	0.86	
	ポートランド	5.13	7.6	10.1	268	6.0	2.4	15.8	0.48	

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 24-26(1991)。

(2) ノースブラック (系統名 安芸津5号) 1992年  
登録番号: (北海道)ぶどう準移第7号  
(種苗法) 第3457号

**来歴** 本品種は農林水産省果樹試験場安芸津支場において、寒冷地に適する優良品種の育成を目的として交配した「セネカ」×「キャンベルアーリー」の組合わせから育成されたもので、交配は1976年に行い、1978年に「80-24」の個体番号、1985年からは「安芸津5号」の系統名で試験を行い、その結果、寒冷地で有望と認められ、1991年に農林水産省果樹試験場が「ノースブラック」として命名登録を行い、種苗登録を申請した。北海道立中央農業試験場では、1985年に本系統の配布を受け、1986年から各種の試験を行い、1992年優良品種となった。

**特性概要**

1. 樹勢は幼木時にはやや弱いが、樹齢が増すと中程度になる。樹体生育は「ポートランド」と同程度で、新梢の登熟度は「キャンベルアーリー」に比べやや劣るが、寒害による枯死率は同程度で、耐寒性は強い。
2. 発芽期及び展葉期は「キャンベルアーリー」と同時期で「ポートランド」より早い。開花期は「キャンベルアーリー」と同時期で「ポートランド」より遅い。
3. 熟期は「ポートランド」及び「ノースレッド」と同

時期で、「キャンベルアーリー」より1～2週間早い。

4. 1樹当たりの収量は「ポートランド」と同等で、生産性は中程度である。
5. 果房は円筒形で、粒着はやや密から密となり、果房長は16cm、果房重は270g程度で「キャンベルアーリー」より小さく、「ポートランド」及び「ノースレッド」よりやや大きい。
6. 果粒は円形で5～6gになり、果皮色は黒色、剥皮は容易で、果肉は塊状と崩壊性の中間であり、種子離れが良い。糖度は16～18%で「ポートランド」よりやや高い。酸は「キャンベルアーリー」より低く、食味は良い。フオクシー香があり、渋みがない。裂果は少なく収穫期の脱粒はない。
7. 目立った病害虫の発生は認められていない。

**栽培適地と奨励態度**

道央以南の生食ブドウ栽培地帯に適応し、栽培面積の10%を本品種で置き換える。栽培上の注意は、樹冠の拡大を促進するため、接木苗を使用する。寒害を防ぐため、冬期の枝下ろし・枝伏せを行う。その際樹体の折損がないように注意する。着果過多に注意し、着果量を1新梢2果房程度とし、果房重が400gを越えないようにする。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	開花期 (月日)	収穫期 (月日)	果房重 (g)	果粒重 (g)	1樹当たり 収 量 (kg)	糖 度 (Brix)	酸 (g/100ml)	試験年次
中央農試	ノースブラック	5.11	7. 7	9.28	274	5.9	9.3	17.3	0.52	1987～1991
	キャンベルアーリー	5.11	7. 7	10. 7	309	5.9	24.4	18.0	0.82	
	ポートランド	5.13	7. 4	9.28	257	5.8	10.0	15.8	0.47	
仁 木	ノースブラック	5.11	7. 3	9.22	482	4.7	45.8	15.3	0.34	1987～1991
	キャンベルアーリー	5.12	7. 5	9.25	589	6.8	31.6	15.9	0.53	
	ポートランド	5.11	7. 2	10. 1	482	5.5	23.9	14.2	0.37	

参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 37-41(1992)。

## 6. ハスカップ

(1) ゆうふつ (系統名 HC1) 1990年

登録番号: その他北海道第16号

(種苗法) 第3033号

**来歴** 本品種は, 中央農業試験場が1967年以来苫小牧市沼の端から収集した自主株やそれに由来する実生株について, 1978年より樹性, 収量, 果実品質などの調査を行い, 1986年にそれらの株の中から果実が大きく, 収量の高い個体を選抜し, 「HC1」の系統番号を付け各種の試験を行い, 1990年に優良品種となった。

### 特性概要

- 樹姿は開張性で, 樹勢は強く, 株の大きさは大である。枝の着生は密で太く, 枝の色は濃褐色である。頂芽の形は長卵形で大きさは中, 腋芽の大きさは大である。成葉の形は楕円で大きさは中である。花冠の形はロート形で, 色はクリーム色である。
- 発芽期は4月上旬で, 開花始期は早く, 着色始期もやや早い。収穫始は6月末～7月上旬で早生種である。
- 一新梢当たりの着花数は在来1号よりもやや劣るが, 他の系統と比較して同等以上である。自家結実率は28%で調査系統中最も高く, 自然受粉による結実率は72%で在来3, 4号よりも高い。

4. 早期落果及び後期落果は殆どみられないが, 成熟果の果実と果梗の分離は容易で, 収穫が遅れると, 多少の落果をみる。

5. 成株の収量は他の系統より優る。

6. 一果重は大きく, 在来1号と同等で在来3, 4号より優った。果実の形状は鈍子形で, 色は青黒色, 硬さの中, 果皮は薄く, 果実の日持ち性はよくない。果汁糖度は在来1, 4号より低く, 果汁酸度は他の系統と比較して低く, 種子数は少ない。

7. 色素含量が高く, アスコルビン酸含量は中位で, 酸含量が低く, 種子数も少ないことから加工原料として適する。

8. 秋または春の休眠枝ざしの活着は良好で生育旺盛な苗を得ることが出来るため, 増殖は容易である。

9. 耐病虫性は通常の栽培においては他の系統と同程度である。

### 栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は, 新植または改植更新の際は, 交配関係の良い2～3系統を混植する。樹勢が強く, 開張性であるので, 株間をやや広めとし, 270～330株/10a程度の栽植とする。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	満開期 (月日)	収穫始 (月日)	収穫終 (月日)	株当たり 収 量 (g)	10 a 当たり 収 量 (kg)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	自家結率 (%)
中央農試	ゆ う ふ つ	4.10	5.21	7. 1	7.18	1,710	678.9	10.5	2.47	28.0
	在 米 1 号	4.11	5.22	7. 5	7.13	980	389.1	11.1	3.01	12.8
	在 米 3 号	4.11	5.23	7. 5	7.14	1,088	431.9	10.3	3.11	10.9
	在 米 4 号	4.11	5.24	7. 5	7.13	869	345.0	10.7	3.16	11.8

注 1) 試験年次は1988年～1989年、樹齢は1989年でさし木5年生である。

2) 糖度はブリックスの値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 28-32(1990)。

2) 田中静幸 等, 北海道立農試集報, 67, 29-41(1994)。

## 7. ラズベリー (キイチゴ)

(1) チルコチン (原名 チルコチン) 1992年

登録番号: (北海道) ラズベリー準輸第1号

**来歴** 本品種は、カナダ農務省農業研究所において「サムナー」×「ニューバーグ」の実生より選抜、育成され1978年に発表された。1980年に恵泉女学園短期大学の松井仁氏により日本に導入され、1983年に農林水産省北海道農業試験場に配布され、以後各種の試験を行い1992年に優良品種となった。

### 特性概要

1. 樹姿は直立開張性で、樹勢は強く、耐寒性も強い。樹の大きさは中型、休眠枝は太い。
2. 場内での発芽期は4月19日前後、展葉期は4月29日前後、開花期は6月19日前後で早生種の「セプテンバー」より遅く、晩生種の「ゴールドン・クイーン」より早い。
3. 場内での成熟始めは7月21日前後、収穫期は7月下

旬～8月下旬である。

4. 1株当たりの年平均収量は、3.5kgで「セプテンバー」と同程度で他の対照品種より多く、供試品種中で最も多い。
5. 果形は長円錐形、果色は成熟すると鮮紅色になる。果実の大きさは1果平均重では3.4g、最大粒平均重6.5gと大きく、果形の揃いも良い。果実は硬く収穫後の果形が崩れにくい。糖度は10%、クエン酸は多く2.0g/100ml以上で食味は酸味が強い。

### 栽培適地と奨励態度

北海道の果樹(全般)栽培地帯全域に適す。栽培上の注意は、きいちごは前年に地際から伸長した新梢に結実し、結実した枝は収穫後に枯死するため、翌年の結果母枝(親茎)を確保する必要がある。整枝、剪定は融雪後に行い、地上80～100cmで切り詰め、株仕立ては1株に強い結果母枝(親茎)を7～10本とする。ナミハダニの発生に注意する。

(2) ヌートカ (原名 ヌートカ) 1992年

登録番号: (北海道) ラズベリー準輸第2号

**来歴** 本品種は、カナダ農務省農業研究所において「カーニバル」×「ウイラーメット」の交配実生より選抜、育成され1978年に発表された。1980年に恵泉女学園短期大学の松井仁氏により日本に導入され、1983年に農林水産省北海道農業試験場に配布された。以後各種の試験を行い、1992年に優良品種となった。

### 特性概要

1. 樹姿は直立開張性で、樹勢は強く、耐寒性も強い。
2. 場内では、発芽期は4月22日前後、展葉期は5月2日前後、開花始は6月20日前後である。
3. 場内では、成熟始めは7月22日前後で、収穫期は7月下旬～8月下旬である。
4. 1株当たりの年平均収量は3.2kgで「セプテンバー」と同程度かやや劣るが他の対照品種より多い。
5. 果形は長円錐形、果色は成熟すると暗紅色になる。

果実の大きさは1果平均重で3.4g、最大粒平均重6.6gと大きく、果形の揃いも良い。果実の硬さは「カスバート」並に硬く収穫後の果形が崩れにくい。糖度は11%、クエン酸は2.0g/100ml前後、食味は甘味が強

く良好である。

栽培適地と奨励態度

「チルコチン」に準ずる。

(3) スキーナ (原名 スキーナ) 1992年

登録番号：(北海道) ラズベリー準輸第3号

来歴 本品種は、カナダ農務省農業研究所において「クレストン」×「SHR16010/52」の交配実生より選抜、育成され1978年に発表された。1980年に恵泉女学園短期大学の松井仁氏により日本に導入され、1983年に農林水産省北海道農業試験場に配布された。以後各種の試験を行い、1992年に優良となった。

特性概要

1. 樹姿は直立開張性で、樹勢は強く、耐寒性も強い。
2. 場内では、発芽期は4月21日前後、展葉期は5月2日前後、開花始は6月24日前後である。

3. 場内では、成熟始めは7月24日前後で、収穫期は7月下旬～8月下旬である。

4. 1株当たりの年平均収量は3.2kgで「セプテンバー」と同程度かやや劣るが、他の対照品種より多い。

5. 果形は長円錐形、果色は成熟すると暗紅色になる。

果実の大きさは1果平均重で3.4g、最大粒平均重6.5gと大きく、果形の揃いも良い。果実の硬さは「カスバート」並に硬く収穫後の果形が崩れにくい。糖度は10%、クエン酸は2.0g/100ml以下で食味は中程度である。

栽培適地と奨励態度

「チルコチン」に準ずる。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	開花盛 (月日)	成熟始 (月日)	収 穫 時 期 (月日)	一 果 平均重 (g)	1株当たり 収 量 (kg)	糖 度 (Brix)	クエン酸 (g/100ml)
北海道農試	チルコチン	4.19	7.5	7.21	7.19~8.26	3.4	3.5	10.0	2.33
	ヌートカ	4.22	7.5	7.22	7.21~8.25	3.4	3.2	10.8	1.97
	スキーナ	4.21	7.10	7.24	7.22~8.26	3.4	3.2	9.6	1.87
	セプテンバー	4.17	6.26	7.10	7.10~8.22	2.4	2.3	9.7	2.26
	ラーザム	4.20	7.10	7.26	7.25~8.25	2.1	2.3	9.5	1.55
	フレミング・ ジャイアント	4.17	6.29	7.12	7.11~8.18	1.8	1.5	9.1	1.58
	カスバート	4.21	7.10	7.28	7.24~8.24	1.8	1.6	12.1	1.46
	ゴールドン・クイーン	4.20	7.11	7.30	7.26~8.28	1.8	2.8	12.0	1.31

注 1) 試験年次：1986～1989年、収穫時期：1985～1991年の平均値。

2) 平均重・糖度は1985～1989年、クエン酸の値は1987、1990～1991年の平均で示す。

参照 1) 北海道農政部編、平成4年普及奨励ならびに指導参考事項、41-44(1992)。

## IV 野 菜

### 1. たまねぎ

(1) アーク (原名 アーク) 1987年

登録番号: (北海道) たまねぎ準移交第10号

**来歴** 本品種はタキイ種苗株式会社とホクレン農業協同組合連合会が、耐病性に優れた長期貯蔵性品種の育成を目標として、「アーリー・イエロー・グローブ」の耐乾腐病系より育成した雄性不稔の種子親系統と「札幌黄」の北見在来から乾腐病抵抗性で選抜した花粉親系統を利用した単交配F<sub>2</sub>品種である。1984年から各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 種子千粒重は約4gで「北もみじ」よりやや軽く、発芽率及び苗の生育は「フラヌイ」、「北もみじ」よりやや劣るが、移植後の旺盛な生育により回復する。
2. 草姿は「北見黄」等の在来種と同程度にやや開張し、葉折れもやや多い。葉部生育は旺盛である。葉色などその他の葉部形質については「フラヌイ」、「北もみじ」と差異はない。
3. 球肥大期、倒伏期、枯葉期のいずれについても「フラヌイ」、「北もみじ」と同程度の早晩性を示し、中生に属する。

4. 乾腐病に対しては、同病抵抗性の「フラヌイ」、「北もみじ」と同程度で「札幌黄」等の在来種より明らかに強い。その他の病害虫に対しては「フラヌイ」等と差異はない。

5. 球の肥大性は「フラヌイ」より勝り、総収量、規格内収量とも「フラヌイ」より多収を示し「北もみじ」と同程度の安定した多収性を示す。やや扁平球の傾向はあるが、規格内率は「北もみじ」と同程度に高い。

6. 球は硬く、皮むけしないので「フラヌイ」、「北もみじ」と同様「札幌黄」等の在来種より明らかに機械収穫に適する。外皮色は「フラヌイ」よりやや濃い黄銅色を示し、球の大きさや形態等の球形質の揃いは「フラヌイ」、「北もみじ」よりやや優れている。

7. 4月以降の貯蔵後期に発根が早まる傾向が認められるが、貯蔵用品種である「フラヌイ」、「北もみじ」と同程度に萌芽が遅く、「北見黄」等の在来種より明らかに高い貯蔵性を示す。

**栽培適地と奨励態度**

全道のたまねぎ栽培地帯に適する。栽培上の注意は、「フラヌイ」、「北もみじ」等従来の品種と同様で良い。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵試験 (%)		
							健全率	発根・萌芽率	腐敗率
北海道農試	アーク	506	105	171	96.4	8.16	83.7	15.2	0.3
	フラヌイ	481	100	159	95.8	8.14	81.8	18.2	0
	北もみじ	537	112	179	96.7	8.15	69.4	29.9	0.4
	せきほく	(616)	(114)	(202)	(95.7)	(8.19)	-	-	-
	ツキヒカリ	525	109	171	96.4	8.17	82.6	17.5	0
	北見黄	438	91	168	87.6	8.15	43.7	55.2	1.2
中央農試	アーク	454	108	160	89.2	8.10	-	-	-
	フラヌイ	421	100	153	86.7	8.10	-	-	-
	北もみじ	462	110	162	90.3	8.8	-	-	-
	せきほく	437	104	162	87.7	8.11	-	-	-
	ツキヒカリ	475	112	162	92.1	8.12	-	-	-
	北見黄	465	111	193	85.6	8.14	-	-	-



試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵試験 (%)		
							健全率	発根・萌芽率	腐敗率
北見農試	アーク	538	113	181	96.0	8.5	56.8	42.9	0.6
	フラヌイ	473	100	170	92.0	8.7	72.0	28.0	0
	北もみじ	509	108	180	93.6	8.7	66.2	33.7	0.2
	せきほく	584	123	204	94.6	8.10	78.1	21.2	0.6
	ツキヒカリ	493	104	193	88.7	8.10	70.9	28.5	0.3
	北見黄	454	96	193	82.9	8.7	35.7	63.7	0

注) 試験年次は1984年～1986年、( )内は1985年～1986年の値である。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 45-48(1987)。

(2) 天 心 (系統名 試交21-15) 1991年  
登録番号: (北海道) たまねぎ準移第11号

来歴 本品種は、日本農林社が北海道向けの乾腐病抵抗性と高貯蔵性を有した多収品種の育成を目的として、米国で育成された細胞質雄性不稔系統を種子親とし、北海道産の「そらち黄」より選抜された自殖系統を花粉親として育成した一代雑種である。

特性概要

1. 種子千粒重は4.12gで「ツキヒカリ」より軽いが、発芽率及び苗の生育は「ツキヒカリ」「北もみじ」と同程度で、移植後の生育も良好である。
2. 草姿は「そらち黄」等の在来種と同程度にやや開張し、葉鞘もやや太い。葉部の生育は「ツキヒカリ」と差異は無く、葉色等その他の葉部形質についても「ツキヒカリ」「北もみじ」と差異は無い。
3. 球の肥大開始は概ね「ツキヒカリ」と同程度でやや遅く、倒伏は「ツキヒカリ」より5日、「北もみじ」より1週間程度遅いが、収穫期は「ツキヒカリ」と同程度となり、総じて「ツキヒカリ」よりやや遅い晩生種に属する。
4. 乾腐病抵抗性は「ツキヒカリ」「北もみじ」と同程度で、「ひぐま」等の大球品種より明らかに強い。軟腐病

は「北もみじ」よりやや多い傾向があるが、特に感受性とはいえない。生育の遅れた年次には生育後期にボトリチス属菌に罹病しやすく、風乾中及び貯蔵中の腐敗が多発することがある。

5. 球の肥大性は「ツキヒカリ」より明らかに優り、一球重が重く、総収量、規格内収量とも「ツキヒカリ」「北もみじ」より多収を示し、規格内率は「ツキヒカリ」と同程度に高い。
6. 球はやや柔らかく、外皮色は「ツキヒカリ」よりやや淡い黄銅色、球形は地球型で「北もみじ」よりやや甲高で首部が太く、揃いは良好である。
7. 4月以降の貯蔵後期に発根が早まる傾向が認められるが、高貯蔵性品種の「ツキヒカリ」「北もみじ」と同程度に萌芽が遅い。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯における春まき露地移植栽培に適するが、網走管内では倒伏の遅れにより、外皮の着色不良や貯蔵腐敗が多発する事がある。栽培上の注意は、栽培は「ツキヒカリ」「北もみじ」等従来の品種と同様で良いが、生育の遅れた場合にボトリチス属菌による腐敗が発生しやすいので、生育後期の防除に努める。また、晩生に属するので多肥栽培を避け、根切り処理による枯葉の促進が必要である。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵試験 (%)		
							健全率	発根・萌芽率	腐敗率
北海道農試	天 心	571	123	183	96.6	8.15	85.2	10.9	3.9
	ツキヒカリ	465	100	151	94.9	8.10	77.0	18.2	5.0
	北もみじ	481	103	158	94.7	8.10	87.1	9.1	4.0
	ひぐま	(535)	(111)	(181)	(91.0)	(8.12)	63.4	34.7	2.0

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵試験 (%)		
							健全率	発根・萌芽率	腐敗率
中央農試	天 心	480	124	200	82.1	8.19	35.0	55.0	10.0
	ツキヒカリ	393	100	172	78.4	8.12	53.3	36.7	10.0
	北もみじ	437	111	168	84.6	8.8	33.3	55.0	11.7
	ひぐま	426	108	206	75.5	8.4	-	-	-
北見農試	天 心	666	106	232	95.4	8.18	33.0	55.4	11.8
	ツキヒカリ	625	100	229	91.3	8.14	66.1	29.3	4.9
	北もみじ	652	104	223	95.5	8.10	65.2	32.3	2.6
	ひぐま	(709)	(110)	(267)	(89.0)	(8.8)	29.6	68.4	2.3

注 1) 北海道農試の( )は1988年～1989年、北見農試の( )は1988年と1990年の平均値、その他は1988年～1990年の平均値である。

2) 貯蔵試験は1988年～1989年の平均値であるが、中央農試と北見農試の「ひぐま」は1988年のみの値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 36-38(1991)。

(3) 北もみじ86 (系統名 H-86) 1991年

登録番号: (北海道)たまねぎ準移第12号

来歴 本品種は、株式会社七宝が耐病性、球品質、収量性及び貯蔵性に優れた品種の育成を目的として、「札幌黄」×「Early Yellow Globe」の後代から育成した高貯蔵性の細胞質雄性不稔系統と、「札幌黄」の自殖後代から育成した耐病性及び球肥大性に優れた花粉親系統の利用による単交配一代雑種である。

特性概要

1. 種子千粒重は「ツキヒカリ」「北もみじ」より軽いが、発芽勢及び発芽率は「ツキヒカリ」と同程度で「北もみじ」よりやや優り良好である。苗の生育量は「ツキヒカリ」「北もみじ」とほぼ同程度である。
2. 草姿はやや直立し、葉折れがやや少なく「ツキヒカリ」「北もみじ」と同程度である。葉色等その他の葉部形質及び7～8月の草丈等の葉部生育量についても両品種と差異はない。
3. 球肥大期は「ツキヒカリ」「北もみじ」と同程度であるが、倒伏期は「北もみじ」より遅く「ツキヒカリ」

とほぼ同程度でやや晩生に属する。

4. 乾腐病抵抗性は「ツキヒカリ」「北もみじ」と同程度の抵抗性を有すると認められ、その他の病害虫に対しては両品種と差異は認められない。
5. 球の肥大性が「ツキヒカリ」「北もみじ」より優り、平均一球重が大きく総収量、規格内収量とも高い。しかし、高温、干ばつの年には長球や変球形が多発することが有り、総じて規格内率は「ツキヒカリ」よりやや低く、「北もみじ」より低い。
6. 球は「ツキヒカリ」「北もみじ」と同様に硬く、皮むけが少ない。外皮色は「北もみじ」と同程度で、「北もみじ」よりやや濃い。球形質は、形状の揃いの点で「北もみじ」より劣り、「ツキヒカリ」と同程度である。
7. 収穫翌年の3～4月の発根が少なく、高貯蔵性品種である「ツキヒカリ」「北もみじ」より良好な貯蔵性を示す。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯の春播き露地移植栽培に適する。栽培上の注意は、やや晩生に属するので、根切り処理の適期実施による枯葉の促進が必要である。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵試験 (%)		
							健全率	発根・萌芽率	腐敗率
北海道農試	北もみじ86	600	129	204	91.0	8.12	92.3	4.1	3.7
	ツキヒカリ	465	100	151	95.0	8.10	77.0	18.2	5.0
	北もみじ	481	103	158	95.0	8.10	87.1	9.1	3.9

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵試験 (%)		
							健全率	発根・萌芽率	腐敗率
北見農試	北もみじ86	585	94	221	90.3	8.14	81.3	15.2	3.8
	ツキヒカリ	625	100	229	91.3	8.14	66.1	29.3	4.9
	北もみじ	652	104	223	95.5	8.10	65.2	32.3	2.6

注) 試験年次は1988年～1990年、ただし貯蔵試験は1998年～1989年の平均値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 39-41(1991)。

(4) (系統名 北見交17号) 1994年  
登録番号: (北海道) たまねぎ北海道交第5号  
(種苗法) 出願中

**来歴** 本品種は、ホクレン農総研との共同研究により、球肥大性が良好で、軟質で辛味が少なく調理、加工適性に優れた業務用品種の育成を目標に、ホクレン農総研が導入した細胞質雄性不稔系統「AOPFA」を種子親とし、北海道立北見農業試験場育成の「KMS7320-12M」を花粉親として育成した単交配一代雑種である。1989年に「CX3」、1990年からは「北見交17号」の系統名で各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 種子千粒重は「ツキヒカリ」よりやや重く、発芽勢はやや低いが、発芽率に差は認められない。苗の生育はやや旺盛である。
2. 活着後生育初期における草姿はやや開張し、葉身のねじれもやや多いが、7月中旬～下旬の葉部生育最盛期の草姿は、やや直立型で葉折れも少なく「ツキヒカリ」とほぼ同様である。草勢は「ツキヒカリ」よりやや強く、葉色もやや濃い。
3. 肥大期は「ツキヒカリ」と同程度かやや早く、倒伏期は中生種の「北もみじ」より遅く、やや晩生種の「ツキヒカリ」「北もみじ86」よりやや早い。
4. 平均一球重は「ツキヒカリ」より大きく、球肥大性の良好な「北もみじ86」とほぼ同程度である。規格内

率は球形の揃いの良好な「北もみじ」と同程度で「ツキヒカリ」より高い。規格内収量は「ツキヒカリ」「北もみじ」より高く、「北もみじ86」よりやや高い。

5. 皮むけの難易及び皮色の濃さは「ツキヒカリ」とほぼ同程度で「北もみじ」よりやや優る。形状の揃いは「北もみじ」と同程度で、「ツキヒカリ」「北もみじ86」より優る。肉質は「北もみじ」より柔らかく「月輪」より硬い。固形分含量と全糖含量は「北もみじ」と同程度で「月輪」より高い。辛味成分の指標であるピルビン酸含量は「北もみじ」よりやや低く、「月輪」より高い。食味評価は生のサラダ(スライス)では、ほぼ「北もみじ」並で「月輪」よりやや劣る。加熱調理後は甘味の発現が良好で苦味が少なく、肉質も柔らかく、ソテーなどの食味は「北もみじ」「月輪」より優れる。
6. 貯蔵後の健全率は「ツキヒカリ」とほぼ同程度で、良好な貯蔵性を示すが、貯蔵条件により萌芽がやや早まる傾向がある。
7. 乾腐病抵抗性は、抵抗性強の「ツキヒカリ」より弱く、抵抗性中の「レオ」「ひぐま」とほぼ同程度で、抵抗性弱の「月輪」よりは強い。耐抽苔性は「ツキヒカリ」とほぼ同水準である。

**栽培適地と奨励態度**

全道のたまねぎ栽培地帯に適し、用途は業務用及び青果用である。栽培上の注意は、乾腐病の多発圃場における栽培は避ける。軟腐病やボトリチス等による腐敗球の発生に対する適切な防除の実施に留意する。

比較対象	品 種 名	倒伏期 (月日)	乾腐病率 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	貯蔵後健全率 (%)
ツキヒカリ	北見交17号	8.14	2.4	237	90	605	116	67
	ツキヒカリ	8.15	1.3	213	85	521	100	69
	(n)	(31)	(31)	(31)	(31)	(31)		(20)
北もみじ	北見交17号	8.14	2.4	237	90	605	113	67
	北もみじ	8.10	0.8	201	90	534	100	58
	(n)	(31)	(31)	(31)	(31)	(31)		(20)

比較対象	品 種 名	倒伏期 (月日)	乾腐病率 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	貯蔵後健全率 (%)
北もみじ86	北見交17号	8.14	2.6	238	90	607	108	68
	北もみじ86	8.17	1.1	239	80	561	100	77
	(n)	(29)	(29)	(29)	(29)	(29)		(11)
レ オ	北見交17号	8.17	2.5	229	90	576	105	56
	レ オ	8.14	1.9	213	88	549	100	29
	(n)	(18)	(18)	(18)	(18)	(18)		(18)
ひぐま	北見交17号	8.17	2.4	229	90	574	103	49
	ひぐま	8.13	2.2	224	84	559	100	9
	(n)	(16)	(16)	(16)	(16)	(16)		(10)
月 輪	北見交17号	8.16	2.5	222	89	549	109	47
	月 輪	8.15	4.7	253	79	505	100	9
	(n)	(14)	(14)	(14)	(14)	(14)		(7)

注 1) 試験年次：1989年～1993年，試験成績は北見農試，ホクレン農総研，中央農試，北見市，留辺蘂町，富良野市，岩見沢市，札幌市における対応する総平均値での比較。

2) (n) は実施試験数を示す。

参照 1) 北海道農政部編，平成6年普及奨励ならびに指導参考事項，31-33(1994)。

(5) ツキサップ (系統名 月交16号) 1994年

登録番号：(北海道) たまねぎ北海道交第6号  
(農水省) たまねぎ農林交5号

来歴 本品種は，農林水産省北海道農業試験場が育成したもので，1984年に米国U.S.D.Aより導入した細胞質雄性不稔系統「2935A」を種子親とし，「札幌黄」の富良野市在来系統「久保系」より選抜育成した「K83211」を花粉親とした交配組合わせで優良性が認められたため，1990年から「月交16号」の系統名で各種の試験を行い，1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 苗床及び定植後の生育は旺盛で，標準品種「ツキヒカリ」及び対象品種「北もみじ」より勝り参考品種「北もみじ86」と同等の草勢を示す。
2. 肥大開始期は「ツキヒカリ」より1～2日早く，「北もみじ」とほぼ同時期である。倒伏期は「ツキヒカリ」より4～5日遅く，「北もみじ86」とほぼ同時期か僅かに遅い。枯葉期は「ツキヒカリ」より僅かに遅い程度であり，「北もみじ86」と同時期である。
3. 耐抽苔性は，比較3品種と同等と認められ，通常の栽培では多発した事例はない。
4. 乾腐病抵抗性は「ツキヒカリ」と同等と推察され，その他の病害についても発生は少なく，比較3品種と

同等である。

5. 球肥大が良好で大球となり，規格内収量は「ツキヒカリ」を10～30%程度，「北もみじ」を約10%上回り，「北もみじ86」とほぼ同等である。規格内率は「ツキヒカリ」及び「北もみじ」よりやや低いが，「北もみじ86」よりもやや高い。
  6. 球の硬さは「ツキヒカリ」及び「北もみじ86」と同程度で「北もみじ」よりもやや硬い。皮張り性は「ツキヒカリ」と同等で「北もみじ」及び「北もみじ86」よりも優る。球形は比較3品種よりもやや扁平であり，揃いは「ツキヒカリ」及び「北もみじ」よりやや劣るが，「北もみじ86」よりは安定している。皮色は「ツキヒカリ」及び「北もみじ86」よりもやや薄く，「北もみじ」と同等である。
  7. 貯蔵中の腐敗によるロスは，比較3品種と同等に少ない。また発根及び莖盤突出が「ツキヒカリ」及び「北もみじ」よりもかなり遅いため，貯蔵末期の健全率は両品種を大きく上回る。莖盤突出が少ないため，貯蔵末期における球の変形及び変形に伴う皮むけは比較3品種より少ない。
  8. 本品種は花粉親の開花がやや早いため，採種性は「ツキヒカリ」よりもやや劣るが，実用上問題はない。
- 栽培適地と奨励態度  
全道のたまねぎ栽培適地に適し，貯蔵性が高いことか

ら秋期から春期にわたる長期出荷の青果用に適する。栽培上の注意は、倒伏が遅く、肥大期以降の直立期間が長いので、生育後期の病害防除に注意する。また、初期生

育の遅れる場合には、大きく減収することがあるので、適正な苗質確保と定植条件の整備に努める。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	貯蔵前腐敗率 (%)	貯蔵後発根率 (%)	貯蔵後健全率 (%)
北海道農試	月交16号	575	137	198	90.2	1.8	3.0	92.9
	ツキヒカリ	435	100	158	85.6	2.1	7.8	61.4
	北もみじ	521	125	174	93.6	1.9	8.4	69.2
	北もみじ86	583	145	212	87.0	2.1	2.9	85.8
北見農試	月交16号	636	121	259	86.5	8.5	36.9	26.7
	ツキヒカリ	528	100	212	85.4	5.1	46.3	1.6
	北もみじ	590	113	219	91.9	5.7	68.6	0.2
	北もみじ86	609	117	252	85.7	8.1	43.5	12.9
中央農試	月交16号	312	93	177	70.9	20.2	18.3	40.0
	ツキヒカリ	337	100	169	75.9	12.7	20.9	9.0
	北もみじ	417	124	172	86.3	9.5	42.5	11.1
	北もみじ86	377	112	202	76.9	17.3	39.5	9.9

注 1) 試験年次：北海道農試は1990年～1993年、北見農試・中央農試は1990年、1992年～1995年である。  
2) 中央農試の腐敗率、発根率、健全率は1993年の値である。

参照 1) 北海道農政部編、平成6年普及奨励ならびに指導参考事項、33-36(1994)。

(6) 改良オホーツク1号 (系統名 H-146) 1994年  
登録番号：(北海道)たまねぎ準移交第13号

来歴 本品種は、株式会社七宝が早生で耐抽苔性を有する「オホーツク1号」の耐病性、球肥大性の改良を目標とし、府県の秋播き用品種である「泉州黄」から育成した細胞質雄性不稔系統と「札幌黄」から選抜、育成した花粉親系統との一代雑種である。1991年から各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 種子の千粒重は「ツキヒカリ」及び「北もみじ」より軽く、「北もみじ86」と同程度である。発芽勢及び発芽率は「ツキヒカリ」よりやや劣るものの、「北もみじ」及び「北もみじ86」と同程度である。
2. 草姿はやや直立し、葉折れも少なく「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」と同様である。草勢や葉色もこれら3品種と同様である。
3. 球肥大期は「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」より5日程度早い。倒伏期は「ツキヒカリ」、「北もみじ86」より6日、「北もみじ」より2日早い早生種である。
4. 乾腐病に対しては「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び

「北もみじ86」と同程度の抵抗性を有すると認められ、その他の病害虫の発生は「ツキヒカリ」及び「北もみじ」と同程度である。

5. 「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」に比較して抽苔の発生が少なく、耐抽苔性が高い。
6. 平均一球重は「北もみじ86」より劣るが、総じて「ツキヒカリ」及び「北もみじ」と同程度かやや優る。規格内率は「北もみじ」より劣り、総じて「ツキヒカリ」及び「北もみじ86」と同程度で、規格内収量は「北もみじ86」より劣り、「ツキヒカリ」及び「北もみじ」とほぼ同程度である。
7. 球の硬さは「ツキヒカリ」及び「北もみじ86」より柔らかく、「北もみじ」とほぼ同程度で、皮むけ程度及び外皮色は、「ツキヒカリ」及び「北もみじ86」より劣り、「北もみじ」ほぼ同程度である。心ずれ球が発生しやすく、球形及びその揃いは「北もみじ」に比較して不良で、裂皮球や長球の発生もやや多い。
8. 萌芽は「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」程度に遅いが、発根が早く貯蔵性は劣る。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯における春播き露地移植栽培に適するが、早生で球肥大性が良好であり、耐抽苔性を

有することから、早期播種による早期出荷に適する。栽培上の注意は、球肥大が旺盛な条件では、根切り処理が

遅れると変形球、裂皮球が多発することがあるので、通常より早い根切り処理が必要である。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	肥大期 (月日)	倒伏期 (月日)	貯蔵後健全率 (%)	試験年次
北海道農試	改良オホーツク1号	459	106	192	78	7.19	8.3	93.6	1991~1993
	ツキヒカリ	434	100	165	82	7.25	8.6	65.2	
	北もみじ	538	124	183	92	7.25	8.4	80.8	
	北もみじ86	600	138	223	86	7.24	8.11	83.6	
中央農試	改良オホーツク1号	365	99	180	79	7.26	8.16	2.1	1991~1993
	ツキヒカリ	368	100	178	79	8.3	8.26	15.5	
	北もみじ	413	112	166	86	8.2	8.20	13.0	
	北もみじ86	412	112	202	74	8.1	8.23	19.0	
北見農試	改良オホーツク1号	597	116	233	86	7.17	8.9	0.4	1991~1993
	ツキヒカリ	513	100	210	83	7.26	8.16	1.8	
	北もみじ	550	107	205	91	7.24	8.10	0.2	
	北もみじ86	652	127	262	84	7.28	8.16	13.3	

注) 貯蔵後健全率は1991年~1992年の値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 36-39(1994)。

(7) スーパー北もみじ (系統名 H-136A) 1995年  
登録番号: (北海道) たまねぎ準移交第14号

来歴 本品種は、株式会社七宝が高い貯蔵性と多収性を備え、更に耐病性、耐抽苔性及び球品質が良好な品種の育成を目標に、米国で育成された乾腐病抵抗性品種と「そらち黄」より選抜された自殖系統との交雑後代から育成された細胞質雄性不稔系統を種子親とし、「北見黄」の自殖後代から育成された系統を花粉親として育成した単交配一代雑種である。1992年から各種の試験を行い、1995年に優良品種となった。

特性概要

1. 種子の千粒重は「北もみじ86」と同様に、「ツキヒカリ」や「北もみじ」よりやや軽い傾向にあるが、発芽勢・発芽率や苗生産量はこれら3品種とほぼ同程度である。
2. 7月の葉部生育最盛期における生育量は「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」とほぼ同程度かやや優る。草姿はやや直立し、葉折れも少なく、これら3品種とほぼ同様であり、葉色は同程度からやや濃い。
3. 肥大期は「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」とほぼ同時期であり、倒伏期は中生の「北もみじ」より遅く、やや晩生の「ツキヒカリ」、「北もみじ

86」とほぼ同時期である。

4. 乾腐病に対しては抵抗性品種である「ツキヒカリ」、「北もみじ」及び「北もみじ86」と同程度の抵抗性を有する。
5. 抽苔率は「ツキヒカリ」や「北もみじ」及び「北もみじ86」に比較して概ね低いが、「改良オホーツク1号」とは異なり不時抽苔の発生は皆無ではなかった。
6. 平均一球重は「ツキヒカリ」、「北もみじ」より大きく、総じて「北もみじ86」とほぼ同程度である。規格内率は総じて「北もみじ」とほぼ同程度で、「ツキヒカリ」や「北もみじ86」より高い。規格内収量は「ツキヒカリ」や「北もみじ」より高く、総じて「北もみじ86」と同程度かやや高い。
7. 球の締まり、外皮色の濃さ及び皮張りの程度は「北もみじ」より優り、「ツキヒカリ」や「北もみじ86」と同程度である。球形の揃いは「ツキヒカリ」や「北もみじ86」より優り、「北もみじ」と同程度である。
8. 萌芽、発根及び茎盤の突出が遅いため、貯蔵後健全率は「ツキヒカリ」や「北もみじ」より高く、「北もみじ86」に比較してもやや高い。

栽培適地と奨励態度

多収性、高貯蔵性及び乾腐病抵抗性を備えており球の外観品質にも優れることから、本道のタマネギ生産における基幹品種として、全道のタマネギ栽培地帯への導入

が可能である。栽培上の注意は、やや晩生であり、生育の遅れがちな北見地方への導入にあたっては、圃場の選定及び適切な肥培管理や根切り処理の実施などに特に留

意する。白斑葉枯病等枯れ性の病害や倒伏の遅延により灰色腐敗病などによる腐敗球が多発することがあるので、これらに対する適切な防除の実施に努める。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)	規格内率 (%)	倒伏期 (月日)	貯蔵後健全率 (%)	試験年次
北海道農試	H-136A	656	133	231	92	8.9	74	1992~1994
	ツキヒカリ	494	100	184	84	8.6	54	
	北もみじ	575	116	197	92	8.3	59	
	北もみじ86	638	129	232	87	8.9	68	
中央農試	H-136A	368	115	180	78	8.20	58	1992~1994
	ツキヒカリ	321	100	155	76	8.21	35	
	北もみじ	377	117	152	84	8.17	38	
	北もみじ86	397	124	182	77	8.19	44	
北見農試	H-136A	622	133	236	91	8.21	18	1992~1994
	ツキヒカリ	467	100	195	85	8.17	2	
	北もみじ	525	112	198	90	8.13	0	
	北もみじ86	608	130	245	86	8.17	10	

注) 貯蔵後健全率は1992年~1993年の成績である。

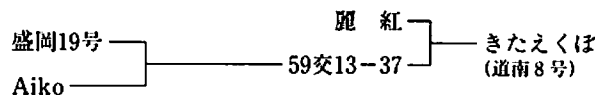
参照 1) 北海道農政部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-27(1995)。

## 2. いちご

(1) きたえくぼ (系統名 道南8号) 1993年  
登録番号: (北海道) いちご北海道第2号  
(種苗法) 第4535号

来歴 本品種は、1987年に北海道立道南農業試験場において光沢良好で果実が硬い道南農試系統「59交13-37」

を種子親に、果皮色が濃く果形の良い「麗紅」を花粉親として交配し、1989年にハウス半促成作型で、果実品質及び生育特性などにより系統選抜を行い、特性の優れた「62交102-7」に「道南8号」の新系統名を付し、1990年から各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



### 特性概要

1. 草姿はやや立性、草勢は強、草丈は高く「宝交早生」に比べ旺盛な生育を示し、分けつは「宝交早生」より少ない。葉色は濃く、葉は「宝交早生」に比べ厚く、小葉は大きく、葉の欠刻は鈍鋸歯状で、葉数は少ない。葉柄長は「宝交早生」とほぼ同じか、やや短い。ランナーは「宝交早生」に比べ太く、発生は7~10日遅いが発生数は多い。
2. 花柄の長さは「宝交早生」並であるが、太さは太く、花及び花弁の大きさは「宝交早生」より大きく、花房当たりの花数は「宝交早生」より多い。

3. 上物収量は「宝交早生」並であるが、定植の遅れや小苗定植により「宝交早生」に比べ減収する場合がある。平均1果重は「宝交早生」より2~3g重く大果である。肩果の発生が少ないため、上物率は「宝交早生」に比べ10%程度高い。
4. 果皮は鮮紅色で果肉は淡橙色で「宝交早生」に比べると果皮果肉とも淡い。果形は円錐形で光沢があり、外観は「宝交早生」に比べて良好である。中心空洞は「宝交早生」より大で比較的小さい果実にも入る。香りは「宝交早生」並でBrixと酸度は「宝交早生」より高く、食味はほぼ「宝交早生」並である。果皮は「宝

交早生」より強く、「盛岡16号」に比べやや弱く、「ベルルージュ」に比べると弱い。果肉は「宝交早生」よりやや硬く、「盛岡16号」に比べ柔らかく、「ベルルージュ」に比べ同じか、やや柔らかい。

5. 日持ち性は「宝交早生」より優れ、「盛岡16号」並で「ベルルージュ」より劣る。
6. 露地状態での花芽分化期は、大野町では9月下旬で「宝交早生」より10日程度遅く、開花始期は「宝交早生」に比べ10～14日程度遅い。成熟日数は「宝交早生」に比べ5日前後早く、収穫期は「宝交早生」に比べ7～10日遅い中生であり、「盛岡16号」に比べて遅く、「べ

ルルージュ」並かやや遅い。休眠性は「宝交早生」より深い。

**栽培適地と奨励態度**

全道一円に適し、中生のため「宝交早生」と組み合わせ、収穫出荷の分散平準化を図ることができる。栽培上の注意は、「宝交早生」の栽培に準ずるが、草勢が強いため過繁茂になりやすく、灰色かび病による病果が多発する危険があるので、密植は避ける。定植の遅れや小苗定植による減収が「宝交早生」より大きいため、早期、大苗定植に努める。

試験場名	品 種 名	定植期 (月日)	収穫始 (月日)	上物収量 (kg/10a)	同左比 (%)	上物重量 (g/株)	平均 1果重 (g)	外観品質	食 味	空 洞	日持ち性
道南農試	きたえくぼ	9.7	5.11	350	139	652	13.9	4	2.8	2.3	4
	宝交早生	9.7	5.1	252	100	468	11.0	3	3	3	3
中央農試	きたえくぼ	9.19	6.2	221	89	422	12.4	4	2.3	1.1	4
	宝交早生	9.19	5.27	257	100	484	10.5	3	3	3	3

- 注 1) 試験年次：1990年～1992年  
 2) 外観品質，食味，日持ち性は標準品種「宝交早生」を3として5：良～1：不良である。  
 3) 空洞の基準は5：小～1：大である。

参照 1) 北海道農政部編，平成5年普及奨励ならびに指導参考事項，30-32(1993)。

### 3. トマト

- (1) KRN-2011 (系統名 KRN-2011) 1990年  
 登録番号：(北海道) トマト北海道交第3号  
 (種苗法) 第2583号

**来歴** 本品種は麒麟麦酒株式会社と北海製缶株式会社が、多収性で裂果、腐敗果等の障害果の発生が少なく、果汁色が良く、心止まり型の加工用トマトを目標に、1984年に「DP-7805」に「FU-8101」を交配した単交配一代雑種の品種で、1987年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 心止まり型で、生育盛期の茎葉の生育量は、無支柱放任栽培の状態、草高50～60cm、拡がり110～125cmの中～やや大型である。
2. 開花数は多くないが、着果性は良い方であり、開花は「しゅほう」より1～2日程度早い、収穫開始時期は大差ない。
3. 前期(8月末まで)の収量は「しゅほう」と同等～多収、「早生だるま」より極多収である。合計収量は「しゅ

ほう」より多収で、「早生だるま」と概ね同等である。

4. 1果平均重は「しゅほう」の103～153%、「早生だるま」より209～236%と重く、89～145gの大果である。果形は豊円～やや扁円球で、果肩部の緑色は無く、完熟すると果肉部まで濃赤色となる。果の揃いは良く、色調や色まわり、堅さは「しゅほう」と同等かやや劣り、5～6の子室を有する。乱形果の発生がやや多いが、裂果その他の障害果および腐敗果の発生は少ない。
5. 加工ジュースの色調、可溶性固形物含量および酸は「しゅほう」とほぼ同等で、加工適性は良好である。
6. 疫病や灰色かび病の発生は比較品種と同等で、特に耐病性をもたない。

**栽培適地と奨励態度**

加工用トマト栽培地帯に適する。栽培上の注意は、露地早熟(マルチ栽培)作型における、無支柱放任栽培とし、疫病や灰色かび病等には特に耐病性を持たないので、適期防除に努める。



試験場名	品 種 名	前期収量 (kg/10a)	同左比 (%)	合計収量 (kg/10a)	同左比 (%)	良果率 (%)	平均1果重(g)		果 実			試験年次
							前期	全 期	揃 い	色 調	堅 さ	
中央農試	KRN-2011	1,888	120	9,012	119	52.7	105.2	111.5	1.8	2	2.5	1987~1989
	しゅほう	1,579	100	7,544	100	52.6	69.3	79.9	2	2	2	
	カゴメ77	1,996	126	8,061	107	51.6	69.7	73.6	1.7	2.2	2	
	KRN-2011	1,473	213	9,456	111	50.9	113.2	125.7	1	1.5	2.5	1989
	早生だるま	700	100	8,542	100	67.8	43.7	55.2	1.5	1.5	2.5	

注) 果実の揃い、色調、堅さの指数は「しゅほう」を2とし、1:優る~3:劣るで示す。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 38-41(1990)。

(2) NDM051 (原名 NDM051) 1995年

登録番号: (北海道) トマト準移交第17号

**来歴** 本品種は、多収でジョイントレス果柄を有し、一斉・機械収穫に適し、加工用として果実品質が優れ、かつ萎ちょう病及び半身萎ちょう病に抵抗性を有することを目標に、1985年より日本デルモンテ株式会社が育成を開始し、1990年に育成を完了した単交配一代雑種で、北海製缶株式会社により本道に導入され、1992年から各種の試験を行い、1995年に優良品種となった。なお、本品種の種子親は「7889」と「3279」のF<sub>2</sub>後代固定系統の「8358」で、花粉親は「7314」と「2432」の後代固定系統の「8778」である。

**特性概要**

1. 定植時の苗の生育は、「ふりこま」に比べ葉数は同じであるが草丈はやや大きく、茎がやや細い。第1花房着生節位は「ふりこま」より低い。
2. 草勢は、心止まり型で、収穫時の株の拡がりは130~140cmと「ふりこま」よりやや大型であるが、「KRN2011」よりは小型である。
3. 着果性は「ふりこま」より良好で、熟期は「ふりこま」よりやや早く、「KRN2011」とほぼ同じである。
4. 「ふりこま」に比べ未熟果率が低いため、規格内果率

- が高く、規格内収量は「ふりこま」に比べ極めて多収で、多収品種である「KRN2011」とほぼ同程度である。
5. 1果重は「ふりこま」より大きく「KRN2011」より小さい50~80gで、球形はやや縦長の球形である。ジョイントレス果柄を有しているため、へた着き果率が低く、裂果の発生は「ふりこま」と同程度に低く、果実品質は「ふりこま」に比べ外観がやや良好で、糖度も高く優れている。果肉色調は「ふりこま」よりやや劣り、日持ち性は「ふりこま」と同程度に良い。
  6. 一斉収穫に対する適性は「ふりこま」より高く、機械収穫に対する適性も高い。収穫物の輸送による損傷は「KRN2011」より明らかに少なく、輸送適性は「ふりこま」と同程度に高い。
  7. ジュース特性は「ふりこま」と同程度の高品質で、「KRN2011」より優れる。

**栽培適地と奨励態度**

加工トマトの無支柱栽培が行われている地域に加えて、新たな栽培の拡大が見込まれる地域に適應する。栽培上の注意は、一般の無支柱栽培における加工用トマト栽培に準ずる。収穫は、一斉・機械収穫が可能である。一斉収穫は、降雨で遅れると、過熟による腐敗果の発生が懸念されるので、収穫は主枝第一花房の果実に腐敗が見えはじめたら行う。

試験場名	品 種 名	規格内収量 (kg/10a)	同左比 (%)	規格別果数率 (%)			平均一果重 (g)	糖 度 (Brix)	酸 度 (%)	pH	色 調 (Lb/a)
				規格内果	未熟果	腐敗果					
中央農試	NDM 051	4,104	204	55	23	22	57	6.4	0.41	4.36	13.0
	ふりこま	2,015	100	43	30	27	34	6.1	0.38	4.37	12.6
	KRN 2011	3,875	192	40	27	33	115	6.0	0.41	4.30	14.5

注 1) 試験年次: 1990年~1992年である。

2) 糖度、酸度、pH、色調は1994年の美瑛を除く1990年~1992年の現地試験、北海製缶及び1992年の中央農試の平均値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 27-29(1995)。

## V 飼料作物

### 1. アカクローバ

(1) タイセツ (系統名 北海6号) 1990年  
 登録番号: (北海道) クローバ類北海道第4号  
 (農水省) アカクローバ農林3号  
 (種苗法) 第2932号

**来歴** 本品種は、1974年に農林水産省北海道農業試験場において「サッポロ」の3年目生存株から稔実率の高い個体を選抜し、相互交配後笑気ガスで染色体を倍加し、その後代から育成した4倍体品種である。1986年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

**特性概要**

- 4年間合計乾物収量は北海道平均で「サッポロ」より12%多収で、特に多雪地帯で多収を示す。また、3・4年目乾物収量が「サッポロ」対比123%であり、永続性に優れている。
- 開花始は「サッポロ」より平均して2日遅く、早生に属する。
- ウイルス病、菌核病、茎割病、うどんこ病には「サッポロ」より強く、輪紋病、さび病、そばかす病には「サッポロ」並でやや強く、黒葉枯病には「サッポロ」より弱い。

- 小葉は「サッポロ」より大きく、莖も太い。莖数は「サッポロ」より少なく、葉色は濃く、葉斑はより鮮明である。草丈は、1番草で「サッポロ」より高く、2・3番草では「サッポロ」より低い傾向を示し、倒伏は1・2番草で「サッポロ」よりやや多い。
- 早春の萌芽は「サッポロ」より平均して2日早い。萌芽、春の草勢、再生は「サッポロ」より優れイネ科牧草との混播適性は「サッポロ」並である。
- 耐寒性は「サッポロ」よりやや劣るが「レッドヘッド」「ハヤキタ」より強く、耐雪性は「サッポロ」より強い。越冬性はほぼ「サッポロ」並である。
- 乾物率は「サッポロ」より1~2%低く、粗蛋白含有率は「サッポロ」よりやや多く、ADF含有率は「サッポロ」並である。

**栽培適地と奨励態度**

北海道一円及び本州中部以北の高冷地に適応する。栽培利用上の注意は、イネ科牧草と混播で採草利用する。凍害の恐れのある少雪地帯ではチモシーと混播し、越冬前までに十分な莖葉を展開できるように年2回刈りとする。

試験場名	品 種 名	乾 物 収 量 (kg/10 a)					同左比 (%)	粗タンパク質			試験年次
		1年目	2年目	3年目	4年目	合 計		1番草	2番草	3番草	
北海道農試	タイセツ	586	1,143	1,091	1,182	4,002	118	14.5	18.1	20.7	1986~1989
	サッポロ	562	1,089	871	857	3,380	100	14.6	17.7	19.5	
	レッドヘッド	647	1,061	875	759	3,343	99	15.1	17.8	21.8	

注) 粗タンパク質は乾物中の%で示し1987年の値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 48-51(1990)。

(2) ホクセキ (系統名 北海8号) 1990年  
 登録番号: (北海道) クローバ類北海道第5号  
 (農水省) アカクローバ農林4号  
 (種苗法) 第2935号

**来歴** 本品種は、1974年に農林水産省北海道農業試験場が「サッポロ」の3年目生存株から稔実率の高い個体を選抜し、20母系を育成した。その後代母系より選抜・育成した品種で、1986年から各種の試験を行い、1990年

に優良品種となった。

**特性概要**

- 4年間合計乾物収量は「サッポロ」を100として北海道平均で101であるが、3・4年目乾物収量は「サッポロ」対比106であり、「サッポロ」より永続性に優れている。
- 開花始は「サッポロ」より平均して1日遅く、早生に属する。
- ウイルス病、うどんこ病は「サッポロ」より強く、

菌核病、茎割病、輪紋病、さび病、そばかす病黒葉枯病にはほぼ「サッポロ」並の罹病度を示す。

4. 小葉の幅が「サッポロ」より小さく、葉斑はより鮮明で、茎は「サッポロ」より細く、茎数は「サッポロ」並、葉色は「サッポロ」より濃い。草丈は1番草は「サッポロ」並かやや低く、2・3番草では「サッポロ」より低く、倒伏は1・2番草で「サッポロ」よりやや多い。
5. 早春の萌芽はほぼ「サッポロ」並で、萌芽性は「サッポロ」より良好、春の草勢は道北・道央で「サッポロ」

より良好であるが、道東では「サッポロ」より劣る。再生性・越冬前草勢は「サッポロ」並とみられる。イネ科牧草との混播適性は「サッポロ」並である。

6. 耐寒性は極強～強で「サッポロ」よりやや強く、越冬性は概ね「サッポロ」並である。
7. 乾物率、飼料成分含有率はほぼ「サッポロ」並である。

**栽培適地と奨励態度**

全道一円及び本州中部以北の高冷地に適する。栽培上の注意は、イネ科牧草との混播で採草利用する。

試験場名	品 種 名	年間乾物収量 (kg/10 a)					同左比 (%)	4年目/2年目比 (%)	試験年次
		1年目	2年目	3年目	4年目	合 計			
北海道農試	ホクセキ サッポロ	558	1,102	933	876	3,469	103	80	1986~1989
		562	1,089	871	857	3,380	100	79	
根釧農試	ホクセキ サッポロ	201	1,067	1,070	820	3,158	99	77	1986~1989
		203	1,079	1,047	853	3,181	100	79	
北見農試	ホクセキ サッポロ	467	918	718	646	2,749	102	71	1986~1989
		432	998	704	569	2,702	100	57	
天北農試	ホクセキ サッポロ	372	844	827	687	2,730	104	81	1986~1989
		335	852	801	647	2,634	100	76	

注) 試験場名の北海道は農林水産省北海道農業試験場である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 51-53(1990)。

**(3) メルビィ (原名 Start) 1990年**

登録番号: (北海道) アカクローバ準輪第4号

**来歴** 本品種は、ベルギーの Rijksstation voor Planteverdelinng社が、「Violetta」及び在来種の6栄養系から家系選抜により育成し、1980年にベルギーの登録品種となった。日本にはホクレン農業協同組合連合会が導入し、1987年より各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 1番草の開花始は「サッポロ」並の早生である。3番草の開花は「サッポロ」より少ない。
2. 乾物収量は、1年目は各試験地とも「サッポロ」より低収であったが、2年目は「サッポロ」並ないし「サッ

ポロ」より多収となり、3年目は各試験地とも「サッポロ」並となった。

3. うどん粉病には「サッポロ」並かやや強く、モザイク病には「サッポロ」より強い。茎割病に対しては「サッポロ」より弱く、さび病の発生も多い。
4. 草丈は「サッポロ」並かやや高い。
5. 倒伏は「サッポロ」と同程度かやや少ない。
6. 越冬性、早春の草勢は「サッポロ」よりやや優れている。越冬前の草勢も「サッポロ」並かやや優れる傾向がみられる。

**栽培適地と奨励態度**

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草用として利用する。

試験場名	年間乾物収量 (kg/10a)				標準品種「サッポロ」比 (%)				試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計	1年目	2年目	3年目	合計	
北海道農試	469	1,237	1,162	2,868	93	107	135	113	1987~1989
中央農試	444	1,314	875	2,633	93	103	144	111	
北見農試	463	1,083	1,010	2,556	89	100	120	104	
根釧農試	173	928	878	1,979	95	105	109	105	
天北農試	510	1,070	876	2,556	93	100	114	103	
新得畜試	466	1,182	783	2,431	90	120	126	114	
滝川畜試	403	1,402	1,232	3,037	82	96	105	97	
全道平均	418	1,174	988	2,580	90	104	120	107	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 71-72(1990)。

(4) スタート (原名 Start) 1990年  
登録番号: (北海道) アカクローバ準輪第5号

来歴 本品種は, チェコスロバキアのOseva社が育成した品種で, ホクレン農業協同組合連合会が導入し, 1987年から道内各地で試験を行い, 1990年に優良品種となった。

特性概要

1. 1番草の開花始は「サッポロ」より2~3日早い早生である。1・2番草の開花程度は「サッポロ」より多いが, 3番草ではやや少ない。
2. 乾物収量は, 1年目は「サッポロ」並ないし「サッポロ」より低収であったが, 2・3年目は「サッポロ」より多収となり, 3か年合計では, 天北・滝川で「サッ

ポロ」並で, その他の場所では「サッポロ」より約10%多収であった。特に1番草刈取り後の再生が良好で, 2番草で顕著に多収であった。

3. 耐病性は, うどん粉病には「サッポロ」並かやや強く, 茎割病には「サッポロ」並である。
4. 草丈は, 1・3番草は「サッポロ」並であるが, 2番草は「サッポロ」より5~15cm高い。
5. 倒伏は「サッポロ」と同程度かやや多い。
6. 越冬性・早春の草勢は「サッポロ」より優れている。越冬前草勢は「サッポロ」並である。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は, 採草用として利用する。チモシーと混播する場合は再生の良い品種を用いる。

試験場名	年間乾物収量 (kg/10a)				標準品種「サッポロ」比 (%)				試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計	1年目	2年目	3年目	合計	
北海道農試	481	1,293	1,044	2,819	95	111	121	111	1987~1989
中央農試	475	1,371	738	2,584	99	107	121	109	
北見農試	505	1,176	1,015	2,696	97	108	120	110	
根釧農試	186	979	911	2,076	102	110	113	111	
天北農試	506	1,059	895	2,460	92	99	104	99	
新得畜試	481	1,128	740	2,349	93	114	119	110	
滝川畜試	420	1,545	1,245	3,210	86	106	106	103	
全道平均	436	1,222	941	2,599	94	108	114	107	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 73-75(1990)。

(5) エムアールワン (系統名 MR-1-83) 1990年  
登録番号：(北海道) アカクローバ準輪第6号  
(種苗法) 第3644号

来歴 本品種は、三井東圧株式会社が病害抵抗性、冬枯抵抗性、永続性、草勢等を選抜形質とし、国内外の品種を母材とした3サイクルの集団選抜法により育成した。1987年より「MR-1-83」の系統名で各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

- 1番草の開花始は「サッポロ」より1日程度早い早生である。開花程度は、1番草では「サッポロ」より多いが2番草では少ない。
- 乾物収量は場所間差がみられ、3か年合計で根釧・天北で「サッポロ」より低収、滝川で「サッポロ」並、その他の場所では「サッポロ」より多収であった。2

年目から3年目にかけての収量低下の程度は、根釧以外では「サッポロ」より少なく、永続性は「サッポロ」よりやや優れている。年間収量に対する各番草の構成比率は「サッポロ」より2番草でやや低く、3番草でやや高い傾向がみられる。

3. 耐病性は、うどん粉病に対しては「サッポロ」より強く、モザイク病にも強い。茎割病は「サッポロ」並である。
4. 草丈は各番草とも「サッポロ」並である。
5. 倒伏は「サッポロ」並かやや少ない。
6. 越冬性は「サッポロ」よりやや優れている。早春の草勢は「サッポロ」並かやや優り、越冬前草勢は「サッポロ」並である。

栽培適地と奨励態度

根釧地域を除く全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草用として利用する。

試験場名	年間乾物収量 (kg/10a)				標準品種「サッポロ」比 (%)				試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計	1年目	2年目	3年目	合計	
北海道農試	467	1,243	1,084	2,794	92	107	126	110	1987~1989
中央農試	490	1,250	755	2,495	102	98	124	106	
北見農試	543	1,118	936	2,597	104	103	111	106	
天北農試	504	992	869	2,365	92	93	101	96	
新得畜試	522	1,010	711	2,243	101	102	115	105	
滝川畜試	437	1,462	1,206	3,105	89	101	102	100	
全道平均	494	1,179	927	2,600	97	101	113	104	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 75-77(1990)。

(6) テトリ (原名 TETRI) 1993年  
登録番号：(北海道) アカクローバ準輪第7号

来歴 本品種は、オランダのMommersteeg International B.V.が育成した四倍体品種で、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1990年から各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。

特性概要

1. 開花期は「サッポロ」より0~2日遅く、「タイセツ」と同時期であり、早生に属する。開花程度は「タイセツ」より多く、「サッポロ」並である。
2. 耐倒伏性は「タイセツ」より優れ、越冬性は道東地域では「タイセツ」並で、早春の草勢は道東地域で旺

盛である。再生程度と越冬前草勢は「タイセツ」より旺盛である。

3. 病害抵抗性は、茎割病は「タイセツ」と同程度に強く、うどんこ病は「タイセツ」並かやや弱い。
4. 収量性は、道東地域で「タイセツ」より多収、永続性は道東地域で「タイセツ」並、乾物率は「タイセツ」に比べ2・3年目で全体としてやや高い傾向にあり、競合力は「タイセツ」より強い。

栽培適地と奨励態度

道東地域に適する。栽培上の注意は、採草利用とし、2番草の生育が旺盛なのでチモシーと混播するときは注意する。

試験場名	年間乾物収量 (kg/10a)				標準品種「タイセツ」比 (%)				試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計	1年目	2年目	3年目	合計	
北海道農試	528	1,099	732	2,359	97	100	73	89	1990~1992
中央農試	566	1,125	386	2,075	91	93	46	78	
天北農試	318	893	750	1,961	106	88	91	92	
滝川畜試	594	1,160	1,043	2,796	93	87	86	88	
新得畜試	491	1,010	843	2,344	114	109	106	109	
北兄農試	491	1,205	1,119	2,822	101	109	114	109	
根釧農試	312	1,171	1,234	2,717	109	109	112	111	
道央道北平均					97	92	74	87	
道東平均					108	109	111	110	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 33-35(1993)。

(7) マキミドリ (系統名 SB-R-8603) 1993年  
登録番号: (北海道) アカクローバ準輪第8号  
(種苗法) 第4845号

来歴 1982年に雪印種苗株式会社が、「ハミドリ」から  
茎葉病害が少なく永続性の良好な個体を選抜しA集団と  
した。1981年には「ハミドリ」「サッポロ」「Arlington」  
を材料に、うどんこ病幼苗選抜を実施し、さらに茎葉病  
害が少ない個体を選抜しB集団とした。本品種はこれら  
A, Bをもとに母系選抜により育成された二倍体品種で  
ある。

特性概要

1. 開花期は「サッポロ」より0~2日遅く、早生に属  
する。萌芽は「サッポロ」並かやや優れ、越冬性も並

かやや優れる。

2. 耐倒伏性は「サッポロ」並かやや弱く、再生程度は  
「サッポロ」並かやや旺盛である。

3. 病害抵抗性は、うどんこ病は「サッポロ」より強く、  
茎割病は「サッポロ」と同程度で強く、菌核病は「サッ  
ポロ」に比べ、北農試, 中央農試でやや多く、新得畜  
試ではやや少なかった。

4. 収量性は「サッポロ」に比べ多収で、特に2番草割  
合が高い傾向にある。

5. 永続性は「サッポロ」並、競合力も「サッポロ」並  
である。

栽培適地と奨励態度

北海道全域に適する。栽培利用上の注意は、採草で利  
用する。

試験場名	年間乾物収量 (kg/10a)				標準品種「サッポロ」比 (%)				試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計	1年目	2年目	3年目	合計	
北海道農試	549	1,157	772	2,478	99	123	120	116	1990~1992
中央農試	527	988	527	2,042	82	108	102	98	
天北農試	319	1,013	753	2,083	110	110	103	107	
滝川畜試	712	1,402	1,233	3,347	114	113	104	110	
新得畜試	507	1,059	748	2,314	97	108	98	102	
北兄農試	487	1,146	1,028	2,624	87	106	116	104	
根釧農試	298	1,196	1,134	2,628	98	107	97	102	
全道平均	486	1,137	885	2,502	98	111	106	106	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 35-40(1993)。

## 2. シロクローバ

(1) エспанソ (原名 エспанソ) 1988年

登録番号：(北海道) シロクローバ準輪第4号

**来歴** 本品種は、イタリアのExperimental Institute of Fodder Cropが、イタリアLodi地方の在来種の永年草地から得られた母材より循環選抜法により育成した。三井東圧化学株式会社が導入し、1985年から各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。

### 特性概要

1. 開花期は「カリフォルニアラジノ」と殆ど変わらない。ラジノ型で、小葉が大きく、花柄も長く、現在普及している品種の中で最も巨大型であるが、ほふく茎の密度は低い。
2. 越冬性は2年目に中央、天北で劣ったほかは「カリ

フォルニアラジノ」並で、早春の草勢は良好で再生力も旺盛である。

3. 菌核病には「カリフォルニアラジノ」よりやや弱いが、そばかす病にはやや強い。
4. 収量は単播・混播ともに「カリフォルニアラジノ」を上回り、多収である。
5. オーチャードグラスとの混播で、マメ科率は全般的に高いが、50%を大きく上回することは少なく、混播適性は良好である。
6. めん羊放牧条件下で、収量・マメ科率とも「カリフォルニアラジノ」より低下した。

### 栽培適地と奨励態度

北海道全域に適する。栽培上の注意は、採草用としてオーチャードグラスとの混播で利用する。

試験場名	品 種 名	草 丈 (cm)			乾 物 収 量 (kg/10 a)				同左比 (%)
		1985年	1986年	1987年	1985年	1986年	1987年	合 計	
北海道農試	エ ス パ ン ソ	28	41	31	356	928	579	1,863	110
	カリフォルニアラジノ	23	34	28	318	863	507	1,688	100
中央農試	エ ス パ ン ソ	-	-	-	546	805	1,083	2,434	108
	カリフォルニアラジノ	-	-	-	495	872	882	2,249	100
北見農試	エ ス パ ン ソ	-	-	-	366	794	631	1,791	115
	カリフォルニアラジノ	-	-	-	342	684	533	1,559	100
根釧農試	エ ス パ ン ソ	34	34	37	281	645	662	1,588	105
	カリフォルニアラジノ	30	29	32	287	602	618	1,507	100
天北農試	エ ス パ ン ソ	-	-	-	153	577	618	1,348	103
	カリフォルニアラジノ	-	-	-	158	593	555	1,306	100

注) 成績は単播試験成績で、試験場名の北海道は農林水産省北海道農業試験場である。

参照 1) 北海道農務部編、昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項、51-54(1988)。

(2) ソーニャ (原名 ソーニャ) 1988年

登録番号：(北海道) シロクローバ準輪第5号

**来歴** スウェーデンのWeibullsholm Plant Breeding Instituteが反復集団育種法により育成した品種である。母材としては1949年播種の試験圃から204個体を得て、草型・生産性などにより47個体を選抜し、1955年にこれらの相互受粉種子(F<sub>1</sub>)を得た。その後F<sub>2</sub>、F<sub>3</sub>、F<sub>4</sub>と草型や生産性並びに採種性などについて選抜が繰り返され、1963年に125選抜個体の相互受粉種子F<sub>5</sub>を得て育種を終えた。日本へは三井東圧化学株式会社が輸入し、1985年

から各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。

### 特性概要

1. 開花時期は「ミルカ」、「フィア」と殆ど変わらず、コモン型で、小葉の大きさは中くらいで、草丈は「ミルカ」、「フィア」より高く、ほふく茎の密度は高い。越冬性は「ミルカ」、「フィア」並かやや優れている。
2. 北見、根釧、新得でそばかす病が発生したが、罹病程度は「ミルカ」と同程度かやや少ない。
3. 収量は、単播・混播ともに「ミルカ」、「フィア」を上回り多収である。
4. オーチャードグラスとの混播で、マメ科率の変動は

少なく、混播適性は良好である。

5. めん羊放牧条件下で、収量・マメ科率とも「フィア」より高く推移したが、マメ科率が30%以上となることはほとんどなく、放牧適性も良好である。

**栽培適地と奨励態度**

北海道全域に適する。栽培上の注意は、放牧・採草用としてイネ科牧草との混播で利用する。

試験場名	品種名	草 丈 (cm)			乾 物 収 量 (kg/10 a)				同左比 (%)
		1985年	1986年	1987年	1985年	1986年	1987年	合 計	
北海道農試	ソ ー ニ ャ	17	26	26	264	750	482	1,496	112
	フ ィ ア	15	25	25	222	700	419	1,341	100
中央農試	ソ ー ニ ャ	-	-	-	329	900	803	2,032	123
	フ ィ ア	-	-	-	391	689	572	1,652	100
北見農試	ソ ー ニ ャ	-	-	-	290	627	533	1,450	109
	フ ィ ア	-	-	-	244	612	475	1,331	100
根釧農試	ソ ー ニ ャ	21	23	24	179	551	590	1,320	110
	フ ィ ア	17	20	21	184	474	540	1,198	100
天北農試	ソ ー ニ ャ	-	-	-	120	643	534	1,302	116
	フ ィ ア	-	-	-	117	599	405	1,121	100

注) 成績は単播試験成績で、試験場名の北海道は農林水産省北海道農業試験場である。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 54-57(1988)。

(3) マキバシロ (原名 マキバシロ) 1991年

登録番号: (北海道) クローバ類移合第6号

(農水省) シロクローバ農林合2号

**来歴** 本品種は、混播適性・永続性・種子生産性・放牧適性に優れる品種の育成を目標に選抜された8栄養系による合成品種である。1971年から1973年にかけて、海外導入品種60を散播条件で特性評価し、30品種を選抜した。1973年に、ここから1193個体を選抜、個体植えて特性を検討し108個体にしほり、さらに8栄養系を選抜した。1975年に合成第1代種子、1976年に合成第2代種子を採種した。1976年から1979年にかけて「東北9号」の系統名で系統適応性検定試験を行い、1980年「マキバシロ」の名前で農林登録された。道内では、1988年から北海道農業試験場他4場所で各種の試験が行われ、1991年に優良品種となった。

**特性概要**

1. コモン型の中の大型に属し、小葉は「ソーニャ」より大きく、草丈は高い。
2. 越冬性は北農試・新得・北見・根釧では「ソーニャ」並、天北ではやや劣り、耐寒性は「ソーニャ」と同等

で評価は中である。耐病性は、モザイク病とそばかす病については「ソーニャ」と明確な差はない。

3. マメ科とイネ科の合計収量は、天北・新得では「ソーニャ」並、北農試・北見・根釧では「マキバシロ」がやや多い。シロクローバ収量は天北・新得で「ソーニャ」並、北農試・北見・根釧では多収であった。乾物マメ科率は、1年目は「ソーニャ」より低いが、各場所とも2年目の途中から「ソーニャ」を上回り、マメ科冠部被度は、最初は「ソーニャ」並か低いが、3年目には「ソーニャ」を上回った。

4. オーチャードグラスとの混播では、3年目に入るとマメ科が抑圧される傾向にあるが、「マキバシロ」は「ソーニャ」に比べやや高い収量を示す。チモシーとの混播では、特に、根釧で3年目に入ってシロクローバの収量が高くなり、全体的にチモシーが抑圧されたが、「マキバシロ」は「ソーニャ」に比べてチモシーを抑圧する傾向が強かった。放牧条件下でも生育は良好で、放牧適性は良い。

**栽培適地と奨励態度**

北海道一円に適する。栽培上の注意は、イネ科牧草との混播で放牧利用する。



試験場名	試験区	1988年		1989年		1990年		3年間合計		試験年次
		収量	比 (%)	収量	比 (%)	収量	比 (%)	収量	比 (%)	
北海道農試	マキバシロ区	460	96	1,225	103	992	117	2,678	106	1988~1990
	ソーニャ区	481	100	1,194	100	846	100	2,521	100	
天北農試	マキバシロ区	448	95	770	95	743	113	1,959	101	1988~1990
	ソーニャ区	471	100	807	100	656	100	1,931	100	
根釧農試	マキバシロ区	138	118	557	105	613	103	1,308	105	1988~1990
	ソーニャ区	117	100	532	100	597	100	1,247	100	

注 1) 試験成績はマメ科・イネ科合計乾物収量(kg/10a)である。  
 2) 北海道農試と天北農試はオーチャードグラス, 根釧農試はチモシーとの混播である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 27-29(1991)。

### 3. アルファルファ

#### (1) マヤ (原名 Maya) 1990年

登録番号: (北海道) アルファルファ準輪合第7号

来歴 本品種は, フランスのDesprez Florimond社が育成した20系統からなる合成品種で, ホクレン農業協同組合連合会が導入し, 1987年から試験を行い, 1990年に優良品種となった。

#### 特性概要

1. パーティシリウム萎ちょう病に対して抵抗性であり, 開花は「ソア」, 「キタワカバ」より早く, 「リュテス」より遅い。
2. 萌芽期は「ソア」, 「リュテス」並で「キタワカバ」より遅く, 萌芽良否は「ソア」並で「リュテス」よりやや優れ, 「キタワカバ」より劣る。

3. 早春の草勢は「ソア」, 「リュテス」よりやや優れ, 「キタワカバ」よりやや劣る。越冬前の草勢は「ソア」より優れ「リュテス」よりやや劣り, 「キタワカバ」よりやや優れる。

4. そばかす病に対しては「ソア」, 「リュテス」, 「キタワカバ」よりやや高い抵抗性を示す。

5. 耐倒伏性は「ソア」, 「リュテス」, 「キタワカバ」より優れ, 草丈は「ソア」, 「リュテス」, 「キタワカバ」より高い。

6. 乾物収量は「ソア」よりやや高く, 「キタワカバ」並かやや低い。

#### 栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は, 採草利用を主体とする。

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
2年目 乾物収量	マヤ	98	105	100	100	103	100	93	1988
	リュテス	89	96	93	78	96	87	87	
	ソア	92	92	101	84	96	92	95	
	キタワカバ	1,024	1,505	1,018	662	1,210	825	1,337	
3年目 乾物収量	マヤ	102	106	80	93	88	92	93	1989
	リュテス	92	104	79	74	81	80	87	
	ソア	75	87	89	85	87	94	95	
	キタワカバ	1,330	1,382	864	676	1,333	1,041	1,423	

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
3カ年 合計 乾物収量	マヤ	100	106	93	96	95	96	92	1987~1989
	リュテス	91	100	87	78	91	84	83	
	ソア	85	92	97	84	93	94	96	
	キタワカバ	2,780	3,368	2,378	1,576	3,109	2,179	3,108	

注) 「キタワカバ」は実数(kg/10a)で、その他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 58-60(1990)。

(2) レーシス (原名 Resis) 1990年

登録番号: (北海道) アルファルファ準輪第8号

来歴 本品種はデンマークのA/SL, Daehnfeldtが、集団選抜法により育成した。ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1987年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. パーティシリウム萎ちょう病に対して抵抗性であり、開花は「ソア」より早く、「キタワカバ」よりやや早く「リュテス」より遅い。
2. 萌芽は「ソア」よりやや早く「リュテス」並で、「キタワカバ」よりやや遅い。萌芽の良否は「ソア」並で「リュテス」よりやや優れ、「キタワカバ」よりやや劣

る。

3. 早春の草勢は「ソア」、「リュテス」よりやや優れ、「キタワカバ」並である。越冬前草勢は「ソア」、「キタワカバ」より優れ、「リュテス」よりやや優れる。
4. そばかす病に対しては「ソア」よりやや高い抵抗性を示し、「リュテス」、「キタワカバ」並である。
5. 耐倒伏性は「ソア」、「キタワカバ」より優れ「リュテス」よりやや劣る。草丈は「ソア」、「リュテス」、「キタワカバ」より高い。
6. 3カ年合計乾物収量は「ソア」より高く、「キタワカバ」並かやや低い。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草利用を主体とする。

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
2年目 乾物収量	レーシス	111	96	106	93	102	102	99	1988
	リュテス	89	96	93	78	96	87	84	
	ソア	92	92	101	84	96	92	100	
	キタワカバ	1,024	1,505	1,018	662	1,210	825	1,337	
3年目 乾物収量	レーシス	103	103	88	92	89	91	88	1989
	リュテス	92	104	79	74	81	80	87	
	ソア	75	87	89	85	87	94	95	
	キタワカバ	1,330	1,382	864	676	1,333	1,041	1,423	
3カ年 合計 乾物収量	レーシス	106	100	97	92	99	97	94	1987~1989
	リュテス	91	100	87	78	91	84	83	
	ソア	85	92	97	84	93	94	96	
	キタワカバ	2,780	3,368	2,378	1,576	3,109	2,179	3,108	

注) 「キタワカバ」は実数(kg/10a)で、その他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 61-62(1990)。

(3) アロー (原名 Arrow) 1990年

登録番号：(北海道) アルファルファ準輸合第9号

**来歴** 本品種はアメリカのNickerson American Plant Breeders Inc.が育成した品種で、60栄養系からなる合成品種である。三井東圧化学株式会社が導入し1987年から試験を行い、1990年に優良品種となった。

**特性概要**

1. パーティシリウム萎ちょう病に対しては「リュテス」以上の抵抗性があり、開花は「ソア」、「キタワカバ」並で、「リュテス」より遅い。
2. 萌芽は「ソア」、「リュテス」よりやや遅く、「キタワカバ」より遅い。萌芽の良否は「ソア」並で、「リュテス」よりやや優れ「キタワカバ」より劣る。

3. 早春の草勢は「ソア」、「リュテス」並で、「キタワカバ」より劣る。越冬前の草勢は「ソア」より優れ、「リュテス」より劣り「キタワカバ」並である。
4. そばかす病には「ソア」よりやや高い抵抗性を示し、「キタワカバ」、「リュテス」並である。
5. 耐倒伏性は「ソア」、「キタワカバ」並で「リュテス」より劣る。草丈は「ソア」よりやや高く、「リュテス」よりやや低く、「キタワカバ」と大差がない。
6. 収量は「ソア」、「リュテス」より高く、「キタワカバ」並かやや低い。

**栽培適地と奨励態度**

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草利用を主体とする。耐倒伏性がやや弱いため刈り遅れがないように注意する。

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
2年目 乾物収量	アロー	105	95	101	84	96	111	96	1988
	リュテス	89	96	93	78	96	87	84	
	ソア	92	92	101	84	96	92	100	
	キタワカバ	1,025	1,505	1,018	662	1,210	825	1,337	
3年目 乾物収量	アロー	102	95	92	90	96	105	93	1989
	リュテス	92	104	79	74	81	80	87	
	ソア	75	87	89	85	87	94	95	
	キタワカバ	1,330	1,382	864	676	1,333	1,041	1,423	
3カ年 合計 乾物収量	アロー	103	95	97	87	98	108	92	1987~1989
	リュテス	91	100	87	78	91	84	83	
	ソア	85	92	97	84	93	94	96	
	キタワカバ	2,780	3,368	2,378	1,576	3,109	2,179	3,108	

注)「キタワカバ」は実収量 (kg/10a) で、その他は「キタワカバ」対比 (%) である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 63-64(1990)。

(4) 5444 (原名 5444) 1990年

登録番号：(北海道) アルファルファ準輸合第10号

**来歴** 本品種は、アメリカのPioneer Hi-Bred International Inc.が育成した品種で、12栄養系による合成品種である。ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1987年から試験を行い、1990年に優良品種となった。

**特性概要**

1. パーティシリウム萎ちょう病に対しては「リュテス」以上の抵抗性であり、開花は「ソア」、「キタワカバ」並で「リュテス」より遅い。

2. 萌芽期は「ソア」、「リュテス」並で「キタワカバ」より遅く、萌芽良否は「ソア」並で「リュテス」よりやや優れ、「キタワカバ」よりやや劣る。
3. 早春の草勢は「ソア」、「リュテス」並で、「キタワカバ」よりやや劣る。越冬前草勢は「ソア」「キタワカバ」より優れ、「リュテス」よりやや劣る。
4. そばかす病には「ソア」よりやや高い抵抗性を示し、「キタワカバ」、「リュテス」並である。
5. 耐倒伏性は「ソア」、「キタワカバ」よりやや優れるが、「リュテス」より劣る。草丈は「ソア」よりやや高く「リュテス」、「キタワカバ」と大差がない。
6. 収量は「ソア」、「リュテス」より高く、「キタワカバ」

並かやや低い。  
栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草利用を主体とする。

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
2年目 乾物収量	5 4 4 4	112	89	107	92	104	103	101	1988
	リュテス	89	96	93	78	96	87	84	
	ソア	92	92	101	84	96	92	100	
	キタワカバ	1,024	1,505	1,018	662	1,210	825	1,337	
3年目 乾物収量	5 4 4 4	105	105	99	85	96	91	100	1989
	リュテス	92	104	79	74	81	80	87	
	ソア	75	87	89	85	87	94	95	
	キタワカバ	1,330	1,382	864	676	1,333	1,041	1,423	
3カ年 合計 乾物収量	5 4 4 4	107	96	101	88	101	96	101	1987~1989
	リュテス	91	100	87	78	91	84	83	
	ソア	85	92	97	84	93	94	96	
	キタワカバ	2,780	3,368	2,378	1,576	3,109	2,179	3,108	

注)「キタワカバ」は実収量(kg/10a)で、その他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 65-66(1990)。

(5) ユーバー (原名 Euver) 1990年

登録番号: (北海道) アルファルファ準輪合第11号

来歴 本品種は、フランスのDesprez Florimond社が育成した品種で、「ヨーロッパ」由来の4栄養系からなる合成品種である。雪印種苗株式会社が導入し、1987年から試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. パーティシリウム萎ちょう病に対して抵抗性があり、開花期は「ソア」、「キタワカバ」より早く「リュテス」より遅い。
2. 萌芽期は「ソア」よりやや早く「リュテス」並で、「キタワカバ」より遅い。萌芽良否は「ソア」「リュテ

ス」よりやや優れ「キタワカバ」並である。

3. 早春の草勢は「ソア」、「リュテス」より優れ、「キタワカバ」よりやや劣る。越冬前草勢は「ソア」、「キタワカバ」より優れ「リュテス」並である。
  4. そばかす病には「ソア」よりやや高い抵抗性を示し、「リュテス」、「キタワカバ」並である。
  5. 耐倒伏性は「ソア」、「キタワカバ」より優れ「リュテス」並である。草丈は「ソア」、「リュテス」、「キタワカバ」より高い。
  6. 収量は「ソア」、「リュテス」より高く、「キタワカバ」並かやや低い。
- 栽培適地と奨励態度  
全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草利用を主体とする。

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
2年目 乾物収量	ユーバー	102	99	100	93	99	108	93	1988
	リュテス	89	96	93	78	96	87	84	
	ソア	92	92	101	84	96	92	100	
	キタワカバ	1,024	1,505	1,018	662	1,210	825	1,337	
3年目 乾物収量	ユーバー	96	104	91	100	86	103	91	1989
	リュテス	92	104	79	74	81	80	87	
	ソア	75	87	89	85	87	94	95	
	キタワカバ	1,330	1,382	864	676	1,333	1,041	1,423	

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
3カ年 合計 乾物収量	ユーパー	99	103	97	95	94	106	92	1987~1989
	リュテス	91	100	87	78	91	84	83	
	ソア	85	92	97	84	93	94	96	
	キタワカバ	2,780	3,368	2,378	1,576	3,109	2,179	3,108	

注) 「キタワカバ」は実収量(kg/10a)で、その他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 67-68(1990)。

(6) パータス (原名 Vertus) 1990年

登録番号: (北海道) アルファルファ準輪第12号

来歴 本品種はスウェーデンのW. Weibull AB社が、同社育成の品種「アルファ」を材料に集団育種法により育成した。雪印種苗株式会社が導入し、1987年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. パーティシリウム萎ちょう病に対しては「リュテス」以上の抵抗性であり、開花は「ソア」よりやや早く、「キタワカバ」並で「リュテス」より遅い。
2. 萌芽期は「ソア」よりやや早く、「リュテス」並で「キタワカバ」よりやや遅く、萌芽良否は「ソア」並で「リュテス」よりやや優れ、「キタワカバ」より劣る。

3. 早春の草勢は「ソア」、「リュテス」より優れ、「キタワカバ」並である。越冬前草勢は「ソア」「キタワカバ」より優れ、「リュテス」並である。
4. そばかす病には「ソア」よりやや高い抵抗性を示し、「リュテス」、「キタワカバ」並である。
5. 耐倒伏性は「ソア」、「キタワカバ」より優れ、「リュテス」よりやや劣る。草丈は「ソア」、「リュテス」より高く、「キタワカバ」よりやや高い。
6. 収量は「ソア」、「リュテス」より高く、「キタワカバ」並かやや低い。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草利用を主体とする。

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
2年目 乾物収量	パータス	97	101	99	97	106	113	91	1988
	リュテス	89	96	93	78	96	87	84	
	ソア	92	92	101	84	96	92	100	
	キタワカバ	1,024	1,505	1,018	662	1,210	825	1,337	
3年目 乾物収量	パータス	102	101	89	100	87	92	90	1989
	リュテス	92	104	79	74	81	80	87	
	ソア	75	87	89	85	87	94	95	
	キタワカバ	1,330	1,382	864	676	1,333	1,041	1,423	
3カ年 合計 乾物収量	パータス	99	103	96	95	96	103	90	1987~1989
	リュテス	91	100	87	78	91	84	83	
	ソア	85	92	97	84	93	94	96	
	キタワカバ	2,780	3,368	2,378	1,576	3,109	2,179	3,108	

注) 「キタワカバ」は実収量(kg/10a)で、その他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 69-70(1990)。

(7) マキワカバ (系統名 月系1号) 1994年

登録番号：(北海道) アルファルファ北海道合第  
4号 (農水省) アルファルファ農林合  
4号

来歴 本品種は、農林水産省北海道農業試験場が多収で、パーテイシリウム萎ちょう病抵抗性を有し、多雪地帯向き品種の育成を目標として、個体検定及び後代検定により選抜された8栄養系により構成される合成品種である。1990年から北海道5場所、本州4場所において各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 草丈は「キタワカバ」「5444」より高く、「パートス」と同程度である。「キタワカバ」より一茎重が大きく茎は太い。秋の草型は「キタワカバ」よりやや直立で、「パートス」より匍匐型である。
2. 開花始は「キタワカバ」より3日、「5444」より4日早い極早生である。花色は紫色に偏り、「5444」、「パートス」と同程度で、開花程度はやや多い。耐病性は、「キタワカバ」に比較するとそばかす病、いぼ斑点病

及び両者を含む葉枯性病害に強く、パーテイシリウム萎ちょう病抵抗性品種である。

3. 越冬性は「キタワカバ」並で、耐寒性は「キタワカバ」の中に対しやや強、耐雪性は「キタワカバ」の中ないし強に対し強である。萌芽期は「キタワカバ」とほぼ同じ時期で、萌芽の良否は「キタワカバ」並かやや良く、春・秋の草勢、再生は「キタワカバ」並か優れ、秋季休眠性は「キタワカバ」より弱く、「パートス」より強い。倒伏程度は「キタワカバ」「5444」より少なく、「パートス」よりやや多い。

4. 収量は、「キタワカバ」に比べて全道平均で113%と多収で、番草別の収量比は「キタワカバ」と同程度である。粗蛋白質含有率、乾物分解率は「キタワカバ」と差がなく、混播適性は「キタワカバ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

北海道の多雪地帯に適する。栽培上の注意は、根粒菌の着生促進、定着時の雑草抑制、適期刈取りなどアルファルファ栽培の基本に留意する。

試験場所	試験年次	マキワカバ	ヒサワカバ	キタワカバ	5444
北海道農試	1990~1993	112	97	4,004	89
	1993	106	99	1,437	93
天北農試	1990~1993	108	104	2,659	87
	1993	114	101	721	74
新得畜試	1990~1993	122	114	2,242	96
	1993	121	114	634	82

注) 成績は総乾物収量で「キタワカバ」は実収量(kg/10a)、他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 39-43(1994)。

(8) ヒサワカバ (系統名 月系4号) 1994年

登録番号：(北海道) アルファルファ北海道交第  
5号 (農水省) アルファルファ農林合  
5号

来歴 本品種は、農林水産省北海道農業試験場と北海道立根釧農業試験場が共同し多収で、パーテイシリウム萎ちょう病抵抗性を有し、少雪地帯向き品種の育成を目標に、個体検定及び母系生産力検定により選抜された4母系の組み合わせによる母系選抜法によって育成された。1990年から北海道5場所、本州2場所において各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 草丈は「キタワカバ」に比較すると、1番草では同等かやや高く、2・3番草でやや高い。茎数は少なく、一茎重は大きく、茎は太い。葉は長さ、幅とも大きく、草型はやや直立型である。
2. 開花始は「キタワカバ」に比較すると1日、「5444」より2日早い早生である。花色は紫色に偏り、開花程度は並である。耐病性は「キタワカバ」に比較すると、そばかす病、いぼ斑点病、両者を含む葉枯性病害に対しては明らかに強く、葉枯病にはやや強く、パーテイシリウム萎ちょう病抵抗性品種である。
4. 越冬性は「キタワカバ」より道東でやや優れ、耐寒

性は「キタワカバ」の中に対してやや強で、耐雪性「キタワカバ」並の強である。

5. 萌芽性は「キタワカバ」とほぼ同じ時期で、萌芽の良否は道東で優れ、春・秋の草勢、再生も道東で「キタワカバ」より優れる。秋季の休眠性は「キタワカバ」、「5444」より弱い「バータス」より強い。耐倒伏性は「キタワカバ」、「5444」より強く、「バータス」よりやや弱い。
6. 収量は「キタワカバ」に比べ全道平均で110%と多収で、特に少雪地帯で多収を示した。乾物率は全体に「キ

タワカバ」並である。

7. 粗蛋白含有率は「キタワカバ」並、乾物分解率はやや高く、混播適性は「キタワカバ」と同程度である。

**栽培適地と奨励態度**

北海道の少雪地帯に適する。栽培上の注意は、凍上の恐れのある地域ではイネ科牧草との混播とする。また、根粒菌の着生促進、定着時の雑草の抑制などにより初年目の生育の確保、適期の刈取りなどアルファルファ栽培の基本に留意する。

試験場所	試験年次	ヒサワカバ	マキワカバ	キタワカバ	5444
北海道農試	1990~1993	97	112	4,004	89
	1993	99	106	1,437	93
北見農試	1990~1993	114	111	3,321	99
	1993	118	106	890	88
根釧農試	1990~1993	119	112	2,328	118
	1993	111	102	837	90

注) 成績は総乾物収量で「キタワカバ」は実収量(kg/10a)、他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 43-47(1994)。

## 4. チモシー

- (1) アッケシ (系統名 北見16号) 1992年

登録番号: (北海道) チモシー北海道合7号

(農水省) チモシー農林合5号

(種苗法) 第4131号

**来歴** 本品種は、北海道立北見農業試験場において熟期が中生の早で、斑点病に抵抗性を示し、再生に優れる品種の育成を目標に、北見農業試験場育成6品種・系統及び「ホクレン改良種」多交配後代に由来する7親栄養系による合成品種法により育成された。1988年から「北見16号」の系統名で各種の試験を行い、1992年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 「ホクセン」に比較すると、1番草は草丈、稈長、穂長及び葉長が短く、葉幅が狭い。茎は細く、茎数、出穂茎割合が多い。草型は「ノサップ」並の直立型を示す。2番草は草丈が高く、茎数が多く、出穂・節間伸長茎割合が多い。
2. 出穂始は6月22日で「ホクセン」より2日早く、「ノサップ」に比較すると5日遅い中生の早である。斑点病に対して「ホクセン」「ホクシュ」「ノサップ」より

低い罹病程度を示し、すじ葉枯病黒さび病に対しては「ホクセン」よりやや高い罹病程度を示す。

3. 耐寒性は強、越冬性は「ホクセン」並で、萌芽後の生育は良好で、早春の草丈が高く、倒伏は「ホクセン」よりやや多く耐倒伏性はやや弱、1番草刈取り後の再生は初年目を除き「ホクセン」より良好で、永続性は「ホクセン」よりやや優れている。

4. 出穂始を考慮した収量は「ホクセン」よりやや多収で、2年目以降の乾物率は1.3番草が「ホクセン」並で、2番草は高く、アカクローバに対する競合力が優れている。

5. 放牧適性は「ホクセン」「ホクシュ」「ノサップ」と同程度で、飼料成分含有率はほぼ「ホクセン」と同程度である。

**栽培適地と奨励態度**

北海道に適する。栽培上の注意は、中生の早の品種として年間2回程度の採草利用を主体とするが、放牧にも利用出来る。アカクローバとの混播栽培における競合力は、「ホクセン」より優れているものの「ノサップ」ほど強くない。

試験場名	2～3年の合計乾物収量				試験年次
	アッケシ	ホクセン	ホクシュウ	ノッサブ	
根 釧 農 試	122	2,264	101	135	1989～1991
北 見 農 試	106	2,068	92	109	
新 得 畜 試	114	2,616	100	116	
天 北 農 試	107	2,265	93	108	
北海道農試	110	2,523	102	111	

注) 成績は「ホクセン」が実収量 (kg/10a) で他は「ホクセン」対比 (%) である。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-33(1992).  
 2) 古谷政道等, 北海道立農試集報, 64, 91-105(1992).

(2) キリタップ (系統名 北見18号) 1992年

登録番号: (北海道) チモシー北海道合第8号  
 (農水省) チモシー農林合6号  
 (種苗法) 第4132号

来歴 本品種は、北海道立北見農業試験場において熟期が中生の晩で、再生が良好で、競合力の優れる多収品種の育成を目標に、北見農業試験場育成4系統及び海外から導入した6品種・系統に由来する10親栄養系による合成品種法により育成された。1988年から「北見18号」の系統名で各種の試験を行い、1992年に優良品種となった。

特性概要

- 「ホクセン」に比較すると、1番草は草丈がやや低く、稈長も低い。茎は細く、茎数が多く、出穂茎数はやや少ない。草型は着葉角度が狭い直立型を示す。2番草は草丈がやや高く、茎数・節間伸長茎割合が多く、出穂茎割合がやや多い。葉色、茎色ともに「ホクセン」より淡い。
- 出穂始は6月27日で「ホクセン」に比較すると3日遅く、「ノッサブ」に比べ10日遅い中生の晩の品種である。斑点病に対して「ホクセン」「ホクシュ」よりやや低い罹病程度を示し、すじ葉枯病に対しては「ホクセ

ン」並かやや高い罹病程度を示す。

- 耐寒性は強、越冬性は「ホクセン」並で、萌芽や早春の生育は良好で、早春の草丈が高い。倒伏は「ホクセン」並で、耐倒伏性は中である。1番草刈り後再生は初年目を除き「ホクセン」より良好で、永続性は「ホクセン」よりやや優れている。
- 一斉刈りにおける利用2、3年目の北海道平均収量は「ホクセン」対比108%であり、出穂始の差を考慮した「キリタップ」の収量は「ホクセン」より多収である。2年目以降の乾物率は、各番草とも「ホクセン」並である。アカクローバとの混播における「キリタップ」とアカクローバ合計収量は、ほぼ「ホクセン」並であるが、イネ科牧草の割合は後期年次ほど高い。
- 放牧適性は「ホクセン」「ホクシュウ」「ノッサブ」と同程度、飼料成分含有率は「ホクセン」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

北海道に適する。栽培上の注意は、中生の晩の品種として年間2回程度の採草利用を主体とするが、放牧にも利用出来る。アカクローバとの混播栽培における競合力は、「ホクセン」より優れているものの「ノッサブ」ほど強くない。

試験場名	2～3年の合計乾物収量				試験年次
	キリタップ	ホクセン	ホクシュウ	ノッサブ	
根 釧 農 試	119	2,264	101	135	1989～1991
北 見 農 試	102	2,068	92	109	
新 得 畜 試	107	2,616	100	116	
天 北 農 試	110	2,265	93	108	
北海道農試	104	2,523	102	111	

注) 成績は「ホクセン」が実収量 (kg/10a) で、他は「ホクセン」対比 (%) である。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 34-36(1992).  
 2) 古谷政道等, 北海道立農試集報, 64, 75-89(1992).



(3) SB-T-8710 (原名 SB-T-8710) 1994年  
登録番号：(北海道)チモシー準北海道合第4号

来歴 本品種は雪印種苗株式会社において、道内及び海外導入16品種系統から選抜した7親栄養系による合成育種法により育成された。1991年より各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始と出穂期が「ノサップ」より2日遅い早生であり、1番草と2番草の出穂程度は「ノサップ」並である。
2. 越冬性は「ノサップ」並である。
3. 初期生育と早春及び晩秋の草勢は「ノサップ」並、

- 2番草と3番草の再生も「ノサップ」並である。
4. 斑点病及びびすじ葉枯病耐病性は「ノサップ」並で、耐倒伏性は「ノサップ」よりやや優れる。
5. 草丈は1番草、2番草及び3番草のいずれも「ノサップ」並である。
6. 年間合計乾物収量は「ノサップ」並であるが、2番草の乾物収量は「ノサップ」よりやや高く、3番草はやや低い。
7. 永続性は「ノサップ」並である。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草用として利用する。

試験場名	1991年		1992年		1993年		合計	
	SB-T-8710	ノサップ	SB-T-8710	ノサップ	SB-T-8710	ノサップ	SB-T-8710	ノサップ
根 釧 農 試	88	233	99	1,479	101	1,326	99	3,037
北 見 農 試	89	349	98	1,016	100	1,208	98	2,572
新 得 畜 試	101	326	95	1,037	100	963	98	2,326
天 北 農 試	103	287	106	1,214	103	987	105	2,488
滝 川 畜 試	103	214	99	1,676	99	1,510	99	3,400
中 央 農 試	130	186	98	1,471	101	1,145	101	2,801
全 平 均	100	266	99	1,316	101	1,190	100	2,771

注) 成績は乾物収量で「ノサップ」は実数 (kg/10a)、他は「ノサップ」対比 (%) である。

参照 1) 北海道農政部編、平成6年普及奨励ならびに指導参考事項、55-57(1994)。

(4) オーロラ (系統名 MT-1-85) 1994年  
登録番号：(北海道)チモシー準北海道交第5号

来歴 本品種は三井東圧化学株式会社が、道内及び海外導入12品種系統を母材とする91個体から集団選抜法により育成した。1991年から「MT-1-85」の系統名で農林水産省北海道農業試験場ほか道立6農畜試において試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始と出穂期が「ノサップ」より1日早い早生種で、1番草と2番草の出穂程度は「ノサップ」並である。
2. 越冬性は「ノサップ」並で、初期生育は「ノサップ」

- より優れ、早春と晩秋の草勢は「ノサップ」並である。
3. 斑点病及びびすじ葉枯病耐病性は「ノサップ」並である。
4. 耐倒伏性は「ノサップ」より優れる。
5. 1番草、2番草及び3番草の草丈は「ノサップ」並、年間合計乾物収量は「ノサップ」並であるが、2番草と3番草の乾物収量はやや低い。
6. 永続性及びアカクローバとの混播適性は「ノサップ」並である。

栽培適地と奨励態度

全道全域に適する。栽培利用上の注意は、採草用として利用する。

試験場名	1年目		2年目		3年目		3年間合計	
	オーロラ	ノサップ	オーロラ	ノサップ	オーロラ	ノサップ	オーロラ	ノサップ
北海道農試	-	-	102	1,238	99	841	-	-
中央農試	111	186	104	1,471	97	1,145	102	2,801
滝川畜試	129	214	99	1,676	91	1,510	97	3,400
天北農試	116	287	107	1,214	101	987	106	2,488
新得畜試	110	326	99	1,037	98	963	100	2,326
北見農試	103	349	96	1,016	99	1,208	98	2,572
根釧農試	143	233	91	1,479	98	1,326	98	3,037
平均	117	266	100	1,304	97	1,140	100	2,771

注 1) 試験年次は1991年～1993年である。

2) 成績は乾物収量で「ノサップ」は実数(kg/10a)、他は「ノサップ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 57-60(1994)。

(5) SB-T-8704 (原名 SB-T-8704) 1995年  
登録番号: (北海道) チモシー準北海道合第6号

来歴 本品種は雪印種苗株式会社が、国内育成や海外導入の8品種を供試し、個体選抜試験、栄養系評価試験を実施して6親栄養系を選抜し、合成品種法により育成した。1991年から道内6場所で試験を行い1995年に優良品種となった。

特性概要

1. 開花始と出穂期が「ホクセン」とほぼ同じ中生である。出穂程度は、播種年には「ホクセン」よりやや高く、播種後2年目以降の1番草は「ホクセン」並で、2番草は「ホクセン」より高い。

2. 越冬性は「ホクセン」並、初期生育と早春及び晩秋の草勢は「ホクセン」並で、2番草の再生は「ホクセン」よりやや良好である。

3. 斑点病の抵抗性は「ホクセン」並で、すじ葉枯病の抵抗性は「ホクセン」よりやや弱い。

4. 耐倒伏性は「ホクセン」並である。

5. 草丈は1番草、2番草ともに「ホクセン」並で、収量は「ホクセン」より多収で、特に2番草が多収であり、永続性は「ホクセン」並である。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草用として利用する。

試験場名	1年目		2年目		3年目		3年間合計	
	SB-T-8704	ホクセン	SB-T-8704	ホクセン	SB-T-8704	ホクセン	SB-T-8704	ホクセン
北海道農試	106	298	105	984	109	831	107	2,113
滝川畜試	106	503	108	1,254	105	1,255	106	3,016
天北農試	128	210	106	1,284	105	1,133	107	2,627
新得畜試	104	305	108	986	116	946	111	2,236
北見農試	116	242	106	963	119	810	113	2,014
根釧農試	107	177	119	1,118	109	1,132	114	2,427
平均	110	290	109	1,098	110	1,018	109	2,405

注 1) 試験年次は1991年～1994年である。

2) 成績は乾物収量で「ホクセン」は実数(kg/10a)、他は「ホクセン」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-31(1995)。

## 5. オーチャードグラス

(1) ワセミドリ (系統名 北海20号) 1987年

登録番号：(北海道) オーチャードグラス北海道  
合第6号 (農水省) オーチャードグラ  
ス農林合6号 (種苗法) 第1826号

**来歴** 本品種は農林水産省北海道農業試験場が、北海道及び本州中部以北 (高冷地) に適し、耐病性、越冬性に優れた早生品種の育成を目標に、北海道生態型集団、外国品種などに由来する8栄養系による合成品種法によって育成した。1983年から「北海20号」の系統名で試験を行い、1987年に優良品種となった。

### 特性概要

1. 出穂期は「キタミドリ」と同等かわずかに遅く、早生品種群に属する。
2. 乾物収量は「キタミドリ」と同程度かやや多収を示す。季節生産性は「キタミドリ」と大差ないが、やや1番草の比率が高い。
3. 越冬性は「キタミドリ」よりやや優れ、晩生の「オ

カミドリ」に近い越冬性を示す。

4. 耐病性は、すじ葉枯病、うどんこ病抵抗性には「キタミドリ」より優れ、その他の病害についても「キタミドリ」より優る抵抗性を示す。
5. 放牧適性は「キタミドリ」と同程度である。
6. 形態は「キタミドリ」やや大型で、1番草の草丈は「キタミドリ」より高く、葉幅、葉身長も「キタミドリ」より大きく、草型は「キタミドリ」よりやや直立型を示す。
7. 飼料成分は1番草の粗繊維含有率が「キタミドリ」よりやや高いが、その他の成分は同程度である。

### 栽培適地と奨励態度

北海道全域及び本州中部以北の高標高地に適する。栽培利用上の注意は、採草用及び採草・放牧兼用草地に適する。早生で春の草勢が良好なので、春の放牧開始時期を早くする。道東の土壤凍結地帯では年によっては冬枯れを起こす危険性があるので、晩夏の追肥などによって越冬性を向上させることが望ましい。

試験場名	ワセミドリ				キタミドリ				オカミドリ				試験年次
	1年目	2年目	3年目	4年目	1年目	2年目	3年目	4年目	1年目	2年目	3年目	4年目	
北海道農試	101	104	104	103	693	795	532	805	97	96	102	91	1983~1986
天北農試	93	107	101	100	551	1,023	984	881	86	101	101	97	
新得畜試	101	102	99	97	365	1,028	1,197	1,264	98	102	94	98	
北見農試	94	105	109	-	565	848	661	-	91	99	103	-	
根釧農試	91	103	109	-	207	800	539	-	86	97	132	-	
平均	96	104	104	100	476	899	783	98	392	99	106	95	

注) 成績は乾物収量で「キタミドリ」は実収量 (kg/10a), 他は「キタミドリ」対比 (%) である。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 66-69(1987)。

(2) ヘイキングII (系統名 SB-O-7801) 1987年

登録番号：(北海道) オーチャードグラス準北海道第8号

**来歴** 本品種は雪印種苗株式会社が、採草利用に適し耐病性、耐冬性、多収性の優れた晩生品種の育成を目標に、中生~晩生の4品種を育種材料として合成品種法によって育成した。1984年から各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。

### 特性概要

1. 出穂始は「オカミドリ」より約7日、「ヘイキング」より3日程度遅く、北海道の既存のいずれの品種より

も遅い極晩生種である。

2. 乾物収量は、「オカミドリ」より多収を示し、乾物率は「オカミドリ」と同程度である。
3. 耐病性は雲形病には強くないが、すじ葉枯病、黒さび病には「オカミドリ」より抵抗性を示す。
4. 越冬性は、「オカミドリ」と同程度かやや優り、既存の品種の中で最も越冬性が良好な「ケイ」と「オカミドリ」との間に位置する。
5. 1番草の出穂数は「オカミドリ」より少ない傾向である。
- 6.刈取り時の草丈は「オカミドリ」と同程度で、草型は「オカミドリ」より直立性を示す。

栽培適地と奨励態度

北海道全域に適する。栽培利用上の注意は、オーチャードグラス品種の中では越冬性が優れているがまだ十分と

はいえないので、道東の冬枯れの著しい地域では、初秋の追肥などにより越冬性の向上を図る。1番草の収量が高いので、採草利用に適する。

試験場名	ヘイキングII			オカミドリ			ヘイキング			ケイ			試験年次
	2年目	3年目	合計	2年目	3年目	合計	2年目	3年目	合計	2年目	3年目	合計	
北海道農試	97	106	101	865	637	1,502	91	88	90	96	103	99	1984~1986
中央農試	88	99	95	1,057	1,349	2,406	91	99	95	-	-	-	
滝川畜試	115	121	117	1,118	760	1,878	84	97	89	-	-	-	
新得畜試	113	110	112	1,153	1,354	2,507	-	-	-	94	100	97	
北見農試	98	105	101	1,027	864	1,891	-	-	-	101	110	105	
根釧農試	104	112	106	936	947	1,883	-	-	-	106	109	103	
天北農試	102	114	103	1,261	1,076	2,337	88	107	96	-	-	-	
平均	102	110	105	1,060	998	2,058	89	98	93	99	106	101	

注) 成績は乾物収量で「オカミドリ」は実収量(kg/10a), 他は「オカミドリ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 69-71(1987)。

(3) ホクト (系統名 帯広2号) 1987年

登録番号: (北海道) オーチャードグラス準北海道第9号

来歴 本品種はホクレン農業協同組合連合会が、冬枯れ抵抗性、耐病性に優れ多収な晩生品種の育成を目標に、冬枯れが大発生した十勝南部の8カ所の草地から残存個体を収集し、これらを育種母材として集団選抜法により育成した。1984年から「帯広2号」の系統名で道内7場所において試験を行い、1987年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂期は「オカミドリ」より2日程度遅く、「ヘイキング」とほぼ同時期で晩生に属する。
2. 乾物収量は「オカミドリ」と同程度で、季節生産性

や乾物率も「オカミドリ」とほぼ同じである。

3. 耐病性は、雪腐大粒菌核病、すじ葉枯病、雲形病、黒さび病とも「オカミドリ」と同程度の抵抗性を示し、うどんこ病にはやや弱い。
4. 越冬性は、道東地域では「オカミドリ」より優れており、「ケイ」と「オカミドリ」の間に位置する。
5. 草丈やその他の形質は「オカミドリ」と比べて大きな差はみられない。

栽培適地と奨励態度

北海道全域に適する。栽培利用上の注意は、栽培法は「オカミドリ」に準ずるが、早生品種と比べると秋の生長がやや劣るので、放牧利用では秋の放牧強度に注意する。道東の冬枯れの著しい地域では初秋の追肥などにより越冬性の向上を図る。

試験場名	ホクト			オカミドリ			ヘイキング			ケイ			試験年次
	1年目	2年目	3年目	1年目	2年目	3年目	1年目	2年目	3年目	1年目	2年目	3年目	
北海道農試	-	93	95	-	865	637	-	91	88	-	96	103	1984~1986
中央農試	-	102	99	-	1,057	1,349	-	91	99	-	-	-	
滝川畜試	-	100	108	-	1,118	760	-	84	97	-	-	-	
天北農試	98	101	103	513	1,257	943	97	88	107	-	-	-	
新得畜試	-	116	103	-	1,153	1,354	-	-	-	94	100	-	
北見農試	-	97	105	-	1,027	864	-	-	-	-	101	110	
根釧農試	94	107	110	541	936	947	-	-	-	87	106	109	
平均	96	102	103	527	1,059	979	97	89	98	87	99	106	

注) 成績は乾物収量で「オカミドリ」は実収量(kg/10a), 他は「オカミドリ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 71-74(1987)。

(4) グローラス (系統名 WWH-94) 1993年

登録番号：(北海道) オーチャードグラス準輪合  
第10号

**来歴** 本品種は、スウェーデンのWeibullsholm Plant Breeding Instituteが同社の育成品種「Dactus」からの個体選抜とロシアからの導入材料との交雑、選抜によって育成した。三井東圧化学株式会社が導入し、1990年から「WWH-94」の系統名で、北海道農試他道立5農試で試験を行い、1993年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 出穂始は「オカミドリ」より3～5日遅く、「ヘイキングII」より5～7日早い晩生品種に属する。
2. 越冬性は、現在流通品種の中で最も強いとされる「ケイ」よりも優れる。
3. 耐病性は、すじ葉枯病には「オカミドリ」より強く「ヘイキングII」並、黒さび病に対しては「オカミド

リ」並で「ヘイキングII」より弱く、雲形病については「オカミドリ」や「ヘイキングII」並である。

4. 収量性は、道東地域で冬枯れの発生が大きな年は「オカミドリ」や「ヘイキングII」より優れ、冬枯れの発生が軽微な年には「オカミドリ」や「ヘイキングII」に劣る。道央・道北地域では「オカミドリ」並かやや劣り、「ヘイキングII」並である。

5. 越冬前草勢は「オカミドリ」や「ヘイキングII」よりもやや劣り、秋の被度は良好である。

**栽培適地と奨励態度**

北海道全域に適し、特に道東の土壤凍結地帯での栽培が期待できる。栽培利用上の注意は、採草及び放牧に利用でき、越冬性は極めて優れているが、道東の冬枯れの著しい所では晩夏の追肥によって、越冬性を向上させることが望ましい。秋の生長は劣るので、放牧利用では秋季放牧強度に注意を要する。

試験場名	3年目乾物収量					3年間合計乾物収量					
	グローラス	オカミドリ	ヘイキングII	ホクト	ケイ	グローラス	オカミドリ	ヘイキングII	ホクト	ケイ	
北海道農試	98	891	101	101	-	99	2,291	101	102	-	
中央農試	94	1,208	90	91	-	92	3,032	92	90	-	
天北農試	100	904	95	100	-	97	2,433	93	99	-	
新得畜試	121	704	109	99	111	100	2,314	94	93	100	
北見農試	121	588	109	101	117	91	2,139	95	95	99	
根釧農試	113	707	109	101	114	95	2,320	98	98	101	
平均	道北・央	97	1,001	95	97	-	96	2,585	95	-	
	道東	118	666	109	100	114	95	2,258	96	95	100

注 1) 試験年次は1990年～1992年である。

2) 成績は「オカミドリ」は実収量 (kg/10a) 他は「オカミドリ」対比 (%) である。

3) 平均の「道北・央」は北海道農試、中央農試、天北農試、「道東」は新得畜試、北見農試、根釧農試の数字である。

参照 1) 北海道農政部編、平成5年普及奨励ならびに指導参考事項、38-40(1993)。

(5) トヨミドリ (系統名 北海25号) 1994年

登録番号：(北海道) オーチャードグラス北海道  
合第7号 (農水省) オーチャードグラ  
ス農林合7号

**来歴** 本品種は農林水産省北海道農業試験場が、北海道及び東北北部に適し、極晩生で耐病性、越冬性が優れる極晩生品種の育成を目標に、旧ソ連由来のUJNR導入系統、外国品種、育成系統、保存栄養系に由来する7栄養系による合成品種法によって育成した。1990年から「北海25号」の系統名で各種の試験を行い、1994年に優良品

種となった。

**特性概要**

1. 草丈は「ヘイキングII」や「オカミドリ」より各番草とも高く、茎数は「ヘイキングII」よりやや少なく、「オカミドリ」よりかなり少ない。

2. 出穂始は、中生品種の「オカミドリ」より全道平均で9日遅く、極晩生品種の「ヘイキングII」より2日早い極晩生群に属する。

3. 越冬性は「ケイ」に次ぐ強さで、「ヘイキングII」よりも強く「オカミドリ」より強い。

4. すじ葉枯病、黒さび病、雲形病抵抗性は「ヘイキン

- グII」並かやや強く、「オカミドリ」より強い。
- 5. 多刈適性は「ヘイキングII」並で「オカミドリ」より劣り、マメ科牧草との競合力は「ヘイキングII」や「オカミドリ」より強く、混播適性は優れている。
- 6. 乾物収量は、「ヘイキングII」より優れ「オカミドリ」と同程度で、番草別収量割合は、「ヘイキングII」並で「オカミドリ」に比べて1番草割合が高く、2・3番草割合は低い。永続性は「ヘイキングII」や「オカミドリ」より優れる。
- 7. 採食性は「オカミドリ」より優れ、植生密度はやや

- 粗であるが、植生推移はほぼ「オカミドリ」並である。
- 8. 乾物率は「ヘイキングII」、「オカミドリ」とほぼ同等で、1番草の乾物分解率は「ヘイキングII」「オカミドリ」に比べて低い。

**栽培適地と奨励態度**

北海道全域及び東北部に適する。栽培利用上の注意は、採草及び放牧に利用できる。越冬性は優れているが、道東の冬枯れの著しい所では晩夏の追肥によって越冬性を向上させることが望ましい。秋の生長は劣るので、放牧利用では秋季の放牧強度に注意を要する。

試験場名	トヨミドリ				ヘイキングII				オカミドリ				試験年次
	1年目	2年目	3年目	4年目	1年目	2年目	3年目	4年目	1年目	2年目	3年目	4年目	
北海道農試	116	100	104	115	448	972	898	738	111	93	99	121	1990～1993
天北農試	108	109	109	111	374	851	787	640	110	113	110	104	
新得畜試	110	104	101	111	406	1,010	758	782	130	107	93	102	
北見農試	111	88	103	117	445	943	639	663	115	109	92	117	
根釧農試	128	102	106	105	362	1,155	768	1,051	113	104	92	103	
平均	115	101	105	112	407	986	770	775	116	105	97	109	

注) 成績は乾物収量で「ヘイキングII」は実収量(kg/10a)、他は「ヘイキングII」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 47-51(1994)。

## 6. メドーフェスク

- (1) トモサカエ (系統名 北海6号) 1988年  
登録番号: (北海道) メドーフェスク北海道合第1号 (農水省) メドーフェスク農林合1号 (種苗法) 第2061号

**来歴** 本品種は農林水産省北海道農業試験場が、北海道及び本州中部以北(高冷地)に適し、永続性、越冬性、耐病性に優れた早生品種の育成を目標に、北海道生態型集団、保存栄養系多交配後代、育成系統、外国品種の選抜系統に由来する4栄養系による合成品種法によって育成した。1984年から各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。

**特性概要**

- 1. 熟期は早生に属し、出穂期は「ファースト」と同程度か1日程度遅い。
- 2. 乾物収量は「ファースト」よりやや多収で、季節生産性は道東では1番草、本州では2番草以降に多収の傾向を示す。
- 3. 越冬性は「ファースト」、「タミスト」より優れ、道東の土壤凍結地帯における耐寒性でも「タミスト」と

同程度で「ファースト」よりやや優れている。耐雪性は「タミスト」と同じく強にランクされ「ファースト」より優れている。

- 4. 網斑病抵抗性は「ファースト」、「タミスト」より優れている。
- 5. 再生力が優れているため各放牧時の現存量が多い。採食程度、採食面積率は「ファースト」と同程度であり、放牧適性も良好である。
- 6. シロクローバとの混播ではマメ科率を低く抑えるので、マメ科優占草地の危険性は「ファースト」「タミスト」より少ない。オーチャードグラス、チモシーとの混播では、メドーフェスク収量及び合計収量に占めるメドーフェスクの比率が「ファースト」、「タミスト」より高い。
- 7. 飼料成分は粗繊維含量が「ファースト」、「タミスト」より低く、粗蛋白質含量がやや高いなど、品質的にやや優る傾向が見られる。

**栽培適地と奨励態度**

北海道全域及び本州中部以北の高冷地に適する。栽培利用上の注意は、放牧用、採草用及び兼用草地の混播用

草種として、オーチャードグラス、チモシー、シロクローバなどの混播に適する。チモシーとの混播では、播種

割合に注意する。メドーフェスク主体の放牧用草地にも利用できる。

試験場名	トモサカエ			ファースト			タミスト		
	1年目	2年目	3年目	1年目	2年目	3年目	1年目	2年目	3年目
北海道農試	106	96	89	365	733	669	85	86	85
中央農試	-	100	99	-	958	1,238	-	91	98
天北農試	105	102	-	402	827	-	86	102	-
新得畜試	113	112	108	230	905	1,076	93	106	99
根釧農試	104	110	108	596	963	803	103	99	102

注 1) 試験年次は1984年～1987年である。

2) 成績は乾物収量で「ファースト」は実収量 (kg/10 a), 他は「ファースト」対比 (%)。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励並びに指導参考事項, 36-40(1988)。

(2) SB-M-8201 (原名 SB-M-8201) 1994年  
登録番号: (北海道) メドーフェスク準北海道合  
第6号

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社が「ファースト」1,000個体、北海道生態型2,000個体を材料に個体選抜、栄養系形評価、多交配後代検定を行い選抜した7栄養系による合成品種法によって育成した。1991年より道内7場所で試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始めは「トモサカエ」と同等か1日程度早く、早生品種に属する。

2. 越冬性は「トモサカエ」より優れる。
3. 耐病性は、網斑病に対しては「トモサカエ」より弱く、「タミスト」並である。冠さび病、黒さび病、縁枯病に対しては「トモサカエ」並かやや弱い。
4. 収量性は、3年間合計乾物収量が「トモサカエ」対比で全道平均112と多収を示し、「トモサカエ」より優れる。

栽培適地と奨励態度

北海道全域に適する。栽培上の注意は、採草及び放牧に利用できる。越冬性は優れているが、道東の冬枯れの著しいところでは晩夏の追肥など十分な冬枯れ予防対策をとることが望ましい。

年次	品種名	北海道農試	中央農試	滝川畜試	天北農試	新得畜試	北見農試	根釧農試	平均		
									全道	道央	道東・北
1年目	SB-M-8201	100	97	120	114	107	117	110	109	106	112
	トモサカエ	405	473	307	511	575	317	585	453	395	497
	タミスト	62	70	79	105	85	103	102	87	70	99
2年目	SB-M-8201	131	121	117	114	107	102	113	115	123	109
	トモサカエ	706	1,091	1,221	939	832	917	1,001	958	1,006	922
	タミスト	120	104	98	106	100	106	107	106	107	105
3年目	SB-M-8201	114	116	114	104	113	103	113	111	115	108
	トモサカエ	686	1,077	1,026	763	646	780	903	840	930	773
	タミスト	105	88	95	104	98	87	99	97	96	97
3年間	SB-M-8201	118	115	116	110	109	105	112	112	116	109
	トモサカエ	1,797	2,641	2,554	2,213	2,053	2,014	2,489	2,252	2,331	2,192
	タミスト	103	91	94	105	95	98	103	98	96	100

注 1) 試験年次は1991年～1993年である。

2) 成績は乾物収量で「トモサカエ」は実収量(kg/10 a), 他は「トモサカエ」対比(%)である。

3) 平均の「道央」は北海道農試, 中央農試, 滝川畜試の3場所, 「道東・北」は天北農試, 新得畜試, 北見農試, 根釧農試の4場所の数字である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 61-62(1994)。

(3) コマグリーン (系統名 MM-1-85) 1994年  
登録番号：(北海道)メドーフェスク準北海道第7号

**来歴** 本品種は、三井東圧化学株式会社が早生型、草勢、莖葉大で多葉性、耐病性、耐倒伏性、冬枯れ及び夏枯れ抵抗性を主な選抜形質として、海外より導入した12品種を育種素材に集団選抜法により育成した。1991年より道内各場所で試験を行い、1994年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 出穂始は「トモサカエ」より1日程度早く、早生品種に属する。

2. 越冬性は「トモサカエ」と同程度かやや優れる。
3. 耐病性は、網斑病に対しては「トモサカエ」よりやや弱く、「タミスト」並かやや強い。冠さび病、黒さび病、緑枯病に対しては「タミスト」並かやや弱い。
4. 収量性は、3箇年合計乾物収量が「トモサカエ」対比で全道平均104を示し、特に道東・道北では107と「トモサカエ」より優れる。

**栽培適地と奨励態度**

北海道全域に適する。栽培上の注意は、採草及び放牧用に利用できる。越冬性はやや優れているが、道東の冬枯れの著しいところでは晩夏の追肥など十分な冬枯れ予防対策をとることが望ましい。

年次	品 種 名	北海道農試	中 央農試	滝 川畜試	天 北農試	新 得畜試	北 見農試	根 釧農試	平 均		
									全 道	道 央	道東・北
1 年 目	コマグリーン	69	65	85	109	98	120	111	94	73	110
	トモサカエ	405	473	307	511	575	317	585	453	395	497
	タミスト	62	70	79	105	85	103	102	87	70	99
2 年 目	コマグリーン	122	105	103	115	95	112	111	109	110	108
	トモサカエ	706	1,091	1,221	939	832	917	1,001	958	1,006	922
	タミスト	120	104	98	106	100	106	107	106	107	105
3 年 目	コマグリーン	107	92	102	105	106	98	114	103	100	106
	トモサカエ	686	1,077	1,026	763	646	780	903	840	930	773
	タミスト	105	88	95	104	98	87	99	97	96	97
3 年 間	コマグリーン	104	93	101	110	99	108	112	104	99	107
	トモサカエ	1,797	2,641	2,554	2,213	2,053	2,014	2,489	2,252	2,331	2,192
	タミスト	103	91	94	105	95	98	103	98	96	100

- 注 1) 試験年次は1991年～1993年である。  
2) 成績は乾物収量で「トモサカエ」は実収量 (kg/10a)、他は「トモサカエ」対比 (%)。  
3) 平均の「道央」は北海道農試、中央農試、滝川畜試の3場所、「道東・北」は天北農試、新得畜試、北見農試、根釧農試の4場所の数字である。

参照 1) 北海道農政編、平成6年普及奨励ならびに指導参考事項、62-64(1994)。

## 7. スムーズブロームグラス

(1) アイカップ (系統名 北見1号) 1987年  
登録番号：(北海道)スムーズブロームグラス北海道合第1号(農水省)スムーズブロームグラス農林合1号(種苗法)第1827号

**来歴** 本品種は、北海道立北見農業試験場が北海道及び東北地方に適する多収で、褐斑病に強く、採種性に優れた品種の育成を目標に、13親榮養系による合成品種法により育成した品種で、1983年から「北見1号」の系統

名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 「アイカップ」の収量は概ね「サラトガ」並かやや高く、播種年からの収量推移では年数の経過に伴い「サラトガ」より収量が高くなる傾向を示す。季節別の生産性は北海道では「サラトガ」とほぼ同じである。乾物率は「サラトガ」に比較し1.2番草で約1.0%低い値を示した。
2. 北海道における出穂始は「サラトガ」と同じ6月7日で、出穂期は「サラトガ」よりやや早い6月14日で



- あり、「サラトガ」と同じ中生に属する。
3. 褐斑病及び立枯病に対して「サラトガ」よりやや低い罹病性を示し、雲形病に対しては「サガトラ」と同じく中程度の抵抗性を有する。
  4. 草型は「サラトガ」に比較してややほふく型である。出穂期における草丈は「サラトガ」とほぼ同じで、茎はやや細く、穂軸の節数がやや多い。また、「サラトガ」に比べ出穂茎が多い。
  5. 越冬性及び刈取り後の再生は「サラトガ」とほぼ同程度で栽培上問題はない。施肥反応はおおよそ「サラトガ」と同じであるが、施肥量が少ない場合は「サラトガ」よりやや収量が低い。アルファルファとの混播では「サラトガ」とほぼ同じ混生比を維持する。
  6. 放牧における草量、採食性及び放牧後の再生は「サラトガ」とほぼ同程度であるが、採食性ではチモシー

- の「クンプウ」にやや劣り、草量はオーチャードグラスの「オカミドリ」よりやや少ない。
7. 「サラトガ」とほぼ同程度の耐寒性を有しており、土壤凍結地帯における栽培に問題はない。
  8. 「サラトガ」に比較して粗繊維含量がやや高く、粗灰分含量がやや低いが、その差は小さい。その他の成分含量の差は極めて小さく、飼料成分は「サラトガ」とほぼ同じである。

**栽培適地と奨励態度**

北海道全域に適する。栽培利用上の注意は、採草利用を主体とする。施肥量が少ない場合生育がやや劣ることから、オーチャードグラス主体草地の北海道施肥標準を準用する。本草種は立枯病の発生が懸念されることから、当面、土壤乾燥地帯での栽培とする。

項目	試験場名	アイカップ	北見3号	北見6号	サラトガ	ビーコン	クンプウ	オカミドリ	年次
2年間 合計 乾物収量	根釧農試	133	99	89	1,420	-	135	-	1985-1986
	北見農試	91	93	92	1,831	95	99	84	
	新得畜試	114	85	84	1,832	-	126	-	
	天北農試	101	98	95	1,737	103	100	102	
	北海道農試	87	86	97	1,637	97	95	82	

注) 「サラトガ」は実収量 (kg/10a) で、その他は「サラトガ」対比 (%) である。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 62-65(1987).  
2) 下小路英男 等, 北海道立農試集報, 57, 35-48(1988).

## 8. ペレニアルライグラス

(1)ファントム (原名 Fantoom) 1992年  
登録番号: (北海道) ペレニアルライグラス準輪  
合第4号

来歴 本品種は、オランダの Mommersteeg International B.V. が10栄養系を基に合成品種法により育成した。ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1989年から道内4場所で試験を行い、1992年に優良品種となった。

**特性概要**

1. 出穂始は「リベール」に比べ同程度ないし3日遅い中生種である。
2. 越冬性は「リベール」に比べ優る。

3. 耐病性は「リベール」に比べ、網斑病は同程度であるが、雪腐小粒菌核病、冠さび病には強い。
4. 収量性は「リベール」並である。
5. 永続性は「リベール」並である。
6. 季節生産性は、「リベール」と比較すると3・4番草は高いが、年間乾物収量の時期別構成比は大差なく、秋の生産性は「リベール」並である。

**栽培適地と奨励態度**

道北・道央・道南の土壤凍結のない地帯に適する。栽培上の注意は、放牧利用とする。出穂すると採食性が劣るので、年間6～7回以上の短草利用する。

品 種 名	試 験 場 名	乾物収量	永 続 性 (収 量)		番 草 別 収 量 (2・3年計)		
		3年間計	2・3年計	3年目/2年目	1-2番	3-4番	5番
フ ェ ン ト ム	北海道農試	99	99	71	94	103	108
	中央農試	99	101	67	102	103	94
	滝川畜試	103	103	68	102	104	105
	天北農試	103	103	77	101	111	100
	平均	101	102	71	100	105	102
リ ベ ー ル	北海道農試	1,995	1,337	71	759	335	241
	中央農試	2,070	1,587	64	778	439	370
	滝川畜試	2,745	1,921	72	905	504	514
	天北農試	1,942	1,504	75	525	389	590
	平均	2,188	1,587	71	742	417	429

注 1) 試験年次は1989年～1991年である。

2) 「リベール」は実収量 (kg/10a) で、「ファントム」は「リベール」対比 (%) である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 45-47(1992)。

(2) トーブ (原名 Tove) 1992年

登録番号: (北海道) ペレニアルライグラス準輸  
第5号

来歴 本品種はデンマークのDanish Plant Breeding Ltd.において2倍体品種「Lenta」を材料として、生育型と収量について選抜を行い、選抜団体を倍数化して育成した4倍体品種である。三井東圧化学株式会社が導入し、1989年から道内4場所で試験を行い、1992年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始は「リベール」に比べて2～3日遅い中生種である。

2. 越冬性は「リベール」並である。

3. 耐病性は「リベール」に比べて、網斑病に強く、冠さび病にはやや強い。

4. 収量性は「リベール」に比べ多収である。

5. 永続性は「リベール」に比較して、2年目乾物収量に対する3年目収量が高く、優れている。

6. 季節生産性は、年間の乾物収量構成比では「リベール」と大差ないが、時期別乾物収量は5番草以降で高く、秋の生産性は優れている。

栽培適地と奨励態度

道北・道央・道南の土壤凍結のない地帯に適する。栽培利用上の注意は、放牧利用とする。出穂すると採食性が劣るので、年間6～7回以上の短草利用する。

品 種 名	試 験 場 名	乾物収量	永 続 性 (収 量)		番 草 別 収 量 (2・3年計)		
		3年間計	2・3年計	3年目/2年目	1-2番	3-4番	5番
ト ー ブ	北海道農試	99	103	74	100	104	110
	中央農試	105	104	71	104	98	112
	滝川畜試	106	108	71	112	105	104
	天北農試	107	106	79	100	111	109
	平均	104	105	74	104	105	109

品種名	試験場名	乾物収量	永続性(収量)		番草別収量(2・3年計)		
		3年間計	2・3年計	3年目/2年目	1-2番	3-4番	5番
リベール	北海道農試	1,995	1,337	71	759	335	241
	中央農試	2,070	1,587	64	778	439	370
	滝川畜試	2,745	1,921	72	905	504	514
	天北農試	1,942	1,504	75	525	389	590
	平均	2,188	1,587	71	742	417	429

注 1) 試験年次は1989年～1991年である。  
 2) 「リベール」は実収量 (kg/10a) で「トープ」は「リベール」対比 (%) である。

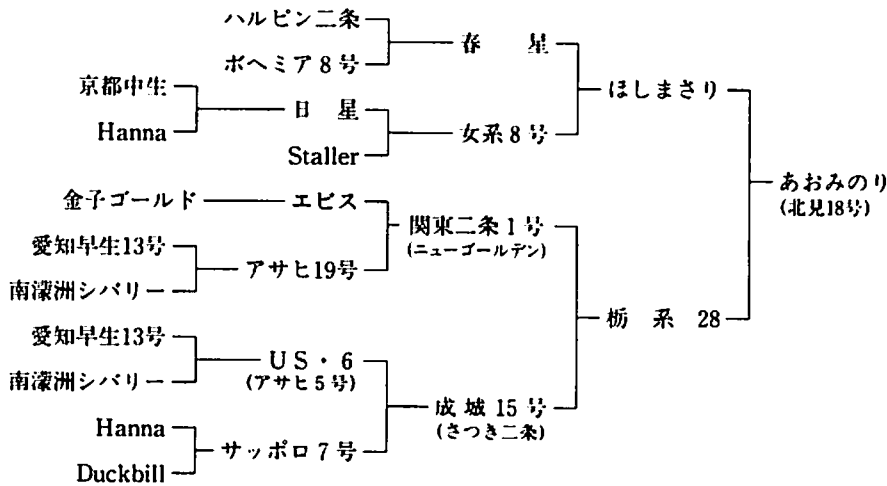
参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 47-49(1992)。

## 9. 飼料用大麦

(1) あおみのり (系統名 北見18号) 1987年  
 登録番号: (北海道) 大麦(飼) 北海道春第3号  
 (種苗法) 第1852号

来歴 本品種は、1973年に北海道立北見農業試験場において、多収の「ほしまさり」を母、短強稈で多収の「栃系28」を父として交配し、その雑種後代から育成された。

1977年より「北系5259」、1979年からは「北見18号」の系統名で各種の試験を行った。1980年から北海道立天北農業試験場において飼料用としての適否を検討し、さらに、1984年からは関係機関並びに現地で試験を行い、1987年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



### 特性概要

1. 株の形態は閉じており、葉色はやや濃く、稈長は「ほしまさり」より短い。穂長は「ほしまさり」よりやや長い。穂数はやや少なく、1穂粒数はやや多い。
2. 穂型は矢羽根型で、穂の抽出度は「ほしまさり」より少なく中程度である。穂には長芒があり、稈の色は淡黄である。
3. 粒型は中で、粒は大粒であり、千粒重は大きく、リットル重は「ほしまさり」とほぼ同等のやや大で、原麦粒の見かけの品質は中の上である。

4. 出穂期は「ほしまさり」とほぼ同じで、成熟期は「ほしまさり」より1日程度遅く、中生に属する。
5. 耐倒伏性は「ほしまさり」のやや弱に対して、やや強で明らかに強い。大麦雲形病抵抗性及び大麦網斑病抵抗性は「ほしまさり」よりやや弱い。
6. 成熟期における総重、子実重は「ほしまさり」よりやや多く、子実重歩合は「ほしまさり」より高い。
7. ホールクロップサイレージの調製時期は糊熟期が適期であるが、糊熟期ホールクロップの乾物収量は「ほしまさり」と同等で、種重歩合は「ほしまさり」より

高い。乾物中の粗蛋白質、粗脂肪、粗繊維、NFE、乾物消化率は「ほしまさり」とほぼ同等である。  
栽培適地と奨励態度  
北海道全域に適し、ホールクロップサイレージ用とし

て利用する。栽培上の注意は、播種法は当面各試験地の標準的な耕種法を準用する。従来の春播き大麦同様、早期播種を励行する。大麦網斑病にやや弱いので、種子消毒を徹底し、連作を避ける。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	糊熟期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	倒 伏 程 度	生草収量 (kg/a)	乾物収量 (kg/a)	対標準比 (%)	穂重歩合 (%)
天北農試	あおみのり	7.14	8.8	92	6.4	508	無	239	83.1	98	46.2
	ほしまさり	7.15	8.8	100	5.9	546	微	258	84.8	100	40.8
根釧農試	あおみのり	7.15	8.8	101	6.8	486	微	257	84.3	100	38.9
	ほしまさり	7.15	8.8	100	6.3	567	中	258	84.5	100	37.5
新得畜試	あおみのり	7.8	7.30	98	6.8	403	少	338	84.7	102	32.0
	ほしまさり	7.8	7.30	101	6.7	419	甚	328	83.4	100	30.0
滝川畜試	あおみのり	6.26	7.18	71	6.8	408	無	202	74.8	99	48.5
	ほしまさり	6.26	7.18	82	6.1	468	微	198	75.7	100	51.1

注 1) 成績は標準栽培の数値である。  
2) 試験年次：天北農試は1981年～1986年、他は1984年～1986年である。

参照 1) 北海道農務部編、昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項、49-56(1987)。

## 10. 飼料用ビート

(1) ソランカ (原名 ソランカ) 1989年  
登録番号：(北海道)飼料用ビート準輸第1号

来歴 本品種は、西ドイツKWS社が育成した遺伝的単胚品種である。タキイ種苗株式会社が導入し1986年から各種の試験を行い、1989年に優良品種となった。

### 特性概要

1. 葉姿はやや開平で、葉形はやや楕円形である。根体の色は地上部が淡黄緑色、地下部は白、肉色は白である。根長は「シュガーマンゴールド」に比べ短く、根周はやや大きい。根型は短紡錘型である。根部の露出歩合は「シュガーマンゴールド」と同程度である。
2. 根部の生収量は「シュガーマンゴールド」に比べやや劣るが、移植・直播とも乾物率が高く、根部の乾物

収量は「シュガーマンゴールド」並かやや優る。

3. 「シュガーマンゴールド」に比べ、根部における乾物中の粗灰分、粗繊維、粗蛋白質は少なく、可溶無窒素物は多い。茎葉部はほぼ同等で、根中糖分は高い。
4. 褐斑病に対しては「シュガーマンゴールド」よりやや弱く、根腐症状はやや多い。抽苔性は「シュガーマンゴールド」より優るが、やや弱い。貯蔵性は「シュガーマンゴールド」並である。

### 栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、褐斑病に弱いので、発生に注意する。根腐症状がやや多いので、多湿圃場での栽培は避ける。抽苔耐性がやや弱いので、移植栽培における育苗中の温度管理に留意する。また、長期育苗を避ける。

栽培法	試験場名	品 種 名	病 害		抽苔率 (%)	生 収 量 (kg/10 a)		乾 物 率 (%)		乾 物 収 量 (kg/10 a)			根 中 糖 分 (%)
			葉部 病害	根腐 症状 株率 (%)		茎	葉	根	茎	葉	根	左比(%)	
直	根釧農試	ソ ラ ン カ	1.0	9.4	0.8	4,517	3,934	11.5	15.2	509	598	97	11.09
		シュガーマンゴールド	0.7	3.0	4.8	4,112	5,097	11.3	12.1	452	617	100	8.74
		M . G . M	0.3	1.2	0.5	5,021	3,785	11.5	16.3	569	619	101	11.45
播	中央農試	ソ ラ ン カ	17.8	4.6	-	2,632	7,525	12.0	13.9	317	1,060	111	-
		シュガーマンゴールド	13.8	6.8	-	2,085	8,185	11.8	11.7	247	970	100	-
		M . G . M	13.3	4.0	-	3,021	7,165	11.4	14.9	346	1,074	112	-

栽培法	試験場名	品 種 名	病 害		抽苔率 (%)	生 収 量 (kg/10a)		乾 物 率 (%)		乾 物 収 量 (kg/10a)			根 中 糖 分 (%)
			葉 部 病 害	根腐症 状株率 (%)		茎 葉	根	茎 葉	根	茎 葉	根	左比(%)	
移	根釧農試	ソ ラ ン カ	1.1	3.0	7.0	4,094	6,440	12.1	15.9	497	1,026	110	11.48
		シュガーマンゴールド	0.8	0.0	16.2	3,479	6,900	12.0	13.6	415	934	100	9.42
		M . G . M	0.5	0.2	2.2	4,664	5,610	11.7	16.7	547	935	100	11.91
植	中央農試	ソ ラ ン カ	25.7	12.2	-	1,948	9,661	12.4	14.3	242	1,397	118	-
		シュガーマンゴールド	8.6	6.3	-	1,529	9,845	12.6	11.9	193	1,173	100	-
		M . G . M	7.2	6.3	-	2,922	8,572	11.3	15.4	322	1,327	113	-

注) 葉部病害は根釧農試は主に斑点病指数、中央農試は褐斑病発病株率 (%) である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 38-39(1989)。

(2) モノバール (原名 モノバール) 1990年

登録番号: (北海道) 飼料用ビート準輸第2号

来歴 本品種は、オランダのツワン・ピーテンB.V社が育成した三倍体の遺伝的単胚品種で、雪印種苗株式会社が導入し、1986年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. 葉姿はやや開平で、葉形はやや楕円形である。根体の色は地上部が淡黄緑色、地下部は白、肉色は白である。根長は「ソランカ」より長く、根周はやや小さい。根形はクサビ型である。根部の露出歩合は「ソランカ」と同程度である。

2. 根部の生収量は「ソランカ」より多く、乾物率がやや低いが、根部の乾物収量は「ソランカ」と同程度かやや優る。茎葉重は同程度である。
3. 粗蛋白質、粗脂肪、粗繊維、粗灰分、可溶無窒素物の乾物中の含有量は、茎葉部、根部とも「ソランカ」と比較して大差はない。根中糖分はやや低い。
4. 褐斑病に対しては「ソランカ」と同程度に弱く、根腐症状はやや少ない。
5. 抽苔耐性は「ソランカ」よりかなり強い。
6. 貯蔵性は「ソランカ」並である。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、褐斑病に弱いので連作をさける。

栽培法	試験場名	品 種 名	病 害		抽苔率 (%)	生 収 量 (kg/10a)		乾 物 率 (%)		乾 物 収 量 (kg/10a)			根 中 糖 分 (%)
			葉 部 病 害	根腐症 状株率 (%)		茎 葉	根	茎 葉	根	茎 葉	根	左比(%)	
直	根釧農試	モノバール	1.2	4.2	0.1	4,304	4,090	10.9	15.0	462	612	107	10.6
		ソ ラ ン カ	1.0	8.4	0.8	4,259	3,712	11.2	15.4	472	574	100	11.0
		シュガーマンゴールド	0.8	3.0	3.5	3,980	5,000	10.9	12.3	419	618	108	8.7
播	中央農試	モノバール	0.2	3.7	-	2,426	8,231	10.8	11.1	260	903	98	-
		ソ ラ ン カ	0.3	5.0	-	2,492	7,492	11.6	12.4	290	923	100	-
		シュガーマンゴールド	0	4.1	-	2,216	8,612	11.0	10.5	244	903	98	-
移	根釧農試	モノバール	1.0	4.0	0.4	4,096	6,517	12.2	15.1	495	987	103	11.0
		ソ ラ ン カ	1.0	7.4	7.3	3,782	6,041	12.3	15.9	467	957	100	11.4
		シュガーマンゴールド	0.7	1.0	15.8	4,179	6,902	12.4	13.5	390	928	97	8.9
植	中央農試	モノバール	0.3	9.3	-	2,523	10,165	10.5	11.7	265	1,184	104	-
		ソ ラ ン カ	0.3	7.8	-	2,527	9,009	10.8	12.7	276	1,137	100	-
		シュガーマンゴールド	0.2	2.9	-	2,144	9,578	11.1	11.5	238	998	88	-

注 1) 試験年次は根釧農試: 1986~1987年と1989年, 中央農試は1986年と1989年である。

2) 葉部病害は褐斑病指数, 但し根釧農試の1987年は斑点病指数である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 78-79(1990)。

# 北海道登録品種一覽

## I 普通作物

### I 水稲

注 1. 農林水産省登録品種には、\*印をつけた。  
 2. 系統名の側には、系統名、種苗台銀番号、原名をあてた。  
 3. 登録年の( )は、優良品種決定年である。

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 長
農 林 20 号*	北海 86号	水稲 北海道うるち 第1号	1971 (1941)	1975	上川支場	「農林1号」×「胆振 早稲」	早生、多収
栄 光	上育 B18号	水稲 北海道うるち 第2号	1971 (1942)	1974	上川支場	「鶴丸」×「早生富田」	多収、良質、良味
巴 ま さ り	渡育 120号	水稲 北海道うるち 第3号	1971 (1951)		渡島支場	「東北14号」×「北海 87号」	晩生、分けつ多く、多収、食味良
南 栄	渡育 129号	水稲 北海道うるち 第4号	1971 (1951)	1972	渡島支場	「巴錦」×「農林20号」	晩生、長稈、食味良、冷水抵抗性強
ユ ー カ ラ*	北海 182号	水稲 北海道うるち 第5号 水稲農林138号	1971 (1962)	1991	北海道農試	「関東53号」×「栄光」	初期生育旺盛、強稈、良質多収、多 肥栽培で増収、いもち病N菌に強
し お か り	上育 234号	水稲 北海道うるち 第6号	1971 (1963)	1985	上川支場	「目黒栄稻」×「共和」 F <sub>1</sub> ×「共和」	早生、登熟良、いもち耐病性中、耐 倒伏中、障害型耐冷性やや弱
ほ う り ゅ う	空育 24号	水稲 北海道うるち 第7号	1971 (1964)	1981	空知支場	「新栄」×「照錦」	中生、中肥で多収、食味・品質良好
う り ゅ う	空育 22号	水稲 北海道うるち 第8号	1971 (1965)	1983	中央農試	「石狩白毛」×「晚」	短稈、耐冷性・耐病性強、良質、中 生の早、初期生育不良
き よ か ぜ	上育 254号	水稲 北海道うるち 第9号	1971 (1965)	1986	上川農試	「新栄」×「水稲農林 15号」	極早生、良質、いもち耐病性弱、耐 倒伏性やや弱、障害型耐冷性やや強
ひ め ほ な み	空育 39号	水稲 北海道うるち 第10号	1971 (1966)	1974	中央農試	「空系26号」×「ヤチ ミノリ」	中生の晩、穂数型、いもち耐病性や や強、良質、多収、初期生育旺盛
ほ く せ つ	上育 265号	水稲 北海道うるち 第11号	1971 (1966)	1972	上川農試	「新栄」×「上育161 号」(大田早生×福 稻)	中生、登熟良、いもち耐病性中、耐 倒伏性やや強、障害型耐冷性極強
そ ら ち	空育 51号	水稲 北海道うるち 第12号	1971 (1967)	1982	中央農試	「空育12号」×「みま さり」	中生の中、安定多収
は や ゆ き	北育 33号	水稲 北海道うるち 第13号	1971 (1968)	1975	北見農試	「新栄」×「水稲農林 19号」	耐冷性極強、いもち耐病性弱
か ち ほ な み	十育 12号	水稲 北海道うるち 第14号	1971 (1968)	1982	十勝農試	「豊光」×「大雪」× 「上育161号」	中生、安定多収、倒伏し難い
な る か ぜ	上育 314号	水稲 北海道うるち 第15号	1971 (1970)	1979	上川農試	「北海182号」×「ささ ほなみ」	早生、良質、いもち耐病性中、耐倒 伏性中、障害型耐冷性やや強
マ ツ マ エ*	北海 222号	水稲 北海道うるち 第16号 水稲農林209号	1971 (1970)	1991	北海道農試	「ふ系51号」×「北海 183号」	晩生、偏穂数型、強稈、いもち耐病 性強、良質多収、食味やや良好
ゆ う な み	空育 87号	水稲 北海道うるち 第17号	1971	1980	中央農試	「ユウカラ×ささほ なみ」F <sub>1</sub> ×「ささほ なみ」	中生の早、短稈穂数型、いもち耐病 性やや強、障害型耐冷性中、耐倒伏 性やや強
イ シ カ リ*	道北 1号	水稲 北海道うるち 第18号 水稲農林217号	1971	1987	上川農試	「北海182号」×「空育 4号」	多収、良質、草姿良、いもち耐病性 強、耐倒伏性強、耐冷性やや強
ユ キ モ チ*	北海 125号	水稲 北海道もち 第19号 水稲農林 59号	1971 (1951)	1988	上川支場	「大田早生」×「福稻」	中生、中稈、穂数型、稀短芒、良質、 多収
か む い も ち	上育 266号	水稲 北海道もち 第20号	1971 (1965)	1985	上川農試	「新栄」×「上育161 号」	稲、早生、良質、いもち耐病性中、 耐倒伏性やや強、障害型耐冷性やや 強
工 藤 稻		水稲 北海道もち 第21号	1971 (1965)		道南農試	「南稻」×「多福稻」	中生の晩、中稈、穂重型、いもち耐 病性強
お ん ね も ち	北育 47号	水稲 北海道もち 第22号	1971 (1970)	1994	北見農試	「北海182号」×「上育 230号」	良質、「もち」良質、多収、耐冷性 やや強、いもち耐病性やや弱～弱
き た こ が ね	北育 51号	水稲 北海道うるち 第23号	1973	1982	北見農試	「北海 182号」×「上 育230号」	やや良質、耐冷性やや強、多収。い もち耐病性弱
さ ち ほ	空育 97号	水稲 北海道うるち 第24号	1974	1982	中央農試	「ささほなみ×空系 1号」F <sub>1</sub> ×「北海190 号」	良質、登熟早い、いもち病ほ場抵抗 性強、強稈性
キ タ ヒ カ リ*	北海 230号	水稲 北海道うるち 第25号 水稲農林236号	1975	1991	北海道農試	「しおかり」×「ユウ カラ」	中生、偏穂数型、良質、食味良好、 少肥瘦地栽培で少収、機械化栽培に 適する

草 型	茎		穂						玄 米			品 質	食 味	搗 精 歩 合	栽 培 適 地
	長短	強弱	長短	粒着 密度	稈色	稈先 色	芒の 有無	芒の 長短	形状	大小	色 沢				
中間型	長	や強	中	密	淡黄 白	赤褐	無	—	中	中	白	上の中	上	—	道北、道東北地方、これに準ずる山間地の中生種。道央の早生種
穂数型	や短	や強	中	や密	黄白	黄白	有	短少	中	中	白	上の中	上の中	—	道中央部
穂数型	や長	中	中	や密	黄白	赤	無	—	中	中	淡白	中の中	上	—	道南の温暖地帯、特に日本海沿岸
穂数型	や長	強	中	や密	黄白	赤褐	無	—	中	中	濃白	中の中	上	—	道南温暖地帯
穂数型	短	強	中	や疎	黄白	黄白	無	—	や長	や大	淡白	極良	良	—	道央部、これに準ずる肥沃地
偏穂数型	中	中	や短	や密	黄白	黄白	有	中の中	や円	や小	や白	中の上	良	—	上川、留萌および網走
穂数型	中	中	や長	や密	黄白	暗褐色	無	—	中	中	純白	良	良	89.0	石狩、空知、胆振、日高の「栄光」の栽培されている地帯
中間型	短	中	中～ や長	や密	黄白	黄白	無	—	中	中	鈍白	良	良	88.8	空知中央部、上川北部およびこれに準ずる地帯
中間型	中	や弱	中	や密	黄白	黄白	極稀	極短	中	中	や白	上の中	良	—	上川、留萌の北部および中央部の山間地帯、ならびにこれに類似の地帯
穂数型	短	中	短	密	黄白	黄白	無	—	や円	や小	鈍白	良	良	86.5	空知、石狩、上川の道央部および類似の地帯でとくにいちもち病発生地帯
穂数型	中	や強	短	中	黄白	黄白	有稀	稀短	中	中	や白	上の中	良	—	上川中南部、留萌南部、空知全域およびこれと類似の地帯
穂数型	や短	中	や長	中	黄白	黄白	無	—	中	中	鈍白	や良	—	—	中生種の作付されている道内各地帯、ならびに中晩生種地帯の冷水田
中間型	長	や弱	中	中	黄白	黄白	少	短	中	中	や白	中の中	—	—	網走の「農林20号」栽培地帯および十勝、上川北部、留萌北部の類似地帯
穂数型	や短	中～ や弱	短	や密	黄白	黄白	無	—	や円	や小	や良	中の上	—	93.0	十勝、網走の全域、上川北部ならびにこれに準ずる地帯
穂数型	や短	や強	中	中	黄白	黄白	無	—	中	中	や良	上の中	良	89.4	網走、十勝の良地帯、上川、留萌の山間部、道央部の早生地帯
偏穂数型	中	剛	長	中	黄白	淡褐色	有極 稀	極短	中	や大	淡白	良	や良	91.0	渡島半島南部良地帯
穂数型	短	や剛	や長	や密	黄白	黄白	無	—	中	中	鈍白	上の中	や良	91.0	空知、石狩の「ほうりゅう」の安全栽培良地帯、ならびに類似地帯
偏穂数型	短	剛	長	中	黄白	黄白	無	—	や長	や大	や白	上の中	良	90.5	上川、留萌のやや良～良地帯、空知、石狩、後志、檜山のやや良地帯
穂数型	中	や強	中	や密	黄白	黄白	有	稀短	中	中	白	上の中	良	—	道央部
偏穂数型	や短	や強	や短	中	黄白	黄白	や少	や短	中	中	白	上の中	良	—	上川中央部、留萌全域、空知北部
穂重型	中	剛	長	や密	黄白	黄白	無	—	中	小	白	や良	良	—	渡島、檜山南部、胆振沿岸地帯
穂数型	や短	や強	中	中	黄白	黄白	や少	短	中	中	白	中の上 ～上	良	—	網走、十勝および上川、留萌の北部で「はやもち」、「双豆種」の作付け地帯
偏穂数型	や短	や強	中	中	黄白	黄白	中	中	中	や大	白	上の中	中～ や良	—	網走、十勝の中生種が作付けされている地帯
偏穂数型	や短	強	中	や密	黄白	黄白	極稀	極短	良	や大	良	上の中	や良	89.0	空知、石狩、後志、胆振、日高、道南北部、上川南部の中生種地帯
偏穂数型	や短	や強	や長	中	黄白	黄白	無	—	中	中	淡白	良	良	90.0	留萌南部、上川中南部、道央部、道南北部の移植栽培、中央部良地帯の櫻桃移植栽培

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ともゆたか	空育 103号	水稲 北海道うるち 第26号	1977	1988	中央農試	「北海222号」×「道北1号」	中生の早、短稈穂数型、初期生育良好、多収、粒粒良好、割れ粉多
はやこがね	北育 64号	水稲 北海道うるち 第27号	1977	1991	北見農試	「北斗」×「上育272号」	良質、耐冷性強、いもち耐病性中～やや弱
しまひかり	渡育 214号	水稲 北海道うるち 第28号 第324号	1981	1994	道南農試	「コシホマレ」×「そらち」	晩生の早、良質・良食味、いもち耐病性やや強～強、障害型耐冷性やや弱
みちこがね	空育 110号	水稲 北海道うるち 第29号 第331号	1982	1991	中央農試	「空育99号」×「北海230号」	中生、良質、耐倒伏性強、障害型耐冷性やや強～強
ともひかり	空育 111号	水稲 北海道うるち 第30号 第591号	1983	1994	中央農試	(「北海230号」×「巴まさり」)F、×「空育99号」	良質、良食味、早熟性
キタアケ	道北 36号	水稲 北海道うるち 第31号 水稲農林268号 第594号	1983	1994	上川農試	「永系7361」×「道北5号」	早生の晩、耐冷性強、多収、大粒、良質、良食味
たんねもち	上育稲 381号	水稲 北海道もち 第32号 第593号	1983		上川農試	「道北22号」×「道北稲18号」	早生の晩、良質、強稈、多収
ゆきひかり	空育 114号	水稲 北海道うるち 第33号 第936号	1984		中央農試	(「北海230号」×「巴まさり」)F、×「空育99号」	良質、良食味、障害型耐冷性強、耐倒伏性中、登熟性やや劣る
空育125号	空育 125号	水稲 北海道うるち 第34号 第1796号	(1987)		中央農試	「空育109号」×「キタヒカリ」	早の晩、良質、良食味、いもち耐病性強、障害型耐冷性強、登熟性良、耐倒伏性がやや劣る
上育393号	上育 393号	水稲 北海道うるち 第35号 第1797号	(1987)		上川農試	「キタヒカリ」×「永系7659」	早の中、良質、良食味、障害型耐冷性強、耐倒伏性がやや劣る、登熟性やや劣る
上育394号	上育 394号	水稲 北海道うるち 第36号 第1798号	(1987)		上川農試	「渡育214号」×「道北36号」	晩の中、良食味、腹白が出やすい
はやまさり	上育 395号	水稲 北海道うるち 第37号 第2150号	(1988)		上川農試	「永系75169」×「永系76251」	早の早、苗立性やや良、直播栽培向、割粉やや多
さらら397	上育 397号	水稲 北海道うるち 第38号 第2151号	(1988)		上川農試	「渡育214号」(しまひかり)×「道北36号」	中の早、良食味、初期生育良、穂数確保が容易、耐倒伏性やや弱、登熟性やや劣る
はくちょうもち	北見稲 80号	水稲 北海道もち 第39号 第2449号	(1989)		北見農試	「上育稲381号」(たんねもち)×「おんねもち」	早の中、障害型耐冷性強、登熟性良、割粉や紅変米の発生少、収量やや劣る、いもち耐病性やや劣る
ハヤカゼ	道北 47号	水稲 北海道うるち 第40号 水稲農林303号 第2868号	(1990)		上川農試	「北育74号」×「道北36号」	早の早、良食味、登熟性良、乳白粒の発生がやや多い
ほのか224	渡育 224号	水稲 北海道うるち 第41号 第3046号	(1990)		道南農試	(「渡育214号」×「空育110号」)×「空育114号」	晩の早、良質、良食味、登熟性良、初期の分けつ性がやや劣る
彩	道北 52号	水稲 北海道うるち 第42号 水稲農林309号 第3283号	(1991)		上川農試	「永系84271」×「キタアケ」	中の晩、粘りが強く良食味、アミロース含有量が低く加工適性が優れる、いもち耐病性弱、やや少収、玄米品質がやや劣る
ゆさまる	空育 139号	水稲 北海道うるち 第43号 第4530号	(1993)		中央農試	「上育397号」×「空育125号」	早の中、良食味、出穂の変動が大きい、やや低収
きたいぶき	上育 413号	水稲 北海道うるち 第44号 水稲農林318号 第	(1993)		上川農試	「上育395号」×「上育397号」	早の早、苗立性良、直播栽培向、登熟がやや遅い、耐倒伏性がやや劣る
風の子もち	上育 417号	水稲 北海道うるち 第45号 水稲農林333号 第	(1995)		上川農試	「上系85201」×「北育稲80号」	中の早、良質、多収、耐冷性強、登熟日数が長い、いもち耐病性が不十分、初期分けつが劣る

## 2 大 麦

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
春 星	6 号	大麦 北海道春 第1号	1971 (1953)	1975	北見農試	「ハルビン2条」×「ポヘミヤ8号」	2角直立穂、子実は銀皮やや厚し、醸造用に適する
ほしまさり	副系 16号	大麦 北海道春 第2号	1972	1993	北見農試	「春星」×「女系8号」	大粒、良質で極めて多収、醸造用に適する
りょうふう	北育 19号	大麦 北海道春 第4号 第2154号	(1989)		北見農試	「新田2条1号」×「北育15号」	短稈、耐倒伏性強、現表粗蛋白質含量が低い、醸造品質が優れる、大麦網斑病にやや弱い



草型	茎		穂						玄米			品質	食味	揚歩合	栽培適地
	長短	強弱	長短	粒着密度	稃色	稃先色	芒の有無	芒の長短	形状	大小	色沢				
穂数型	短	や剛	や長	や密	黄白	黄白	極稀	極短	や長	や大	や濃白	上の中	や良	91.0	道央部、道南北部、上川・留萌の中南部の平地地
穂数型	短	中	短	中	黄白	黄白	極稀	極短	や円	中	淡白	上の中	中～や良	-	網走、十勝、上川北部、留萌中北部および類似の早生種の作付地帯
穂数型	中	や強	中	や密	黄白	黄白	無	-	中	や小	や淡白	上下	中上	90.3	渡島中南部、檜山南部
偏穂数型	や短	剛	中	や密	黄白	黄白	無	-	中	中	や淡白	上中	中下	90.5	石狩、空知、後志、胆振、日高および上川中央部の良地帯ならびに渡島、檜山北部
偏穂数型	や短	や剛	中	や密	黄白	黄白	無	-	中	中	や淡白	上中	中下	90.7	空知、石狩、後志、胆振、日高、上川、留萌および渡島、檜山北部
穂数型	短	や剛	短	中	黄白	黄白	稀	極短	中	や大	や淡白	上下	中下	90.7	上川、留萌、網走、十勝、空知、石狩、後志、胆振、日高および渡島、檜山の北部
偏穂数型	や短	剛	や長	や密	黄白	黄白	少	極短	中	中	白	上下上	上下	90.6	上川、留萌、網走、十勝、空知、石狩、後志、胆振、日高および檜山、渡島北部
偏穂数型	や短	や柔	中	や疎	黄白	黄白	中	短	中	中	や淡白	上中	中中	90.9	空知、石狩、後志、胆振、日高、渡島、檜山および上川と留萌の中南部
偏穂数型	中	や剛	や長	や密	黄褐	黄褐	稀短	短	中	中	や淡	上下上	中中	90.9	空知、石狩、胆振、日高、後志、上川(士別以南)、留萌中南部と渡島及び檜山北部
偏穂数型	や短	や剛	短	や密	黄白	黄白	無	-	や長	中	中	上中上	中下	90.8	上川、網走、十勝、留萌、空知、石狩、後志、胆振、日高支庁管内及び渡島、檜山北部
偏穂数型	や短	中	や短	密	黄白	黄白	無	-	や円	中	淡	中上上	中上	90.4	渡島南部、檜山南部及び西胆振
穂数型	短	や剛	や長	中	黄白	黄白	無	-	や長	中	中	上下上	中下	90.9	上川、空知支庁管内の良地帯
穂数型	や短	中	や長	中	黄白	黄白	稀	短	や長	や大	や淡	上中下	中上	90.8	石狩、空知、後志、日高、上川中南部、留萌中南部、檜山北部、渡島北部及びこれらに準ずる地帯
偏穂数型	中	や剛	中	中	黄白	黄白	少	極短	中	や少	白	上下	上下	90.8	網走、十勝、留萌北部、上川北部の全域、留萌中南部、上川中南部、空知、石狩、後志、檜山北部、渡島北部、の山間地帯及びこれらに準ずる地帯
穂数型	短	や剛	短	中	黄白	黄白	無	-	中	中	や淡	上下	中下	90.4	網走、上川北部及びこれらに準ずる地帯
偏穂数型	中	剛	や長	や疎	黄白	黄白	稀	短	や長	中	や淡	上中下	中上	90.7	渡島南部、檜山南部及びこれらに準ずる良地帯
穂数型	短	や柔	短	や疎	黄白	黄白	中	短	中	や大	や淡	上下	上下	90.6	空知北部の良地帯でいもち病発生が少なく「ユウカラ」の栽培実績のある地帯
穂数型	短	や剛	短	や疎	黄白	黄白	中	短	や長	中	や淡	上下上	中上	91.2	網走、上川、留萌、空知、石狩、後志、胆振、日高、渡島及び檜山の北部地帯
穂数型	短	中	短	中	黄白	黄白	稀	極短	や長	中	や淡	上下上	中中	90.7	上川(中南部)、留萌(中南部)、石狩、空知、後志、胆振、日高、渡島、檜山の各支庁管内の良地帯
偏穂数型	短	や剛	や長	中	黄白	黄白	少	短	中	中	白	上下上	上下	90.8	上川(士別以南)、空知、石狩、渡島各支庁管内及びこれらに準ずる良地帯

幼苗の色	穂の			芒の			子実の		耐倒伏性	栽培適地
	型	粒着密度	下垂度	有無	長短	色	大小	色		
濃緑	二条矢羽根型	や密	や垂	多	長	黄	大	黄白	や弱	全道の二条大麥を栽培している地域
濃緑	二条矢羽根型	や密	中	多	長	黄	大	黄白	や弱	全道の二条大麥を栽培している地域
やや濃	二条矢羽根型	や密	中	多	長	淡黄	やや大	黄白	や強	北海道の二条大麥(子実用)の作付地帯

### 3 裸麦

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
マリモハダカ	北海道春13号	裸麦 北海道春 第1号	1971 (1966)		北見農試	「サナグ麦」×「北統3号」	強稈、良質、耐病性强、多収、多条播適性大

### 4 ライ麦

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ベトクーザ		ライ麦 北海道輪 第1号	1971 (1939)		ドイツ	ドイツより輸入した種子を供試	長稈、多けつ、耐倒伏、良質、多収、耐寒性、赤さび病や赤かび病にやや弱い

### 5 小麦

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ハルヒカリ	北見春 2号	小麦 北海道春 第1号 小麦農林104号	1971 (1965)	1996	北見農試	「Mida」×「Pilot」×「春播小麦農林75号」	各種さび病に強く、品質はすこぶる良い
ハルミノリ	北見春 17号	小麦 北海道春 第2号 小麦農林111号	1971 (1969)	1981	北見農試	「硬質小麦農林42号」×「北育1号」	さび病以外の病害には比較的強く、安定多収である
ホクエイ	本系 331	小麦 北海道秋 第3号	1971 (1954)	1978	北見農試	「赤錆不知1号」×「東北67号」	耐寒、耐病性强く安定、粉質劣る、多収
改良伊達早生		小麦 北海道秋 第4号	1971 (1957)	1975	渡島支場	伊達町広瀬弘夫氏栽培の「伊達早生小麦」から選抜	極早生、短稈、耐倒伏耐病性强、間作に適する。耐冬性劣る
ムカコムギ	北見 11号	小麦 北海道秋 第5号 小麦農林108号	1971 (1968)	1984	北見農試	「Kanred」×「ナンコムギ」×「北成9号」	黒目粒発生少、原粒性状・小麦粉性状ともにすぐれ、やや多収
イービス	(IBIS)	小麦 北海道秋 第6号	1971 (1970)	1987	北見農試	オランダより導入	晩生、耐倒伏性極強、耐冬性弱、アミロ粘度高い
ホロシリコムギ	北見 23号	小麦 北海道秋 第7号 小麦農林114号	1974		北見農試	「北系8」×「北海240号」	短強稈、耐倒伏性强、稈重型、多収、多肥密植で増収
タクネコムギ	北見 30号	小麦 北海道秋 第8号 小麦農林115号	1974		北見農試	「東北118号」×「北系221」	早生、短稈、耐倒伏性强、粒の外見品質良、アミロ粘度高い
チホクコムギ	北見 42号	小麦 北海道秋 第9号 小麦農林126号	1981		北見農試	「北見18号」×「北見19号」×「北系320」	良質、多収
ハルユタカ	北見春 47号	小麦 北海道春 第10号 小麦農林130号	1985		北見農試	「(Siete Cerros × Pal. 1)」×「Tob-8156(R) × ハルヒカリ」	短強稈、多収
タイセツコムギ	北見 61号	小麦北海道秋 第11号 小麦農林136号 第3107号	(1990)		北見農試	「北系920」×「北見42号」	めんの色相が良、製面適性優れる。耐雪性やや優れる、多収、耐倒伏性やや劣る、赤かび病抵抗性やや弱
春のあけぼの	北見春第53号	小麦北海道春 第12号 小麦農林139号 第4417号	(1993)		北見農試	「北見春31号×北見春30号」×「北見春34号」	耐倒伏性强、製パン適性、外観品質が優れる、収量やや劣る、うどんこ病抵抗性やや劣る
ホクシン	北見 66号	小麦北海道秋 第13号 小麦農林142号	(1994)		北見農試	「北見35号」×「北見42号」	耐雪性强、赤さび病抵抗性强、耐倒伏性强、製パン適性優れる、やや早生、黒目粒が少ない

### 6 えん麦

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
前 進	(原名) オンワード	えん麦 北海道輪 第1号	1971 (1942)		北海道農試	-	早熟、草丈やや低く、強稈、穂は長く中間型過熟になると穂首から折れ易い、稈率は高く、多収
ホ ナ ミ	「本系68号」	えん麦 北海道 第2号 えん麦農林2号	1971 (1959)	1987	北海道農試	「黒実」×「ピクトリー1号」	草丈低く強稈、稈率は「前進」より少ない
オホーツク	北海 1号	えん麦 北海道 第3号 えん麦農林3号	1971 (1966)		北海道農試	「ホナミ」×「前進」	やや晩生、散穂、強稈、耐倒伏性强
モ イ ワ	北海 7号	えん麦 北海道 第4号 えん麦農林4号	1973	1987	北海道農試	「S84 × Milford」×「前進」	散穂、やや早生、やや短稈、多収良質

穂の		芒の			子実の		耐倒伏性	栽培適地
型	粒着密度	有無	長短	色	大小	色		
6条 (4角)	疎	多	長	黄	中	飽	強	網走, 上川

稈の強弱	穂型	芒の		粒の		製粉歩合 (%)	越冬歩合 (%)	栽培適地
		長短	多少	大小	色			
強	短大	長	多	大	灰青緑	91.4	92.0	全道一円に適する

稈性	株の開閉	穂の		芒の		稈色	粒の			粒質	製粉性	耐病性		耐倒伏性	栽培適地
		型	粒着密度	有無	多少		色	形	大小			色	赤さび病		
	閉	錐	中	長多	白	白	長	大	赤褐	硝子	や良	や強	中	中	全道栽培可能, 稈質小麦としての特性 上主に網走, 上川
	中	錐	中	長多	白	白	長	大	赤褐	硝子	中	中	中~ や強	中	網走, 上川およびこれに準ずる地域
中間	閉	紡錐	中	無	-	褐	短	大	赤	中間	-	強	中	中	十勝, 網走支庁管内の肥沃地
直立	閉	紡錐	中	無	-	黄白	中	大	赤	中間	-	や強	-	強	道南地方の限定
中間	閉	錐	や粗	短頂 芒		褐	中	大	赤	中間	や良	や強	中	中	道南の極旱生地帯を除く全道, とくに 網走・十勝
匍匐	閉	棒	密	無		白	短	大	赤	粉状 ~中間	や良	中	や強	極強	斜里郡, 網走郡(美幌, 津別を除く)網走 市南網走, その他冬枯少地帯
直立	閉	棒	密	無		白	短	大	赤	中間	中	中	中	強	道南の極旱生地帯除き全道, とくに肥 沃地
中間	や開	錐	中	無		褐	短	大	赤	硝子	中	中	中	や強	旱生品種として全道, とくに道央以南
直立	閉	棍棒	密	無	-	白	や円	や大	黄褐	粉状	良	極強	や弱	強	十勝, 網走管内
	閉	錐	や密	多	黄	黄	中	や大	赤褐	硝子	良	強	強	強	全道の春播小麦栽培地帯
直立	閉	棒状	密	無	-	淡黄	中	や大	黄褐	粉状	良	極強	や強	や強	道央・道北の上川支庁管内の雪腐病の 危険が比較的少ない地帯
	閉	紡錐状	や密	多長	黄	黄	中	大	赤褐	硝子	良	強	や強	強	道央中部・北部及び道北地域
直立	閉	棒状	密	無	-	淡黄	中	や大	黄褐	粉状	良	強	や強	強	全道

幼苗の			稈		芒の有無 長短	穂		粒		耐倒伏性	栽培適地
姿勢	葉色	葉幅	細太	剛柔		型	粒着密度	大小	色		
直立	や濃緑	中	や太	強	多長	中間	密	中	淡灰	強	全道一円
直立	濃緑	中	中	強	少中	散穂	密	中	淡黄白	強	さび病多発地帯を除く, 全道一円
直立	濃緑	中	中	剛	中長	散穂	密	中	淡黄	強	宗谷, 留萌, 根釧のほか道内の倒伏頻 発地帯
直立	緑	中	中	中	無	散穂	や密	中	淡黄	中	全道

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
アキユタカ*	北海 21号	えん麦 北海道 第5号 えん麦農林5号	1980		北海道農試	「カータースラスタ」×「ニュートン」	初期伸長性がすぐれ、秋播緑肥用として生草及び乾草収量多い
ヒダカ*	北海 47号	えん麦北海道 第6号 えん麦農林7号 第3106号	(1990)		北海道農試	「本系776号×Flamande」 (F.)×「本系434号× Sang」(F.)	中生、多収、耐倒伏性強、冠さび病 抵抗性弱
アキワセ*	北海 44号	えん麦北海道 第7号 えん麦農林6号 第2334号	(1990)		北海道農試	「本系989号」× 「Paramo」	極早生、多収、耐倒伏性強、冠さび 病弱、牧草との同伴適性が優れる

## 7 どうもろこし

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ゴールドクロス パンダム*	ゴールドク ロスパンダム	どうもろこし(普) 北海道 第1号	1971 (1956)		米 国 (北海道農試)	「P39」×「P51B」	中生の晩、生食加工用、極良質
イエロースイート	札交 5207	どうもろこし(普) 北海道 第2号	1971 (1959)	1975	北海道立農試	「(C13×C30)」×(セル ポア)	早生、生食用、良質
タナバタワセ	札交 5322	どうもろこし(普) 北海道 第3号	1971 (1959)	1975	北海道立農試	「黄早生」×「C13」	極早生、生食用
ゴールド ビューティ*	ゴールド ビューティ	どうもろこし(普) 北海道 第4号	1971 (1963)		米 国 (北海道農試)	「C13」×「Ma21547」	極早生、生食加工用
ホワイ トワキシー	マンモス ホワイト ワキシー	どうもろこし(普) 北海道 第5号	1971 (1966)	1975	北海道立農試	「(C339×マンモス ホワイト デントコーン)」×「マン モス ホワイト デントコーン」	加工用、精糧
複 交 4 号	W275	どうもろこし(飼) 北海道 第6号	1971 (1957)	1975	北海道立農試	「(W 9 × WM 13 R)」×「(W 49 × WH)」	早生、デント子実用、多収
交 4 号*	月交 193号	どうもろこし(飼) 北海道 第7号	1971 (1957)	1978	北海道農試	「(N 21 × N 19)」× 「T6」	早生、フロント子実用、初期生育良
交 6 号*	月交 431号	どうもろこし(飼) 北海道 第8号	1971 (1962)	1986	北海道農試	「(D403×D405)」× 「(T102×T107)」	中生、セミデント、耐倒伏性
ジャイ アント	本交 3304	どうもろこし(飼) 北海道 第9号	1971 (1962)	1978	北海道農試	「(WF 9 - T × W 22)」×「青森エ ロー デント」	晩生、デント、採播易
交 8 号*	長交 347号	どうもろこし(飼) 北海道 第10号	1971 (1968)	1979	長 野 (十勝農試)	「岩手エ ロー デ ント」×「W531- 「(455×466)」	晩生、初期生育良
ハイ ゲンワセ*	道交 16号	どうもろこし(飼) 北海道 第11号 どうもろこし農林交15号	1973		十 勝 農 試	「(N 19 × CM 7)」× 「(W41A×W79A)」	早生、強稈、機械化向
ホク ユウ*	北交 22号	どうもろこし(飼) 北海道 第12号 どうもろこし農林交16号	1974	1986	北海道農試	「(N 85 × N 21)」× 「(T23×T24)」	初期生育、登熟良
ピリ カスイート	十生 7号	どうもろこし(普) 北海道 第13号 どうもろこし農林交19号	1975		十 勝 農 試	「V574」×「Ma21547」	早生、缶詰加工用
北 併 3 号	HLC145	どうもろこし(普) 北海道 第14号	1976		北海道製 KK (十勝農試)	「Me 123」×「Ma 21547」	早生、穂型良、缶詰冷凍用
ワセ ホマレ*	道交 S1号	どうもろこし(飼) 北海道 第15号 どうもろこし農林交21号	1978		十 勝 農 試	「(N 19 × To 15)」× 「CM37×CMV3」	早生、初期生育良、強稈
ウイ スコ ンシン 573	W573	どうもろこし(飼) 単輪交 第1号	1971	1986	米 国 (中央農試)		晩生、デント、強稈
ハイ オニア 3620	P3620	どうもろこし(飼) 単輪交 第2号	1971	1975	米 国 (中央農試)		晩生、強稈
エ ロー デ ン ト コ ー ン	本第 1951号	どうもろこし(飼) 単輪交 第3号	1971 (1923)	1975	北海道農 事試		晩生、デント
マン モス ホ ウ イ ト デ ン ト コ ー ン	本第 2520号	どうもろこし(飼) 単輪交 第4号	1971 (1923)	1975	北海道農 事試		極晩生、デント、未成熟
P 3 7 1 5		どうもろこし(飼) 単輪交 第5号	1974	1986	米 国 (北海道農試)		晩生、耐倒伏性
J X 1 8 8		どうもろこし(飼) 単輪交 第6号	1976	1986	米 国 (北海道農試)		晩生、耐倒伏性
C 5 3 5		どうもろこし(飼) 単輪交 第7号	1976	1992	オランダ (北海道農試)		早生
P 3 3 9 0		どうもろこし(飼) 単輪交 第8号	1976	1986	米 国 (北海道農試)		晩生、耐倒伏性

幼苗の			稈		芒の有無 長 短	穂		粒		耐倒 伏性	栽培適地
姿勢	葉色	葉幅	細太	剛柔		型	粒着 密度	大小	色		
直立	緑	中	中	中	少中	散	中	中	淡黄白	中	秋季の緑肥用, 全道一円
直立	濃緑	中	太	中	極少短	散穂	密	中	淡黄	強	全道一円
直立	濃緑	狭	細	中	極少中	散穂	中	中	淡黄	強	全道一円

初期 生育	分けつ の多少	稈の 長 短	耐倒伏性	着穂高	粒の粗類	粒 色	絹糸色		栽培適地
							苞皮外	苞皮内	
中	多	中	弱	中	S	黄	無	無	道中央, 道南
中	多	短	弱	低	S	黄	紅	紅	ゴールドンクロスバンタム栽培地帯
良	中	極短	中	低	F.S混	黄	淡紅	無	都市近郊の早出し生食用
や良	微	極短	中	低	S	黄	淡紅	無	全道
-	-	長	中	高	WX	白	-	-	道央, 道南
や不良	無	中	中	中	D	黄	-	-	早生, 道東道北の「坂下」に代る子実用デント
良	多	中	弱	中	F	橙黄	-	-	道東, 道北部における子実用として「坂下」におきかえる
中	微	中	強	高	F.D	橙黄			道央以南子実用, 道東北サイレージ用
中	無	長	弱	高	D	黄			全道の「エローデントコーン」におきかえる
良	無	長	弱	高	D	黄			十勝, 網走サイレージ用
中	微	短	強	中	F.D	黄			十勝, 網走, 上川北部, サイレージ用
良	多	中	弱	や高	F	黄褐			十勝, 網走, 釧路, サイレージ用
中	少	極短	弱	低	S	黄	無	無	全道
中	中	極短	弱	低	S	黄	無	無	全道
良	微	短	強	や低	F.D	黄			道東北, サイレージ用
や不良	無	や長	や強	や高	D	黄			道央・十勝, サイレージ用
や不良	無	長	や強	中	D	黄			十勝, サイレージ用
-	微	長	中	高	D	黄			北部, 東部の冷涼地を除く道内一円
-	無	長	弱	高	D	白			道央以南
や不良	無	長	強	高	D	黄			道央・道南, サイレージ用
や不良	無	長	や強	高	D	黄			道南, サイレージ用
中	無	短	中	中	F.D	黄			十勝・網走・根釧内陸, サイレージ用
や不良	無	長	や強	高	D	黄			道南, サイレージ用

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
P 3 5 7 5		とうもろこし(飼) 単輪交 第9号	1976	1986	米 国 (北海道農試)		晩生, 耐倒伏性
J X 1 6 2		とうもろこし(飼) 単輪交 第10号	1977	1986	アメリ カ Jacques Seed社	単交雑	晩生, デント
リ ザ	Liza	とうもろこし(飼) 単輪交 第11号	1981	1994	フ ラ ン ス Pioneer社	三系交雑	早生, セミデント
ワ セ ミ ノ リ	SH-250	とうもろこし(飼) 単輪交 第12号	1982	1990	フ ラ ン ス ノースラップキン グ種子会社	三系交雑	早生, セミデント
ニ ュ ー デ ン ト 85日	SH-10	とうもろこし(飼) 単輪交 第13号	1982	1990	フ ラ ン ス ノースラップキン グ種子会社	単交雑	早生, セミデント
ブ ル ー タ ス	MTC-1	とうもろこし(飼) 単輪交 第14号	1982	1993	フ ラ ン ス ニッカーソン社 UCOPAC	三系交雑	早生, セミデント
パ ッ フ ァ ロ ー	SH-145	とうもろこし(飼) 単輪交 第15号	1982	1990	アメリ カ PAGSeed社	単交雑	中生, デント, 耐倒伏性
ダ イ ヘ イ ゲ ン *	北海道交 S 4号	とうもろこし(飼) 北海道交 第16号 とうもろこし農林交21号	1983		十 勝 農 試	複交雑	早生, セミデント, 初期生育良
R X 4 2	RX42	とうもろこし(飼) 単輪交 第16号	1983		アメリ カ アスグロ 種子会社	単交雑	中生, デント
J X 9 2	JX92	とうもろこし(飼) 単輪交 第17号	1983	1988	アメリ カ Jacques Seed社	単交雑	中生, デント
デ ン ト ン	MTC-1C	とうもろこし(飼) 単輪交 第18号	1984	1993	アメリ カ North American Plant Breeders社	単交雑	中生, デント, 耐倒伏性
P 3 9 0 6	P3906	とうもろこし(飼) 単輪交 第19号	1984		アメリ カ Pioneer 種子会社	単交雑	中生, デント, 多収
ヒ ノ デ ワ セ *	道交 S 8号	とうもろこし(飼) 北海道交 第17号 とうもろこし農林交25号	1985		十 勝 農 試	複交雑	早生, セミデント, 耐倒伏性
P 3 7 3 2	P3732	とうもろこし(飼) 単輪交 第20号	1985		アメリ カ Pioneer 種子会社	単交雑	中生, デント, 耐倒伏性
ロ イ ヤ ル デ ン ト 85	LG5	とうもろこし(飼) 単輪交 第21号	1985	1995	フ ラ ン ス リマグラン社	複交雑	早生, セミデント
エ マ	PH1201	とうもろこし(飼) 単輪交 第22号	1986		フ ラ ン ス Pioneer	単交雑	早生, セミデント
デ イ ア	PH2202	とうもろこし(飼) 単輪交 第23号	1986		フ ラ ン ス Pioneer	単交雑	早生, セミデント, 多収
ソ ロ 100 H	TH211A	とうもろこし(飼) 単輪交 第24号	1986	1993	西 ド イ ツ K W S 社	単交雑	中生, セミデント
P 3 7 4 7	PH3201	とうもろこし(飼) 単輪交 第25号	1986		アメリ カ Pioneer	単交雑	中生, デント, 多収, 耐倒伏性
メ ロ デ ィ ス ト *	十生 13号	とうもろこし(飼) 北海道交 第18号 とうもろこし農林交28号 第222号	(1987)		十 勝 農 試	「G61D」×「Tos2」	中生の早, 耐倒伏性, 缶詰加工用
ド リ ー ナ	PH2301	とうもろこし(飼) 単輪交 第26号	(1987)		アメリ カ バイオニア社	三系交配	早生, デント, 初期生育やや劣る, すず紋病抵抗性弱
J X 4 7	SH3097	とうもろこし(飼) 単輪交 第27号	(1987)	1991	アメリ カ Jacques Seed社	単交配	中生の晩, デント
コ ス タ ル	コ ス タ ル	とうもろこし(飼) 単輪交 第28号	(1987)	1991	アメリ カ アスグロシード社	三系交配	晩生の早, デント, 耐倒伏性
キ タ ユ ク カ *	北交 42号	とうもろこし(飼) 北海道交 第19号 とうもろこし農林交29号	(1988)		北 海 道 農 試	「W 182 Eht」× 「Pa70-5」×「CM91× 914-2」	中生, デント
3 7 9 0	PH3305	とうもろこし(飼) 単輪交 第29号	(1988)		アメリ カ バイオニア社	単交配	中生の中, デント, 耐倒伏性
O'S Gold 2570	O'S Gold2570	とうもろこし(飼) 単輪交 第30号	(1988)	1996	アメリ カ アスグロシード社	三系交配	晩生の晩, デント, すず紋病・ごま 葉枯病抵抗性
ロ イ ヤ ル デ ン ト 105T	T1200	とうもろこし(飼) 単輪交 第31号	(1988)	1993	アメリ カ トロージャン社	単交配	晩生の中, デント
ロ イ ヤ ル デ ン ト リ ン グ	TH82082	とうもろこし(飼) 単輪交 第32号	(1988)		アメリ カ トップファーム社	単交配	中生の早, デント, 耐倒伏性
バ リ ア ン ト	OS104	とうもろこし(飼) 単輪交 第33号	(1988)	1991	カ ナ ダ オセコ社	単交配	中生の中, デント, 耐倒伏性

初期生育	分けつの多少	稈の長短	耐倒伏性	着穂高	粒の種類	粒色	相糸色		栽培適地
							苞皮外	苞皮内	
や不良	無	長	や強	高	D	黄			道南, サイレージ用
や不良	無	長	中	高	D	黄			道央・道南, サイレージ用
中	無	や短	中	中	F.D	黄	桃	緑	十勝, 網走, 根釧・道北の内陸
や不良	無	短	や弱	中	F.D	黄	桃	緑	道北, 根釧, サイレージ用
中	無	や短	中	中	F.D	黄	桃	緑	道北でC535の栽培地帯
や不良	無	や短	中	中	F.D	黄	桃	緑	十勝・網走, 根釧・道北の内陸
中	無	や長	強	や高	D	黄	緑	緑	十勝・網走の内陸, 道央北部
良	微	中	や強	中	F.D	黄	緑	緑	道東・道北・道央北部でC535の栽培地帯
中	無	や長	中	高	D	黄	緑	緑	十勝中部・道央北部
中	無	や長	中	高	D	黄			道央, 十勝中央
中	無	や長	や強	や高	D	黄	桃	緑	道央(北部を除く), 道南
中	無	や長	や強	や高	D	黄	緑	緑	道央地域(北部を除く)
良	微	短	や強	や低	F.D	黄	緑	緑	道東・道北で早生品種の登熟が不十分な地帯
中	無	や長	強	高	D	黄	桃	緑	道央・道内地域
中	無	短	や強	中	F.D	黄	桃	緑	道北・網走・根釧の内陸, 十勝中央部周辺
良	無	短	や強	中	F.D	黄	緑	緑	道北・根釧地域
中	無	中	や強	中	F.D	黄	蛙	緑	十勝・網走の気象条件の良い地帯・道央北部
や不良	無	や長	中	や高	F.D	黄	緑	緑	道央地域
や不良	無	や長	や強	や高	D	黄	桃	緑	道央・道南地域
中	少	中	強	低	S	濃黄	白	白	十勝中部, 道央中部及び北部, 網走内陸部
中		短	中	や高	D	黄			十勝, 網走, 道北(山麓, 沿海除く), 道央北部, 釧路内陸部
中		中	強	中	D	黄			道央, 道南
中		長	強	高	D	黄			道央(北部を除く), 道南
や良		中	や強	や高	D	黄			道央, 道南
中		や長	強	高	D	黄			道央, 道南
や不良		長	や強	高	D	黄			道央(北部を除く), 道南
良		長	中	高	D	黄			道央(北部を除く), 道南
中		長	強	高	D	黄			十勝中部, 道央北部
中		長	強	や高	D	黄			十勝中部, 網走内陸部, 道央北部

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ヘイゲンミノリ	道交 S10号	とうもろこし(飼) 北海道交 第20号 とうもろこし農林交30号 第2338号	(1989)		十勝農試	「66C5-4×To15」× 「CM91×CM174」	早生の晩, セミデント, 初期生育良, 耐倒伏性, 多収
キタアサヒ	北交 43号	とうもろこし(飼) 北海道交 第21号 とうもろこし農林交31号 第2875号	(1989)		北海道農試	「914-2×CM174」× 「Ho3×Ho4」	中生の早, セミデント, 初期生育良, 耐倒伏性
ANJOU09	ANJOU09	とうもろこし(飼) 単輪 第34号	(1989)		フランス リマگران社	三系交配	早生の中, デント
ロイヤルデント コメット 80	LG2080	とうもろこし(飼) 単輪 第35号	(1989)		フランス リマگران社	三系交配	早生の早, デント
R X 4 2 0	H802238	とうもろこし(飼) 単輪 第36号	(1989)		アメリカ アズグロ社 シード社	複交配	中生の晩, デント
リビア	LIVIA	とうもろこし(飼) 単輪 第37号	(1990)		フランス バイオニア社	三系交配	早生の中, セミデント
3 5 4 0	VALERIA	とうもろこし(飼) 単輪 第38号	(1990)		アメリカ バイオニア社	単交配	晩生の中, デント
デューク	HS 11号	とうもろこし(飼) 単輪 第39号	(1991)		アメリカ アズグロ社 シード社	単交配	晩生の早, すず紋病抵抗性, 耐倒伏 性
A W 6 1	AW611	とうもろこし(飼) 単輪 第40号	(1991)		フランス アズグロ社 シード社	単交配	早生の晩, セミデント
D K 4 6 4	EXP-646	とうもろこし(飼) 単輪 第41号	(1991)		アメリカ デカルブ プラントジェネ ティックス社	単交配	中生の晩, デント
D K 5 3 5	EXP-654	とうもろこし(飼) 単輪 第42号	(1991)		アメリカ デカルブ プラントジェネ ティックス社	単交配	晩生の中, デント
カーギル123	SX123	とうもろこし(飼) 単輪 第43号	(1992)		アメリカ カーギルインコー ポレテッド社	単交配	中生の早, デント
3 8 9 7	XCD78	とうもろこし(飼) 単輪 第44号	(1992)		アメリカ バイオニア社	単交配	中生の早, デント
スイート メモリー	十生 24号	とうもろこし(飼) 北海道交 第22号 とうもろこし農林交32号 第4589号	(1993)		十勝農試	「87:13」×「Tos12」	中生の中, 缶詰加工用
セリア	XCPD76	とうもろこし(飼) 単輪 第45号	(1993)		フランス バイオニア社	単交配	早生の晩, デント
コラリス	コラリス	とうもろこし(飼) 単輪 第46号	(1993)		フランス コーブ・ド・ボー	三系交配	早生の中, セミデント
3 4 7 7	3477	とうもろこし(飼) 単輪 第47号	(1993)		アメリカ カーギルインコー ポレテッド社	単交配	中生の中, デント
マーキス	HS 14号	とうもろこし(播) 単輪 第48号	(1994)		アメリカ アズグロ社 シード社	単交配	早生の中, 缶詰加工用, すず紋病抵 抗性
ライサ	X9033	とうもろこし(飼) 単輪 第49号	(1994)		フランス バイオニア社	単交配	中生の中, デント
3 8 4 5	3845	とうもろこし(飼) 単輪 第50号	(1994)		アメリカ バイオニア社	単交配	中生の晩, デント
ゴールドデント D K 300	DK300	とうもろこし(飼) 単輪 第51号	(1994)		アメリカ デカルブ プラントジェネ ティックス社	単交配	中生の早, セミデント, 多収
サマースイート	十生 26号	とうもろこし(播) 北海道交 第23号 とうもろこし農林交36号	(1995)		十勝農試	「Tos10」×「87:14」	早生の早, 缶詰加工用
スイートエール	十生 27号	とうもろこし(播) 北海道交 第24号 とうもろこし農林交37号	(1995)		十勝農試	「86:206」×「Tos14」	早生の中, 缶詰加工用
ロイヤルデント 90H	TH8913	とうもろこし(飼) 単輪 第52号	(1995)		アメリカ アグリゼネ ティックス社	単交配	中生の早, セミデント

## 8 大豆

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
吉岡大粒	本 第2065号	大豆 北海道 第1号	1971 (1914)	1981	北海道 農事試	品種比較	枝豆用, 食味佳良, 扁球, 大粒, 黄 緑色粒, 餅黒色
中生光爪	本 第2065号	大豆 北海道 第2号	1971 (1933)		十勝支場	品種比較	中生の晩, 煮豆用, 食味佳良, 淡褐 毛, 白花, 大粒, 黒色粒, 多収



初期生育	分けつの多少	稈の長短	耐倒伏性	着穂高	粒の種類	粒色	絹糸色		栽培適地
							苞皮外	苞皮内	
や良		中	強	中	F.D	黄			十勝中部, 網走内陸部, 道央北部
や良		中	強	中	F.D	黄			十勝中部, 網走内陸部, 道央北部
中		短	や強	や低	D	黄			根釧内陸, 道北, 十勝山麓・沿海地帯
中		や短	中	や低	D	黄			根釧, 道北, 十勝山麓・沿海地帯
や不良		長	強	高	D	黄			道央地域
中		短	中	や高	F.D	黄			道北の気象条件の良い所, 十勝中部, 網走内陸部
良		長	強	高	D	黄			道央(北部を除く), 道南地域
中		や長	強	や高	S	黄			道央, 十勝中部
中		中	や強	中	F.D	黄			十勝中部, 網走内陸部, 道北, 根釧の気象条件の良好な地帯
中		中	や強	中	D	黄			道央(北部を除く), 道南地域
中		中	強	中	D	黄			道央(北部を除く), 道南(八雲を除く)の気象条件の良好な地帯
や良		や長	強	高	D	黄			十勝中部の気象条件の良好な地帯
や良		長	強	高	D	黄			道央地帯
中	少	や長	や強	高	S	黄	白	白	道央, 十勝中部, 網走内陸部, 道南
中		や長	中	高	D	黄			十勝中部, 道央北部, 網走内陸部の気象条件の良好な地帯
中		中	や強	中	F.D	黄			十勝中部, 網走内陸部, 根釧の気象条件の良好な地帯
や良		や長	や強	や高	D	黄			道央(北部を除く), 道南
や良		や短	中	中	S	黄			北海道一門
中		や長	強	高	D	黄			道央
や良		中	強	高	D	黄			道央, 道南
や良		中	強	や高	F.D	黄			道央北部, 十勝中部, 網走内陸部の気象条件の良好な地帯
や良	少	短	や強	や高	S	黄	白	白	北海道一門
や良	少	や短	や強	や高	S	黄	白	白	北海道一門
や良		や長	強	中	D	黄			道央北部, 十勝中部, 網走内陸部の気象条件の良好な地帯

子葉の色	胚軸色	草姿	葉形	毛茸				粒の				栽培適地
				有無	色	花色	熟莢色	形	大小	色	臍部の色	
黄	緑	や開張	円葉	有	淡褐	白	褐	扁球	大	黒 光沢強	黒	子実用としては気候寒冷な地方に適し, 枝豆用としては全道各地の栽培に適する
黄	緑	有限	円葉	有	白	白	淡褐	扁球	極大	黄白	淡黄	中生の晩, 煮豆用, 食味佳良, 淡褐毛, 白花, 大粒, 黒色粒, 多収

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
白 鶴 の 子	渡支第1939号	大豆 北海道 第3号	1971 (1934)	1996	渡島支場	「鶴の子」在来種から 純系分離	長稈、極晩成、白目極大粒の良質品 種
奥 原 1 号	十育 51号	大豆 北海道 第4号	1971 (1940)	1984	十勝支場	純系分離	早生種、耐冷性強、マメシクイガ 被害多、褐毛、赤紫花、黄白色中粒
早 生 緑	北支第4014号	大豆 北海道 第5号	1971 (1954)		北見支場	在来種から系統選抜	早生種の晩、枝豆用、食味佳良、白 花、着実密、淡黄緑色、大粒、駒黒 色
坂 本 早 生	大野在来-B	大豆 北海道 第6号	1971 (1954)	1981	渡島支場	在来種(大野村、坂本 重太郎氏栽培)	極早生、極短稈の鞍掛け(淡黄色地 に黒色斑)種で、食味良好な枝豆用 品種
北 見 白	系50-A	大豆 北海道 第7号	1971 (1956)		北見支場	「十勝長菜」×「大谷 地2号」	中生種、耐冷性強、強茎、多収、褐 毛、赤紫色、黄白色中粒、駒暗褐色
イ ス ス	系83-B	大豆 北海道 第8号	1971 (1957)	1981	北見支場	「十勝長菜」×「大谷 地2号」	中生種の早、耐冷性強、強茎、長茎、 褐毛、赤紫色、やや黄白粒
ホッカイハグカ	十育 77号	大豆 北海道 第9号	1971 (1958)	1975	十勝支場	「十勝長菜」×「中生 深」	中生種、黄色、小粒、マメシクイ ガ被害小、良質
カ リ カ チ	十育 87号	大豆 北海道 第10号	1971 (1959)	1975	十勝支場	「十勝長菜」×「上春 別在来」	中生種、黄色、中粒、耐冷性強
コガネジロ	十育 95号	大豆 北海道 第11号 大豆農林23号	1971 (1961)	1984	十勝支場	「紫花4号」×「十勝 長菜」	晩生種の早、強茎、多収、半無限型、 長茎、白毛、黄色小粒、駒黄色
アサミドリ	大袖振-1	大豆 北海道 第12号	1971 (1962)	1981	十勝支場	品種比較	中生種、枝豆用、多収、長茎、赤紫 花、褐毛、淡黄緑大粒、駒黒色
ワセコガネ	十育 97号	大豆 北海道 第13号 大豆農林33号	1971 (1964)	1984	十勝農試	「紫花4号」×「十勝 長菜」	早生種の晩、機械栽培向、強茎、 半無限型、主茎型、密植適応性大
オシロマメ	札育 12号	大豆 北海道 第14号 大豆農林34号	1971 (1964)	1975	北海道農試	「十勝長菜」×「黄宝 珠」	長茎(無限伸育型)で円葉の極晩生 種、白目中粒の良質多収品種
ホウライ	十育 109号	大豆 北海道 第15号 大豆農林37号	1971 (1965)	1978	十勝農試	「下田不知1号」× 「十育71号」	晩生種、ダイズシストセンチュウ抵 抗性、長茎、分枝数多、白目中粒
トヨスズ	十育 118号	大豆 北海道 第16号 大豆農林43号	1971 (1966)	1993	十勝農試	「下田不知1号」× 「十支第7910号」	中生種の晩、ダイズシストセンチュウ 抵抗性強、短強茎、白目大粒、良 質
キタムスメ	十育 112号	大豆 北海道 第17号 大豆農林49号	1971 (1968)		十勝農試	「カリカチ」×「北見 白」	中生種、耐冷性強、多収、中茎、褐 毛、赤紫色、黄白色中粒、駒暗褐色
ユウヅル	中育 3号	大豆 北海道 第18号 大豆農林55号	1971		中央農試	「鶴の子」在来種から 系統分離	やや長茎で円葉の晩生種、白目極大 粒(鶴の子種)の良質多収品種
白 千 石	十育 63号	大豆 北海道第19号	1971 (1954)	1975	十勝支場	「探大豆」×「早生黒 千石」	晩生種、黄色、小粒、青刈用
茶 小 粒	本 第2429号	大豆 北海道 第20号	1971 (1926)	1984	北海道 農事試	品種比較	極晩生種、緑肥および青刈飼料用、 莖葉の繁茂旺盛で生草収量多い
ヒメユタカ	十育 161号	大豆 北海道 第21号 大豆農林61号	1976	1987	十勝農試	「十育129号」×「カリ カチ」	中生種、中茎、枯上の良、赤紫花、 白毛、白色大粒、白目、多収
キタコマチ	十育 167号	大豆 北海道 第22号 大豆農林64号	1978	1993	十勝農試	「十育129号」×「トヨ スズ」	早生種、短強茎、分枝数小、草姿は 「トヨスズ」に類似し、白目中粒
ユウヒメ	中育 8号	大豆 北海道 第23号 大豆農林68号	1979	1996	中央農試	「奥原1号」×「木造 在来」	中生種、白目、極大粒の良質、多収 品種
キタホマレ	十育 171号	大豆 北海道 第24号 大豆農林70号	1980		十勝農試	「十育114号」×「カリ カチ」	中生種の晩、耐冷性強、多収、中粒 種(秋田銘柄)、駒暗褐色
スズヒメ	十育 182号	大豆 北海道 第25号 大豆農林71号	1980		十勝農試	「P 184751」×「コガ ネジロ」	中生の早、白目小粒、強茎、圃場で は裂莢種、ダイズシストセンチュウ 抵抗性極強、納豆加工適性
コマムスメ	中育 9号	大豆 北海道 第26号 大豆農林78号	1982	1993	中央農試	「オシマシロメ」× 「十交3612」	晩生種、白目、大粒の多収品種
ツルコガネ	中育 14号	大豆 北海道 第27号 大豆農林79号	1984		中央農試	「中育1号」×「黄宝 珠」	中生の晩、大粒、極淡褐目、ダイズ わい化病抵抗性
トカチクロ	十育 184号	大豆 北海道 第28号 大豆農林80号	1984		十勝農試	「十育122号(キタム スメ)」×「中生光黒」	中生種、安定多収、黒大豆(光黒銘 柄)
トヨムスメ	十育 191号	大豆 北海道 第29号 大豆農林81号	1985		十勝農試	「十系463号」×「トヨ スズ」	中生、ダイズシストセンチュウおよ び黒根腐抵抗性、短強茎、白目中～大 粒
スズマル	中育 19号	大豆北海道 第30号 だいず農林89号 第2043号	(1988)		中央農試	「十育153号」×「納豆 小粒」	中生、白目小粒、耐倒伏性、納豆加工適 性良、ダイズシストセンチュウ抵抗性 弱、ダイズわい化病抵抗性弱
トヨコマチ	十育 205号	大豆北海道 第31号 だいず農林90号 第2042号	(1988)		十勝農試	「樽太1号」×「トヨ スズ」	中生の早、白目中～大粒、良質、ダイズ シストセンチュウ抵抗性強、低温抵抗性 強、白色晩生種、黒根腐抵抗性弱、 ダイズわい化病抵抗性弱

子葉の色	胚軸色	草姿	葉形	毛茸				粒の				栽培適地
				有無	色	花色	熟莢色	形	大小	色	臍部の色	
黄	緑	有限	円葉	有	白	白	淡褐	周球	極大	黄白	濃黄	道南(渡島, 檜山)に適する限定優良品種
黄	紫	や開張	円葉	有	褐	赤紫	暗褐	球	中	黄白	暗褐	道東部および北部の初霜が白く, 生育期間の短い地帯の栽培に適する
黄	緑	開張	円葉	有	褐	白	褐	周球	大	淡黄緑	黒	道北, 道東における子実用として「吉岡大粒」に比べて安全に収穫できる。枝豆用としては全道各地に適する
黄	緑	有限	円	有	褐	赤紫	淡褐	周楕円球	中	淡緑地に黒のクラカケ斑	黒	早生であるため適地の範囲は広いが, 都市近郊あるいは道南地方の蔬菜地帯に栽培する
黄	紫	開張	円葉	有	褐	赤紫	褐	球	中	黄白	暗黒	上川の北部, 十勝, 網走支庁管内等の道東, 道北地帯および道央の山麓地帯
黄	紫	直立	長葉	有	褐	赤紫	褐	球	小	や黄	褐	道東, 道北地帯の冷害に遭遇しやすい地方, および降霜の早い地方, 道央の山麓地帯で前者に類似の地帯
黄	紫	直	長楕円	無	-	紫	褐	球	小	黄	黒褐	十勝内陸地帯
黄	紫	直	楕円	有	褐	紫	褐	球	中	黄	黒褐	道南および極端な冷涼地を除いた全道一円
黄	紫	直立	長葉	有	白	赤紫	淡褐	球	小	黄 光沢強	黄	「北見白」の栽培されている十勝, 上川南部の中晩生種地帯
黄	紫	や開張	円葉	有	褐	赤紫	褐	周球	大	淡黄緑	黒	子実用は道東地帯, 枝豆用は全道各地
黄	紫	直立	円葉	有	白	赤紫	淡褐	球	小	黄 光沢強	黄	十勝の山麓, 沿海, 網走のオホーツク沿海とそれに類似の早生種地帯
黄	緑	無限伸育型	円	有	白	白	淡褐	球	中	黄	黄	道央部以南(石狩南部, 後志, 渡島, 檜山)
黄	紫	開張	円葉	有	白	赤紫	淡褐	や周球	中	黄白	黄	全道のシストセンチュウの被害が認められる中晩生種地帯
黄	紫	直立	円葉	有	白	赤紫	淡褐	や周球	大	黄白	黄	十勝, 網走のダイズシストセンチュウの被害地帯, とくに中央部で倒伏する地帯
黄	紫	や開張	円葉	有	褐	赤紫	褐	球	中	黄白	暗褐	十勝・上川および網走中央部
黄	緑	有限伸育型	円	有	白	白	褐	や周球	極大	黄白	濃黄	石狩, 空知の中南部, 後志南西部, 胆振, 日高, 渡島, 檜山の各地
黄	紫	直	小楕円	有	褐	紫	褐	球	小	黄	褐	十勝地方および類似の地帯の青刈用
黄	紫	開張	円葉	有	褐	赤紫	黒褐	周球	極小	褐	褐	緑肥および青刈用飼料用としては全道各地の栽培に適する。採種栽培は道南地方に限定される
黄	紫	や開張	円葉	有	白	赤紫	淡褐	球	大	黄白	黄	十勝, 網走, 上川中南部とこれに類似の地帯, 十勝中央部は除く
黄	紫	直立	円葉	有	白	赤紫	淡褐	や周球	中	黄白	黄	上川および収穫, 乾燥時の天候がこれに類似する地帯
黄	紫	や開張	円	有	白	紫	淡褐	球	極大	黄白	黄	空知支部以南, 石狩, 胆振, 日高支庁
黄	緑	直立	円葉	有	褐	白	褐	や周球	大の小	黄白	暗褐	道央中部(空知中部以南, 石狩, 後志, ただし羊蹄山麓は除く)ならびに道央南部(胆振, 日高)地域
黄	紫	直立	長葉	有	白	赤紫	淡褐	や周球	小の中	黄	黄~極淡褐	十勝中部およびこれに類似の地域に適する
黄	紫	や開張	円	有	白	紫	淡褐	周球	大の中	黄白	黄	渡島, 檜山支庁
黄	緑	や開張	円	有	白	白	淡褐	球	大	黄白	極淡褐	日高, 胆振, 檜山北部, 渡島北部
黄	紫	直立	円葉	有	褐	紫	褐	周球	大	黒	黒	十勝地方, ただし中部の沖積地帯と山麓沿海部のうち特に気象条件の不良の地帯を除く
黄	紫	直立	円葉	有	白	紫	淡褐	周球	大の小	黄白	黄	十勝およびこれに類似の地帯
黄	紫	直立	長葉	有	白	紫	淡褐	球	小	黄	黄	道央中・南部, 羊蹄山麓
黄	紫	直立	円葉	有	白	紫	淡褐	周球	中の大	黄白	黄	道央中・北部, 十勝, 網走内陸, 沿海

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ツルムスメ*	中育 24号	大豆北海道交 第32号 だいち農林94号 第2876号	(1990)		中央農試	「中系67号」×「中育12号」	中生、白目極大粒、良質、ダイズわい化病抵抗性やや強、耐倒伏性強、ダイズシストセンチュウ抵抗性弱、茎疫病弱
カリユタカ*	十育 214号	大豆北海道交 第33号 だいち農林95号 第3293号	(1991)		十勝農試	「ヒメユタカ」×「Clark Dt <sub>2</sub> 」	中生、難裂莢性、白目中粒、良質、ダイズ黒根病抵抗性強、ダイズシストセンチュウ・わい化病・茎疫病抵抗性弱
音更大袖	音更大袖	大豆 準北海道 第1号	(1991)		音更農家	「大袖振」在来種からの系統選抜	中生、あお豆、多収良質、ダイズシストセンチュウ・わい化病抵抗性弱
大袖の舞*	十育 216号	大豆北海道交 第34号 だいち農林98号 第4116号	(1992)		十勝農試	「十育186号」×「トヨスズ」	中生、あお豆、白目大粒、多収良質、耐倒伏性強、黒根病抵抗性強、ダイズシストセンチュウ抵抗性強、ダイズわい化病抵抗性弱
トヨホマレ*	十育 220号	大豆北海道交 第35号 だいち農林99号	(1994)		十勝農試	「キタホマレ」×「十育206号」	中生、白目良質、安定多収、着色・裂皮少、耐倒伏性強、ダイズシストセンチュウ抵抗性弱、ダイズわい化病抵抗性弱

## 9 小 豆

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
早生大納言	本 第98号	小豆 北海道 第1号	1971 (1914)	1975	不 明	品種比較	晩生種、熟莢は淡褐色、子実は暗赤色、粒形はやや不整であるが大粒
茶 殺 早 生	本 第2336号	小豆 北海道 第2号	1971 (1914)	1990	不明(十勝地方の在来種)	在来種品比較	極早生種、草丈低く、葉は円形、熟莢は褐色、子実は赤色で小粒である
早生大粒1号	十育 5号	小豆 北海道 第3号	1971 (1930)	1981	十勝支場	純系淘汰(「早生大粒」より)	中生種、草丈中位で葉は円形、熟莢は灰白色、子実は大粒で濃赤色
円 葉 1 号	十育 42号	小豆 北海道 第4号	1971 (1937)	1975	十勝支場	「円葉」の純系淘汰	中生種、熟莢は黒褐色、子実は赤色、中粒、品質良好
宝 小 豆	小豆 W45	小豆 北海道 第5号	1971 (1959)	1993	十勝支場	保存品種の比較試験により選出	中生種、草丈中位で葉は円形、熟莢は褐色、子実は赤色で小粒
光 小 豆	十育 7号	小豆 北海道 第6号	1971 (1964)	1975	十勝農試	「茶殺早生」×「早生大粒1号」	中生種、草丈はやや高く葉は円形、熟莢は淡褐色、子実小粒でやや淡赤色
晩 大 納 言	十育 62号	小豆 北海道 第7号	1971 (1970)	1984	十勝農試	「能登小豆」×「早生大粒1号」	熟期は中生の晩、草丈はやや高く葉は円形、熟莢は灰白色で子実は大粒
寿 小 豆	中育 1号	小豆 北海道 第8号	1971		中央農試	「能登小豆」×「早生大粒1号」	中生種、草丈やや高く分枝は少ない、葉はやや剣、子実は大粒で赤色
栄 小 豆	十育 70号	小豆 北海道 第9号	1973	1987	十勝農試	「3407」×「早生大粒1号」	中生種、草丈高く草勢は強、葉は円形、熟莢は褐色、子実は大粒で赤色
アカネダイナゴン*	十 育 69 号	小豆 北海道 第10号 あずき農林1号	1974		十勝農試	「能登小豆」×「早生大粒1号」	中生種、草丈は中位、葉は円形、熟莢は灰白、子実大粒で濃赤色
ハヤテショウズ*	十育 85号	小豆 北海道 第11号 あずき農林2号	1976	1996	十勝農試	「宝小豆」×「斑小粒系-1」	早生種、草丈やや低く葉は円形で、熟莢は褐色、子実はやや濃赤で小粒
ホ ッ カ イ シロショウズ*	十育 73号	小豆 北海道 第12号 あずき農林3号	1979		十勝農試	「川西(白小豆)」×「茶殺早生」	中生の晩、莖長やや低く、莢数はやや多、熟莢は白色でやや太い、子実は短円、黄白色で大きさは中
エリモショウズ*	十育 97号	小豆 北海道 第13号 あずき農林4号	1981		十勝農試	「寿小豆」×「十育77号」	中生の早、莖長やや低く、莢数はやや多、子実は大粒中、やや長円筒形で淡赤色、粒揃いよく良質、多収
ハツネショウズ*	十育 116号	小豆 北海道 第14号 あずき農林6号	1985		十勝農試	「ハヤテショウズ」×「赤豆」	中生の早、アズキ落葉病抵抗性、子実短円筒、やや濃赤で大きさ中の小
サホロショウズ*	十育 120号	小豆北海道 第15号 あずき農林7号 第2339号	(1989)		十勝農試	「アカネダイナゴン」×「中国在来1」	早生、耐冷性強、多収、良質、アズキ落葉病・アズキ茎疫病抵抗性弱
カムイダイナゴン*	十育 122号	小豆北海道 第16号 あずき農林8号 第2340号	(1989)		十勝農試	「十育106号」×「十系207号」	中生の晩、極大粒多収、ウイルス病抵抗性強、耐倒伏性弱、アズキ落葉病抵抗性弱
アケノワセ*	十育 124号	小豆北海道 第17号 あずき農林9号 第4112号	(1992)		十勝農試	「十系276号」×「能登小豆」	早生、アズキ落葉病・アズキ茎疫病抵抗性強、やや低収
きたのおとめ*	十育 127号	小豆 北海道 第18号 あずき農林10号	(1994)		十勝農試	「エリモショウズ」×「2025(F <sub>2</sub> )」	中生の早、アズキ落葉病・アズキ萎ちょう病抵抗性強、耐倒伏性弱

子葉の色	胚軸色	草姿	葉形	毛茸				粒の				栽培適地
				有無	色	花色	熟莢色	形	大小	色	臍部の色	
黄	緑	直立	円葉	有	白	白	淡褐	球	極大	黄白	黄	道央中・南部, 羊蹄山麓, 道南
黄	紫	直立	円葉	有	白	紫	淡褐	球	中の大	黄白	黄	十勝, 道央, 網走内陸
黄	紫	や開張	円葉	有	褐	紫	褐	扁球	大の小	緑	暗褐	十勝, 道央, 網走内陸
黄	緑	や開張	円葉	有	白	白	淡褐	球	大の小	緑	黄	十勝, 網走
黄	緑	直立	円葉	有	白	白	淡褐	球	中の大	黄白	黄	網走, 十勝(山麓, 沿海), 道央(北部・中部の一部)

初葉の色	莖色	葉形	毛茸の形	花色	熟莢の		粒の			栽培適地
					形	色	形	大小	色	
	緑	円葉	鋭	黄	太く長い	淡褐		大	暗赤	南部温暖地帯
緑	緑	円葉	鈍	黄	長, 中太 や湾曲	褐	円筒	や小	赤	道東, 道北などにおいて極早生種を必要とする地帯に適する
緑	緑	円葉	鈍	黄	短, 太 や湾曲	灰白色	烏帽子形	大	濃赤	本道中央部以北および以東に適する
	緑	円葉	鋭	黄	長太	黒褐	円筒	中	赤	道中央部
緑	緑	円葉	鈍	黄	長, 中太 や湾曲	褐	円筒	小	赤	道東, 道北および道央南部に適する
緑	緑	円葉	鈍	黄	長, 中太 や湾曲	淡褐	や烏帽子 子型	や小	や淡赤	全道一円, 特に冷涼な地帯は除く
緑	緑	円葉	鈍	黄	短, 太, や湾曲	灰白	烏帽子型	大	濃赤	道央, 道南部
緑	緑	円葉・葉 縁くびれ	鈍	黄	長, や太 や湾曲	褐	円筒形	中	赤	道央, 道東北
緑	緑	円葉	鈍	黄	長, 中太 や湾曲	褐	円筒形	小	赤	十勝, 上川の中南部, 冷涼な地帯はさける
緑	緑	円葉	鈍	黄	短, 太 や湾曲	灰白	烏帽子型	大	濃赤	十勝中央部, 上川中南部, 道央, 道南
緑	緑	円葉	鈍	黄	や細, 長 先端や湾曲	褐	短円筒形	や小	や濃赤	
緑	緑	円葉	鈍	黄	や太や短	白	短円筒	中	黄白	道央, 道南の気象条件のよい地帯
緑	緑	円葉	鈍	黄	長, 中太 や湾曲	褐	や長円筒	中	淡赤	十勝中央, 道央, 道南
緑	緑	円葉	鈍	黄	や短	褐	短円筒	中の小	や濃赤	十勝中央部およびこれに類似の地帯で落葉病の常発地
緑	緑	円葉	鈍	黄	中, 太 や湾曲	褐	円筒	中の大	赤	十勝山麓・沿海, 網走, 道北, 道央北部, 道央羊蹄山麓
緑	緑	円葉	鈍	黄	中, 太 や湾曲	白	円筒	極大	濃赤	道南, 道央南部
緑	緑	円葉	鈍	黄	中, 中太 や湾曲	極淡褐	円筒	中の小	赤	十勝山麓・沿海, 網走, 道央北部, 道央羊蹄山麓, 道北の一部
緑	緑	円葉	鈍	黄	中, 中太 や湾曲	褐	円筒	中の小	淡赤	十勝中部, 道央中・南部, 道南

10 菜豆

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
金 時	本 第2850号	菜豆 北海道 第1号	1971 (1905)	1984	北海道 農事試	品種比較	中生の早, 矮性, 軟荚種, 良質
大 福	本 第6599号	菜豆 北海道 第2号	1971 (1905)	1993	北海道 農事試	品種比較	晩生をつる性硬荚種, 高級菜豆として食味が良く多収, 子実の色は白
大 手 亡	十支 第455号	菜豆 北海道 第3号	1971 (1927)	1984	十勝支場	品種比較	中生, 半蔓性, 硬荚種, 子実は白色小粒, 播種期, 早晚による収量影響少なし
丸 長 菊	本 第11840号	菜豆 北海道 第4号	1971 (1939)	1981	北海道 農事試	品種比較	開花期は7月中旬, 成熟期は9月上旬で長菊類中最も早い極早生種
虎 豆	本 第11304号	菜豆 北海道 第5号	1971 (1939)	1987	北海道 農事試	品種比較	晩生をつる性半硬荚種, 良質で菜豆品種中最も食味が良い
大 正 金 時	十支第8390号	菜豆 北海道 第6号	1971 (1957)		十勝支場	純系分産	開花期は7月中旬, 成熟期は9月上旬~中旬で早生の矮性硬荚種
大 正 白 金 時	十支第9007号	菜豆 北海道 第7号	1971 (1960)	1981	十勝支場	純系分産	開花期は7月中旬, 成熟期は9月上旬の早生矮性硬荚種で炭そ病に強い
改 良 大 手 亡	十支第3848号 大手亡(清水)	菜豆 北海道 第8号	1971 (1961)	1975	十勝支場	品種選抜	開花始は7月下旬, 成熟期は9月上旬の半蔓性硬荚の晩生種
改 良 中 長	十支第9010号 中長菊	菜豆 北海道 第9号	1971 (1961)	1975	十勝支場	純系分産	開花始は7月下旬, 成熟期は9月上旬の中生の早に属する半蔓性硬荚種
新 金 時	十育B-1号	菜豆 北海道 第10号	1971 (1964)	1975	十勝農試	「紅金時」×「大正金時」	開花期は7月上旬, 成熟期は9月上旬の早生矮性良質多収品種
昭 和 金 時	十育B-11号	菜豆 北海道 第11号	1971 (1966)	1978	十勝農試	「紅金時」×「大正金時」	開花期は7月中旬, 成熟期は9月中旬で矮性硬荚の中生種
北 原 紅 長	十支第9839号 紅長 2号	菜豆 北海道 第12号	1971 (1966)	1975		交雑育種	開花期は7月中旬, 成熟期は9月上旬の早生, 矮性硬荚種
大 正 大 手 亡	十支 第514号 大正大手亡	菜豆 北海道 第13号	1971 (1969)	1975	十勝農試	品種選抜	開花期は7月中旬, 成熟期は9月中旬半蔓性硬荚種の中生種
十 勝 白 金 時	十育E-6号	菜豆 北海道 第14号	1971 (1970)	1978	十勝農試	「大正白金時」×「白丸菊」	開花始は7月中旬, 成熟期は9月中旬の半蔓性硬荚の中生種
銀 手 亡	十育A-22号	菜豆 北海道 第15号	1971	1987	十勝農試	「大手亡(網走)」×「大手亡(清水)」	開花始は7月下旬, 成熟期は9月中旬の半蔓性硬荚の中生種
福 粒 中 長	十育D-7号	菜豆 北海道 第16号	1972		十勝農試	「大正金時」×「改良中長」	開花始は7月中旬, 成熟期9月上旬の半蔓性の中生種
福 白 金 時	十育E-10号	菜豆 北海道 第17号	1973		十勝農試	「十育B-11号」×「5823-C-B-4」	開花始7月下旬, 成熟期9月上旬の早生矮性硬荚種
姫 手 亡	十育A-29号	菜豆 北海道 第18号	1976		十勝農試	「十育A-19号」×「Improved White Navy」	開花始は7月下旬, 成熟期9月中旬の矮性硬荚の中生種
改 良 虎 豆	中育A-29号	菜豆 北海道 第19号	1977		中央農試	虎豆在来種(洞爺村産)より純系分産	晩生, つる生, 半硬荚種「虎豆」より着実数多く多収, 食味良好
北 海 金 時	十育B-32号	菜豆 北海道 第20号	1979		十勝農試	「昭和金時」×「a-32(F <sub>2</sub> )」	開花始は7月中旬, 成熟期は9月上旬~中旬の早生, 矮性, 硬荚種, 大粒, 多収
改 良 早 生 大 福	中育 F1号	菜豆 北海道 第21号	1980		中央農試	大福在来種(北見市産)より純系分産	中生の晩, つる性, 硬荚種, 甘納豆, 煮豆に適する
丹 頂 金 時	十育B-50号	菜豆 北海道 第22号	1986	1996	十勝農試	「十育B-30号」×「大正金時(多節)」	開花始は7月中旬, 成熟期は9月上旬~中旬の早性, 矮性硬荚種, 大粒, 多収
福 虎 豆	中育 T26号	菜豆 北海道 第23号 第2573号	(1989)		中央農試	「虎豆(端野系)」×「虎豆」	晩生の早, つる性の半硬荚種, 加工適性良, 食味良
雪 手 亡	十育 A52号	菜豆 北海道 第24号 第4713号	(1992)		十勝農試	「十育A40号」×「82HW-B,F」	中生, 半蔓性, 多収良質, インゲン炭そ病抵抗性強
洞 爺 大 福	中育 F12号	菜豆 北海道 第25号 第4175号	(1992)		中央農試	「中交 5407 F <sub>2</sub> 」×「大福」	早生の晩, つる性, 硬荚種, 甘納豆, 煮豆に適する
	十育 B62号	菜豆 北海道 第26号	(1994)		十勝農試	「大正金時」×「福白金時」	早生, 矮性, 多収良質, 硬荚種

草性	幼莖の色	花色	葉色		葉の軟硬	粒の			栽培適地
			若葉	熟葉		形	大小	色	
矮性	淡赤紫	淡紅	淡緑	淡黄	軟	楕円	中	赤紫	根室、釧路、宗谷等の寒冷地帯を除く全道、莢煮食用としては全道
つる性	緑	白	湖緑、まれに淡紅飛沫斑	淡褐		扁平じん鱗形	大	白	本道中部の温暖地帯および南部の地帯
半蔓	緑	白	暗緑、成熟前に暗紫色	淡黄褐	硬	短楕円臍部がやや突起する	小	白	寒冷地を除く全道一円
矮性	淡緑	淡紅	淡緑地に鮮紅色の条斑	淡黄褐地に斑紋の痕跡	硬	や扁平な長楕円	中	淡肉色地に赤紫色の斑	全道に適するが、特に北部の極冷涼な地帯
つる性	淡緑	微紅色を帯びた白色	淡緑	淡黄白	半硬	や長い球	大	白色地に臍部周囲のみ黄褐色の紫赤斑	本道中部の温暖な地帯および支那地帯
矮性	淡赤紫	淡緑、成熟前に淡紅色の斑紋	淡緑、成熟前に淡紅色の斑紋	淡黄白	硬	楕円	や大	淡赤紫	特に寒冷な地帯を除く全道
矮性	緑	白	淡緑	淡黄白	硬	や長楕円	や大	白に極く淡い藍色網斑	特に寒冷な地帯を除く全道
半蔓性	緑	白	淡緑、成熟前に暗紫色となる	淡黄褐	硬	短楕円	小	白	上川、空知の菜豆栽培地帯および十勝、網走の山麓を除く畑作地帯
半蔓性	淡緑	紅	淡緑地に紫赤色の斑紋	淡褐地に斑紋の痕跡	硬	短楕円筒	中	淡褐地に紫赤色の斑紋	特に冷涼な地帯を除く全道
矮性	極淡赤紫	淡紅	緑	黄白	硬	や長楕円	や大	紅	特に冷涼な地帯を除く全道
矮性	淡赤紫	淡紅	緑	黄白	硬	長楕円	や大	や暗紅	十勝、網走の中央部および上川の無霜期間のやや長い地帯
矮性	淡赤紫	淡紅	や濃緑	黄白	硬	腎臓	や大	淡赤紫	特に冷涼な地帯を除く全道
半蔓性	緑	白	淡緑、成熟前に暗紫色となる	淡黄褐	硬	短楕円	小	白	十勝、網走などの道東畑作地帯
半蔓性	緑	白	淡緑	淡黄白	硬	や長楕円	や大	白に極く淡い藍色網斑	十勝、網走、上川の無霜期間のやや長い地帯
半蔓性	緑	白	淡緑	淡黄褐	硬	楕円	小	白	十勝、網走、上川などの畑作地帯
半蔓性	淡緑	紅	淡緑地に紫赤色斑紋	淡黄褐地に斑紋の痕跡	硬	や長楕円	や大	淡褐地に紫赤色斑紋	特に冷涼な地帯を除く全道
矮性	緑	白	淡緑	淡黄白	硬	や長楕円	や小	白に極く淡い藍色斑紋	十勝、網走、上川などの菜豆栽培地帯
叢性	緑	白	淡緑、成熟前に暗紫色となる	淡黄褐	硬	楕円	小	白	十勝、上川、網走などの畑作地帯
つる性	淡緑	帯微紅の白	淡緑	淡黄白	半硬	や長球形	大	白地に臍部の周りに淡肉色地に赤褐色の斑紋	胆振地方を中心とした道央部
矮性	淡赤紫	淡赤紫	緑	黄白	硬	や長楕円	大	赤紫	十勝、網走、上川地方の畑作地帯
つる性	緑	白	淡緑地に微細な紫斑	淡褐	硬	扁平じん鱗形	中	白	根釧、道北地域を除く全道一円
矮性	淡赤紫	淡赤紫	緑	黄白	硬	長楕円体	や大	赤紫	十勝、網走、上川支庁管内
つる性	緑	微紅色を帯びた白色	淡緑	淡黄白	半硬	短楕円	中の大	白地に臍部の周りに淡肉色地に赤褐色斑紋	道内の虎豆栽培地帯
叢生	緑	白	淡緑地に赤紫斑紋	淡黄白	硬	楕円	小	白	北海道一円
つる性	緑	白	淡緑	淡褐	硬	腎臓形	中の大	白	北海道一円
矮性	淡赤紫	淡赤紫	緑	黄白	硬	楕円体	大	赤紫	北海道一円

## 11 花豆

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
大 白 花	中育 M5号	花 豆 北海道 第1号	1976		中央農試	白花豆(杜野町産)より系統分離	晩生のつる性花豆, 子実は白色で極めて大きく, 多収で良質

## 12 えん豆

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
改 良 青 手 無	札幌青手無 1号-40	えん豆 北海道 第1号	1971 (1958)	1993	十勝支場	純系分離	緑色大粒, 良質, 多収, 半蔓性, 晩生
小 緑	十育 14号	えん豆 北海道 第2号	1971 (1965)	1984	十勝農試	「アラスカ」×「グリーンピース」	緑色小粒, 良質, 多収, 矮性, 晩生, 缶詰用
大 緑	北育 37号	えん豆 北海道 第3号	1975		北見農試	「十育11号」×「6202(F <sub>1</sub> )」	緑色大粒, 良質, 多収, 半蔓性, 晩生
北 海 赤 花	北育B-2号	えん豆 北海道 第4号	1978		北見農試	「十育16号」×在来種 赤えんどう(中札内)	褐色中粒, 多収, 矮性, 晩生
豊 緑	北育 43号	えん豆 北海道 第5号	1985		北見農試	「北育36号」×「改良青手無」	緑色大粒, 多収, 良質, 矮性, 晩生

## 13 ばれいしょ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
男 爵 薯		ばれいしょ 北海道(輪) 第1号	1971 (1928)		米 国	「Early Rose」の芽 条変異?	早生種, 粒ぞろいよく, いも着は密, 食味良, 各種調理に使用可能
メークイン		ばれいしょ 北海道(輪) 第2号	1971 (1928)		イギリス	不明	中生種, いもは長卵形で肉色は黄, 越冬後甘味を増す。生食用
紅 丸	本育 309号	ばれいしょ 北海道 第3号	1971 (1938)		北海道 農事試	「Lembke Früthe Rosen」×「ペポー」	晩生種, 極く多収, いも着密, 皮色 紅, いも偏卵形, でんぷん原料用
ばれいしょ・ 農 林 1 号	島系 12号	ばれいしょ 北海道 第4号	1971 (1943)		北海道 農事試	「男爵薯」×「Deodara」	中晩生種, 多収, 食味やや良, 食用 及びでんぷん原料用
ニ セ コ	北海 15号	ばれいしょ 北海道 第5号 ばれいしょ農林12号	1971 (1959)	1975	北海道農試	「農林1号」×「ミラ ピリス」	晩生種, いもは鮮紅色, でん粉価は 高いが浸漬病に弱い
ユ キ ジ ロ	北海 30号	ばれいしょ 北海道 第6号 ばれいしょ農林13号	1971 (1961)	1996	北海道農試	「ケネベック」×「農 林2号」	中晩生種, 疫病に強く多収, 調理後 黒変少ない
エ ニ ワ	北海 22号	ばれいしょ 北海道 第7号 ばれいしょ農林14号	1971 (1961)		北海道農試	「島系267号」×「島系 232号」	中晩生種で疫病に強い, 多収ででん 粉価が高い
ホッカイアカ	北海 41号	ばれいしょ 北海道 第8号 ばれいしょ農林15号	1971 (1965)	1984	北海道農試	「2070ab(31)」×「島 系291号」	晩生種で, 疫病にも強く, でん粉価 が高い, いもは赤かつ色で紡錘形
シ レ ト コ	根育 3号	ばれいしょ 北海道 第9号 ばれいしょ農林16号	1971 (1967)	1981	創 根 農 試	「北海24号」×「島系 291号」	「ホッカイアカ」程度の極晩生種, 疫病に強く極多収
ピ ホ ロ	北海 45号	ばれいしょ 北海道 第10号 ばれいしょ農林17号	1971 (1969)	1984	北海道農試	「北海29号」× 「Hochpr-ozentige」	極晩生種で, でん粉価が高い, いも は小さい, 疫病には強い
タ ル マ エ	北海 47号	ばれいしょ 北海道 第11号 ばれいしょ農林18号	1971 (1969)	1981	北海道農試	「オオジロ」× 「Hochpr-ozentige」	中晩生種で, でん粉価はやや高い, いもは偏良卵, 軟腐病に弱い
ワ セ シ ロ	根育 11号	ばれいしょ 北海道 第12号 ばれいしょ農林20号	1974		根 創 農 試	「根系7号」×「北海 39号」	早生種, 熟期の割に多収, 「男爵い も」より大粒で, 皮色が白い
ト ヨ シ ロ	北海 48号	ばれいしょ 北海道 第13号 ばれいしょ農林21号	1976		北海道農試	「北海19号」×「エニ ワ」	中早生種, 還元糖含有率低く, 油加 工に適する
ツ ニ カ	Tunika	ばれいしょ 北海道(輪)第14号	1978	1987	ド イ ツ 民主共和国	「Lu56-186/21N」× 「Lu51-183/2」	中晩生種, ジャガイモシストセン チュウ寄生型Aに対し抵抗性がある
ハ ツ フ ブ キ	北海 57号	ばれいしょ 北海道 第15号 ばれいしょ農林24号	1979	1993	北海道農試	「男しゃくいも」× 「WB61037-4」	早生, でん粉工場の早期操業, 原料 用として紅丸より品質, 収量ともす ぐれる
ホッカイコガネ	北海 60号	ばれいしょ 北海道 第16号 ばれいしょ農林25号	1981		北海道農試	「北海48号」×「北海 51号」	中晩生, 加工食品原料用, 塊茎は目 浅く長楕円形黄肉種でフレンチフ ライにしたときの品質にすぐれる



草性	幼茎の色	花色	莢色		莢の硬軟	粒の			栽培適地
			若莢	熟莢		形	大小	色	
つる性	緑	白	緑	褐	硬	腎臓形	大	白	胆振地方を中心とした道央部および北見周辺の畑作地帯

草性	子葉の色	葉色	花色	莢色		莢の硬軟	粒の			栽培適地
				若莢	熟莢		形	大小	色	
半蔓性	淡緑	や淡緑	白	淡緑	微褐	硬	扁平球形で大皺あり	大	淡緑	全道一円
矮性	淡緑	濃緑	白	緑	微褐	硬	球	小	緑	全道の青えん豆栽培地帯
半蔓性	緑	緑	白	淡緑	微褐	硬	扁平球形で大皺あり	大	緑	網走、上川の青えん豆栽培地帯
矮性	淡黄	淡緑	紫赤	緑	淡褐	硬	扁球で大皺あり	中	帯緑褐地に赤褐斑	全道の畑作地帯
矮性	緑	濃緑	白	濃緑	微褐	硬	楕円球	大	白緑	全道のえん豆栽培地帯

草姿	茎色	葉色	花色	いもの						疫病耐病性	栽培適地
				形	色	表皮の粗滑	目の多少	目の深淺	肉色		
直	緑地に淡赤色が分布	濃	淡赤紫先白	球	黄白	滑	中	深	白	弱 <sub>r</sub>	全道一円
中	濃緑地に淡紫色が分布	や濃	紫(白のしぼり)で先白	長卵円形	黄白～淡黄褐	滑	少	浅	黄	弱 <sub>r</sub>	全道一円
中	緑地に赤色が分布	中	白	だ円～個卵	紅	滑～中	中	や浅	白(紅色を分布することがある)	弱 <sub>r</sub>	全道一円
直	緑地に淡赤色が分布	濃～や濃	白	個卵～個球	黄白	滑	中	中	白	弱 <sub>r</sub>	全道一円
	緑地に淡赤	や濃	極淡赤先白	扁卵	濃紅	滑	少	浅	白	弱	後志、宗谷管内および類似地帯のでん粉原料用
や開	緑地に淡赤	緑	淡紫	卵	黄	滑	少	浅	白	や強 <sub>R<sub>1</sub></sub>	全道、排水のよい肥沃地
や直	緑	や濃	白	個円	淡褐	粗・全面ネット状	中	や浅	白	や強 <sub>R<sub>1</sub></sub>	全道、排水のよい肥沃地
開	淡赤紫	濃	淡赤紫	長紡錘	赤褐	や滑	多	浅	淡黄	強 <sub>R<sub>2</sub></sub>	全道、でん粉原料用
直	緑地に赤紫	や淡	白	卵	淡黄白	滑	中	や浅	白	強 <sub>R<sub>1</sub></sub> 、 <sub>R<sub>2</sub></sub>	全道、とくに道東、道北および後志
中	緑地に一部赤紫	や濃	淡青	個球	淡褐	粗	中	中	白	強 <sub>r</sub>	天北、上川北部、網走、十勝などのでん粉原料地帯
中	緑	緑	淡紫	個長卵	淡褐	中	中	中	白	や弱～中 <sub>r</sub>	全道、でん粉原料地帯
や開	緑、一部淡紫	淡	紫	個卵～個球	淡黄白	滑	中	中	白	や強 <sub>R<sub>1</sub></sub>	全道、食用
や開	緑	中	白	個球～個卵	淡黄褐	中	中	浅	白	R <sub>1</sub>	全道
や開	緑	や淡	白	球～個球	黄褐	粗	中	や深	黄		道央のジャガイモシストセンチュウ発生地帯
や直	緑(紫)	緑	淡紫	個卵	淡黄白	や滑	中	中	白	R <sub>1</sub>	道内のでん粉原料用馬鈴しょ栽培地帯
や直	緑	緑	淡紫・先白	長楕円	淡褐	中	中	浅	淡黄	R <sub>1</sub>	道内の食品加工原料用の馬鈴しょ栽培地帯

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
コナフブキ*	根育 19号	ばれいしよ 北海道 第17号 ばれいしよ農林26号	1981		根 創 農 試	「北海48号」×「WB 66201-10」	でん粉原料用晩生種で、でん粉価が 22%前後と高く多収品種である。シ ストセンチュウ抵抗性はない。
トヨアカリ*	北海 67号	ばれいしよ 北海道 第18号 ばれいしよ農林27号	1986		北海道農試	「Tunika」×「WB 61037-4」	晩生種、ジャガイモシストセンチュ ウ抵抗性強。疫病に強く、高でん粉 価、多収
クタアカリ*	北海 63号	ばれいしよ 北海道 第19号 ばれいしよ農林29号 第1812号	(1987)		北海道農試	「男爵薯」×「ツニカ」	早生、多収、ジャガイモシストセン チュウ抵抗性強、黄肉水煮黒変無、 食用
エゾアカリ*	北海 66号	ばれいしよ 北海道 第19号 ばれいしよ農林29号 第1813号	(1987)		北海道農試	「ツニカ」× 「Priekulskii Ranny」	早生、多収、ジャガイモシストセン チュウ抵抗性強、黄肉煮くずれ極 少、食用
と う や*	北海 70号	ばれいしよ 北海道 第21号 ばれいしよ農林31号 第4232号	(1992)		北海道農試	「R329-50」× 「WB77025-2」	早生、大粒、ジャガイモシストセン チュウ抵抗性強、刺皮褐変・水煮黒 変少、食用
ム サ マ ル*	根育 22号	ばれいしよ北海道 第22号 ばれいしよ農林32号 第4110号	(1992)		根 創 農 試	「ツニカ」×「根育20 号」	中生の晩、多収、フレンチフライ加 工適性高塊茎腐敗抵抗性強、ジャガ イモシストセンチュウ抵抗性強
アトランチック	P 892	ばれいしよ 北海道(輪)第23号	(1992)		アメリカ	「Wauseon」× 「Lenape」	中生、多収、ジャガイモシストセン チュウ抵抗性強、ポテトチップ用
マ チ ル ダ	F 891	ばれいしよ 北海道(輪)第24号	(1993)		スウェーデン	「P134」×「P117」	中生の晩、多収、食用、疫病抵抗性 強
ア ス タ ル テ	S 892	ばれいしよ北海道(輪) 第25号	(1993)		オランダ	「RR62-5-43」× 「VT562-69-5」	晩生、高でん粉価、でん粉重多、で ん粉特性良、ジャガイモシストセン チュウ抵抗性強
ベニアカリ*	北海 73号	ばれいしよ 北海道 第26号 ばれいしよ農林33号	(1994)		北海道農試	「北海61号」× 「R392-50」	中生、高でん粉価、食用、ジャガイ モシストセンチュウ抵抗性強
サクラフブキ*	根育 26号	ばれいしよ 北海道 第27号 ばれいしよ農林34号	(1994)		根 創 農 試	「コナフブキ」×「ト ヨアカリ」	晩生、高でん粉価、でん粉重多、ジャ ガイモシストセンチュウ抵抗性強
さ や か*	北海 74号	ばれいしよ 北海道 第28号 ばれいしよ農林36号	(1995)		北海道農試	「Pentland Dell」× 「R392-50」	中生、大いも、多収、食用、ジャガ イモシストセンチュウ抵抗性強
ヤンキーチップー	P 921	ばれいしよ北海道(輪) 第29号	(1995)		アメリカ	「B 9687-148」×「BR 6864-8」	中生の早、加工食品用、ポテトチッ プ品質良、ジャガイモシストセン チュウ抵抗性強

#### 14 そ ば

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
社 丹 そ ば			(1930)		十 勝 支 場	品種比較	早生、良質
クタワセソバ*	北海 1号	そば北海道 第1号 そば農林1号 第2337号	(1989)		北海道農試	系統選抜	やや極早生、多収
クタユキ*	北海 2号	そば北海道 第2号 そば農林2号 第3751号	(1991)		北海道農試	系統選抜	やや早生、多収、べと病発生少

## II 特 用 作 物

#### 15 てん菜

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
つきさつぷ*	E 6	てんさい 北海道 第1号	1971 (1964)	1975	てん菜研究所	集団育種法	晩生、極多収、褐斑病抵抗性強
○ポリラーベ	Polyrave	てんさい 輪 第2号	1971 (1964)	1987	オランダ	一代雑種育種法	多収、褐斑病抵抗性が極めて弱い
カーベエルタ	KW-E	てんさい 輪 第3号	1971 (1964)	1984	西ドイツ	集団育種法	多収、褐斑病抵抗性が弱い
エージェー ポリー1	AJ Poly-1	てんさい 輪 第4号	1971 (1964)	1978	ポーランド	一代雑種育種法	適地では「導入2号」より多収、高 糖性
○カーベポリ	KW-polybeta	てんさい 輪 第5号	1971 (1964)	1987	西ドイツ	一代雑種育種法	多収、やや高糖性、褐斑病抵抗性が 弱い
台 糖 1 号	台糖 1号	てんさい 北海道(輪)第6号	1971 (1965)	1975	台 糖	集団育種法	褐斑病抵抗性が強く、高収性である

草姿	茎色	葉色	花色	いもの						疫病耐病性	栽培適地
				形	色	表皮の粗滑	目の多少	目の深淺	肉色		
中	緑	濃緑	淡赤紫	偏球	淡黄褐 (目に淡紅色)	や粗	多	や浅	白	R <sub>1</sub> R <sub>2</sub>	道内のでん粉原料用ばれいしょ栽培地帯
や直	緑地に赤紫色の斑点	淡緑	赤紫	偏球	黄褐	や粗	中	中	淡黄	強R <sub>1</sub>	全道、とくにジャガイモシストセンチュウ発生地帯に普及を優先する
や直立	緑	緑	赤紫	球	白黄	や粗	中	中	黄	弱r	道内のジャガイモシストセンチュウ発生地帯
や開張	緑	緑	白	球	白黄	や粗	中	中	淡黄	弱r	道内食用馬鈴薯栽培地帯
や直立	緑	緑	白	球	黄	や粗	少	浅	黄	や強R <sub>1</sub>	北海道一円
や開張	緑	や淡緑	赤紫	卵	黄褐	や粗	中	や浅	淡黄	弱r	北海道一円
直立	緑地に一部赤紫	緑	極淡青紫	球	黄褐	や粗	少	浅	白	R <sub>1</sub>	道東、道北、道央
中間	緑地に一部赤紫	淡緑	白	卵	黄	や粗	中	浅	黄白	強R <sub>x</sub>	北海道一円
中間	緑地に一部赤紫	濃緑	赤紫	卵	白黄	や粗	中	や浅	黄白	R <sub>2</sub>	十勝、網走、根釧
や開張	紫	濃緑	赤紫	楕円	淡赤	や滑	中	や浅	白	R <sub>1</sub> R <sub>2</sub>	北海道一円
中間	緑	濃緑	赤紫	扁球	黄褐	や粗	中	中	白	や強R <sub>1</sub>	北海道一円
や開張	緑	緑	白	卵	白	滑	少	浅	白	R <sub>1</sub> R <sub>2</sub>	北海道一円
や開張	緑	淡緑	青紫	楕円	白黄	滑	少	浅～極浅	白	r	道央、道北、網走

草型	草丈	葉の形	葉の大きさ	花色	脱粒の難易	粒の				製粉歩留	べと病耐病性	耐倒伏性	栽培適地
						粒形	粒色	千粒重	容積重				
直立短枝型	短	丸	小	白	中	3稜型	濃褐	中	重	中	弱	中	全道一円
直立短枝型	や短	や丸	小	白	中	3稜型	黒	中	重	中	中	や強	全道一円
直立短枝型	短	や丸	小	白	中	3稜型	黒	中	極重	中	強	中	全道一円

倍数体	胚数性	葉姿	根形	露肩の多少	分岐根の多少	褐斑病耐病性	栽培適地
2倍体	多	直立	長円錐	や多	や多	強	道南部、中央部およびその他の褐斑病多発地域
倍数体	多	中間	短円錐	少	少	弱	網走、十勝地方の褐斑病発生が少ない地帯、これに準ずる地帯
2倍体	多	中間	短円錐	少	少	弱	根釧、十勝、網走の褐斑病発生が少ない地帯
倍数体	多	中間	短円錐	や多	少	や弱	網走地方の紋別、遠軽地区およびこれに準ずる地区
倍数体	多	開平	短円錐	や多	少	弱	根釧、十勝、網走の褐斑病発生が少ない地帯、これに準ずる地帯
2倍体	多	直立	長円錐	少	中	強	道南地域の褐斑病が多発する低台地帯

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 徴
台 糖 2 号	台糖2号	てんさい 北海道(輸)第7号	1971 (1965)	1975	台 糖	集団育種法	褐斑病抵抗性が強く、高収性である
台 糖 3 号	台糖3号	てんさい 北海道(輸)第8号	1971 (1965)	1975	台 糖	集団育種法	
○てんけん1号*	T1002	てんさい 北海道 第9号	1971 (1968)	1978	てん菜研究所	合成品種育種法	初期生育良好、多収、褐斑病抵抗性強
きたまさり	支7号	てんさい 北海道 第10号	1971	1984	てん菜研究所	合成品種育種法	早生、極多収
○ソロラーベ	Solorave	てんさい 輸 第11号	1971	1987	オランダ	一代雑育種法	収量、糖分が多胚の「ポリラーベ」と同程度の単胚品種
○カーベメガモノ	Kawemegamaro	てんさい 輸 第12号	1972	1990	西ドイツ	一代雑育種法	倍数体の単胚品種、根重はやや多収型
○モノヒル	Monohill	てんさい 輸 第13号	1973	1990	スウェーデン	一代雑育種法	単胚品種で褐斑病抵抗性は弱いが多収性である
○モノホープ*	T1013	てんさい 北海道交 第14号	1973	1987	てん菜研究所	一代雑育種法	単胚、多収、良質、褐斑病抵抗性強
モノミドリ*	T1021	てんさい 北海道交 第15号 てん菜農林交9号	1979	1993	北海道農試	交雑育種	中間型(根重、根中糖分中位)
ハイラーベ	HKE-48	てんさい 輸 第16号	1980	1990	オランダ	交雑育種	中間型(根重やや多、根中糖分やや低位)
モノヒカリ	北海 41号	てんさい 北海道交 第17号 てん菜農林交10号	1982		北海道農試	交雑育種	中間型(根重多、やや高糖分)
モノホート	HKE-20	てんさい 輸 第18号	1982	1990	オランダ	交雑育種	糖分型、早期収穫に適する
ノバヒル	Novahill	てんさい 輸 第19号	1982	1993	スウェーデン	交雑育種	中間型(根重多、根中糖分中位)
ダイヒル	Dihill	てんさい 輸 第20号	1984	1990	スウェーデン	交雑育種	中間型(根重多、根中糖分中位)
モノエース	KaweJ137	てんさい 輸交 第21号	1985	1993	西ドイツ	交雑育種	糖分型(根重中位、高糖分)
モノパール*	北海 51号	てんさい 北海道交 第22号 てんさい農林交12号 第2046号	(1988)	1996	北海道農試	一代雑育種法	単胚、高糖分、多収、耐湿性やや弱
モノホマレ*	北海 55号	てんさい 北海道交 第23号 てんさい農林交13号 第2047号	(1988)		北海道農試	一代雑育種法	単胚、高糖分、多収、高品質、抽苔耐性強、耐湿性やや弱
スターヒル	Hill mono1352	てんさい 輸 第24号	(1988)		スウェーデン	一代雑育種法	単胚、中間型(根重多、根中糖分中位)、抽苔耐性強
サンヒル	Hill mono5559	てんさい 輸 第25号	(1988)	1996	スウェーデン	一代雑育種法	単胚、糖分型、抽苔耐性強
サンラーベ	H6664	てんさい 輸 第26号	(1988)	1996	オランダ	一代雑育種法	単胚、中間型(根重多、根中糖分中位)、抽苔耐性強
モノエースS	kaweJ338	てんさい 輸 第27号	(1988)		西ドイツ	一代雑育種法	単胚、糖分型、抽苔耐性強
メガエース	kaweJ537	てんさい 北海道交 第28号	(1988)		西ドイツ	一代雑育種法	単胚、中間型(根重多、根中糖分中位)、抽苔耐性強
モノホワイト*	北海 54号	てんさい 北海道交 第29号 てんさい農林交14号 第2345号	(1989)		北海道農試	一代雑育種法	単胚、糖分型、良質
エ マ	HT-1	てんさい 輸 第30号	(1990)		スウェーデン	一代雑育種法	単胚、糖分型、そう根圃場抵抗性
リゾール	SES IR2	てんさい 輸 第31号	(1990)		ベルギー	一代雑育種法	単胚、中間型(根重多、根中糖分やや中位)、そう根圃場抵抗性
リゾホート	H4612	てんさい 輸 第32号	(1991)		オランダ	一代雑育種法	単胚、中間型(根重多、根中糖分やや中位)、そう根圃場抵抗性
メロディー	H114	てんさい 輸 第33号	(1991)		オランダ	一代雑育種法	単胚、高糖分、多収、高品質、抽苔耐性強
ハンナ	HT 3	てんさい 輸 第34号	(1991)		スウェーデン	一代雑育種法	単胚、糖分型、良質
アレグロ	H116	てんさい 輸 第35号	(1993)		オランダ	一代雑育種法	単胚、糖分型、良質

倍数体	胚数性	葉姿	根形	露肩の多少	分枝根の多少	褐斑病耐病性	栽培適地
2倍体	多	直立	長円錐	少	中	強	道南地域の一般低台地帯
2倍体	多	直立	長円錐	少	中	強	道南地域の高台地帯
2倍体	多	直立	長円錐	多	中	強	道南、道央およびその他褐斑病多発地帯
2倍体	多	や開平	短円錐	多	少	弱	根創、天北地帯およびこれに準ずる地帯
3倍体	単	や開平	円錐	多	少	弱	道東、道北などの褐斑病少発地帯およびこれに準ずる地帯
倍数体	単	や直立	短円錐	中	少	弱	根創を除く道東、道北の褐斑病少発地帯、これに準ずる地帯
3倍体	単	開平	円錐	中	少	弱	道東などの褐斑病少発地帯、これに準ずる地帯
3倍体	単	や開平	円錐	少	少	や強	全道一円に適応するが、特に道央および道南における適応性が大きい
3倍体	単	や開張	円錐	少	少	や強	全道一円、特に道央および道南の適応性が大きい
3倍体	単	や開張	円錐	中	少	弱	道東一円
2倍体	単	直立	円錐	中	少	や強	道央、道南の移植栽培、十勝中央地域とこれに類似する地域の直播栽培に適する
3倍体	単	開張	円錐	や少	少	弱	全道
3倍体	単	開張	円錐	や少	少	弱	道東を除く北海道全域
2倍体	単	や開張	円錐	や少	少	弱	上川、留萌を除く道央、根創地方を除く道東ならびに道南地域のうち湿害の恐れのない地帯
3倍体	単	開張	短円錐	中	少	弱	全道一円
2倍体	単	直立	円錐	中	少	や強	十勝中部及びこれに準ずる地帯
2倍体	単	直立	円錐	中	少	中	網走内陸・沿海、十勝山麓及びこれに準ずる地帯
2倍体	単	や開平	円錐	や小	少	弱	北海道一円
3倍体	単	や開平	円錐	少	少	弱	十勝、網走
3倍体	単	や開平	円錐	少	少	弱	十勝中部・山麓、網走内陸・沿海及びこれに準ずる地帯
3倍体	単	や開平	円錐	少	少	弱	道央南部、道南を除く全道一円
3倍体	単	や開平	円錐	や多	少	弱	道央中部・北部、十勝中部、網走内陸部及びこれに準ずる地帯
2倍体	単	直立	や短円錐	や少	少	弱	全道一円
2倍体	単	や直立	短円錐	少	少	弱	全道のそう根病発生地帯
2倍体	単	や直立	円錐	や少	少	中	全道のそう根病発生地帯
2倍体	単	や直立	円錐	中	少	や強	全道のそう根病発生地帯
3倍体	単	や開平	円錐	中	少	弱	十勝、網走及びこれに準ずる地帯
3倍体	単	や開平	円錐	中	少	弱	道央、道南及びこれに準ずる地帯
3倍体	単	や開平	円錐	中	少	弱	北海道一円

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
マイテイ*	北海 62号	てんさい 北海道交 第36号 てんさい農林交15号	(1994)		北海道農試	一代雑育種法	単胚, 中間型(根重多, やや高糖), 抽苔耐性强
サ ラ	H17	てんさい 輪 第37号	(1994)		スウェーデン	一代雑育種法	単胚, 糖分型, 良質
ハ ミ ン グ	H119	てんさい 輪 第38号	(1995)		オランダ	一代雑育種法	単胚, 中間型(根重, 根中糖分中位), 良質
ス ト ー ク	kawaJ039	てんさい 北海道交 第39号	(1995)		西ドイツ	一代雑育種法	単胚, 糖分型, 抽苔耐性强

## 16 はっか

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ほうよう*	北交 8号	はっか 北海道 第1号	1971 (1965)	1978	北海道農試	種間交雑	中生種に属し, 草型は直立型で, 耐 倒伏性が極めて強く, 機械化向, 高 収率, 多収品種である
あやなみ*	北交 12号	はっか 北海道 第2号	1971 (1968)	1984	北海道農試	種間交雑	銹病, 倒伏, 線虫などに強い安定多 収型で, 機械化集団栽培に適す
わせなみ*	北系 J15号	はっか 北海道 第3号	1973		北海道農試	種間交雑	早生短率で耐倒伏, 耐病性で高収, 油率多収型で連作栽培にも適する
さやかぜ*	北系 J16号	はっか 北海道 第4号	1975		北海道農試	倍数体利用 種間交雑	中生の晩で, 高糖分, 多収型品種で あるが耐倒伏性は中程度
ほくと*	北海 J20号	はっか 北海道 第5号	1982		北海道農試	倍数体利用 種間交雑	中生種の晩に属し, 多収型, さび病, 線虫の抵抗性は強いが, 耐倒伏性は 中, 連作適性が高い

## 17 除虫菊

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
わっさむ	26S-6-1	除虫菊 北海道 第1号	1971 (1961)		北海道農試	ケニア導入種からの 雑交繁殖系統	中生, 分枝数が多いため若花数多く 多収, ビレトリン含有率もやや高い

## 18 ラベンダー

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
おかむらさき	遅咲 1-4	ラベンダー 北海道 第1号	1971 (1964)		中央農試	在来種より系統選抜	中生, 花茎極長, 花色やや濃紫, 花 茎収量やや多, 収油率中, 油質良
ようてい	早咲 1-3	ラベンダー 北海道 第2号	1971 (1964)		中央農試	在来種より系統選抜	早生, 花茎やや長, 花色やや淡紫, 花茎収量中, 収油率極高, 油質良
はなもいわ	中咲 2-2	ラベンダー 北海道 第3号	1971 (1967)		中央農試	在来種より系統選抜	中生種, 花茎長中, 花色極淡紫, 花 茎収量多, 収油率低値当初低い

## 19 なたね

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
岩 内	本 第11054号	なたね 北海道 第1号	1972 (1935)	1981	北海道農試	在米種(岩内郡地, 方, 別名, 「丸菜」)	洋種の秋播晩生種, 含油量多く良 質, 冬損に弱い
ハンブルグ1号*	本育 357号	なたね 北海道 第2号	1971 (1937)	1975	北海道農試	「ハンブルグ」から純 系淘汰	洋種の秋播晩生種, 含油量多, 冬損 に強い
タイセツナタネ*	北系 87号	なたね 北海道 第3号	1971 (1961)		北海道農試	「ハンブルグ1号」よ り選出	洋種の秋播晩生種, 耐寒病性强, 良 質多収, 含油率高

倍数体	胚数性	葉姿	根形	露肩の多少	分岐根の多少	褐斑病耐病性	栽培適地
2倍体	単	直立	円錐	や少	少	や弱	北海道一円
3倍体	単	や開平	円錐	や少	少	中	道央、道南、道北、十勝、網走内陸部（抽苔に対する懸念のない地帯）
3倍体	単	や開平	円錐	や少	少	弱	北海道一円
3倍体	単	や開平	や短円	や少	少	弱	北海道一円

注) ○印をつけた品種の特性は「昭和52年度 種苗特性分類調査報告書〜ん菜、さとうきび」昭和53年3月、甘味資源振興会、よりとった。したがって、品種決定時（農業試験会議成續書）の記載とやや異なる。その他の品種についても、男沢（十勝農試）が前出「〜分類調査報告書」の分類基準によって訂正した形質がある。

和洋種別	花色	茎の			葉の						さび病耐病性	耐倒伏性	栽培適地
		形	色	毛茸の多少	形	葉脈の色	葉緑	着生状態	葉柄の長短	葉色			
和種	中	四角柱状	赤紫	無	旋紡錘	明緑	鋸歯	中	短	緑	や強	強	全道の薄荷栽培地帯
和種	濃	四角柱状	赤紫	少	や旋紡錘	淡赤紫	鈍鋸歯	垂	短	濃緑	強	強	全道の和種薄荷栽培地帯
和種	濃	四角柱状	淡赤紫	少	皮針		鈍鋸歯	垂	中	淡緑	強	や強	全道の和種薄荷栽培地帯
和種	濃	四角柱状	赤紫	少	紡錘		鋸歯	垂	短	緑	強	中	全道の和種薄荷栽培地帯
和種	淡紫	四角柱状	淡赤紫	少	長卵形	淡緑	鋸歯	垂	中	緑	強	中	全道の和種薄荷栽培地帯

草姿	毛茸の多少	葉の		舌状花の				管状花の直径	栽培適地
		形	色	数	長さ	幅	着生密度		
叢生	や多	や広	白緑	や多 24枚	並 17.2□	や狭 6□		並 19□	全道の除虫菊栽培地帯

注) 「北海1号」対比

花茎の			花色	花序の長短	栽培適地
姿	色	硬軟			
半平伏先端曲	緑	や硬	や濃紫	中	現在栽培されている各地
や直立	淡緑	や硬	や淡紫	長	現在栽培されている各地
や直立	淡緑	や硬	極淡紫	中	現在栽培されている各地

和洋種の別	春秋の別	草姿	葉色	花色	粒の		冬枯歩合	栽培適地
					大	小		
洋種	秋	IV型	濃緑	黄	大	黒褐	21.5	北海道中部以南の気候温暖な地帯に適する
洋種	秋	IV型	淡緑色	黄	大	黒褐	24.8	北海道東部、北部の豪雪極寒冷地帯を除く各地に適す
洋種	秋	IV型	濃緑	黄	大	黒	17.8	冬枯多発地帯、菌核病多発地帯主として道南

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
イワオナタネ*	MR 1号	なたね 北海道 第4号	1971 (1961)		北海道農試	「岩内」より選抜	洋種の秋播晩生種、強稈、耐寒耐病性強、多収、含油量多
キザキノナタネ*	キザキノ ナタネ	なたね 移 第5号 なたね農林47号	(1992)		東北農試	「東北74号」× 「Rapora」	中晩生種、多収、無エルシン酸、耐倒伏性強

## 20 ひまわり

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ノースクイーン*	北交 2号	ひまわり 北海道交 第1号 ひまわり農林 第1号	(1994)		北海道農試	「ADY-4」×「ADK-4」	早生、多収、含油率がやや低い

## III 果 樹

### 21 りんご

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
祝	American Summer Pearmain	りんご 北海道輸 第1号	1972 (1924)		米国原産	両親不明	中生種としては品質良く、樹体も強健、生理的落果が多い
旭	McIntosh Red	りんご 北海道輸 第2号	1972 (1924)		カナダ(オンタリオ州)	偶発実生	結果早く年々豊産であるが、老衰は割合早く、30年を過ぎると減収傾向
紅 玉	Jonathan	りんご 北海道輸 第3号	1972 (1924)		米国(ニューヨーク州)	エソパススピツェンブルグの実生	結果年齢到達早く豊産、独特の風味で品質がよい
賜 玉 (デリシャス)	Delicious	りんご 北海道輸 第4号	1972		米国(アイオワ州)	偶発実生	食味は良いが、着色は良くない。結果年齢到達おそく生産力は高くない
黄 冠 (ゴールデンデリシャス)	Golden Delicious	りんご 北海道輸 第5号	1972		米国(ウェストバージニア州)	偶発実生	結果年齢到達早く豊産性、無袋では果面の皺が多い
印 度		りんご 北海道輸 第6号	1972	1984	青 森 県	白龍の偶発実生と推定	果汁少なく、甘味強い独特な味、隔年結果性強い
タイズマンレッド	Tydemans Red	りんご 北海道輸 第7号	1972 (1967)	1987	英国(イーストモーリング研)	「旭」×「ウォーセスターペアーメン」	早生種としては品質は良い、収穫前の落果がやや多い
早 生 旭	Early McIntosh	127	1973		米国(ニューヨーク農試)	「貴魅」×「旭」	樹勢強健で、早生種としては品質優良、隔年結果性が強い
レッドゴールド	Redgold	128	1973		米国(ワシントン州)	「ゴールデンデリシャス」×「リチャードデリシャス」	結果年齢到達が早く、豊産性で貯蔵性は劣るが、風味良好である
陸 奥		129	1973		青 森 県 りんご試	「ゴールデンデリシャス」×「印度」	3倍体であるため受粉樹に用いられない。隔年結果性やや強い
ふ じ	東北 7号	130	1973		東北農試	「国光」×「デリシャス」	「デリシャス」に比べ密実の落果少なく豊産性、食味良好で貯蔵品種として優
スターキング デリシャス	Starking Delicious	131	1973		米国(ニュージャージー州)	「デリシャス」の枝変わり	果実の外観食味とも優れるが、結果年齢到達おそく、生産力高くない
リチャード デリシャス	Richared Delicious	132	1793		米国(ワシントン州)	「デリシャス」の枝変わり	果実の外観食味とも優れるが、結果年齢到達遅く、生産力高くない
ハックナイン	HAC9	りんご 北海道 第8号	1985		中央農試	「ふじ」×「つがる」	結果年齢到達早く、豊産で貯蔵性高い、3倍体品種であり、花粉の発芽率は低い
き た か み*	盛岡 15号	りんご準 第7号	1986		農水省果樹 試盛岡支場	「京北2号」×「レッドゴールド」	結果樹齢が早く、豊産、食味良
つ が る	青り 2号	りんご準 第8号	1986		青 森 県 りんご試	「ゴールデンデリシャス」×(不明)	結果樹齢到達が早く、豊産、食味良
ノースクイーン	HAC4	りんご北海道 第9号 第1864号	(1987)		中央農試	「ふじ」×「つがる」	結果年齢到達が早く、生産性高く、食味良
ニュージョナ ゴールド	ニュージョナ ゴールド	りんご準 第9号 第63号	(1988)		福島天香園	「ジョナゴールド」の 枝変わり	結果年齢到達が早く、豊産性、食味良



和洋種の別	春秋の別	草姿	葉色	花色	粒の		冬枯歩合	栽培適地
					大	小		
洋種	秋	IV型	濃緑	黄	中	黒	21.8	倒伏し易い地帯、多肥栽培に適し道南の菌柱病多発地帯
洋種	秋	III型	濃緑	黄	や大	黒	7.7	北海道一円

茎長	茎の		葉の				葉緑の		筒状花の向き	種子の			耐倒伏性	栽培適地
	緑色程度	毛の多少	形	色	面の粗さ	毛の多少	鋸葉の多少	揃い		色	斑紋	形		
中	淡	多	心臟形	淡緑	少	中	中	不規則	横向	黒	黒	長卵形	や強	北海道一円

樹勢	樹姿	収量	熟期	貯蔵性	果形	果実の大きさ	果皮色	肉質	風味	栽培適地
強健	や直立	中	8月下~9月上・中	低	長円~楕円形	160~200g	黄緑地に紅褐の縞	ち密	果汁多く微酸、甘味に富み、味優	全道一円
頗る強健 発育旺盛	開張、枝下垂せず	多	9月下	中	円~楕円形	180~220g	緑黄地に濃紅色	頗るち密	最初酸味強いが漸次甘味増し、味優	全道一円
中	開張しやすい	多	10月中	稍高	円~やや長円	160~230g	滴面鮮紅色	ち密	果汁やや多く、酸味強いが味優	全道一円
強健、発育旺盛	結実後開張	中	10月下	稍高	長円~卵円錐	200~300g	緑黄地に暗紅の縞	ち密	果汁多く甘味芳香有、味秀	全道一円
強健、発育旺盛	半開張	多	10月下	高	長卵~長円形	200~300g	鮮黄色	ち密極めて良	果汁稍多、甘酸適和、芳香有、味秀	全道一円
強健	結実後開張	多	10月下~11月下	高	長円で頂部円錐	200~300g	緑、黄緑地に淡赤褐色	ち密甚だ堅い	果汁非常に少く芳香強く、酸味なく甘味強、味良	道央以南
強健	や開張	中	9月上~9月中	低	楕円形	180~200g	全面淡紅色、陽向面濃紅色	ち密	果汁多く、芳香有、味有	全道一円
強健	半開張	中	8月中~下	低	扁円(円錐)	160~200g	黄緑地に褐紅	ち密で軟	果汁多く、やや酸多いが味優	全道一円
強健	や開張	多	10月上~中	中	円	200~250g	全面鮮紅	粗	果汁多く、甘味強く、微酸、味優	全道一円
強健	半開張	中	10月下	高	長円~円	350~400g	黄緑~黄	や粗雑	微酸、甘味も有、2月以降味芳	全道一円
強健	開張	多	10月下~11月上	高	円~長円	250~300g	黄緑又は黄の地に暗紅縞	黄白ち密	果汁多く、微酸、甘味多く味秀	全道一円
強健旺盛	結実後開張	中	10月下	や高	長円~卵円錐	200~300g	滴面濃暗紅	ち密	果汁多く、甘味芳香有、味芳	全道一円
極旺盛	結実後開張	中	10月下	や高	長円~卵円錐	250~300g	全面鮮紅	ち密	果汁多く甘味芳香有、味芳	全道一円
強健発育旺盛	開張	多	10月下	高	長円	250~300g	黄緑地に赤色の縞	黄白ち密	果汁多く、甘味強く、微酸、味優	道央以南
中	開張	多	9月下~10月上	中	長円	230~250g	黄緑色地に濃赤の太い縞	黄白ち密	果汁多く、甘味に富み、酸味少なく、食味良	全道一円
や強	開張	多	9月中~下	低	扁円	150~200g	全面淡赤	や粗	果汁多く、甘味、酸味とも中、食味良	全道一円
中	中間	多	9月下	や高	円	250~300g	黄緑の地に淡紅~紅色	中位	甘味と酸味が適度、果汁多く芳香有、食味良	北海道一円
中	や開張	多	10月中~下旬	低	円	280~340g	赤縞	や粗	甘味と酸味が濃厚で、果汁多く、食味良	北海道一円

22 りんご台木

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
E M VII	M7	33	1972		英国(イーストモーリング研)	在来系統を分類し命名	各樹品種とも接木後の親和性良好で、半わい性となり「マルバ」台の2倍程度密植可
E M IX	M9	34	1972		英国(イーストモーリング研)	在来系統を分類し命名	各樹品種との親和性は良好で、わい性となり「マルバ」台の3~4倍程度の密植可
M M 111		35	1972		英国(イーストモーリング研、ジョンインネス試)	「ノ・ザーンスパイ」×「M793」	各樹品種とも接木後の親和性良好で、「マルバ」台程度の生育をし、樹体強健

23 なし

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
身 不 知		なし 北海道 第1号	1972 (1936)		不 明	余市地方で実生から発見	晩生種、果実は洋ナシ形、370g内外、収量は多、品質はやや不良
長 十 郎		なし 北海道 第2号	1972 (1924)		神奈川 県 当麻長十郎	1895年ころ偶然実生として発見	晩生種、果実はやや扁円形、280g内外、収量は多、品質は良
パートレット	Bartlett	なし 北海道輸 第3号	1972 (1924)		イギリス原産	不明	中生種、果実は円すい形、250g内外、収量は多、品質は良
ブランデーワイン	Brandy wine	なし 北海道輸 第4号	1972 (1924)		不 明	不明	中生種、果実は短円すい形、180g内外、収量は中、品質が最良
日 面 紅	Flemish Beauty	なし 北海道輸 第5号	1972 (1924)		ベルギー原産	不明	中生種、果実は円すい形、300g内外、収量は多、品質は良
ウインターネリス	Winter Nelis	なし 北海道輸 第6号	1972 (1924)	1987	イギリス原産	不明	晩生種、果実は短円すい形、150g内外、収量は中、品質は良
初 日		なし 北海道 第7号	1972 (1957)	1987	北海道農試	「長十郎」×「身不知」	早生種、果実は短紡錘形、180g内外、収量は多、品質はやや良
甘 玉		なし 北海道 第8号	1972 (1957)	1987	北海道農試	「長十郎」×「身不知」	中生種、果実は円形、250g内外、収量は中、無袋不可、品質はやや良
北 洋		なし 北海道 第9号	1972 (1957)		北海道農試	「二十世紀」×「長十郎」	晩生種、果実はやや不整な扁円形、250g内外、収量は多、品質は良
北 星*	北農 1号	なし 北海道 第10号 ナシ農林5号	1972 (1966)		北海道農試	「身不知」×「二十世紀」	中生種、果実は紡錘形、250g内外、収量は中程度、品質は良
北 都*	北農 2号	なし 北海道 第11号	1972 (1968)		北海道農試	「二十世紀」×「身不知」	中生種、果実は短紡錘形、230g内外、収量は中程度、品質は最良
北 甘*	14号	なし 北海道 第12号 なし農林9号	1980		北海道農試	「甘玉」×「二十世紀」	早生の晩、果実は円形で約240g、収量中位、食味良、無袋不可
北 登*	77号	なし 北海道 第13号 なし農林10号	1980		北海道農試	「身不知」×「長十郎」	早生種、果実は不整な短扁円形、290g内外、多収性、甘味は強く食味良
北 新	67-17-22	なし北海道 第14号 なし農林17号	(1995)		北海道農試	「新世紀」×「北甘」	早生の晩、果実は扁円形、326g内外、多収性、糖度高く良食味

24 ク リ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
オオタムボロン	道南 1号	その他北海道 第17号 第3226号	(1990)		道南農試	在来種「銀太郎」より系統選抜	早生、多収、良食味
オオタムコロン	道南 2号	その他北海道 第18号 第3227号	(1990)		道南農試	在来種「銀太郎」より系統選抜	極早生、多収、極良食味

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	貯蔵性	果形	果実の大きさ	果皮色	肉質	風味	栽培適地
半わい性	中	やや開張	中	やや早まる	平常	平常	平常	やまさる	平常	や韌度上る	現在のりんご産地全道一円
半わい性	中	開張	小	早まる	やや劣る	平常	平常	やまさる	平常	極度上る	現在のりんご産地全道一円
標準	旺盛	中	多	平常	平常	平常	平常	平常	平常	平常	現在のりんご産地全道一円

樹勢	樹姿	収量	収穫期	追熟期間	貯蔵性	果形	果実の大きさ	果皮色	肉質	風味	品質	栽培適地
強	開張	多	10月中・下		中	円錐	370g内外	緑黄	粗	や良	や良	本道独特の品種で耐寒性強く、本道一円に栽培できるが、品質的経済的栽培は道央以南の地域
中	直立	多	10月下		高	やや扁円	280g内外	淡褐	や粗	良	良	晩生種で耐寒性に弱いことから、道央部以南の地域
強	開張	多	9月上・中	7~10日	短	円錐	250g内外	橙黄	密軟	良	良	耐寒性は「身不知」より弱い。道央以南で最低気温が25~26℃以下にならない地域
強	開張	中	9月下	2週間前後	短	短円錐	180g内外	黄緑	密軟	良	最良	耐寒性は「身不知」に近い。道央以南の地域
強	開張	多	10月上	2週間前後	短	円錐	300g内外	黄緑	密軟	良	良	耐寒性は強く「身不知」に近いが、経済栽培は道央以南の地域
中	やや開張	中	10月下	2~3ヵ月	短	短円錐	150g内外	暗緑	や粗軟	良	良	耐寒性は強く「身不知」に近い。道央以南の地域
強	やや開張	多	9月中		低	短紡錘	180g内外	緑褐	や密	良	良	耐寒性が強く早生種であることから、道央以北の適品種のなかった地域の自家用栽培に適する
強	開張	中	9月下 10月上		中	円	250g内外	淡緑黄	や粗	良	良	耐寒性の点からみて、胆根以北の最低気温が-27~-28℃以下にならない地域
強	開張	多	10月下		高	不整な扁円	280g内外	淡褐	密	良	良	空知以南。胆根以北の中部地方に適する。黒星病の被害少なく、粗放栽培に耐えるので道南の一部地方にも適する
中	開張	中	9月下		中	紡錘	約250g内外	緑黄	や粗	良	良	「長十郎」の栽培されている地域
強	開張	中	9月下		中	短紡錘	約230g内外	白緑黄	密	良	最良	中生種「身不知」の栽培されている地域
強	やや開張	多	9月中 ~下		低	不整な短楕円	290g内外	黄緑褐	や粗	良	中	耐寒性強く、早生種であり、道央以北(石狩、空知、上川、網走)の地域
強	やや開張	中	9月下		中	円	240g内外	黄緑	や密	良	良	耐寒性の点からみて道央以南(渡島、後志、石狩、胆根)の地域
強	中間	多	9月下 ~10月上		低	扁円	326g内外	黄緑	や密	良	良	道内日本なし栽培地帯

樹勢	樹姿	枝 梢			葉の 大小	きゅう果			果 実				果肉 の色	肉質	甘味	香気	栽培適地
		粗密	長さ	太さ		形	大きさ	肉の厚さ	形	大きさ	色	剥皮の 難易					
強	やや開張	密	中	太	大	扁球	中	中	円	小	褐	中	黄	粉質	中	中	道南(渡島、檜山)
強	中	密	中	中	中	扁球	小	中	円	小	淡褐	中	黄	粉質	中	中	道南(渡島、檜山)

## 25 ぶどう

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
キャンベルアーリー (カメルズアーリー)	Campbell Early	ぶどう 北海道輪 第1号	1972 (1924)		米国(オハ イオ州)	「ムーアアーリー」の 実生	黒色種。果房果粒共に大きい。極めて 豊産性である
デラウェア	Delaware	ぶどう 北海道輪 第2号	1972 (1924)		米国(オハ イオ州)	偶発実生, 1849年発 表	赤色種。果房果粒共に小さい。甘味 多い。耐寒性はやや劣る
ナイヤガラ	Niagara	ぶどう 北海道輪 第3号	1972 (1924)		米国(ニュー ヨーク州)	「コンコード」× 「キャサディ」	白色種。豊産性で甘味が多いが、熟 期遅い。風臭強い
ブライトン	Brighton	ぶどう 北海道輪 第4号	1972 (1924)	1984	米国(ニュー ヨーク州)	「ダイアナハンブル グ」×「コンコード」	赤色種。甘味強く品質は良いが、自 家不受精のため結実不安定
バッファロー	Buffalo	ぶどう 北海道輪 第5号	1972 (1966)		米国(ニュー ヨーク良試)	「ハーバート」×「ワ トキンス」	黒色種。糖酸共に多く、独特の香り がある。耐寒性はやや劣る
ポートランド	Portland	133	1973		米国(ニュー ヨーク良試)	「チャンピオン」× 「ルデー」	白色種
フレドニア	Fredonia	134	1973		米国(ニュー ヨーク良試)	「チャンピオン」× 「ルシール」	黒色種。熟期やや早く、酸味やや少 ない。脱粒し易い
ミュラートルガウ	Muller Thurgau	ぶどう 単輪 第3号	1981		ド イ ツ (ス イ ス)	「リースリング」× 「ジルバーナー」	白ワイン用醸造専用品種。耐寒性は やや劣る
セイベル5279	Seibel5279	ぶどう 単輪 第4号	1981		フ ラ ンス	「セイベル788」×「セ イベル29」	白ワイン用醸造専用品種。花振りや や多い
セイベル13053	Seibel13053	ぶどう 単輪 第5号	1981		フ ラ ンス	「セイベル7042」× 「セイベル5409」	赤ワイン用醸造専用品種
ツバイグルト レ ー ベ	Zweigelt rebe	ぶどう 単輪 第6号	1981		オーストリア	「ブラウフレンキッ シュ」×「サンローラ ン」	赤ワイン用醸造専用品種
ノースレッド	安芸津 4号	ブドウ移 第6号 第3117号	(1991)		農水省果樹 試験場 安芸津支場	「セネカ」×「キャン ベルアーリー」	赤色種。糖度高い、特殊な香りを有 する、食味良
ノースブラック	安芸津 4号	ブドウ移 第7号 第3457号	(1992)		農水省果樹 試験場 安芸津支場	「セネカ」×「キャン ベルアーリー」	黒色種。糖度高く酸味少、フォクシー 香

## 26 オウトウ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
日 の 出		その他 北海道 第10号	1972 (1922)		イギリス原産	不明	極早生。果実は紫黒色でやや小さい。 多汁であるが甘味はやや乏しい
北 光 (水 門)		その他 北海道 第11号	1972 (1922)		小樽市で発見	偶発実生, 1912年(明 44)	中生種。果実は中位で軟らかく、多 汁である。裂香が少ない
ナポレオン		その他 北海道輪 第12号	1972 (1922)		欧州在来	不明, 1700以前に発 表	晩生種。果実は大きく肉質はやや硬 い。甘味多く、品質は良い、加工適 性有
佐 藤 錦		135	1973		山 形 県 佐藤栄助	「ナポレオン」×「黄 玉」	中生種。果実は黄赤色で中位、甘味 多く、品質は良い
南 陽	南 陽	おうと 単北海道 第2号	(1988)		山形県良試 置賜分場	胚培養	晩生種。果実は大きく甘味が多い、 極良食味

## 27 ウ メ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
豊 後		その他 北海道 第13号	1971		不 明	不明	耐寒性が強く、大果で果肉が厚く加 工向きだが梅干に不適、耐病虫性弱
大 野 豊 後		153	1975		道南良試	大野町の豊後梅の在 来種中より選抜	耐寒性も強く、結実期早く、豊産性 で果実小さく梅干に向くが、樹勢弱 く樹形維持に難点がある

樹勢	収量	熟期	果房形	着粒の疎密	果粒形	果房の大きさ	果粒の大きさ	果皮色	肉質	風味	その他	栽培適地
中	極多	9月下～10月上	長円錐	密	円	大	や大	黒	軟	酸や多		道央南部以南
強	中	10月上	円筒	や密	円	小	小	赤褐	軟	酸味少 甘味多	GA処理により種なし化。熟期促進化可	道央南部以南
強	多	10月上～中	円錐	密	円	中	中	黄緑	軟	甘味多 酸味強		道央南部以南
強	少	10月上	長円錐	中	円	中	中	暗赤	軟	甘味多	自家不受精	道央南部以南
や強	中	9月下～10月上	円錐	や疎	円	中	中	紫黒	軟	糖酸 芳香	GA処理により種なし化。熟期促進化可	道央南部以南
中	中	9月中～下	円筒	中	円	中	中	緑黄	軟	甘味多		道央南部以南
強～中	中	9月下	短円筒	密	扁円	中	中	青黒	軟	酸や少		
中～や弱	中	10月上	円筒	密	短楕円	中	小	黄緑	軟			空知以南およびそれに準ずる地帯
や強	中	9月下～10月上	円筒	中	扁円	や小	小	黄白	軟			上川以南およびそれに準ずる地帯
中	中	9月下～10月上	円錐	中	円	小	小	黒	軟			上川以南およびそれに準ずる地帯
中	中	10月上	円錐	極密	円	中	小	黒紫	軟			空知以南およびそれに準ずる地帯
や強	多	9月中～下	円筒	中～密	円	中	中	紫赤～ 暗赤色	軟	甘味多 香		道央南部以南
中	中	9月中～下	円筒	密	円	や大	や大	黒	中	甘味多, フック シ香		道央南部以南

樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の大きさ	果皮色	肉色	肉質	風味	品質	裂果	栽培適地
中	直立	中	6月下	心臓	中	紫黒	紫赤	軟	甘味中 微酸	中	中	道央以南
強	半開張	多	7月上	心臓	中	赤帯黄	淡黄	軟	甘酸中 位	中	少	道央以南
強	直立	多	7月中～下	長心臓	大	赤帯淡 黄	黄白	やや硬	甘味多	上	中	道央以南
強	直立	多	7月初	短心臓	中	黄赤	黄白	軟	甘味多	上	中	道央以南
や強	直立	多	7月上	短心臓	極大	赤帯淡 黄	黄白	や硬	甘味多	上	少	道南、道央

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	自家結実性	収穫期	貯蔵性	果形	果実の大きさ	果皮色	風味	その他	栽培適地
大	強	や直立	や多	有	8月上	有	円～ 長円	大(30 ～60g)	黄緑地暗 紅斑	中	結合線不明不整果 多 玉樹不良	道南、道央
小	弱	開張	多	有	8月上		円	小～中	黄緑	良		道央、道南

## 28 スモモ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ビューティ		136	1973 (1925)		米 国	不明	極早生、豊産なるも小果で食味不良、日焼多、黒斑病弱、貯蔵性劣る
大石早生		137	1973 (1952)		福島県大石 俊雄氏園	フォーモサ実生(♂ ビューティ)	極早生、豊産なるも、小果で食味不良、日焼少きも黒斑病に弱い

## 29 モモ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
倉方早生		138	1973 (1951)		東 京 都 倉方英草氏園	「長生種(タスカン× 白桃)」×「実生種」	外観美麗、食味多甘、貯蔵生良好なるも肉質や硬で自家結実性乏しい
白 鳳		139	1973 (1931)		神奈川県長 試	「白桃」×「橘早生」	食味、色沢良好なるも、中果、中産、弱勢、耐病性弱、等で栽培管理注意
大 久 保		140	1973 (1925)		岡山県大久 保重五郎氏園	白桃実生	果実外観優れ、貯蔵輸送性良好なるも、弱矮開張下垂性と食味淡白
砂子早生		141	1973 (1958)		岡山県上村 輝男氏園	偶発実生	大果、外観美麗、食味良好、貯蔵性良好なるも、自家結実性なし

## 30 カーランツ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ロンドン マーケット	London Market	142	1973 (1965)		不明(イ ギリスで古 くから栽培)	不明	樹は大きく開張性、ごく豊産、熟期7月中～下旬、果実は赤く大きい
ローズオブ ホーランド	Rose of Holland	143	1973 (1965)		不明(フ ランスで古 くから栽培)	不明	樹は大きく直立性、熟期7月下旬～8月上旬、ごく豊産、果実の大きさ中～大で濃赤色
レッドレーク	RedLake	144	1973 (1965)		アメリ カ(ミネ ソタ 試)	不明	樹の大きさは中、開張性、収量中、熟期7月中旬、果実は大きく赤い
ボスクープ ジャイアント	Boskoop Giant	145	1973 (1965)		オランダ	不明	樹は大きく開張性、収量中位、熟期7月下旬～8月上旬、果実は黒く大きい
レッドダッチ	RedDutch		1973		不明(ヨ ロッパ起 源)	不明	樹は大きく、直立性、豊産性、熟期は7月中～下旬、果実の大きさは中で赤色

## 31 ハイブッシュブルーベリー

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ジュ ー ン	June	146	1974		米 国	「(ブルックス)× (ラッセル)」×「ルー ベル」	早生種、樹姿はやや開張性で大きく、収量は多い、凍害に強い
ランコカス	Rancocas	147	1974		米 国	「(ブルックス)× (ラッセル)」×「ルー ベル」	中生種、樹姿はやや開張で大きく、収量は多い。凍害に強い
ウェイマウス	Weymouth	148	1974		米 国	「ジュ ー ン」×「キャ ポット」	早生種、樹姿は開張性で小さく、収量は多い。凍害に強い
ハーバート	Herbert	149	1974		米 国	「スタンリー」× (ジャージー)×(パ イオニヤ)	中生種、樹姿は開張性で大きく、収量は多い。凍害にやや強い

## 32 グーズベリー

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ピックスウェル	Pixwell	158	1976		米 国	「リベス・ミズリエ ンシス」×「オレゴン チャンピオン」	熟期7月下旬、果実は大きさ中位で円形、紫紅色、糖度たかい、ごく多収

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	自家結実性	熟期	貯蔵性	果形	果実の大きさ	果皮色	肉色	肉質	風味	その他	栽培適地
や少	良好	直立 ~開張	極多	有	8月中 ~下	劣	円錐 心臓	小 (100g)	鮮紅	黄色 ~淡紅	柔軟、 多汁	少甘、 少酸	黒斑弱 日焼多	道南、道央、道東
や大	強	直立 ~開張	多	不良	8月中 ~下	劣	円錐 心臓	小 (100g)	鮮紅	黄	柔軟	少甘、 極少数		道南、道央、道東

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の大きさ	果皮色	肉色	肉質	核の硬 粘	風味	品質	その他	栽培適地
や大	強	や開張	多	8月下	整円	中の小 (150g)	果頂紅 ほかし	白色	ち密	粘核	多甘少 酸良	良好	耐病性强、核 割少、核周粉 色	渡島、桧山、胆振、 日高 (中西部)
や大	中~ や弱	開張	中	9月上 ~中	円~ 長円	中 (180g)	乳白色 紅ほかし	白色	ち密 や硬	半隠粘	多甘極 少数	良好	耐病性や弱核 周淡紅、剥皮 容易	渡島、桧山、胆振、 日高 (中西部)
中~小	弱	極開張	多	9月中	円	大 (260g)	乳白紅 斑	白色	や粗	隠核	甘酸共 や淡白	や良	日焼多、核周 淡紅穿孔病弱	渡島、桧山、胆振、 日高 (中西部)
大	や強	開張	多	8月下	楕円 ~円	大 (250g)	乳白色 紅ほかし	白色	ち密織 維や少	半隠粘	多甘少 酸	良好	耐病性强、核 割少、剥皮容 易	渡島、桧山、胆振、 日高 (中西部)

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果房長	果形	果実の大きさ	果皮色	耐寒性	栽培適地
大	強	開張	ごく多	7月中下	や長	円	大	赤	強	全道
大	強	直立	ごく多	7月下 ~8月上	長	円	中	濃赤	強	全道
中	中	開張	中	7月中	や長	円	大	赤	強	全道
大	強	開張	中	7月下 ~8月上	短	円	大	黒	強	全道
大	中	や直立	多	7月中 ~下	中	円	中	赤	強	全道

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の大きさ	果皮色	風味	耐寒性	栽培適地
大	中	や開張	多	7月下 ~8月下	や扁円	中	濃藍	甘味中位	強	道央以南
大	中	や開張	多	8月上 ~8月末	や扁円	中	濃藍	甘味多	強	道央以南
小	弱	開張	多	7月下 ~8月中	や扁円	や大	濃藍	甘味多	強	道央以南
大	中	開張	多	8月中 ~9月中	扁円	大	濃藍	甘味中位	や強	道央以南

樹の大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の大きさ	果皮色	品質	耐寒性	栽培適地
大	強	や開張	ごく多	7月下	円	中	紫紅	良	強	全道、土壤適応性は広いが排水の良い 粘質がかった土壌が適す

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
グレンダール	Glendale	159	1976		米 国	「グロスラリア・ミズリエンシス」×「栽培種の子孫」	熟期7月下旬、果実は大きさ中位で円形、紫紅色、糖度高い、ごく多収
オレゴンチャンピオン	Oregon Champion	160	1976		米 国	「クラウン・ポップ」×「ホートン」	熟期7月下旬、果実は大きさ中位で円形、緑黄色、糖度高い
ホートン	Houghton	161	1976		米 国	アメリカ種×ヨーロッパ種	熟期7月下旬、果実はやや小さく円形、暗赤色、糖度高い、多収
赤実大玉			1968		不 明	不明	熟期7月下旬、果実は大で長円形、暗赤色、糖度は中位、多収、ウドンコ病に弱い、ヨーロッパ系品種
ドイツ大玉	White-smith		1968		不 明	不明(英国起源)	熟期7月中旬、果実は大で長円形、緑白色、収量は中位、ウドンコ病に弱い、ヨーロッパ系品種

### 33 キイチゴ(ラズベリー)

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
レーザー	Latham	その他北海道 14号	1972 (1940)		米 国	「キング」×「ロードン」	樹は大きく、樹勢強、豊産性、熟期は7月下旬～8月下旬、果実は円形で鮮紅色
ゴールデン・クイーン	Golden Queen	その他北海道 15号	1972 (1940)		米 国	「カスバート」の突然変異種	樹は大きく、樹勢は中位、やや豊産性、熟期は7月下旬～8月下旬、果実はだ円形で鮮黄色
カスバート	Cuthbert		1974		米 国	偶発発生	樹は大きく、樹勢は強、熟期は7月下旬～8月下旬、果実はだ円形で濃赤色
フレミング・ジャイアント	Flaming Giant		1974		米 国	野生赤色間の交雑発生	樹の大きさと樹勢は中位、多収性、熟期は7月中旬～8月中旬、果実は短だ円形で鮮紅色
セプテンバー	September		1974		米 国	「マーシー」×「レーニア」	樹の大きさと樹勢は中位、豊産性、二期成りで熟期は7月中旬～8月中旬と9月中旬～降霜まで、果実は短だ円形で鮮紅色
チルコチン	チルコチン	ラズベリー単輪 第1号	(1992)		カナダ	「サムナー」×「ニューバーグ」	中生種、多収、耐寒性强、酸味が強い
ヌートカ	ヌートカ	ラズベリー単輪 第2号	(1992)		カナダ	「カーニバル」×「ウイラーメット」	中生種、多収、耐寒性强、食味良
スキーナ	スキーナ	ラズベリー単輪 第3号	(1992)		カナダ	「レクトン」×「SHR 16010/52」	中生種、耐寒性强、多収

### 34 ハスカップ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ゆうふつ	HC 1	その他北海道 第16号 第3033号	(1990)		中央農試	在来種からの系統選抜	早生種、一果重大、多収



樹の 大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の 大きさ	果皮色	品質	耐寒性	栽培適地
大	強	や開張	多	7月下	円	中	紫紅	良	強	全道、土壌適応性は広いが排水の良い粘質がかった土壌が適す
中	や強	や開張	中	7月下	円	中	緑黄	良	強	全道、土壌適応性は広いが排水の良い粘質がかった土壌が適す
中	や強	や開張	多	7月下	円	や小	暗赤	良	強	全道、土壌適応性は広いが排水の良い粘質がかった土壌が適す
小	中	開張	多	7月下	長円	大	暗赤	良	強	全道、土壌適応性は広いが排水の良い粘質がかった土壌が適す
小	中	開張	中	7月中	長円	大	緑白	良	強	全道、土壌適応性は広いが排水の良い粘質がかった土壌が適す

樹の 大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の 大きさ	果皮色	品質	耐寒性	栽培適地
大	強	上向開張	多	7月下～ 8月下	円	中	鮮紅	中	強	有機質に富んだ砂壤土が適す
大	中	上向開張	多	7月下～ 8月下	だ円	小	鮮黄	上	強	有機質に富んだ砂壤土が適す
大	強	上向開張	中	7月下～ 8月下	だ円	小	濃赤	中	強	有機質に富んだ砂壤土が適す
中	中	上向開張	多	7月中～ 8月中	短だ円	中	鮮紅	上	強	有機質に富んだ砂壤土が適す
中	中	上向開張	多	7月中～ 8月中 採種期	短だ円	中	鮮紅	中	強	有機質に富んだ砂壤土が適す
中	強	直立開張	多	7月下～ 8月下旬	長円錐	大	鮮紅	上	強	北海道の果樹栽培地帯
中	強	直立開張	多	7月下～ 8月下旬	長円錐	大	暗紅	上	強	北海道の果樹栽培地帯
中	強	直立開張	多	7月下～ 8月下旬	長円錐	大	暗紅	中	強	北海道の果樹栽培地帯

樹の 大きさ	樹勢	樹姿	収量	熟期	果形	果実の 大きさ	果皮色	甘味	酸味	灰色かび 病抵抗性	栽培適地
大	強	開張	多	6月下～ 7月上旬	銚子	大	青黒	少	少	中	北海道一円

## IV 花 卉

## 35 花ユリ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ハゴロモ	交配 2号	花ユリ 北海道 第1号	1972 (1960)	1979	北海道立農試	「あかひらと」×「おくきんぶせん」	開花7月下旬～8月上旬，花色朱紅色，花卉反転，珠芽なく下向咲，切花用
岩内透3号	146号	花ユリ 北海道 第2号	1972 (1964)	1979	北海道立農試	自生「エソスカシユリ」より選抜	開花6月上・中旬，花色鮮紅色，斑点少くコップ上で上向，促成切花用
えぞあか	岩字 7号	花ユリ 北海道 第3号	1972 (1967)	1979	中央農試	「えぞ透」×「千草」	開花期6月中・下旬，花色赤橙色，斑点少，反転少く上向咲，促成切花用
えぞこがね	岩字 16号	花ユリ 北海道 第4号	1972 (1967)	1979	中央農試	「えぞ透」×「透ゆり」 (不明)	開花期6月中・下旬，花色黄橙色，斑点中，上向咲，稍々大輪，促成切花用
岩内黄金	4503	花ユリ 北海道 第5号	1976		中央農試	(3712)×(F系)	開花黄6月下旬～7月上旬，花色濃黄色，斑点少く横向咲，促成切花用
コタンの月	5226	花ユリ 北海道 第6号	1986		中央農試	[4737]×[664]	極遅咲き，草姿良く，花数多い

開花期	草丈	葉数	花色	花形	花序	花梗	宿毛	茎色	木子	珠芽	葉の着生	葉色	葉形	球根の色
月.日 6.10	70 <sup>cm</sup>	78 <sup>枚</sup>	鮮紅	上向	輪生	やや長	少	緑	普通	なし	密	緑	披針形	白
6.10	70	78	鮮紅	上向	輪生	やや長	少	緑	普通	なし	密	緑	披針形	白
6.21	37	93	赤橙	上向	輪生	中	有中	緑	僅かに有	なし	水平		披針形	白
6.20	48	86	黄橙	上向	輪生	中	有中	緑	ほとんどなし	ほとんどなし	垂下		披針形	白
6月下旬 ~7月上旬	35~40	60	濃黄	スカシ 横向	輪生	中	なし	緑	僅かに有	なし	水平		披針形	白
7月下旬	80~90	90~100	鮮黄	上向~ 斜上向		中	微~無	淡褐	多	なし		緑	披針形	白

V 野 菜

36 トマト

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育成場所	特 性						栽 培 適 地
					草勢	熟期	果形	果色	果重	耐病虫性	
あ か ぎ	25	1972	1979	東京シード	強	中	豊円	鮮赤	g 148		全道一円
宝 冠 1 号	26	1972	1979	武蔵野種苗	中	早 ~中	豊円	濃桃	146		全道一円
新 豊 紀	27	1972	1979	ヤマト種苗	中	早 ~中	周円	桃	152		全道一円
豊 緑	28	1972	1979	サカタ種苗	強	中	周円	濃桃	162	F	全道一円
スーパーキング	29	1972	1979	ヤマト種苗	中 ~強	早 ~中	周円	濃桃	177		全道一円
福 寿 2 号	50	1972 (1930)	1979	タケイ種苗	中	早	豊円	濃桃	157		全道一円
ひ か り	51	1972 (1961)	1979	園芸生産研	中	中	豊円	濃桃	172		全道一円
宝 冠 2 号	52	1972 (1963)	1990	武蔵野種苗	中 ~強	早 ~中	豊円	濃桃	200		全道一円
栄 寿	53	1972 (1965)	1979	タケイ種苗	中 ~強	早 ~中	豊円	濃桃	171		全道一円
東 光	54	1972 (1961)		む さ し	中	早 ~中	豊円	濃桃	175		全道一円
強 力 栄 寿	55	1972	1979	タケイ種苗	強	中	豊円	濃桃	200	F.TMV CL	全道一円
強 力 五 光	56	1972	1979	む さ し	強	中	豊円	鮮桃	156	F.CL N	全道一円
強 力 月 光	57	1972	1979	む さ し	強	中	豊円	濃桃	180	F.CLN	全道一円
ウルバーナ	トマト北海道 輸 第 1 号	1972 (1965)	1979	専 入	強	早 ~晩	周円 球 豊満	赤	100	中	全道一円
ファイヤーボール	トマト北海道 輸 第 2 号	1972 (1966)	1979	専 入	強	早	豊満	濃赤	100		全道一円
早生だるま	164	1977	1996	松 永	強	早	豊満	濃赤	70		道央以南
交 1 号	165	1977	1984	北海道農試	強	早	豊満	赤	110		道央以南
れいぎよく	166	1977	1984	長野農試	強	早	豊満	濃赤	120	F	道央以南
KRN-2011	トマト北海道 交 第 3 号	(1995)		麒麟麦酒 北海製缶	中 ~強	中	豊円~ や周円	145	濃赤		全道一円
NDMO51	トマト北海道 準移交第17号	(1995)		日本 デルモンテ	中	中	や縦長 の珠	80	濃赤		全道一円

注1)果重として北農試のデータ(1970年)

2)耐病虫性 F(萎ちょう病)TMV(タバコモザイク病)CL(はかび病)N(根こぶ線出)の略

37 ナ ス

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育成場所	草姿	熟期	分枝	果形	果色	収量	栽 培 適 地
金井新交鈴成	58	1973 (1960)	1979	金 井	開張	早	多	長卵	濃 黒紫	多	全道一円
新 橋 真	59	1973 (1960)	1979	ヤマト種苗	開張	早	多	長卵	濃 黒紫	多	全道一円
郡 真 5 号	60	1973 (1970)	1979	群 馬	や立	早	多	長卵	濃 黒紫	多	全道一円
金 井 早 真	61	1973 (1970)	1979	金 井	立	極早	多	中長	濃 黒紫	多	全道一円

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育成場所	草姿	熟期	分枝	果形	果色	収量	栽 培 適 地
千 両	62	1973		タキイ種苗	半開張	早	多	長卵	漆黒	多	全道一円
長 岡 長	63	1973	1979	タキイ種苗	半開張	極早	多	長	漆黒	多	全道一円

### 38 ピーマン

品 種 名	登録名	決定年	廃止年	育成場所	特 性						栽 培 適 地
					草勢	熟期	分枝性	果形	果重	果肉の厚さ	
緑 王	64	1973 (1963)	1979	む さ し	開張	極早	多	4角長果	g 40	中	全道一円
エ ー ス	65	1973 (1970)		タキイ種苗	開張	極早	多	中獅子	50	中	全道一円
に し き	66	1973 (1970)	1979	園 芸 研	半開	中早	多	長獅子	40	厚	全道一円

### 39 キュウリ

品 種 名	登録名	決定年	廃止年	育成場所	特 性										栽 培 適 地
					草勢	葉の大小	低温伸長性	着果習性	果形	果色	いぼの色	収量	作型		
長日青節成	30	1972	1979	ヤマト種苗	強	大	良	主	長	緑	黒	多	促成用	全道一円	
久留米落合H型	31	1972	1979	久留米原種育成会	強	中	良	主	長	濃緑	黒	多	促成用	全道一円	
夏崎落3号	32	1972	1979	埼玉原種育成会	強	中	良	主	長	濃緑	白	多	露地用	全道一円	
小城節成	41	1973 (1956)	1979	フジイ種苗	強	中	良	主	長	濃緑	黒	中	露地用	全道一円	
翠青2号	42	1973 (1956)	1979	タキイ種苗	強	中	良	主	長	濃緑	黒	多	促成用	全道一円	
ときわ夏節	43	1973 (1963)	1979	サカタ種苗	強	小	中	側	中	濃緑	白	多	露地用	全道一円	
亀交春秋	44	1973 (1964)	1979	渡辺農事	強	大	良	主	長	淡緑	黒	多	抑制用	全道一円	
松のみどり	45	1973 (1965)	1979	日本園芸生産研	強	中	良	主	長	濃緑	黒	多	促成用	全道一円	
長交ときわ	46	1973 (1970)	1979	タキイ種苗	強	中	中	主	長	濃緑	白	多	露地用	全道一円	
さつきみどり	47	1973 (1970)	1979	サカタ種苗	強	小	中	側	長	濃緑	白	多	露地用	全道一円	
みなづき	48	1973 (1970)	1979	カネコ種苗	強	大	良	主	中	濃緑	黒	多	促成用	全道一円	
なつみどり	49	1973 (1970)	1979	神田育種	強	大	中	側	長	濃緑	白	多	露地用	全道一円	

### 40 メロン

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育成場所	分類	草勢	果形	果皮色	果肉色	果重	成熟日数	栽 培 適 地
北海道キング系	67	1973	1979	各 社	ネット	強	長円	灰緑	桃	kg 1.8	45	全道一円
アールス フェボリット	68	1973	1990	各 社	ネット	中	円	灰緑	緑	1.4	55	全道一円
ブ リ ン ス	69	1973 (1967)		サカタ種苗	ノー ネット	強	長円	灰緑	桃	0.6	40	全道一円

## 40 スイカ

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育成場所	分類	草勢	果皮色	果肉色	果重	糖度	成熟日数	栽培適地
大和西瓜	スイカ北海道移第1号	1972	1979	大和農園	縹皮	強	鮮緑条斑	緋赤	kg 6~7	% 11	日 40	全道一円
新三笠	70	1973 (1962)	1979	南部農園	縹皮	強	鮮緑条斑	緋赤	5~6	12	40	全道一円
縹王	71	1973 (1968)		大和農園	縹皮	強	鮮緑条斑	緋赤	5~6	12	40	全道一円
早生金剛	72	1973 (1970)	1979	みかど	縹皮	強	鮮緑条斑	鮮黄	7	11	45	全道一円

## 42 カボチャ

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育成場所	草勢	果形	果皮色	果重	成熟日数	収量	栽培適地
美園アリシャス	73	1973 (1954)	1979	雪印種苗	強~中	ハート型	暗緑	kg 2.6~3.5	55	多	全道一円
芳果青皮	74	1973 (1969)	1979	渡辺菜種	強	扁円	帯灰緑	1.0 ~1.5	30	中	全道一円
錦芳果	75	1973 (1970)	1979	渡辺菜種	強	扁円 尻突	濃緑 白縹斑	1.0 ~1.5	30	中	全道一円
えびす	76	1973 (1972)		タキイ種苗	強	扁円	濃緑 淡緑条斑	0.9 ~1.2	25	中	全道一円

## 43 イチゴ

品 種 名	登録名	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地
					草勢	葉の 大きさ	ランナー 発生数	果色	果の 大小	果形	熟期	収量	
ホレラ	23	1972	1979	導 入	強	中	中	鮮紅	中	球円錐	中	多	全道一円
盛岡16号	イチゴ北海道移第1号	1973		野 菜 試	強	大	中	淡紅	大	円錐	中	少	全道一円
幸 玉	77	1973 (1961)	1979	玉 利 氏	強	中	多	紅赤	中	円錐	晩	多	全道一円
グ ナ ー	78	1973 (1961)	1979	導 入	強	大	中	濃紅	中 ~大	円錐	中	中	全道一円
レッドコート	79	1973 (1965)	1979	導 入	強	中	多	濃紅	中	円錐	中	中	全道一円
キャベリア	80	1973 (1965)	1979	導 入	中	中	多	紅	中	円錐	中	中	全道一円
宝交早生	81	1973 (1970)		兵庫農試	強	中	多	鮮紅	中 ~大	円錐	早	多	全道一円
きたえくぼ	いちご北海道第2号 第4535号	1993		道南農試	強	大	多	鮮紅	大	円錐	中	多	全道一円

## 44 キャベツ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地	
					草勢	球形	シマリ	肉質	球重	耐暑性	結球 日数	収量性		作型
コペンハーゲン マーケット	キャベツ 北海道輪第1号	1972 (1924)	1979	導 入	中	丸	良	不良	中	中	日 90	小	早出	全道一円
サクセッション	キャベツ 北海道輪第2号	1972 (1924)	1979	導 入	強	扁円	中	良	や大	強	120	中	秋	全道一円
札幌甘らん	キャベツ 北海道輪第3号	1972 (1924)		各 社	強	扁円 脚高	良	中	極大	中	150	多	秋貯	全道一円

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性									栽培適地
					草勢	球形	シマリ	肉質	球重	耐暑性	結球日数	収量性	作型	
中 村 仲 秋	82	1973 (1950)	1979	中村菜種	強	扁円	良	中	大	中	120	中	秋	全道一円
ア ラ ス カ	83	1973 (1967)	1987	導 入	中	珠	良	極良	小	中	90	小	早出	全道一円
C M	84	1973 (1967)		タキイ種苗	中	珠	良	良	小	中	95	小	早出	全 道
四 季 穫	85	1973 (1969)	1979	タキイ種苗	強	扁円 腹高	良	不良	大	強	120	中	夏秋貯	全道一円
晩 抽 理 想	86	1973 (1969)		タキイ種苗	強	扁円	良	中	中	強	120	中	秋貯	全道一円
S E	87	1973 (1970)		長野農試	強	扁円	良	良	中小	強	120	中	秋	全道一円
夏 蒔 理 想	88	1973 (1970)	1979	タキイ種苗	強	扁円 腹高	良	中	や大	強	115	中～多	秋	全道一円
2 月 穫	89	1973 (1970)	1979	タキイ種苗	強	扁円	良	良	中	中	120	中	秋	全道一円
初 秋	90	1973 (1970)	1979	タキイ種苗	強	扁円	良	良	中～小	極強	120	中	夏秋	全道一円
大 丸 と も え	91	1973 (1970)	1979	中村菜種	強	扁円	良	良	大	中	150	多	秋貯	全道一円
長 岡 早 生	92	1973 (1970)	1979	タキイ種苗	強	扁円	良	良	中	強	120	中	早出	全道一円
金 系 201 号	キャベツ 準移第12号	1983		坂田種苗	強	扁円	良	良	小	中	105	中	初夏～秋	全道一円
北 ひ か り	キャベツ 準移第13号	1983		タキイ種苗	強	扁円	良	良	小	中	105	中	初夏～秋	全道一円
スピードボール	キャベツ 準移第14号	1983		渡辺菜種	中	球	良	中	小	中	95	中	早出	全道一円
アーリーボール	キャベツ 準移第15号	1983		サカタ種苗	中	球	良	良	小	中	100	中	早出～秋	全道一円
アリシャス	キャベツ 準移第16号	1983		渡辺菜種	強	扁円	良	良	中	強	105	多	夏～秋	全道一円
初 秋 穫	キャベツ 準移第17号	1983		野崎菜種	強	扁円	良	良	中	強	105	多	夏～秋	全道一円

#### 45 カリフラワー

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草勢	花着色	シマリ	花着重	成日	熟日数	収穫	
アーリー スノーボール	その他北海道 道輪第2号	1972	1990	導 入	半開張	白	良	kg 0.8	日 45	中		全道一円

#### 46 ハクサイ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地	
					草勢	球形	シマリ	1球重	収量	結実日数	耐病虫性		作型
仲 秋	93	1973 (1963)		渡辺採種	強	円筒	良	kg 4	多	日 85	中	秋	全道一円
王 将	94	1973 (1963)		タキイ種苗	強	円筒	良	4	多	85	強	秋	全道一円
大 関	95	1973 (1963)	1979	タキイ種苗	強	円筒	良	3～4	多	85～ 90	強	秋	全道一円
オリンピア	96	1973 (1966)		渡辺採種	強	円筒	良	4～5	多	90～ 100	強	秋	全道一円
春蒔極早生	97	1973 (1967)	1979	タキイ種苗	中	円筒	良	1.5～ 2.0	小	70	強	早出	全道一円

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地
					草勢	球形	シマリ	1球重	収量	結球日数	耐病虫性	作型	
長交2号	98	1973 (1970)	1979	タケイ種苗	中	短円筒	良	2.2~ 2.6	小	70	中	早出	全道一円
傾 網	99	1973 (1972)	1979	タケイ種苗	強	円筒	良	4	多	85	強	秋	全道一円
無 双	100	1973 (1972)		タケイ種苗	中	円筒	良	2.5~ 3.5	中	75	強	早出	全道一円
60日みどり	101	1973 (1972)	1979	タケイ種苗	中	円筒	良	2~3	中	75	強	早出	全道一円

#### 47 つけ菜

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					分類	草姿	葉形	葉色	葉柄色	辛味	収量	
白茎体菜	この他北海道第3号	1972	1979	各 社	体菜	立	半結球	緑	白	なし	中	全道一円

#### 48 タマネギ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地
					草姿	袖台	乾腐病	倒伏期	球形	外皮色	球重	貯蔵性	
オータムブランド	24	1972	1987	導 入	や立	並	並	晩	球	濃黄銅	や小	良	全道一円
札 幌 黄	タマネギ北海道給第1号	1972 (1924)	1996	導 入 選 抜	中	並	並	や晩	球	黄銅	や大	並	全道一円
アーリーイエローグローブ	123	1973 (1962)	1979	導 入	や立	並	並	晩	球	黄銅	中	並	全道一円
ア ン コ ール	124	1973 (1962)	1979	導 入	や立	並	並	晩	球	黄銅	中	並	全道一円
北 見 黄	162	1976		北見農試	中	並	並	中	球	黄銅	中	並	網 走
フ ラ ヌ イ	たまねぎ北海道交第2号 たまねぎ長枝2号	1979		北海道農試	や立	並	強	中	や平	や淡黄	や小	良	全道の乾腐病多発地
月 輪	たまねぎ準移交第5号	1982		渡辺探種	中	並	や弱	中	甲高	黄銅	大	や不良	全道一円
ひ ぐ ま	たまねぎ準移交第6号	1983		タケイ種苗	中	並	や弱	中	甲高	黄銅	大	や不良	全道一円
そ ら ち 黄	たまねぎ準移交第7号	1983		岩見沢市 たまねぎ組合	中	並	並	や晩	球	黄銅	や大	並	空知地方
せ き ほ く	たまねぎ北海道交第3号	1984		北見農試	立	並	強	や晩	や平	濃黄銅	や大	良	全道一円
北 も み じ	たまねぎ準移交第8号	1984		七宝探種組合	や立	並	強	中	球	黄銅	中	良	全道一円
レ オ	たまねぎ準移交第9号	1985		タケイ種苗	中	並	並	中	球	黄銅	中	並	全道一円
ツキヒカリ	たまねぎ北海道交第4号 たまねぎ農林交3号	1986		北海道農試	や立	並	強	や晩	球	濃黄銅	中	良	全道一円
ア ー ク	たまねぎ準移交第10号	(1987)		タケイ種苗 ホクレン	や開	並	強	中	や扁平	黄銅	中	良	全道一円
天 心	たまねぎ準移交第11号	(1991)		日本農林社	や開	並	強	晩	球	黄銅	大	良	全道一円
北 も み じ 86	たまねぎ準移交第12号	(1991)		株式会社 七宝	立	並	強	晩	球	黄銅	大	良	全道一円
北見交17号	たまねぎ北海道交第5号	(1994)		北見農試 ホクレン	や開	並	並	や晩	球	濃黄銅	大	良	全道一円
ツキサップ	たまねぎ北海道交第5号	(1994)		北海道農試	や立	並	強	晩	や扁平	黄銅	大	良	全道一円



品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地
					草姿	抽台	乾腐病	倒伏期	球形	外皮色	球重	貯蔵性	
改良オホーツク1号	たまねぎ 準移交第13号	(1994)		株式会社 株七宝	や立	少	強	早	球	黄銅	や大	や不良	全道一円
スーパー北もみじ	たまねぎ 準移交第14号	(1995)		株式会社 株七宝	や立	や少	強	中	球	濃黄銅	大	良	全道一円

#### 49 ネギ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地
					分類	分けつ	葉色	葉しよ う部色	1株重	低温 伸長性	越冬性	収量	
加賀太葱	長ネギ 北海道移第1号	1972	1979	各社	2年	中~少	濃緑	白	g 200	不良	強	中	全道一円
札幌根深	108	1973	1979	〃	2年	中~少	濃緑	白	200	不良	極強	中	全道一円
松本	109	1973	1979	〃	2年	中~少	濃緑	白	250	不良	強	中	全道一円
石倉	106	1973 (1967)		〃	1年	少	緑	白	350	良	弱	多	全道一円
金長	107	1973 (1967)		協和	1年	少	緑	白	350	極良	弱	多	全道一円
大雪		1973 (1906)	1979										

#### 50 ホウレンソウ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地
					草姿	株張	葉欠刻	葉柄	作型	種子形	収量		
キングオブ デンマーク	ほうれん草 北海道輪第1号	1972 (1933)	1979	専入	半切	中	無	長	月 6.7	丸	多	全道一円	
ノーベル	ほうれん草 北海道輪第2号	1972	1979	〃	半切	中	無	短	5.8	丸	多	全道一円	
ピロフレ	ほうれん草 北海道輪第3号	1972	1979	〃	半切	大	無	中	4.8	丸	多	全道一円	
ミンスターランド	ほうれん草 北海道第4号	1972	1990	〃	半切	大	多	長	3.9	針	多	全道一円	
札幌大葉	ほうれん草 北海道第5号	1972 (1953)	1990	北海道農試	半切	中	無	短	4.8	丸	多	全道一円	
伊達在来	102	1973 (1954)	1987	伊達農園	半切	大	無~小	中	2~4	丸	中	全道一円	
バイキング	103	1973 (1954)	1987	専入	半切	中	無	短	5.8	丸	多	全道一円	
ニューサッポロ	104	1973 (1970)	1990	雪印種苗	半立	中	中	中	4.8	丸	多	全道一円	
ニューアジア	105	1973 (1970)	1990	永池育種	立	大	大	長	2~3 9~10	針	中	全道一円	

#### 51 セルリー

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性						栽培適地	
					草姿	草長	葉色	葉柄色	ス入り	せんい質		収量
コーネル619	110	1973 (1962)		専入	半立	長	黄緑	黄緑	小	小	中多	全道一円
ユタ系	111	1973 (1972)	1979	専入	立	長	緑	緑	小	中	多	全道一円

## 52 レタス

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					分類	球形	シマリ	球重	抽台	耐暑性	耐病性	
ワイヤーヘッド	その他 北海道輪第1号	1972	1979	導 入	半結球			中	遅	強	強	全道一円
ペンレーク	112	1973 (1964)	1990	〃	結球	円	良	や大	遅	中	中	全道一円
グレートレークス	113	1973 (1964)	1987	〃	結球	円	良	大	遅	強	強	全道一円

## 53 パセリ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草勢	株張	葉色	葉形	耐寒性	日持	収量	
エメラルド1号	その他 北海道輪第4号	1972	1979		強	良	濃緑	縮葉	強	良	中	全道一円

## 54 アスパラガス

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地
					草丈	太さ	色	先 茹 しまり	鱗葉	品質	収量		
カリフォルニア500	114	1973 (1966)	1987	導 入	高	太	緑	良	密	良	や多	全道一円	
カリフォルニア500W	115	1973 (1966)		導 入	高	太	緑	良	密	良	多	全道一円	
北 海 100	アスパラガス 準北海道第3号	1981		北海道農試 ほか	高	太	緑	良	密	良	多	全道一円	

## 55 ダイコン

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性								栽培適地
					草姿	葉色	根色	根形	根長	収量	作型		
練馬尻細	だいこん 北海道第1号	1972	1979	各 社	や開張	淡緑	白	円筒 尻細	cm 50	多	秋	全道一円	
宮 重	だいこん 北海道移第2号	1972 (1924)	1990	〃	や立	濃緑	青首	円筒 尻細	60	多	秋	全道一円	
時無大根	だいこん 北海道第3号	1972 (1924)	1987	〃	半開張	濃緑	白	円錐	30	小	春~夏	全道一円	
みの早生系	116	1973 (1954)	1987	〃	半開張	濃緑	白	円筒 中太	70	多	秋	全道一円	
大 蔵	117	1973 (1970)	1987	石井泰次郎	開張	淡緑	白	円筒 尻詰	40	多	秋	全道一円	
翌 護 院	118	1973 (1970)		各 社	立	淡緑	白	長球	15	多	秋	全道一円	
理 想	119	1973 (1970)	1990	み か ど	や立	濃緑	白	円筒 尻細	60	多	秋	全道一円	
秋 づ ま り	120	1973 (1970)	1979	各 社	や開張	淡緑	白	円筒 尻詰	40	多	秋	全道一円	
日 の 出	121	1973 (1970)	1979	各 社	半開張	濃緑	白	円筒	40	中	春~夏	全道一円	
(甘日大根) ラビットレッド	その他 北海道輪第5号	1972 (1927)	1979	導 入	立	濃緑	赤	球	2	小	春~秋	全道一円	
天 春	だいこん 準移第7号	1983		サカケ種苗	や立	や濃緑	や青首	円錐 中太	30~40	多	初夏~夏	全道一円	
耐病総太り	だいこん 準移第8号	1983		タキイ種苗	立	緑	青首	円筒 尻細	30~40	多	秋	全道一円	

56 カブ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草姿	葉色	葉柄色	根形	根色	成熟日数	収量	
札幌紫	その他 北海道輸第6号	1972 (1924)	1979	導入選抜	立	濃緑	帯紫緑	扇円	紫	50	多	全道一円
大野紅蕪菁	その他 北海道移第7号	1972 (1924)	1979	渡島支場	立	紫紅	鮮紅	扇円	鮮紅	50	多	全道一円
寄居蕪菁	その他 北海道移第8号	1972 (1924)	1979	各社	立	鮮緑	淡緑	扇円	白	30	中	全道一円
金町小かぶ	122	1973	1990	各社	立	鮮緑	淡緑	扇円	白	30	中	全道一円

57 ニンジン

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草姿	葉色	根形	根色	芯の 大小	成熟 日数	収量	
アーリー チャンテネー	にんじん 北海道輸第1号	1972 (1924)	1979	導 入	立	濃緑	長円錐 尻 詰	橙	中	日 120	多	全道一円
中村鮮紅太	125	1973 (1950)	1979	中村採種	立	濃緑	長円錐	濃橙紅	中	120	多	全道一円
5 寸 系	126	1973 (1972)	1979	導 入	立	濃緑	長円錐 尻 詰	濃橙紅	中	120	多	全道一円

58 ゴボウ

品 種 名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地
					草姿	葉色	根形	根長	太さ	根色	す入り	
札幌大長	その他 北海道第9号	1972	1979	各社	立	緑	長	cm 80	cm 2.5	褐色	中	全道一円

59 食用ユリ

品 種 名	系統名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	特 性							栽培適地	
						草姿	草丈	花色	球形	球色	球重	苦味		収量
角田百合		ゆり根 北海道第1号	1972	1979		立	cm 80	橙紅	扁球	白	g 100	なし	中	全道一円
北海白百合	空保1号	ゆり根 北海道第2号	1972 (1965)	1979	空知支場	立	60	橙紅	扁球	白	150	なし	多	全道一円

VI 飼料作物

60 オーチャードグラス

品 種 名	系統名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主 要 特 性	栽培適地
北海道在来種		オーチャードグラス 北海道第1号	1971 (1914)	1988		アメリカから 導入	早生、茎太く、茎数が多い。 葉幅・葉長大。再生力旺盛	全道一円
フロード	Frode	オーチャードグラス 北海道第2号	1971 (1958)	1979	スウェーデン	スウェーデン から導入	晩生。多葉型で葉長・葉幅 比較的大。耐寒性大。耐病性 まさる。再生力旺盛。	オーチャード グラス 栽培地帯
キタミドリ	月寒在来	オーチャードグラス 北海道第3号	1971 (1969)		北海道農試	集団選抜	早生、草型は中間、再生良好、 すじ葉枯病に強、雲型病にや や弱。耐寒性、雪腐菌核病に強	全道一円
フロンティア		オーチャードグラス 北海道合第4号	1972		雪印種苗	合成品種法	中生、葉長、葉幅が大、茎が 太い、直立、すじ葉枯病に 強、雲型病にやや弱、多収	全道一円
オカミドリ	北海2号	オーチャードグラス 北海道合第5号	1976		北海道農試	合成品種法	晩生、葉長、葉幅が大、耐病 性大、耐冬性は強。	全道一円

品 種 名	系統名	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主 要 特 性	栽培適地
ホクレン改良種		1	1971	1992	ホクレン	集団選抜法	キタミドリとほぼ同様	根脚地域を除く全道
ヘイキング	雪印改良1号	2	1971		雪印種苗	集団選抜法	晩生、葉率が低い。耐病性は並。	道東地域を除く全道
ドリーゼ	Drise	4	1971		オランダ	オランダから導入	中生、葉率が低い。葉は繊細。	道東地域を除く全道
フィロックス	Phyllox Daehnfeldt	5	1971	1988	デンマーク	デンマークから導入	中生、茎数多、耐寒性、永続柱や弱。	道東地域を除く全道
マスハーディ	Masshardy	6	1971	1986	アメリカ	アメリカから導入	晩生、大粒菌核病に強、雲形病に強、耐寒性大。	道東地域を除く全道
ケイ	Kay	175	1978		カナダ	カナダから導入	晩生、葉長、葉幅が大、茎が太い、大粒菌核病および小粒菌核病に強。	道東地域を除く全道
ワセミドリ	北海20号	オーチャードグラス 北海道合第9号 農林合8号 第11826号	(1987)		北海道農試	合法品種法	早生、葉長・葉幅が大越冬性良、すじ葉枯病、うどんこ病に強	北海道全域
ヘイキングII	SB-0-7801	オーチャードグラス 北海道合第8号	(1987)		雪印種苗	合法品種法	極晩生、多収、すじ葉枯病黒さびに強	北海道全域
ホクト	帯広2号	オーチャードグラス 北海道合第9号	(1987)		ホクレン	集団選抜法	晩生、越冬性良、大粒菌核病、すじ葉枯病に強	北海道全域
グローラス	WWH-94	オーチャードグラス 単合第10号	(1993)		スウェーデン	集団選抜法	晩生、越冬性良、すじ葉枯病に強	北海道全域
トヨミドリ	北海25号	オーチャードグラス 北海道合第7号 農林合7号	(1994)		北海道農試	合法品種法	極晩生、多収、越冬性良、すじ葉枯病、黒さび病、雲形病に強	北海道全域 東北北部

## 61 チモシー

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主 要 特 性	栽培適地
クライマックス	Climax	チモシー 北海道第1号	1971 (1962)	1979	カナダ	カナダから導入	採草型、中生、多葉性、黒さびに強、再生良好	全道一円
北王 (ホクオウ)	雪印改良1号	チモシー 北海道第2号	1971 (1969)		雪印種苗	集団選抜法	採草型、早生、耐病性大、多収	全道一円
センボク	北系 4305	チモシー 北海道第3号	1971 (1969)		北見農試	集団選抜法	採草型、早生、強稈、耐倒伏性、多葉性、再生力良、耐病性大、多収	全道一円
ノサップ	北見2号	チモシー 北海道第4号	1977		北見農試	合成品種法	採草型、早生、茎が太い、多葉性、再生良好、耐病性大	全道一円
ホクシュウ	北見7号	チモシー 北海道第5号	1977		北見農試	集団選抜法	ほふく型、晩生、耐病性大、再生良好、採草・放牧兼用	全道一円
ホクレン改良種		7	1971		ホクレン	集団選抜法	採草型、早生、耐病性大、多収	全道一円
ハイデミー (ノースランド)	Heidemij	8	1971		オランダ	オランダから導入	ほふく型、晩生、分けつ数多い、耐病性弱	全道一円
クンプウ	北見11号	チモシー 北海道第6号	1980		北見農試	母型選抜法	極早生、直立型、再生良好、多収	全道一円
ホクセン	ホクセン 2号A		1981		雪印種苗	合成品種法	中生、直立型、採草用	全道一円
アッケシ	北見16号	チモシー 北海道合第7号 チモシー 農林合5号 第4131号	(1992)		北見農試	合成品種法	中生の早、茎数多、多収、耐寒性強、越冬性並、採草型	全道一円
キリタツ	北見18号	チモシー 北海道合第8号 チモシー 農林合6号 第4132号	(1992)		北見農試	合成品種法	中生の晩、茎数多、多収、耐寒性強、越冬性並、採草型	全道一円
SB-T-8710	SB-T-8710	チモシー 単北海道合第4号	(1994)		雪印種苗	合成品種法	早生、再生良好、耐倒伏性強、採草型	全道一円
オーロラ	MT-1-85	チモシー 単北海道交第5号	(1994)		三井東庄	集団選抜法	早生、耐倒伏性強、斑点病、すじ葉枯病に強	全道一円
SB-T-8704	SB-T-8704	チモシー 単北海道合第6号	(1995)		雪印種苗	合成品種法	中生、再生良好、多収、採草型	全道一円

62 イタリアンライグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
ビ リ オ ン	Billion	11	1971		オランダ	オランダから導入	春播性が高い、早生、生育期間は短い、直立型、稈は太く、葉幅が広い、斑点病強。	全道一円
マンモス イタリアンB		12	1971		雪印種苗	倍数性育種法 母型選抜法	春播性高い、早生、生育期間は短い、直立型、稈は太く、葉が大きい、冠さび病に弱	全道一円

63 ベレニアルライグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
リ ベ ー ル	Reville	168	1978	1995	オランダ	オランダから導入	中生の晩、葉幅広く、茎は太い、耐病性強、再生良好	道北、道央 道南地域**
ピ ー ト ラ	Petra	169	1978	1991	オランダ	オランダから導入	極晩生、再生良好、耐病性強、留ぐされ大粒菌核病には弱	道北、道央 道南地域**
フ レ ン ド*		170	1978		雪印種苗	集団選抜法	晩生、葉幅は広い、冠さび病強、留ぐされ病弱	道北、道央 道南地域**
フ ァ ン ト ム	Fantom	ベレニアルライグラス 準第4号	(1992)		オランダ	合成品種法	中生、越冬生良、小粒菌核病、冠さび病に強	道北、道央 道南地域**
ト ー ブ	Tove	ベレニアルライグラス 準第5号	(1992)		デンマーク	集団選抜法	中生、網斑病に強、多収放牧型	道北、道央 道南地域**

\*フレンドは「マンモス」を1979年に改名したもの。  
\*\*ただし、土壌凍結のない冬枯れの少ない地帯に限る。

64 メドーフェスク

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
レトー デンフェルト	Leto Daehfeldt	13	1971	1980	デンマーク	デンマークから導入	早生、直立型、網斑病に強	全道一円
タ ミ ス ト	Tammisto	171	1978	1995	フィンランド	フィンランドから導入	出穂始は「レトー」よりやや遅い、越冬生は良、耐病性は並	全道一円
ト レ ー ダ ー	Trader	172	1978	1990	カナダ	カナダから導入	出穂始は「レトー」より遅い、越冬生は並、耐病性は並、再生良好	全道一円
フ ェ ー ス ト	雪印 合成1号	173	1978		雪印種苗	合成品種法	出穂始は「レトー」並、越冬性は並、耐病性は並、再生良好	全道一円
バ ン デ ィ	Bundy		1970		オランダ	オランダから導入	中晩生、開葉型、採草・放牧及び兼用種	道央・道南 地域
トモサカエ*	北海6号	メドーフェスク 準北海道第1号 農林合第1号 第2061号	(1988)		北海道農試	合成品種法	早生、多収、越冬性良、耐病性強、再生良好、採草・放牧及び兼用種	全道一円、 本州中部以北 の高冷地
S B - M - 8 2 0 1	SB-M-8201	メドーフェスク 準北海道第6号	(1994)		雪印種苗	合成品種法	早生、越冬性良、耐病性は並、採草及び放牧型	全道一円
コマグリーン	MM-1-85	メドーフェスク 準北海道第7号	(1994)		三井東匠	集団選抜法	早生、耐病性は並、採草及び放牧型	全道一円

65 トールフェスク

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
ホクリョウ*	農林合1号	トールフェスク 北海道合第1号	1972		北海道農試	合成品種法	晩生、草丈高く多葉性、網斑病に強、雪腐病に強、夏枯に弱、多収	全道一円
ヤマナミ*	農林合2号	トールフェスク 北海道合第2号	1972		北海道農試	合成品種法	極早生、葉の病害に強、雪腐病に弱、夏枯れに強、多収	全道一円
ケンタッキー31	Kentucky31	14	1971	1996	アメリカ	アメリカから導入	早生、草質は粗剛、越冬性はやや弱	全道一円

66 ケンタッキーブルーグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
ケンブルー	Kenblue	15	1971		アメリカ	アメリカから導入	早生、葉が密生、さび病に弱、多収	全道一円
トロイ	Troy	174	1978		アメリカ	アメリカから導入	早生、さび病にやや強、めん羊の採食は不良、春季の草勢がすぐれ秋季の草勢低下が小	全道一円

67 リードカナリーグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
アイオリード		9	1971	1991	アメリカ	アメリカから導入	草丈が高く粗剛、嗜好性は劣る。	全道一円

68 マウンテンブロームグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
テイネ		10	1971	1990	雪印種苗	母系選抜法	早生、病害抵抗性は強、多収	道央地域

69 ハイブリットライグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
テトリライト	Tetrelite		1984		アメリカ	アメリカから導入	草丈高く直立型、晩生、再生良好、多収	道南地方で越冬条件の良好な地域

70 スムーズブロームグラス

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
アイカップ	北見1号	スムーズブロームグラス 北海道合第1号 スムーズブロームグラス 農林合第1号 第1827号	(1988)		北見農試	合成品種法	早生、ほふく型、葉やや細い、多収量、変形病に強、採草型	全道一円

71 アカクローバ

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
サッポロ	月系37-1	クローバ類 北海道第1号	1971 (1966)		北海道農試	集団選抜法	早生、葉は大きく葉斑は鮮明、再生は良好、耐病性強、小粒菌核病にやや弱、多収	全道一円
ハミドリ		クローバ類 北海道第2号	1971 (1966)		雪印種苗	集団選抜法	早生、冬枯に強、茎割病にやや強、さび病抵抗性は並	全道、特に道北地域
レッドヘッド	Red Head	クローバ類 北海道輪第3号	1972	1991	オランダ	オランダから導入	早生の晩、葉は大きく、葉斑はやや不鮮明、草姿は巨大、耐病性はやや強	道央、根釧地域
ハヤキク			1979		ホクレン オランダ 共 同	倍数体利用 集団選抜	早生、4倍体。草丈はやや高く葉斑はやや不鮮明。倒伏が少く、耐病性は強い。	根 釧
ハミドリ4n			1979		雪印種苗	倍数体利用 集団選抜	早生、4倍体。草丈は中位で葉は大きく、葉斑はやや不鮮明。越冬性良好。多収	十勝を除く全道
タイセツ	北海6号	クローバ類 北海道第4号 アカクローバ 農林3号 第2932号	(1990)		北海道農試	倍数体利用 集団選抜	早生、葉は大きく葉斑は鮮明、葉は太い、多収、大粒性強、再生は良好、イネ科と混播で採草利用	全道一円
ホクセキ	北海8号	クローバ類 北海道第5号 アカクローバ 農林4号 第2935号	(1990)		北海道農試	集団選抜法	早生、葉は小さく葉斑は鮮明、葉は細い、再生は良好、耐病性強、イネ科と混播で採草利用	全道一円、本州中部以北高冷地

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
メルビィ	Merviot	アカクローバ 準輪第4号	(1990)		ベルギー	集団選抜法	早生、うどん粉病、モザイク病に強、採草型	全道一円
スタート	Start	アカクローバ 準輪第5号	(1990)		チェコスロバキア	チェコスロバキアから導入	早生、多収、採草型	全道一円
エムールワン	MR-1-83	アカクローバ 準輪第6号 第3644号	(1990)		三井東庄	集団選抜法	早生、うどん粉病、モザイク病に強、採草型	全道一円 (根割除外)
テトリ	Tetri	アカクローバ 準輪第7号	(1993)		オランダ	倍數体利用 集団選抜	早生、耐倒伏性強、再生は良好、茎割病に強M採草型	道 東
マキミドリ	SB-R-8603	アカクローバ 準輪第8号 第4845号	(1993)		雪印種苗	集団選抜法	早生、再生は良好、多収、うどん粉病に強、採草型	全道一円

## 72 シロクローバ

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
カリフォルニアラジノ	California Landino	ラジノクローバ 準輪第1号	1971		アメリカ	アメリカから導入	ほふく茎の密度が大、開花期が早い。	全道一円
ミルカ	Milka Pajberg	20	1971	1991	デンマーク	デンマークから導入	冬枯に強く、放牧適性が大、コモン型	道北、道東
ファイア	Grasslands Huia	21	1971		ニュージーランド	ニュージーランドから導入	葉は大きく、密性、多収、耐病性強、再生力良好、コモン型	道央、道南
ロディギアノ	Laينو Gigante Lodigiano	ラジノクローバ 準輪第3号	1975	1986	イタリア	イタリアから導入	葉は大きく、葉柄は長く、ほふく茎も太い巨大型、多収、ラジノ型	全道一円
リーガル	Regal	ラジノクローバ 準輪第3号	1975		アメリカ	アメリカから導入	耐寒性、耐旱性は強、耐病性は強、多収、ラジノ型	全道一円
エスパンソ	エスパンソ	シロクローバ 準輪第4号	(1988)		イタリア	循環選抜法	ラジノ型、小葉が大きく巨大型、多収	全道一円
ソーニャ	ソーニャ	シロクローバ 準輪第5号	(1988)		スウェーデン	反復集団育種法	コモン型、ほふく茎の密度が高い、多収、放牧適性良	全道一円
マキバシロ	マキバシロ	クローバ類 移合第6号 シロクローバ 良株合2号	(1991)		東北農試	合成品種法	コモン型、小葉が大きく大型、耐寒性は並、放牧適性良	全道一円

## 73 アルサイク クローバ

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
エルモ	Ermo Ofoite		1981		デンマーク 植物育種会社	集団選抜法	早生、春の草勢は良好、再生は不良、越冬性は並	道 央
テトラ	Tetra		1981		スウェーデン W. Waibull社	倍數性育種法	晩生、春の草勢は良好、再生は不良、越冬性は並	道東・道北

## 74 アルファルファ

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
デュピュイ	Du Puits	アルファルファ 北海道輪第1号	1971 (1958)	1979	フランス	フランスから導入	早生、紫花種、草型は直立、葉部病害抵抗性大、冬枯れ少、多収	全道一円
サラナック	Saranac	アルファルファ 北海道輪第2号	1971	1990	アメリカ	アメリカから導入	中生、草型は直立、紫花種、耐病性強、冬枯れ少、多収	道北、道央のアルファルファ栽培可能地帯
ウィリアムスバーク	Williams-burg	18	1971	1978	アメリカ	アメリカから導入	同上	同上
アルファ	Alfa	17	1971	1986	スウェーデン	スウェーデンから導入	早生、紫花種、草型は直立。耐病性強、冬枯れ少、多収。	道北・道央
ヨーロッパ	Europe	150	1975	1992	アメリカ	フランスから導入	早生、紫花種、草型は直立、倒伏に強い、多収	根割地域を除く全道

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
ソ ア	Thor	167	1978	1993	アメリカ	アメリカから導入	中生、紫花種、草型は直立、耐病性強、冬枯れ少、多収。	全道一円
キタワカバ*	月系0201	アルファルファ、北海道合第3号、アルファルファ、農林号3号、第244号	1983		北海道農試	多数栄養系合成品種法	越冬性、本種性良好、耐倒伏性や耐病性、耐寒性強、イロシロウ病、萎ちょう病への抵抗性は弱い。	全道一円
サイテーション	Citation		1984		アメリカ	合成品種法	直立型、中生、越冬にやや優れ、草型の草勢良好、耐倒伏性はやや強い。結実性に強いが、シバカス病、イロシロウ病、パーティシリウム萎ちょう病にやや弱い。	全道
リュテス	Lutece		1985	1992	フランス	間合せ中	早生、直立型、葉大く、耐倒伏性、パーティシリウム萎ちょう病に強い。シバカス病にも強い。シシア」葉枯れ病害にも強い。	パーティシンのリュウムの萎ちょう病発生地帯
マ ヤ	Maya	アルファルファ 準輸合第7号	(1990)		フランス	合成品種法	パーティシリウム萎ちょう病に強、耐倒伏性強	全道一円
レ シ ス	Resis	アルファルファ 準輸合第8号	(1990)	1994	デンマーク	集団選抜法	パーティシリウム萎ちょう病に強、採草型	全道一円
ア ロ ー	Arrow	アルファルファ 準輸合第9号	(1990)		アメリカ	合成品種法	パーティシリウム萎ちょう病に強、採草型	全道一円
5444	5444	アルファルファ 準輸合第10号	(1990)		アメリカ	合成品種法	パーティシリウム萎ちょう病に強、耐倒伏性やや良	全道一円
ユ ー バ ー	Euver	アルファルファ 準輸合第11号	(1990)		フランス	合成品種法	パーティシリウム萎ちょう病に強、多収、採草型	全道一円
バ ー タ ス	Vertus	アルファルファ 準輸合第12号	(1990)		スウェーデン	集団選抜法	パーティシリウム萎ちょう病に強、多収、採草型	全道一円
マキワカバ*	月系1号	アルファルファ 北海道合第4号 アルファルファ 農林号4号	(1994)		北海道農試	合成品種法	極早生、草型は直立、紫花パーティシリウム萎ちょう病に強、多収、耐病性強、再生は良	北海道の多雪地帯
ヒサワカバ*	月系1号	アルファルファ 北海道合第5号 アルファルファ 農林号5号	(1994)		北海道農試	母系選抜法	早生、草型は直立、紫花パーティシリウム萎ちょう病に強、多収、耐寒性強、再生は良	北海道の少雪地帯

75 パーズフットトレフォイル

品 種 名	系統番号	登録番号	登録年	廃止年	育成場所	育成方法	主要特性	栽培適地
バイキング	Viking	22	1971	1978	アメリカ	アメリカから導入		



## 76. 飼料用大麦

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
あおみのり	北育 18号	大麦(飼) 北海道春 第1852号	(1987)		北見農試	「ほしまさり」×「栃系28」	中生、短稈、耐倒伏性強、大麦雲型病・網斑病にやや弱、子実重歩合が高い、ホールクロブサイレイジ用

## 77. 飼料用ビート

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
シュガー マンゴールド	Sugar Mangold	飼料ビート 北海道輸 第1号	1971 (1939)		北 海 道	デンマークから導入	多収、肉質ち密で乾物多く、貯蔵性に富む
ソ ラ ン カ	ソ ラ ン カ	飼料用ビート 準輸 第1号	(1989)		西ドイツ	一代雑種育成法	収量並、乾物率高い、根中糖分高い、褐斑病に弱、貯蔵性に富む
モノパール	モノパール	飼料用ビート 準輸 第2号	(1990)		オランダ	一代雑種育成法	多収、乾物率やや低い、根中糖分低い、褐斑病に弱、貯蔵性に富む

## 78. 飼料かぶ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
紫 丸 蕪 菁		飼料用かぶ 北海道 第1号	1971 (1931)		北 海 道	デンマークから導入	早生であり、比較的低温でもよく肥大する。肉質は食用かぶに比して硬いが、飼料かぶのなかでは比較的軟らかく、根部の乾物率も低い。貯蔵性も低い。

## 79. ルタバガ

品 種 名	系統名	登 録 番 号	登録年	廃止年	育成場所	育 成 方 法	主 要 特 製
ネムロルタバガ		ルタバガ 北海道 第1号	1971 (1954)		根室支場	集団選抜法	白腐病に対して強く、収量は年次偏差少なく多収、肉質は硬い
マゼスキック		ルタバガ 北海道 第2号	1971 (1959)		根室支場	集団選抜法	白腐病にはかなり強く多収、肉質はルタバガとしてはやや軟かい
グリーントップ	Green top	40	1971 (1963)		オランダ スウェーデン		根部にき裂を生じやすく、白腐病罹病はやや高いが、根腐病には極めて強抵抗性を示す

幼苗の色	穂の			芒の			子実の		耐倒性	栽培適地
	型	粒着密度	下垂度	有無	長短	色	大小	色		
やや濃	二条矢羽根型	中	中	多	長	淡黄	大	淡黄	強	北海道全域

草丈	葉数	根形	根色		肉色	その他	栽培適地
			地上部	地下部			
中	中	紡錘形	緑	白	白	根部4割露出	全道一円
中	中	短紡錘	淡黄緑	白	白	根部4～5割露出	全道一円
中	中	楕円	淡黄緑	白	白	根部4～5割露出	全道一円

姿勢	葉色	葉柄色	根形	根色		肉色	肉質	その他	栽培適地
				地上部	地下部				
直立	緑	淡紫色	球	紫	白	白	軟	根部4～5割露出	全道一円

姿勢	葉色	葉柄色		頭長	頭色	根形	根色		肉色	側根の多少	その他	栽培適地
		生育盛期	収穫期				地上部	地下部				
中間	緑	下部淡赤紫	下部赤紫	中	暗紫	球	赤紫	白	白	少	根部2/5～1/2露出	全道とくに根頸の内陸部の白腐病多発地帯
や直立	や淡緑	下部極淡赤紫	下部淡赤紫	長	暗紫	円錐	鮮赤紫	クリーム	クリーム	少	根部1/2～2/3露出	全道とくに根頸の白腐病の多発しない地帯
や開張	淡緑	黄白色	淡黄緑	短	黄緑	や球形	黄緑	クリーム	クリーム	中	根部2/5～1/2露出	根頸、天北で根腐病多発地帯に適す

農作物優良品種の解説正誤表

訂 正 個 所	誤	正
目次 IV 1. (1)	(原名アーク)	(アーク)
6 頁・左・下から4行目	葉いもち, 穂いもち	葉いもち病, 穂いもち病
6 頁・右・上から2行目	道北36号	「道北36号」
7 頁・右・下から1行目	葉いもち並びに穂いもち	葉いもち病並びに穂いもち病
9 頁・左・上から9~10行目	葉いもち, 穂いもちとも	葉いもち病, 穂いもち病とも
12頁・左・上から10行目	割れ粉「ハヤカゼ」	割れ粉は「ハヤカゼ」
15頁・右・下から11行目	より多く, 麦芽	よりやや多く, 麦芽
19頁・右・上から10行目	栽培状の注意は	栽培上の注意は
19頁・左・下から1と2行目	F <sub>1</sub> ・(F <sub>1</sub> )・場において	F <sub>1</sub> ・(F <sub>1</sub> )・場において
25頁・右・下から11行目	より進が	より進むが
26頁・右・上から16行目	栄養収量	栄養収量
49頁・右・上から6行目	なお, ほん品種の	なお, 本品種の
51頁・右・下から2行目	前提する。	前提とする。
53頁・右・下から3行目	防除を励行し	防除を励行
62頁・左・上から6行目	一部淡赤紫を帯てお	一部淡赤紫を帯びてお
71頁・左・上から5行目	北海道農業試験場	農林水産省北海道農業試験場
80頁・左・下から1行目	そう根病発病圃場	そう根病発病圃場
88頁・右・下から2行目	生育が旺盛隣,	生育が旺盛となり,
97頁・左・上から5行目	中央農業試験場	北海道立中央農業試験場
127頁・右・上から6行目	「キタミドリ」やや大型	「キタミドリ」よりやや大型
135頁・右・下から1行目	種重歩合は	種重歩合は

## 既刊「北海道立農業試験場資料」一覧

- 第13号 ダイズわい化抵抗性品種の探索  
北海道立中央農業試験場（昭和57年7月）
- 第14号 北海道農業の現状と将来—試験研究からの展望—  
北海道立中央農業試験場（昭和57年9月）
- 第15号 北海道における水稲、小麦の良質品種早期開発  
北海道立中央農業試験場（昭和57年12月）
- 第16号 分析成績表（第2編）  
北海道立中央農業試験場（昭和59年3月）
- 第17号 昭和55年から58年の4年連続異常気象と水稲生育の技術解説  
北海道立中央農業試験場（昭和60年3月）
- 第18号 農作物優良品種の解説（1978—1986）  
北海道立中央農業試験場（昭和62年2月）
- 第19号 優良米の早期開発試験プロジェクトチーム第I期  
（昭和55—61年度）の試験研究成果  
北海道立中央農業試験場（昭和63年4月）
- 第20号 最近10年間の農業新技術と今後の課題  
北海道立中央農業試験場企画情報室情報課（平成4年3月）
- 第21号 北海道土壌区一覧  
北海道立中央農業試験場環境化学部（平成5年9月）
- 第22号 平成5年北海道における農作物異常気象災害に関する緊急調査報告書 稲作編  
北海道立中央農業試験場稲作部（平成6年7月）
- 第23号 平成5年北海道における農作物異常気象災害に関する緊急調査報告書 畑作編  
北海道立中央農業試験場畑作部（平成6年7月）
- 第24号 優良米の早期開発試験プロジェクトチーム第II期  
（昭和62—平成5年）高度良食味品種の開発試験  
北海道立中央農業試験場（平成7年5月）
- 第25号 21世紀初頭における農業の技術的課題とその展望  
北海道立中央農業試験場 同書編集作業班（平成7年7月）

北海道立農業試験場資料 第26号 ISSN 0386-6211

---

### 農作物優良品種の解説（1987—1995）

三浦豊雄 編

1996（平成8）年3月31発行

発行者 北海道立中央農業試験場  
〒069-13 北海道夕張長沼町東6北15号

印刷 正文舎印刷株式会社  
〒003 札幌市白石区菊水2条1丁目4-27  
電話 (株)011 (811) 7151

---